

青森県埋蔵文化財調査報告書 第593集

# 沢部(1)遺跡

— 県営小栗山地区通作条件整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

2018年3月

青森県教育委員会



# 沢部（1）遺跡

－ 県営小栗山地区通作条件整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 －

2018年3月

青森県教育委員会





沢部(1)遺跡調査区全景 西から



調査区丘陵部から東側斜面の遺構群 西から



大溝（壕跡）と丘陵頂部の遺構群 西から



第6号竖穴建物跡 炭化物出土状況 東から



第6号竖穴建物跡 炭化種実塊(イネ・アワ)出土状況 北から



第2号製鉄関連遺構 完掘状況 北から

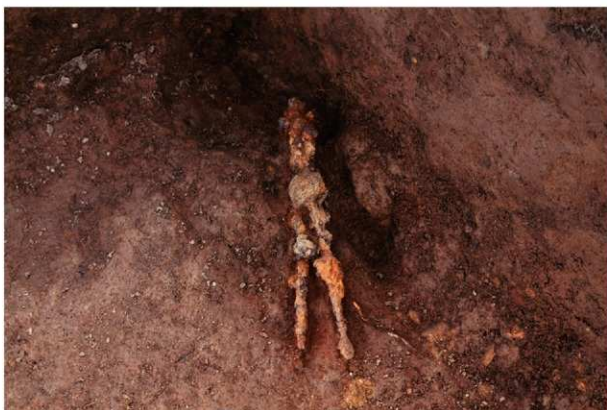


第2号製鉄関連遺構出土 製鉄関連遺物





第24号竖穴建物跡内土坑1 鉄滓(上段)・炭化物(下段)出土状況 南から



第15号竖穴建物跡 鉄鉗出土状況 北西から



第14号溝跡出土 越州窯系青磁皿



古代の土器類

# 序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、県営小栗山地区通作条件整備事業予定地内に所在する沢部（１）遺跡・沢部（２）遺跡の発掘調査を平成 27・28 年度に実施しました。本報告書はそのうち沢部（１）遺跡発掘調査の調査成果をまとめたものです。

調査の結果、縄文時代、また、古代の遺構や遺物が確認され、縄文時代と古代の複合遺跡であることがわかりました。縄文時代ではフラスコ状土坑や土器、石器等、古代では竪穴建物跡や掘立柱建物跡、製鉄・鍛冶関連、土坑等の遺構が検出され、遺物は土師器、須恵器、土製品、石製品、金属製品、木製品、布製品等が出土しました。特に古代の製鉄・鍛冶関連遺構や布製品は、この地域では貴重な検出例として注目されます。

この調査成果が今後、埋蔵文化財の保護のために広く活用されるとともに、地域の歴史を理解する一助となることを期待します。

最後に、日頃から埋蔵文化財の保護に対してご理解をいただいている青森県農林水産部農村整備課に厚くお礼申し上げますとともに、発掘調査の実施と調査報告書の作成にあたり、ご指導、ご協力をいただきました関係各位に対し、心より感謝いたします。

平成 30 年 3 月

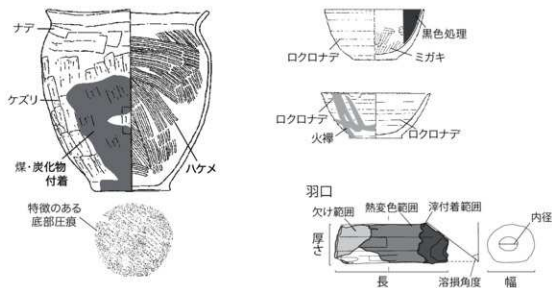
青森県埋蔵文化財調査センター  
所 長 田 村 博 美

## 例 言・凡 例

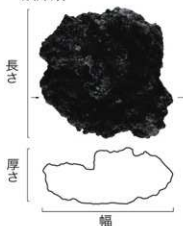
- 1 本書は、青森県農林水産部農村整備課による県営小栗山地区通作条件整備事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成28年度に発掘調査を実施した弘前市沢部(1)遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査面積は6,400㎡である。
- 2 沢部(1)遺跡の所在地は青森県弘前市大字小栗山字沢部地内、青森県遺跡番号は202001である。
- 3 発掘調査及び整理作業・報告書作成の経費は、調査を委託した青森県農林水産部農村整備課が負担した。
- 4 本報告書に関する発掘調査から整理・報告書作成までの期間は、以下のとおりである。  
発掘調査期間 平成28年4月19日～同年11月18日  
整理・報告書作成期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日
- 5 本書は青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆と編集は青森県埋蔵文化財調査センター斎藤岳総括主幹、永嶋豊文化財保護主幹、工藤忍文化財保護主査、久保友香理文化財保護主事が担当した。依頼原稿については文頭に執筆者名を記した。なお、発掘調査成果の一部は、遺跡見学会、発掘調査報告会等において公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合においては本書が優先する。
- 6 発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務については委託により実施した。

空中写真撮影	株式会社	シン技術コンサル
放射性炭素年代測定	株式会社	加速器分析研究所
石器図化作業の一部	株式会社	アルカ
炭化種実塊分析	株式会社	バレオ・ラボ
大型植物遺体同定	株式会社	バレオ・ラボ
樹種同定	株式会社	バレオ・ラボ
炭化布・樹皮素材分析	株式会社	バレオ・ラボ
鉄関連遺物分析	株式会社	古環境研究所
有機質遺物の保存処理	株式会社	吉田生物研究所
遺構図編集	株式会社	知立造園
遺物の写真撮影	シルバーフォト、有限会社無限、Photo Shopいなみ	
遺物写真切り抜き	ワタナベサービス株式会社	
- 7 石器の石質鑑定は調査員の根本直樹氏に依頼した。
- 8 地形図(遺跡位置図等)は、国土地理院発行の地図を合成・加工して使用した。
- 9 測量原点の座標値は、世界測地系(JGD2000)に基づく平面直角座標第X系による。挿入中の方位は、すべて世界測地系の座標北を示している。
- 10 遺構については、その種類を示すアルファベットの略号と算用数字を組合わせた番号を付した。基本的な略号は、以下のとおりである。  
S I - 竪穴建物跡、S B - 掘立柱建物跡、S K - 土坑、S D - 溝跡、S E - 井戸跡、S S - 製鉄関連遺構、S X - 性格不明遺構、P i t - 柱穴
- 11 遺物については、取り上げ順に種別ごとの略号と番号を付した。略号は、以下のとおりである。  
P - 土器 S - 石器 F - 鉄製品等 C - 炭化材
- 12 土層の色調表記には、『新版土色帖』(小山正忠・竹原秀雄)を用い、遺跡の基本土層にはローマ数字、遺構内堆積土には算用数字を使用した。土層断面図には、水準点を基にした海拔標高を付した。

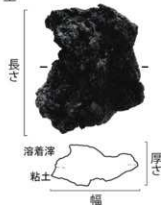
- 13 図版中で使用した網掛けの説明は各図中に記したが、一部は観察表中に記したものもある。  
遺物実測図で用いた表現方法については以下の通りである。



鉄滓類



炉壁



- 14 遺構実測図および遺物実測図の各図版には、スケールを付している。  
15 遺物観察表における( )内計測値は推定値を示す。  
16 遺物写真には、遺物実測図の図番号を付した。縮尺は不同である。  
17 発掘調査及び整理・報告書作成における出土品・実測図・写真等は現在、青森県埋蔵文化財調査センターが保管している。  
18 発掘調査及び本報告書の作成に際して、下記の機関・諸氏からご指導ご協力を得た(敬称略、順不同)。  
弘前市教育委員会、福岡市埋蔵文化財センター、九州歴史資料館、岩井浩介、東海林心、成田正彦、設楽政健、大庭康時、宇部則保、藤原弘明

# 目次

巻頭写真

序

例言・凡例

目次

図版目次

表目次

写真図版目次

## 第1章 調査概要

第1節 調査に至る経緯…………… 1

第2節 調査の方法…………… 1

1 発掘作業の方法…………… 1

2 整理・報告書作成作業の方法…………… 2

第3節 作業の経過…………… 3

1 発掘作業の経過…………… 3

2 整理・報告書作成作業の経過…………… 4

## 第2章 遺跡周辺の環境

第1節 遺跡の位置と環境…………… 7

第2節 周辺の遺跡…………… 7

第3節 基本層序…………… 8

## 第3章 検出遺構と出土遺物

第1節 遺跡の概要…………… 15

第2節 検出遺構と遺構内出土遺物…………… 15

1 竪穴建物跡…………… 15

2 掘立柱建物跡…………… 57

3 製鉄関連遺構…………… 58

4 井戸跡…………… 59

5 土坑…………… 61

6 溝跡…………… 62

7 性格不明遺構…………… 67

第3節 遺構外出土遺物…………… 237

1 土器…………… 237

2 鉄関連遺物…………… 237

3 石器…………… 238

## 第4章 自然科学分析

第1節 沢部(1) 遺跡出土イネの分析…………… 239

第2節 沢部(1) 遺跡から出土した炭化種実地の構造分析…………… 243

第3節 沢部(1) 遺跡出土の樹皮素材と布の素材植物の同定…………… 248

第4節 沢部(1) 遺跡出土木材の樹種同定…………… 254

第5節 沢部(1) 遺跡出土の大型植物遺体…………… 261

第6節 沢部(1) 遺跡における放射性炭素年代測定(AMS測定)…………… 267

沢部(1) 遺跡における放射性炭素年代測定(AMS測定)2…………… 272

第7節 沢部(1) 遺跡鉄関連遺物分析委託報告…………… 277

## 第5章 総括

第1節 青磁について…………… 289

第2節 鉄関連遺構・遺物について…………… 290

第3節 沢部(1) 遺跡古代集落の概要…………… 297

遺物観察表…………… 299

写真図版

報告書抄録

## 挿図目次

- 図1 製鉄関連遺物分類作業の流れ
- 図2 基本層序
- 図3 路線図
- 図4 周辺の遺跡
- 図5 遺構配置全体図
- 図6 遺構配置分割図(1)
- 図7 遺構配置分割図(2)
- 図8 遺構配置分割図(3)
- 図9 第1号竪穴建物跡
- 図10 第4・6号竪穴建物跡(1)
- 図11 第4・6号竪穴建物跡(2)
- 図12 第4・6号竪穴建物跡(3)
- 図13 第4・6号竪穴建物跡(4)
- 図14 第7号竪穴建物跡
- 図15 第9・32・34・35号竪穴建物跡(1)
- 図16 第9・32・34・35号竪穴建物跡(2)
- 図17 第9・32・34・35号竪穴建物跡(3)
- 図18 第9・32・34・35号竪穴建物跡(4)
- 図19 第9・32・34・35号竪穴建物跡(5)
- 図20 第9・32・34・35号竪穴建物跡(6)
- 図21 第9・32・34・35号竪穴建物跡(7)
- 図22 第9・32・34・35号竪穴建物跡(8)
- 図23 第11号竪穴建物跡
- 図24 第12・15号竪穴建物跡
- 図25 第13・14号竪穴建物跡
- 図26 第16・17・18・19号竪穴建物跡
- 図27 第20・29号竪穴建物跡(1)
- 図28 第20・29号竪穴建物跡(2)
- 図29 第21号竪穴建物跡(1)
- 図30 第21号竪穴建物跡(2)
- 図31 第22号竪穴建物跡・14号性格不明遺構
- 図32 第24号竪穴建物跡
- 図33 第25号竪穴建物跡
- 図34 第27・28号竪穴建物跡
- 図35 第27号竪穴建物跡
- 図36 第30・61号竪穴建物跡
- 図37 第36・37・38・39号竪穴建物跡(1)
- 図38 第36・37・38・39号竪穴建物跡(2)
- 図39 第36・37・38・39号竪穴建物跡(3)
- 図40 第36・37・38・39号竪穴建物跡(4)
- 図41 第40号竪穴建物跡
- 図42 第41・42・43・46・117号竪穴建物跡(1)
- 図43 第41・42・43・46・117号竪穴建物跡(2)
- 図44 第41・42・43・46・117号竪穴建物跡(3)
- 図45 第41・42・43・46・117号竪穴建物跡(4)
- 図46 第41・42・43・46・117号竪穴建物跡(5)
- 図47 第44・45・48号竪穴建物跡(1)
- 図48 第44・45・48号竪穴建物跡(2)
- 図49 第50・51号竪穴建物跡
- 図50 第53号竪穴建物跡
- 図51 第55・56・77号竪穴建物跡
- 図52 第57・58号竪穴建物跡(1)
- 図53 第57・58号竪穴建物跡(2)
- 図54 第57・58号竪穴建物跡(3)
- 図55 第59号竪穴建物跡
- 図56 第62・68号竪穴建物跡
- 図57 第62A・62B・62C・66A号竪穴建物跡
- 図58 第63・64号竪穴建物跡
- 図59 第66A・66B・67A・67B号竪穴建物跡
- 図60 第71・72号竪穴建物跡(1)
- 図61 第71・72号竪穴建物跡(2)
- 図62 第73号竪穴建物跡(1)
- 図63 第73号竪穴建物跡(2)
- 図64 第75・76号竪穴建物跡
- 図65 第79・80号竪穴建物跡(1)
- 図66 第79・80号竪穴建物跡(2)
- 図67 第81・82号竪穴建物跡
- 図68 第83・85・86・88号竪穴建物跡(1)

- 図 69 第 83・85・86・88 号竪穴建物跡 (2)  
 図 70 第 83・85・86・88 号竪穴建物跡 (3)  
 図 71 第 83・85・86・88 号竪穴建物跡 (4)  
 図 72 第 87 号竪穴建物跡  
 図 73 第 91 号竪穴建物跡 (1)  
 図 74 第 91 号竪穴建物跡 (2)  
 図 75 第 91 号竪穴建物跡 (3)  
 図 76 第 94・97 号竪穴建物跡 (1)  
 図 77 第 94・97 号竪穴建物跡 (2)  
 図 78 第 94・97 号竪穴建物跡 (3)  
 図 79 第 94・97 号竪穴建物跡 (4)  
 図 80 第 94・97 号竪穴建物跡 (5)  
 図 81 第 96 号竪穴建物跡  
 図 82 第 101・102 号竪穴建物跡  
 図 83 第 103 号竪穴建物跡  
 図 84 第 104A・104B・106 号竪穴建物跡  
 図 85 第 105・116 号竪穴建物跡  
 図 86 第 111・112・113・114 号竪穴建物跡  
 図 87 第 1 号掘立柱建物跡  
 図 88 第 2 号掘立柱建物跡  
 図 89 第 1 号製鉄関連遺構  
 図 90 第 2 号製鉄関連遺構 (1)  
 図 91 第 2 号製鉄関連遺構 (2)  
 図 92 第 2 号製鉄関連遺構 (3)  
 図 93 第 3 号製鉄関連遺構  
 図 94 第 1・2・3・4 号井戸跡  
 図 95 土坑 (1)  
 図 96 土坑 (2)  
 図 97 土坑 (3)  
 図 98 土坑 (4)  
 図 99 土坑 (5)  
 図 100 土坑 (6)  
 図 101 土坑 (7)  
 図 102 土坑 (8)  
 図 103 土坑 (9)  
 図 104 土坑 (10)  
 図 105 土坑 (11)  
 図 106 土坑 (12)  
 図 107 第 2・3・4 号溝跡  
 図 108 第 5・6・9・10 号溝跡  
 図 109 第 11・12・13・22 号溝跡  
 図 110 第 14・15・17・18・20 号溝跡  
 図 111 第 19・21・25・28 号溝跡  
 図 112 第 31・34・71・85・86・101・103 号溝跡  
 図 113 第 102・104・105・107 号溝跡  
 図 114 第 106・109・111 号溝跡  
 図 115 第 112～118 号溝跡  
 図 116 第 121・122・125 号溝跡  
 図 117 第 126・128・129 号溝跡  
 図 118 第 1・5・7・9・21 号性格不明遺構  
 図 119 第 22・89・90・112～115 号性格不明遺構  
 図 120 遺構内出土土器 (1)  
 図 121 遺構内出土土器 (2)  
 図 122 遺構内出土土器 (3)  
 図 123 遺構内出土土器 (4)  
 図 124 遺構内出土土器 (5)  
 図 125 遺構内出土土器 (6)  
 図 126 遺構内出土土器 (7)  
 図 127 遺構内出土土器 (8)  
 図 128 遺構内出土土器 (9)  
 図 129 遺構内出土土器 (10)  
 図 130 遺構内出土土器 (11)  
 図 131 遺構内出土土器 (12)  
 図 132 遺構内出土土器 (13)  
 図 133 遺構内出土土器 (14)  
 図 134 遺構内出土土器 (15)  
 図 135 遺構内出土土器 (16)  
 図 136 遺構内出土土器 (17)  
 図 137 遺構内出土土器 (18)  
 図 138 遺構内出土土器 (19)  
 図 139 遺構内出土土器 (20)  
 図 140 遺構内出土土器 (21)



- 図 141 遺構内出土土器 (22)
- 図 142 遺構内出土土器 (23)
- 図 143 遺構内出土土器 (24)
- 図 144 遺構内出土土器 (25)
- 図 145 遺構内出土土器 (26)
- 図 146 遺構内出土土器 (27)
- 図 147 遺構内出土土器 (28)
- 図 148 遺構内出土土器 (29)
- 図 149 遺構内出土土器 (30)
- 図 150 遺構内出土土器 (31)
- 図 151 遺構内出土土器 (32)
- 図 152 遺構内出土土器 (33)
- 図 153 遺構内出土土器 (34)
- 図 154 遺構内出土土器 (35)
- 図 155 遺構内出土土器 (36)
- 図 156 遺構内出土土器 (37)
- 図 157 遺構内出土土器 (38)
- 図 158 遺構内出土土器 (39)
- 図 159 遺構外出土土器 (1)
- 図 160 遺構外出土土器 (2)
- 図 161 鉄製品 (1)
- 図 162 鉄製品 (2)
- 図 163 鉄滓 (1)
- 図 164 鉄滓 (2)
- 図 165 鉄滓 (3)
- 図 166 鉄滓 (4)
- 図 167 羽口 (1)
- 図 168 羽口 (2)
- 図 169 羽口 (3)
- 図 170 遺構内出土石器 (1)
- 図 171 遺構内出土石器 (2)
- 図 172 遺構内出土石器 (3)・遺構内出土  
石製品
- 図 173 遺構外出土石器
- 図 174 木製品
- 図 175 製錬炉・排滓場出土遺物重量割合

## 表目次

- 表1 鉄製品点数集計表
- 表2 遺構内出土鉄滓類重量表
- 表3 遺構外出土鉄滓類・羽口重量表
- 表4 遺構内土器観察表
- 表5 遺構外土器観察表
- 表6 鉄滓類観察表
- 表7 鉄製品観察表
- 表8 羽口観察表
- 表9 石器・石製品観察表
- 表10 木製品観察表

## 写真目次

- 写真1 遺跡の地形と検出遺構群
- 写真2 炭化したカバノキ属樹皮巻きとアサ糸製布
- 写真3 第1号竪穴建物跡
- 写真4 第4・6号竪穴建物跡(1)
- 写真5 第4・6号竪穴建物跡(2)
- 写真6 第4・6号竪穴建物跡(3)
- 写真7 第4・6号竪穴建物跡(4)
- 写真8 第6号竪穴建物跡(5)
- 写真9 第7号竪穴建物跡
- 写真10 第9・32・34・35号竪穴建物跡(1)
- 写真11 第9・32・34・35号竪穴建物跡(2)
- 写真12 第9・32・34・35号竪穴建物跡(3)
- 写真13 第9・32・34・35号竪穴建物跡(4)
- 写真14 第9・32・34・35号竪穴建物跡(5)
- 写真15 第9・32・34・35号竪穴建物跡(6)
- 写真16 第9・32・34・35号竪穴建物跡(7)
- 写真17 第9・32・34・35号竪穴建物跡(8)
- 写真18 第11号(新)竪穴建物跡
- 写真19 第11号(古)竪穴建物跡
- 写真20 第12・15号竪穴建物跡
- 写真21 第13・14号竪穴建物跡
- 写真22 第16・17・19号竪穴建物跡(1)
- 写真23 第19号竪穴建物跡(2)
- 写真24 第19号竪穴建物跡(3)
- 写真25 第20号竪穴建物跡
- 写真26 第21号竪穴建物跡
- 写真27 第22号竪穴建物跡
- 写真28 第24号竪穴建物跡(1)
- 写真29 第24号竪穴建物跡(2)
- 写真30 第25号竪穴建物跡
- 写真31 第27号竪穴建物跡(1)
- 写真32 第27・28号竪穴建物跡(2)
- 写真33 第30・61号竪穴建物跡
- 写真34 第36・37・38・39号竪穴建物跡(1)
- 写真35 第36・37・38・39号竪穴建物跡(2)
- 写真36 第36・37・38・39号竪穴建物跡(3)
- 写真37 第36・37・38・39号竪穴建物跡(4)
- 写真38 第36・37・38・39号竪穴建物跡(5)
- 写真39 第40号竪穴建物跡
- 写真40 第41号竪穴建物跡(1)
- 写真41 第41・42号竪穴建物跡(2)
- 写真42 第43・117、44・45・48号竪穴建物跡
- 写真43 第50・51、53号竪穴建物跡
- 写真44 第55・56・77号竪穴建物跡
- 写真45 第57・58、59号竪穴建物跡
- 写真46 第62号竪穴建物跡
- 写真47 第63・64号竪穴建物跡
- 写真48 第66・66A号竪穴建物跡
- 写真49 第67A・B号竪穴建物跡
- 写真50 第71・72号竪穴建物跡(1)
- 写真51 第71・72号竪穴建物跡(2)
- 写真52 第73号竪穴建物跡(1)
- 写真53 第73号竪穴建物跡(2)
- 写真54 第75号竪穴建物跡
- 写真55 第76号竪穴建物跡
- 写真56 第79・80号竪穴建物跡(1)
- 写真57 第79・80号竪穴建物跡(2)
- 写真58 第81・83号竪穴建物跡
- 写真59 第85・86・88・87号竪穴建物跡
- 写真60 第91号竪穴建物跡
- 写真61 第94号竪穴建物跡
- 写真62 第96・101～106・116号竪穴建物跡
- 写真63 第111～114号竪穴建物跡(1)
- 写真64 第111～114号竪穴建物跡(2)
- 写真65 掘立柱建物跡
- 写真66 製鉄関連遺構(1)

- 写真 67 製鉄関連遺構 (2)  
写真 68 製鉄関連遺構 (3)  
写真 69 製鉄関連遺構 (4)  
写真 70 製鉄関連遺構 (5)  
写真 71 土坑 (1)  
写真 72 土坑 (2)  
写真 73 土坑 (3)  
写真 74 土坑 (4)  
写真 75 土坑 (5)  
写真 76 土坑 (6)  
写真 77 土坑 (7)  
写真 78 土坑 (8)  
写真 79 土坑 (9)  
写真 80 土坑 (10)  
写真 81 土坑 (11)  
写真 82 土坑 (12)  
写真 83 土坑 (13)  
写真 84 土坑 (14)  
写真 85 土坑 (15)  
写真 86 土坑 (16)  
写真 87 土坑 (17)  
写真 88 井戸跡 (1)  
写真 89 井戸跡 (2)  
写真 90 溝跡 (1)  
写真 91 溝跡 (2)  
写真 92 溝跡 (3)  
写真 93 溝跡 (4)  
写真 94 溝跡 (5)  
写真 95 溝跡 (6)  
写真 96 溝跡 (7)  
写真 97 溝跡 (8)  
写真 98 溝跡 (9)  
写真 99 溝跡 (10)  
写真 100 溝跡 (11)  
写真 101 溝跡 (12)  
写真 102 性格不明遺構 (1)  
写真 103 性格不明遺構 (2)  
写真 104 性格不明遺構 (3)  
写真 105 土器 (1)  
写真 106 土器 (2)  
写真 107 土器 (3)  
写真 108 土器 (4)  
写真 109 土器 (5)  
写真 110 土器 (6)  
写真 111 土器 (7)  
写真 112 土器 (8)  
写真 113 土器 (9)  
写真 114 土器 (10)  
写真 115 土器 (11)  
写真 116 土器 (12)  
写真 117 遺構外出土土器  
写真 118 鉄製品  
写真 119 羽口  
写真 120 石器  
写真 121 木製品

## 第1章 調査概要

### 第1節 調査に至る経緯

県営小栗山地区通作条件整備事業予定地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについては、平成23年度に青森県農林水産部農村整備課及び中南地域県民局地域農林水産部から事業計画が示され、青森県教育庁文化財保護課（以下県文化財保護課）が事業者と継続的に協議を重ねてきた。平成25年度には県文化財保護課が事業予定地の試掘確認調査を行い遺構・遺物を確認したことから、鷲ノ巣（1）遺跡、鷲ノ巣（3）遺跡、沢部（1）遺跡、沢部（2）遺跡の計4遺跡について工事施工前の本発掘調査が必要であるとした（青森県教育委員会2014）。この結果を受け、再度県文化財保護課と事業者との間で協議を行い、工事優先箇所の設定や他調査事業との調整を経た上で、平成26年度に県文化財保護課が鷲ノ巣（1）遺跡と鷲ノ巣（3）遺跡を、平成27・28年度には青森県埋蔵文化財調査センターが沢部（2）遺跡と沢部（1）遺跡の本発掘調査をそれぞれ実施することとした。沢部（1）遺跡については、平成26年4月に中南地域県民局長から文化財保護法第94条第1項の通知があったことから、青森県教育委員会教育長が工事着手前の本発掘調査（記録保存調査）を指示している（平成26年4月15日付け青教文第166号）。

### 第2節 調査の方法

#### 1 発掘作業の方法

沢部（1）遺跡（沢部Ⅰ号遺跡）は昭和48年度に弘前南部地区広域営農団地農道（通称アップロード）の整備事業に伴い、青森県教育委員会が弘前大学の村越潔に依頼し工事着手前の本発掘調査を行っている（青森県教育委員会1973）。また、平成9年度には民間開発事業に伴い、弘前市教育委員会が試掘確認調査を行っている（弘前市教育委員会1998）。昭和48年度に行われた調査では遺構の検出はなかったものの、縄文時代や古代の遺物が出土している。平成9年度に行われた調査では縄文時代の遺構・遺物の他、溝（塚）に囲まれた大規模な古代の集落跡が確認され、遺構の重複も多数認められている。これら過年度の調査結果を踏まえ、今回の発掘調査では検出遺構の新旧関係や層位的な調査に主眼を置いて発掘作業を進めることとした。

**【測量基準点・水準点の設置とグリッドの設定】** 測量基準点と水準点については、世界測地系に基づく既知点を利用し、調査区に任意杭を設置して使用した。グリッド法を採用し、世界測地系による公共座標値（ $X = 62050$ 、 $Y = -30050$ ）を基準点とし、一辺4mで設定した。各グリッドは南から北にアルファベット、西から東に算用数字を付したが、アルファベットは文字1巡による重複を防ぐためローマ数字を併用したほかZは使用せず、Yの次はAとした。よってグリッド名は南北及び東西の組み合わせによる南西隅交点杭の杭名を用いてI S - 19やII T - 20のように表記した。

**【基本層序】** 基本層序は任意の地点を掘り下げて確認し、上位からローマ数字を付して呼称した。

**【表土等の掘削】** 表土等の掘削作業・排土移動は、重機を使用して省力化を図った。出土遺物にはグリッド名と基本層序に基づく層位を記録し取り上げた。

**【遺構の調査】** 検出遺構は、原則として確認順に種別毎の略号と算用数字を組み合わせた遺構番号を付して精査した。堆積土観察用のセクションベルトは、遺構の形態と大きさに応じて、基本的に4分割または2分割で設定した。遺構の平面図、堆積土層断面図、遺構配置図、地形測量図等の作成の一部は株式会社知立造園に委託し、株式会社CUBIC製の「遺構実測支援システム」及びトータルステーションを用いた。遺構内の出土遺物は層位毎に取り上げ、状況に応じて遺物出土状況図や遺物分布図を作成した。

**【写真撮影】** 写真撮影は、35mmモノクローム、35mmリバーサル、1,800万画素のデジタルカメラを用い、発掘作業状況、土層の堆積状態、遺構の精査状況、完掘後の全景について記録した。また、空中写真撮影については株式会社シン技術コンサルに委託した。

**【自然科学分析】** 遺構の構築年代の推定、植物利用の実態等を解明するため、炭化材、土壌等を適宜採取した。その際、層位と採取位置の記録を行ったのち、金属製の道具を用い採取し梱包した。

## 2 整理・報告書作成作業の方法

**【図面類の整理】** 図面整理では、株式会社CUBIC製「遺構実測支援システム」で作成された遺構の平面図と堆積土層断面図等の調整を行った。また、図面の測量点等についてはエクセルファイル(.xlsx形式及び.csv形式)でHDD及びDVD-Rに収納した。

**【遺物の洗浄・注記と接合・復元】** 遺構内出土遺物を優先的に洗浄し、その後、遺構外出土遺物を洗浄した。遺物の注記は調査年度、遺跡名、遺構名、層位、取り上げ番号を略記したが、土器細片や剥片石器、金属器、製鉄関連遺物等、直接注記できないもの及び礫石器については、収納したポリ袋に注記した。接合・復元にあたっては、同一個体の出土地点・出土層位等の整理を併せて行った。

**【報告書掲載遺物の選別】** 遺物全体の分類を適切に行った上で、遺構に伴って使用・廃棄された資料、遺構の構築・廃絶時期等を示す資料、遺存状態が良く同類の中で代表的な資料、時期・型式・器種等の分かる資料に加え、特異で類例に乏しい資料を選別した。鉄滓類は、洗浄後、タジマツール製のピックアップMによる磁着の確認とKDS社製のMETAL CHECKER MR-50による磁着遺物の中からメタル反応のある鉄塊系遺物の回収作業を行った。メタル度については、L・M・H・錆化の4つに分類した。鉄滓類の分類については、遺構内遺物を青森市教育委員会の設楽政健氏に鑑定していただき、遺構外遺物は設楽氏の鑑定を基に久保が分類した。製鉄関連遺物の分類の流れは図1のとおりである(青森県埋蔵文化財調査センター 2017『鳴戸(3)遺跡II』を一部変更して作成)。メタル度については、鉄関連遺物の分析評価研究グループ編 2005『鉄関連遺物の分析評価に関する研究会報告』を参考とした。遺構内の土壌は1mmメッシュ篩による微細な鉄滓や砂鉄の回収に努めた。

**【遺物の観察・図化】** 肉眼により充分観察した上で、遺物の特徴を適切に分かり易く表現するように図化したほか、選別した遺物については、法量を計測した観察表を作成した。また、石器の実測図作成作業については一部委託により行った。

**【遺物の写真撮影】** 委託により行い、実測図等では表現しがたい質感・雰囲気・製作技法・文様表現等を伝えられるように留意した。

**【自然科学分析】** 炭化物及び炭化材の放射性炭素年代測定を委託により行った。その他、遺跡の性

格を特徴づける鉄関連遺物の分析や炭化種実塊、樹皮・布等の分析、脆弱遺物については必要に応じ保存処理を委託により行った。石器の石質鑑定は調査員の根本直樹氏に依頼した。

【トレース・版下作成】 遺構・遺物実測図のトレースは、株式会社CUBIC製「遺構実測支援システム」と同「トレースくん」を用いてデジタルトレースを行い、一部は委託により行った。実測図版及び写真図版の版下等は、主にAdobe社製CreativeSuite6を用いて作成した。

【遺構の検討・分類・整理】 遺構毎に種類・構造的特徴・出土遺物・他の遺構との重複関係等に関するデータを整理し、構築時期や同時性・性格等について検討を加えた。また、検討結果が調査時の所見と異なる場合には、適宜遺構番号の変更・重複関係の修正等を行った。

【遺物の検討・分類・整理】 遺物を時代・時期・種類毎に整理し、出土遺物全体の分類・器種組成・個体数等について検討した。また、遺物の計測等を行い法量の検討を行った。

【調査成果の検討】 遺構の種類と構造的な特徴、構築時期・性格等について検討し、遺構・遺物の検討結果を踏まえて、遺跡の時期・種別・構造・特徴等について検討整理した。

### 第3節 作業の経過

#### 1 発掘作業の経過

発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査主体	青森県埋蔵文化財調査センター	
	所長	田村 博美
	次長	川上 彰雄（総務GM兼務・現：次長）
	調査第二GM	笹森 一朗
	総括主幹	齋藤 岳（発掘調査担当者）
	文化財保護主幹	永嶋 豊（発掘調査担当者）
	文化財保護主査	工藤 忍（発掘調査担当者）
	文化財保護主事	久保 友香理（発掘調査担当者）
	文化財保護主事	最上 法聖（発掘調査担当者、現・福島県教育庁派遣）
	文化財保護主事	高橋 哲（発掘調査担当者、現・青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡保存活用推進室文化財保護主事）
	文化財保護主事	中澤 寛将（発掘調査担当者、現・青森県企画政策部世界文化遺産登録推進室主事）

専門的事項に関する指導・助言

調査員	藤沼 邦彦	前国立大学法人弘前大学人文学部教授（考古学）
〃	関根 達人	国立大学法人弘前大学人文社会科学部教授（考古学）
〃	三浦 圭介	青森中央学院大学非常勤講師（考古学）
〃	宇田川 浩一	秋田県教育庁弘田柵調査事務所副主幹兼班長（考古学）
〃	柴 正敏	国立大学法人弘前大学大学院理工学研究科教授（地質学）
〃	根本 直樹	国立大学法人弘前大学大学院理工学研究科講師（地質学）

発掘作業の経過は以下のとおりである。

[平成 28 年度]

- 4月19日 発掘調査器材などを搬入し調査を開始した。排土は調査区内での移動を基本とした。
- 5月上旬 調査区の西側から遺構が検出され、精査を行った。
- 5月中旬 調査区東側の調査に着手した。遺構検出を進めた結果、弘前市教育委員会の試掘確認調査でも検出された大溝（壕）跡を境にして東側の調査区は遺構密度が濃い状況を確認した。
- 5月下旬 遺構検出及び遺構精査、遺物取り上げを行った。
- 6月上旬 遺構検出、遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。複数回の建て替えが行われている遺構が確認できた。
- 6月中旬 引き続き、遺構検出、遺構精査、遺物取り上げ作業を行った。検出遺構の大部分は重複が認められた。
- 6月下旬 遺構検出、遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。鉄生産関連遺構が検出された。
- 7月上旬 引き続き、遺構検出、遺構精査、遺物取り上げ作業を行った。
- 7月中旬 遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。鉄生産に関連する遺構が建物跡内外から複数基検出された。
- 7月下旬 遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。
- 8月上旬 遺構検出、遺構精査、遺物取り上げ作業を行った。旧農作業用道路下部から深度の深い遺構が多数検出された。
- 8月中旬 遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。鉄生産関連遺構が調査区東部からも検出された。
- 8月下旬 遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。堅穴建物跡内から布片が出土した。溝跡から青磁片が出土した。
- 9月上旬 引き続き、遺構検出、遺構精査、遺物取り上げ作業を行った。
- 9月中旬 遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。井戸跡と考えられる遺構が複数基検出され、現在でも湧水が確認された。
- 9月下旬 遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。重複する遺構も数多く、密に検出され進捗に遅れが生じた。事業者を交えた協議の結果、当初予定していた調査期間を11月中旬まで延長することとなった。
- 10月上旬 引き続き、遺構検出、遺構精査、遺物取り上げ作業を行った。
- 10月中旬 遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。
- 10月下旬 引き続き、遺構精査、遺物取り上げ作業を行った。
- 11月上旬 遺構精査、遺物取り上げ作業を継続した。
- 11月18日 すべての作業を終了し、出土品等を搬出した後、現地から撤収した。

## 2 整理・報告書作成作業の経過

整理・報告書作成体制は、基本的に発掘調査に携わった職員で構成する。体制は以下のとおりである。



整理主体	青森県埋蔵文化財調査センター
	総括主幹 齋藤 岳
	文化財保護主幹 永嶋 豊
	文化財保護主査 工藤 忍
	文化財保護主査 岩井 美香子
	文化財保護主事 久保 友香理

報告書刊行事業は平成29年度から実施することになったが、写真類の整理作業及び遺構図面の整理作業の一部は、発掘調査終了後の平成28年11月中に終了している。この他の整理・報告書作成作業は平成29年4月1日から平成30年3月31日までの期間で行った。調査区からは縄文時代の遺構・遺物の他、古代の竪穴建物跡や製鉄・鍛冶関連の遺構が数多く検出され、遺物も遺構堆積土中から多数出土した。報告書の総頁は442頁で、遺構や遺物の数に応じて各々の記載にあてることとした。

整理・報告書作成作業の経過は以下のとおりである。

[平成29年度]

- 4～5月 出土遺物の接合・復元作業を行った。
- 6月～ 引き続き、出土遺物の接合・復元作業を行うとともに、遺構や土層断面図等の修正作業を行った。
- 7月～ 出土遺物の接合・復元作業を行うとともに、出土遺物の図化作業を行った。また、図面のトレース作業を開始した。
- 8～9月 引き続き、出土遺物の図化・トレース作業や図面のトレース作業を行った。
- 10月～ 出土遺物の図化・トレース作業、図面のトレース作業を行うとともに、各種図版作成作業を開始した。また、報告書掲載遺物観察表の作成を開始した。
- 11月～ 報告書掲載遺物の写真撮影を行うとともに各種図版作成作業を継続した。また、原稿執筆作業を開始した。
- 12月～ 原稿・版下が増ったので、報告書の割付・編集作業を行い、印刷業者を入札・選定した。
- 12月中旬～ 印刷業者との契約事務が完了した後、原稿及び版下を入稿した。
- 3月23日 3回の校正を経て、報告書を刊行した。
- 3月下旬 記録類、出土遺物等を整理して収納した。

#### 【製鉄関連遺物の分類】

【羽口】製鉄炉内に風を送り込むために炉壁に装着する土製の管である。炉内側は溶損し、多量の鉄滓が付着する。【炉壁】炉を形成する壁部分の破片。内面が被熱を受け変色しているものや、ガラス状に溶解したり、滓や砂鉄が付着したりしているものがある。断面で稲藁が観察できるものがある。【粘土質溶解物】炉壁内面や羽口の強く熱を受けた部分が溶解したもの。【炉内滓】製鉄炉内で固結した滓。破面がキラキラとした光沢を持つものが多い。【流動滓】炉内外で流動状に固結したもの。平面形状は棒状のものが多く、底面に砂粒が付着しているものがみられる。【椀形滓】炉内の窪みに沿って椀形に固結した滓。先にできた椀形滓をずらし、数回にわたって作業を行った結果、数段に重なっているものがある。【鍛冶滓】鍛冶工程で生成した滓で、椀形以外の形態を持つもの。【流出孔滓】炉内から流出孔を通り炉外へ流れる途中で、流出孔の内部で固結した滓。【流出溝滓】

炉内から炉外へ流れ出る途中で、流出溝の内部で固結した滓。[再結合滓] 鉄錆によって周辺土砂に加え、滓や木炭等が噛み合って二次的に固結したもの。[砂鉄焼結塊] 製鉄炉内に投入した砂鉄が溶が残った状態で固結したもの。[鉄塊系遺物] 黒錆が表面に顕著に確認され、磁着反応があり、メタル度がL(●)のものを鉄塊系遺物として取り扱った。[含鉄遺物] 黒錆が表面に顕著に確認され、磁着反応があり、メタル度がM(◎)及びH(○)のものを含鉄遺物として取り扱った。[錆化遺物] 黒錆が表面に顕著に確認され、磁着反応があり、メタルチェッカーに反応しなかったものを錆化遺物として取り扱った。[砂鉄] 製鉄炉内から回収された堆積土のうち、磁着する砂泥を砂鉄として取り扱った。

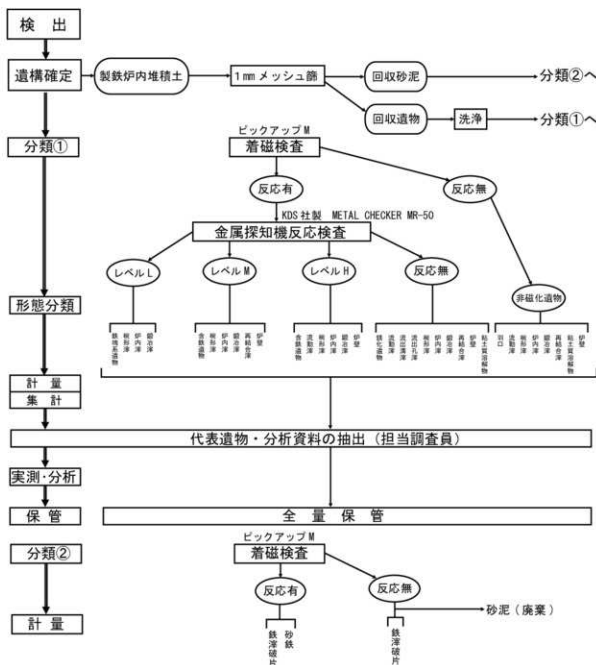


図1 製鉄関連遺物分類作業の流れ

## 第2章 遺跡周辺の環境

### 第1節 遺跡の位置と環境

沢部（1）遺跡は弘前市大字小栗山字沢部地内に所在する。遺跡は弘前市の南部、弘前市役所から南へ約5.4kmに立地している。北西側は一級河川平川の支流である大和沢川が北流し、南側は土筆森（標高401.4m）などが連なる山地となり、大鰐を経て遠く秋田県境へと険しい山脈が続いている。遺跡はこのような山地を源とする大和沢川や平川に注ぐ小河川によって開拓された南北に長い舌状の、東は稲刈沢川、西は天王沢に挟まれた標高100～120m程の丘陵上に位置している。遺跡の南東部には小栗山集落から小栗山神社へと続く参道が北東から南西方向へ、また、遺跡の南部には弘前南部地区広域営農団地農道が東西方向へ通っている。これらの道路周辺の山地に連なる丘陵には弘前市の特産品であるリングを主体とした果樹園や山林等が広がり、北～北東側に続く低位の扇状地、津軽平野南端部には広く住宅地、水田や畑地等が形成されている。

### 第2節 周辺の遺跡

沢部（1）遺跡の周辺には縄文時代から中・近世までの遺跡が数多く分布している。大和沢川右岸の同一丘陵で沢部（1）遺跡の南西部には沢部（2）遺跡、その南部の天王沢の右岸には天王沢遺跡、南東部には近接して鷺ノ巣（1）遺跡、鷺ノ巣（2）遺跡、北部には小栗山館遺跡、天王沢を挟んだ西側の別丘陵には鷺ノ巣（3）遺跡が位置している。また、大和沢川左岸の丘陵には大和沢沢田（2）遺跡、その南部には大和沢沢田（1）遺跡、大和沢館等の遺跡が確認されている。これらの遺跡には過去に発掘調査が行われた事例も少なくない。

昭和48年度には弘前南部地区広域営農団地農道建設に先立ち、青森県教育委員会が弘前大学の村越深に依頼して沢部（1）遺跡（沢部Ⅰ号遺跡）、沢部（2）遺跡（沢部Ⅱ号遺跡）、天王沢遺跡の発掘調査を実施している（青森県教育委員会1974）。この調査では3遺跡全て堅穴建物跡は確認されなかったが、沢部（1）遺跡では縄文時代後期前葉の十腰内Ⅰ式土器と古代の土師器・須恵器、沢部（2）遺跡では縄文時代前期中葉の円筒下層a・b式土器や石器、土製品・石製品、炭化堅果類等、天王沢遺跡では縄文時代後期の土器や石器が出土し、人々の生活や行動の痕跡を垣間見ることができる。

平成8年度からは小栗山地区周辺の開発事業に伴い、弘前市教育委員会が小栗山館遺跡（弘前市教育委員会1997, 1999, 2000, 2014）、沢部（1）遺跡（弘前市教育委員会1998）、鷺ノ巣（1）遺跡（弘前市教育委員会2003）の試掘確認調査及び本発掘調査を実施している。

丘陵の北端部に位置する小栗山館遺跡は古くから中世城館として古文書に登場するとともに、近世においては弘前藩の御飯屋があったところとしても知られており、市道建設や個人住宅建設に伴い弘前市教育委員会が継続的、断続的に発掘調査を実施し、縄文時代早期から晩期、弥生時代前期の遺物、古代の集落跡やそれに伴う遺物、中世や近世の遺物が確認されている。特に古代の集落跡からは鉄関連遺物が多数出土しており、沢部（1）遺跡との関連性も注目される。

沢部（1）遺跡は民間開発事業に伴い試掘確認調査が実施され、縄文時代晩期初頃の土坑のほか平安時代の溝（壕）に区画された大規模な集落跡が確認されており、縄文時代中期から晩期、弥生時代後期、平安時代の遺物が出土している。なお、前述の青森県教育委員会調査報告の中で村越は「小

栗山部落の西にある大池西岸一帯に縄文時代晩期の大洞B式土器を出土する新遺跡の存在が確認されている」と記述しており、小栗山館遺跡の南東側に接する丘陵と沢部(1)遺跡北側に接する丘陵には未登録の遺跡が存在する可能性が指摘されている。大溜池(大池)と呼ばれていた灌漑用水用の溜池は数年前に埋め立てられ、現在では小栗山農村交流公園の一部となっており、当時の様子をうかがい知ることはできない。

鷺ノ巣(1)遺跡は平成10年度に古代の遺跡として登録され、平成14年度には市道稲刈沢線の交差点改良事業に伴い弘前市教育委員会が試掘確認調査を実施し縄文時代後期の土器が出土している。また、平成25年度には県文化財保護課が県営小栗山地区通作条件整備事業に伴い試掘確認調査を実施している(青森県教育委員会2015)。続く平成26年度の本発掘調査においては古代の竪穴建物跡や堀跡を検出している。竪穴建物跡は同一箇所複数回の建替がみられるなど類似性もあることから、近接する沢部(1)遺跡との関連性が指摘される(青森県教育委員会2016)。

鷺ノ巣(3)遺跡も鷺ノ巣(1)遺跡と同様に県文化財保護課の試掘確認調査が行われた遺跡(青森県教育委員会2015)であり、平成26年度の本発掘調査においては縄文時代前期中葉の竪穴建物跡を初めとした遺構や遺物、縄文時代後期の遺構や遺物の他、縄文時代晩期や弥生時代後期の遺物が出土している(青森県教育委員会2016)。鷺ノ巣(3)遺跡の北東には、天王沢を挟んで同時期の遺跡と考えられる沢部(2)遺跡が位置している。沢部(2)遺跡は昭和48年度の調査後、平成27年度にも発掘調査が行われ、本報告書同様今年度末に報告書が刊行される(青森県教育委員会2018)。両遺跡の立地にはかなりの比高差があるが相互の関係が注目される。

### 第3節 基本層序

基本層序は、後世の耕作や造成等により著しく改変されている箇所もみられるが、調査区を通して概ね同様の層序となる。以下、基本層序の模式図を示した。

上から順に表土、I層、V層、VI層、VII層と定め、調査を行った。表土には後世の耕作土や造成土等が含まれる。I層は平安時代の遺物包含層で、V・VI層から漸移する箇所もある。表土直下のため、削平を受けている。V～VII層は平成27年度調査の沢部(2)遺跡と同様の堆積と判断し、層番を合わせた。そのため、遺物包含層が単層であった本遺跡ではII～IV層を欠く。V層は千曳浮石層に相当すると考えられ、所々に堆積する。調査区東側では堆積の割合が増加する。VI層はにぶい黄褐色を呈し、硬く締まるロームで、VII層の風化層とみられる。VII層は褐色を呈する硬い粘質のロームで、白色粘土やマンガン粒を含む。詳しくは本遺跡と同年度刊行の沢部(2)遺跡の報告書を参考されたい。

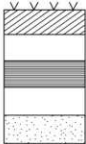
	表土	耕作土・造成土
	I層	10YR3/3 暗褐色土 平安時代の遺物包含層 V・VI層から漸位する箇所がある
	V層	10YR4/6 褐色土 千曳浮石に相当する可能性
	VI層	10YR5/3 にぶい黄褐色土 粘性弱 しまり強
	VII層	10YR4/4 褐色土 白色粘土、マンガン粒を含む 粘性強

図2 基本層序(模式図)

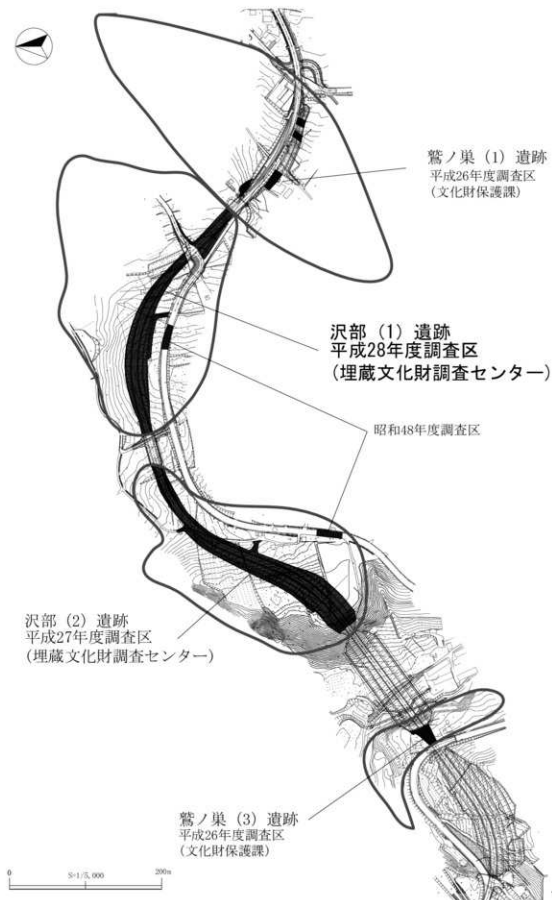
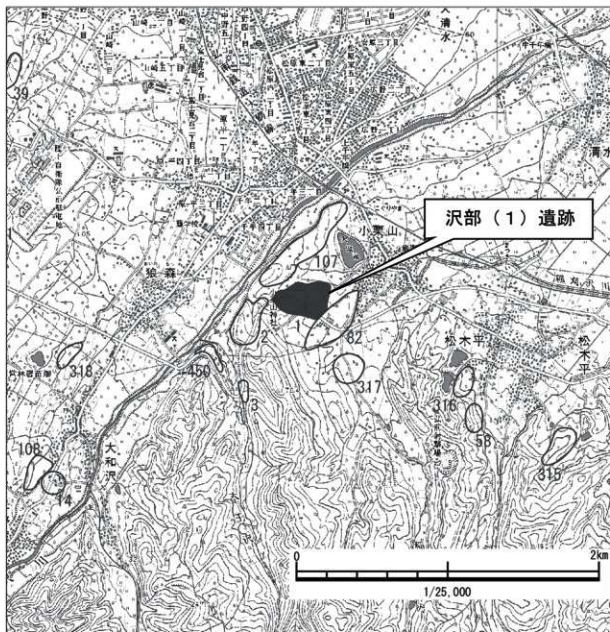


図3 路線図



遺跡番号	遺跡名	時代
202001	沢部(1)遺跡	縄文(中・後・晩)、統縄文、弥生(中・後)、平安
202002	沢部(2)遺跡	縄文(早・前・中・後・晩)、弥生、平安
202003	天王沢遺跡	縄文(後・晩)
202014	大和沢沢田(1)遺跡	縄文(後)
202039	笹森山遺跡	縄文(後)
202058	鷹ノ巣遺跡	縄文(中・後・晩)
202082	鷺ノ巣(1)遺跡	縄文、平安
202107	小栗山館遺跡	縄文、平安、中世、近世
202108	大和沢館	平安、中世
202315	大沢大久保遺跡	縄文(前)
202316	芹沢遺跡	縄文(中・後・晩)、平安
202317	鷺ノ巣(2)遺跡	縄文、平安
202318	大和沢沢田(2)遺跡	縄文(後・晩)、平安
202450	鷺ノ巣(3)遺跡	縄文(中)

図4 周辺の遺跡

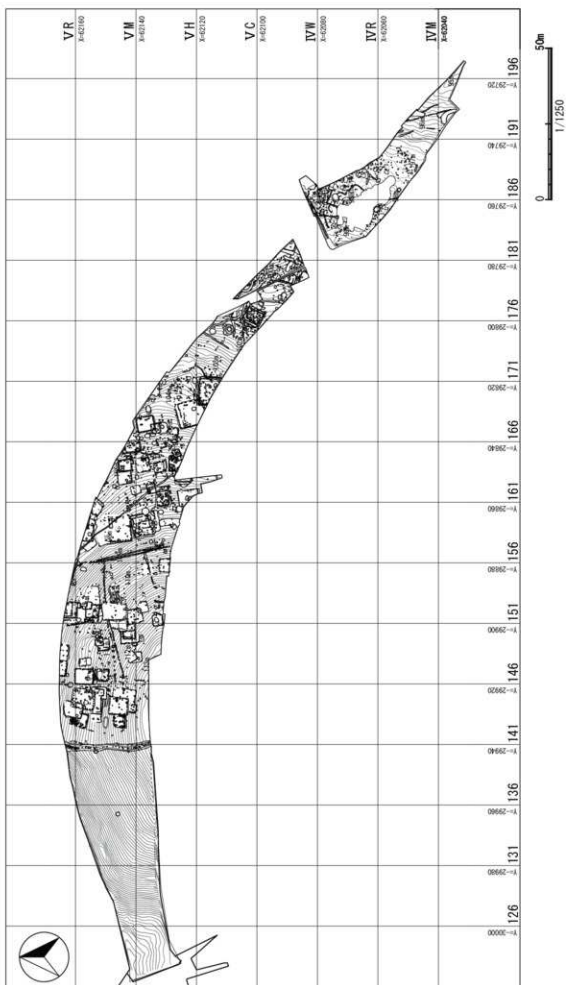


図5 遺構配置全体図

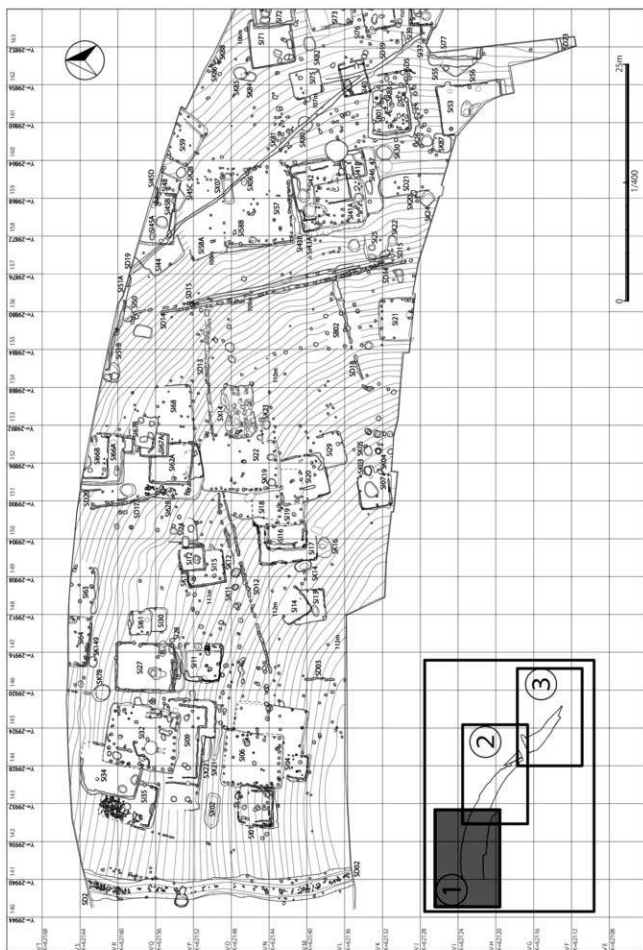


図6 遺構配置分割図(1)



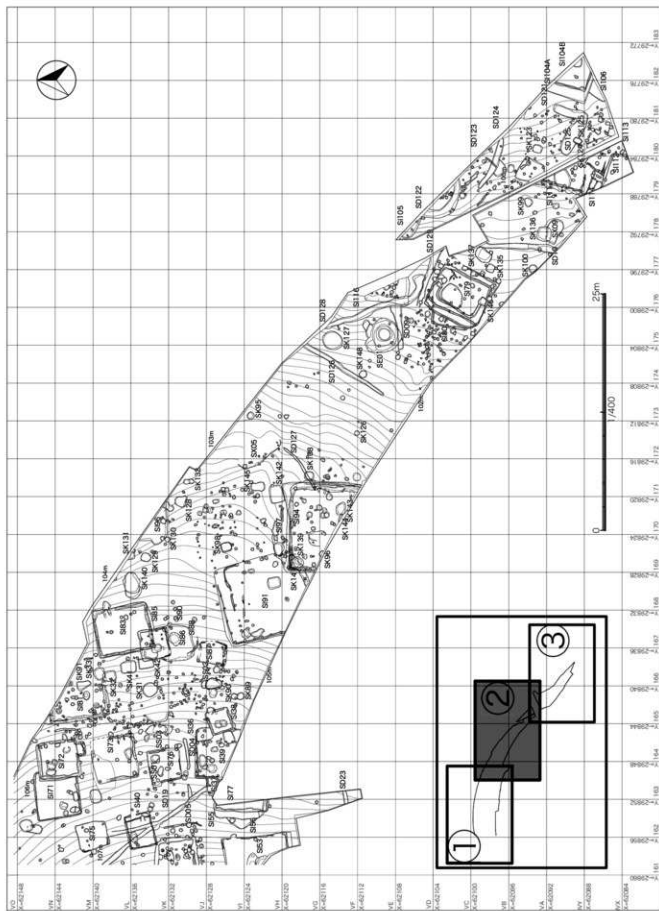


図7 遺構配置分割図(2)



図8 遺構配置分割図(3)

## 第3章 検出遺構と出土遺物

### 第1節 遺跡の概要

前述のように、平成28年度の調査区は、平成9年に民間開発に伴って弘前市教育委員会が試掘確認調査を行なった範囲と重複する部分がある。

当調査区の主体は、10世紀後半以降の平安時代後期の大規模集落跡であるが、縄文時代後晩期と考えられるフラスコ状のものを含む土坑が数基と縄文時代晩期初頭の竪穴建物跡の一部が検出されている。また丘陵頂部付近では弥生時代中後期の土器片が遺構外より出土している。SB03とした柱穴内からも弥生時代の土器片が1片出土しているが、遺構の時期を示すかは不明である。

弘前市教育委員会の調査によって、古代の各種遺構の存在は確認されていたが、本調査では予想以上の遺構が検出され、その密度も高いものであった。

調査区は西側の尾根状部分と東側の緩やかな斜面と東端部の井戸跡が3基検出された平坦部に、大きく3区に分けられる。西側の尾根部分を東西に分かつように、南北方向の大溝(SD02)が配置されており、明らかに集落西端部を意識した施設であることがわかる。今年度調査区の中で、これ以西には平安時代の遺構は確認されておらず、大溝以東が集落の居住域と明確に意識されていたようである。

平安時代の竪穴建物跡は、91軒が検出されている。他の掘立柱建物跡3棟、土坑82基、井戸跡4基、溝跡53条、製鉄関連遺構10基、性格不明遺構12基も多くが平安時代のものと考えられ、以下に竪穴建物跡、掘立柱建物跡、製鉄関連遺構、土坑、井戸跡、溝跡、性格不明遺構の順に報告する。

注目される遺構は、重複の激しい竪穴建物跡群、それらの占有地を区画する溝跡、集落西端を画する大溝、周溝を有する掘立柱建物跡、炭窯上位を再利用した製鉄遺構、羽口を炉の芯材に用いた製鉄遺構、円形周溝の可能性のある弧状の溝跡、上端直径4mにおよぶ大型の井戸があげられる。

遺物は土師器・須恵器、鉄製品・鉄関連遺物、石器・石製品に縄文土器・弥生土器・石器が出土し、遺構内外で分けて報告する。注目される遺物はSD14から出土した越州窯系青磁皿、焼失竪穴建物跡から出土した炭化種実塊(イネ・アワ)、アサ製の織物、鉄製品では鉄鉋・鑿・鈴等があげられる。

### 第2節 検出遺構と遺構内出土遺物

#### 1 竪穴建物跡

##### 第1号竪穴建物跡(SI01) (図9・120・162・163、写真3・105・118)

【位置・確認】V0143、VN143グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】東西・南北軸4.2mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは19cmである。

【堆積土】18層に分層した。褐色土を主体とする。全体的にロームブロックや粘土ブロック等の混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。壁際には壁溝が巡るが北壁では途切れる箇所がみられる。東側と西側の壁では、壁沿いの溝の内側にもう1条溝が確認でき、この溝は床面と平坦になるように埋められていたことから、拡張を行ったと考えられる。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は壁溝付近を中心に17基検出された。主柱穴は確認できなかった。本遺構の中央では鍛冶炉が確認された。浅い掘り込みに掛かるように火床面が形成されている。鍛冶炉の確認面では鉄滓が出土した。

【カマド】東壁の北寄りに位置する。袖石等は出土せず、火床面のみ検出した。

【出土遺物】土師器甕、土師器杯、須恵器甕、鐵、不明鉄製品、炉壁、鍛冶滓、鉄塊系遺物、銹化遺物が堆積土から出土した。うち、土師器甕8点、土師器杯1点、須恵器甕2点、不明鉄製品1点、炉壁1点、鍛冶滓1点、鉄塊系遺物1点を図示した。120-05～09は底面に籬状圧痕がみられる。162-16は不明鉄製品で、薄い材を湾曲させている。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

## 第2号竪穴建物跡(S102)

発掘調査時は第2号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、第4号竪穴建物跡(S104)の一部と判明したため、欠番とした。

## 第3号竪穴建物跡(S103)

発掘調査時は第3号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、第6号竪穴建物跡(S106)の一部と判明したため、欠番とした。

## 第4号竪穴建物跡(S104) (図10～13・121-170、写真4～8・105・120)

【位置・確認】VM144・145グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】第6号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。

【平面形・規模】東西・南北軸7.6mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは42cmである。南壁の西寄りに張出し部を持つ。本遺構の北側は、後世の耕作により削平されている。

【堆積土】13層に分層した。褐色土を主体とする。全体的にロームブロックや炭化物が混入していることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。張出し部の壁際には壁溝が巡る。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は壁際付近を中心に21基検出された。主柱穴は確認できなかった。南壁際の柱穴からほぼ等間隔で連続する柱穴と、それらと対になる柱穴が本遺構の東側で確認されており、付属竪立の可能性がある。

【カマド】東壁の中央南寄りにSF87とした浅いPitが確認され、位置関係からカマドの一部である可能性があるが、火床面等が確認できなかったため、詳細は不明である。

【出土遺物】土師器甕、須恵器甕、釘、鐵、石匙が堆積土から出土した。うち、土師器甕5点、須恵器甕2点、石匙1点を図示した。121-06は土師器の甕で、底面に布目状圧痕がみられる。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

## 第5号竪穴建物跡(S105)

発掘調査時は第5号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、第4号竪穴建物跡(SI04)の一部と判明したため、欠番とした。

#### 第6号竪穴建物跡(SI06) (図10～13・121・162・171、写真4～8・105・118・120)

【位置・確認】VN144・145・146グリッドに位置する。VI層で検出した。精査中に焼土と炭化物が多数に確認されたため、焼失住居と認定した。

【重複】第4号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】5.9×4.9mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは48cmである。

【堆積土】21層に分層した。暗褐色土、褐色土を主体とする。12～14層では焼土や炭化物が多数に確認された。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。床面直上で炭化材が多数出土した。遺存状況は良好で、東側で長軸が東西方向と南北方向の炭化材が重なって出土したことから、桁や垂木であった可能性がある。炭化材の一部で樹種同定を行った。アスナロを主体とし、その他の樹種も含めて建築材であったと考えられる。樹種15はイネ科(稈)で、屋根材であった可能性がある。樹種5は板材であった。

【柱穴・施設】柱穴は43基検出された。主柱穴は確認できなかった。壁沿いに壁柱穴が巡る。南壁際の柱穴からほぼ等間隔で連続する柱穴と、それらと対になる柱穴が本遺構の東側で確認されており、付属掘立の可能性がある。

【カマド】建物内東壁寄りに位置する。袖石等は出土せず、火床面のみ検出した。Pit31・41を埋めた上から火を焚いている。Pit41に焼土ブロックや炭化物が含まれることから、使用後に掻き出した炭化物等で埋めた可能性がある。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、須恵器甕、須恵器壺、釘、鏝、錆化遺物、砥石、炭化米が堆積土から出土した。うち、土師器甕9点、土師器坏3点、須恵器甕3点、須恵器壺1点、鏝1点、砥石1点を図示した。122-08は須恵器壺の頸部で、刻書がみられる。162-10は鏝である。台状間で、先端は平たくなっているが、欠損しているため形状は不明である。カマド南側では碗状及び板状に潰れた状態の炭化米が出土した。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

#### 第7号竪穴建物跡(SI07) (図14・122・123、写真9・105)

【位置・確認】VK152グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】第3・4号土坑と重複しており、本遺構が古い。

【平面形・規模】東西・南北軸3.5mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは42cmである。

【堆積土】31層に分層した。暗褐色土とにぶい黄褐色土を主体とする。全体的にロームブロックや炭化物等の混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。6層は貼床である。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。東側を除く壁際には壁溝が巡る。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴が10基、土坑が1基検出された。Pit1・4・6・8は建物の四隅に構築されてい

る。張床の下でSK1が確認された。壁溝も貼床により埋められていることから、本遺構には新旧があったと考えられる。

【カマド】東壁のやや北寄りに位置する。火床面と若干残存していた粘土袖を検出した。

【出土遺物】土師器甕、土師器杯、流動滓、羽口が堆積土から出土した。うち、土師器甕11点、土師器杯1点を図示した。122-15、123-02は土師器甕の口縁部で、外面でケズリ、ナデ、内面でナデ調整が施されるが、粘土接合痕が残る。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

#### 第8号竪穴建物跡(S108)

発掘調査時は第8号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、壁の立ち上がりが緩やかであったことから竪穴建物跡ではないとし、第22号性格不明遺構に振替、欠番とした。

#### 第9号竪穴建物跡(S109) (図15～22・123、写真10～17・105)

【位置・確認】V0・VP143～145グリッドに位置する。VI層で検出した。本遺構は、平成9年度の弘前市教育委員会による調査で、一部トレンチ調査が行われており、南壁張出し部以外が第7号住居跡、張出し部内側の溝から内側が第8号住居跡、溝から外側の張出し部が第9号住居跡として報告されている。

【重複】第32号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。北側が後世の耕作により削平されているが、位置関係から、第34・35号竪穴建物跡とも重複し、本遺構が古いと考えられる。

【平面形・規模】東西・南北軸8.5mを測ると考えられ、方形を呈する。検出面からの深さは36cmである。南壁の東側に張出し部を持つ。本遺構の北側は、後世の耕作により削平されている。

【堆積土】25層に分層した。にぶい黄褐色土と黄褐色土を主体とする。いずれの層でもロームブロックが混入し、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。東壁の一部と南壁の東寄りには壁溝が巡る。壁の内側には溝が1条、西側ではその外側にもう1条溝が巡り、建て替えが行われたと考えられる。カマド①付近の溝は、カマド①の火床面を掘り込んでいたことから、建物を縮小したと考えられる。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴が15基、土坑が6基検出された。主柱穴はSK1～6の可能性がある。SK2はSK3を掘り込み、SK6は溝とSK5に掘り込まれていることから、必要に応じて建て替えていたと考えられる。Pit3、Pit7、Pit8は建物の角に構築されている。

【カマド】東壁に2基確認された。カマド①は火床面と若干袖の粘土が残る。カマド①は建物縮小時の溝に掘り込まれていることから先に構築されたカマドで、カマド②は火床面のみの検出であるが、縮小時の溝の内側で確認されたことから、建物縮小に伴い構築されたカマドである。

【出土遺物】土師器甕、土師器杯、須恵器甕、須恵器杯、釘が堆積土から出土した。うち、土師器甕3点、土師器杯1点、須恵器甕1点、須恵器壺3点を図示した。123-09は土師器甕で、内面に炭化物が付着する。123-11は土師器杯で、内面黒色処理が施されている。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

## 第10号竪穴建物跡(SI10)

発掘調査時は第10号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、第9号竪穴建物跡(SI09)の一部と判明したため、欠番とした。

## 第11号(古)竪穴建物跡(SI11古)(図23・124、写真19・106)

【位置・確認】VN・VM146・147グリッドに位置する。第11号(新)竪穴住居跡の精査中に検出した。

【重複】第11号(新)竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

【平面形・規模】長軸4.0m・短軸3.9mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは9cm～20cmである。第11号(新)竪穴住居跡に大きく破壊される。

【堆積土】褐色土を主体にする。人為堆積である。

【壁・床面】北東部は削平を受け壊されている。床は北に向かって傾斜している。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。壁際には壁溝が巡るが確認できたのは南西隅付近である。北壁と西壁沿いが比較的深く、西壁沿いのものは幅が広い。南西壁側の一部が掘り残されている。床面はⅠ・Ⅴ層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は検出されなかった。

【カマド】東壁の北寄りに位置する。第11号(新)竪穴住居跡に破壊され、火床面のみ検出した。

【出土遺物】土師器甕・壺4点を図示した。

【小結】出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。(工藤)

## 第11号(新)竪穴建物跡(SI11新)(図23・124、写真18・106)

【位置・確認】V0・VP146・147グリッドに位置する。第Ⅰ層上面で検出した。

【重複】第11号(古)竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。

【平面形・規模】東西3.3m・南北軸3.3mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは26cmである。

【堆積土】焼土を含む暗褐色土を主体とする。人為堆積である。

【壁・床面】南壁の残存が比較的良好である。北部は削平により破壊されている。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。南壁際に壁溝を検出した。床面は第11号古を黄褐色土で埋めて構築され、一部貼床を施し凹凸がある。

【柱穴・施設】柱穴は7基検出した。

【カマド】天井部が崩落し、かつ削平を受けた状態で検出した。カマドの袖部分は人為的に破壊され残存しなかった。本体から煙道部は、平滑に加工した凝灰岩を主に、土師器の破片にて構成された心材に、粘土を充填し構築されていた。体部から煙道部の長さは1mを測り、堆積土には人為的に壊された土師器の破片が多く混入していた。火床部はⅤ層を掘り込み構築され、その被熱は底面から厚さ約18cmに及ぶ。

【出土遺物】土師器甕3点を図示した。また鉄関連遺物(炉壁、鍛冶滓)が出土した。土師器がカマド南側に比較的集中して出土したほか、本住居跡中央付近の堆積土から横倒しの土師器長胴甕が出土した(図124-1)。

【小結】重複する遺構や出土遺物から平安時代11世紀以降の構築・廃絶と考えられる。(工藤)

#### 第12号竪穴建物跡 (SI12) (図24・124・125、写真20・106)

【位置・確認】V0・VP149グリッドに位置する。第I層上面で検出した。

【重複】第15号住居跡と重複し、第15号竪穴住居跡より新しい。

【平面形・規模】長軸3.7m・短軸(2.5m)を測り、方形を呈する。検出面からの深さは31cmを測る。

【堆積土】上層は暗褐色土を主体とし、下層は黄褐色土を主体とする。

【壁・床面】壁は底面からやや垂直に立ち上がる。壁際に周溝が巡り、壁溝の深さは、8cm～20cmを測る。床面は貼床を施し、一部地山を掘り込み床とする。貼床は焼土が混入する。

【柱穴・施設】柱穴は4基検出し、うち3基は周溝内から検出した。中央南寄りに長軸60cm、深さ20cmの、東西に軸を持つ、土坑状に凹む箇所がある。床からの落ち際はなだらかに傾斜し、底面は凹凸を有するものである。意図的に明確に掘り込んだ形跡は観察できなかった。

【カマド】検出されなかった。

【出土遺物】床面から10cmほど上で土師器甕が集中して出土した。また礫が散在して出土した。遺物出土状況から、住居廃絶後に人為的に埋める際に意図的に混入された可能性が高い。土師器坏、甕、埴5点、刀子を図示した。また鉄関連遺物(炉壁、流動滓、椀型滓、鍛冶滓)を出土した。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀の構築・廃絶と考えられる。

(工藤)

#### 第13号竪穴建物跡 (SI13) (図25、写真21)

【位置・確認】VM147・148グリッドに位置する。第I層上面で検出した。

【重複】第14号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

【平面形・規模】長軸(3.2m)・短軸(3.1m)を測る隅丸方形を呈する。検出面からの深さは32cmを測る。北部から北東部を第14号竪穴住居跡に破壊され南部のみ残存する。

【堆積土】平成9年度の弘前市教育委員会による発掘調査により失われていたため不明である。

【壁・床面】壁は南壁・西壁の残存が良好であり、東壁の大部分は削平により破壊されている。壁際に小穴が列をなし検出され、壁溝の痕跡とみられる。床は凹凸がある。地山を掘り込み床とする。

【柱穴・施設】柱穴は壁際に8基検出した。小穴が多く、主柱穴は南東・南西隅に検出される。中央部やや南西部に土坑を検出した。床からの落ち際は明瞭である。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】本遺構は、弘前市教育委員会により調査した後に再発掘したものである。遺構形態や出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。

(工藤)

#### 第14号竪穴建物跡 (SI14) (図25・125、写真21・106)

【位置・確認】VM147・148グリッドに位置する。第I層上面で検出した。

【重複】第13号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。

【平面形・規模】長軸(3.2m)・短軸が(3.0m)の方形を呈する。検出面からの深さは16cmを測る。

【堆積土】不明である。



【壁・床面】壁は北西隅の残存が良好であり、壁際に壁周溝を北壁の一部、南東壁、南西壁で検出した。床の状況は不明である。北西側は削平を受け破壊されている。

【柱穴・施設】柱穴は4基検出した。壁柱穴は東隅、南隅、西隅で検出した。

【カマド】検出されなかった。

【出土遺物】土師器甕1点(図125-6)を図示した。

【小結】本遺構は、弘前市教育委員会により調査された後に再発掘したものである。遺構形態や出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。(工藤)

#### 第15号竪穴建物跡(SI15)(図24・125・161、写真20・106・118)

【位置・確認】V0・VP148・149グリッドに位置する。第I層上面で検出した。

【重複】第12号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

【平面形・規模】長軸(3.9m)、短軸3.5mを測る隅丸方形を呈する。

検出面からの深さは53cmを測る。東北部を第12号竪穴住居跡に破壊される。

【堆積土】暗褐色土を主体にし、にぶい黄褐色土を混入する。不明火山灰を斑状に含む。人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。I層を掘り込み床としている。床はほぼ平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は9基検出した。壁溝の深さは最大21cmを測る。壁溝には小Pitを伴っているが、南西壁には小ピットが配置されない箇所がある。

【カマド】長軸1m30cmを測る。煙道部の上部は削平により、炉体部は完全に壊された後に埋められ、原型をとどめていない。床面には火焼面が認められる。

【出土遺物】土師器坏、甕、埴3点、鉄製品(鉄鉗)を図示した。鉄製品(鉄鉗)は、中央南壁から出土した(図161-4)。また図示はしていないが刀子、棒状鉄製品、鉄関連遺物(炉壁)が出土している。

【小結】鉄鉗の出土から、SI24と同時期の構築とみられる。出土遺物から、平安時代10世紀の構築・廃絶と考えられる。(工藤)

#### 第16号(古)竪穴建物跡(SI16)(図26・126、写真22・24)

【位置・確認】VM149・150グリッドに位置する。第I層上面で検出した。

【重複】第19号竪穴住居跡、第16号(新)竪穴住居跡より古く、第17号竪穴住居跡より新しい。

【平面形・規模】残存する長軸4.4m、短軸(2.0m)を測り、隅丸方形を呈する。東部を第19号竪穴住居跡に破壊される。

【堆積土】褐色土を主体にする土で焼土や炭化物を多量に混入する。人為堆積である。

【壁・床面】壁溝の幅は12cmから39cmを測り、深さは1~4cmを測る。床面は破壊されているため不明である。

【柱穴・施設】住居跡隅に小Pit3基を検出した。

【カマド】第19号竪穴住居跡に破壊され、検出できなかった。

【出土遺物】遺物は出土していない。

【小結】第16号(新)竪穴住居跡を縮小させた形態である。平安時代の構築・廃絶と考えられる。(工藤)

#### 第16号(新)竪穴建物跡(SI16)(図26・126・170、写真22・24・107・120)

【位置・確認】VM149・150グリッドに位置する。第1層上面で検出した。

【重複】第19号竪穴住居跡より古く第17号竪穴住居跡や第16号竪穴住居跡(古)より新しい。

【平面形・規模】長軸4.4m、短軸(3.1m)を測り、隅丸方形を呈するとみられる。東壁が第19号竪穴住居跡に壊されている。

【堆積土】黒褐色土を主体にする土で、床上10cmに炭化物和焼土が多く堆積している。炭化物はまともりが無く、散在して出土した。人為堆積である。

【壁・床面】壁溝の幅は10cmから42cmを測り、深さは2cm～11cmを測る。床面は平坦である。

【柱穴・施設】11基検出された。うち6基は周溝内の検出である。

【カマド】検出されなかった。

【出土遺物】土師器甕1点と縄文土器片1点、磨石、石皿を図示した。ほか鉄関連遺物(炉壁)が出土している。

【小結】第16号竪穴住居跡(古)を拡張し、本遺構を構築している。炭化物の出土状況から、住居の廃絶後に、住居の構成材の焼却を行った可能性がある。出土遺物と重複関係から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。(工藤)

#### 第17号竪穴建物跡(SI17)(図26・126、写真22・24)

【位置・確認】VL・VM・VN149・150グリッドに位置する。第1層上面で検出した。

【重複】第16号(古)・(新)竪穴住居跡、第19号竪穴住居跡より古い。第14号土坑との新旧は不明である。

【平面形・規模】長軸が6.2m、短軸(4.1m)を測り、隅丸方形を呈するとみられる。検出面からの深さは2～8cmである。

【堆積土】暗褐色土を主体にする土で浮土を多量に混入する。人為堆積とみられる。

【壁・床面】床の深さは2cm～8cmである。底面は凹凸がある。残存するところでは、壁は壁溝から垂直に立ち上がる。壁溝は北・西・南隅で検出、幅9cmから34.6cm、深さ1cm～12cmを測る。

【柱穴・施設】壁溝内に小Pit 9基検出した。4隅に小Pitが付属する可能性がある。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器2点、須恵器1点図示した。鉄関連遺物(炉壁)が出土した。図示していないが、紡錘車が出土した。

【小結】第16号・第19号竪穴住居跡との重複と出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。(工藤)

#### 第18号竪穴建物跡(SI18)(図26・126、写真107)

【位置・確認】VN・V0150・151グリッドに位置する。第1層上面で検出した。

【重複】第19号・第22号竪穴住居跡より古い。

【平面形・規模】西壁のみ検出した。東部を第22号竪穴住居跡に破壊される。

【堆積土】にぶい黄褐色土を主体にする土である。

【壁・床面】西壁のみ検出した。床面は、V層を掘り込んで構築され、検出面からの床の深さは30cmである。床は凹凸があり、やや北に傾斜している。

【柱穴・施設】柱穴は10基検出した。いずれも壁柱穴である。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器甕、把手付土器、須恵器壺4点を図示した。鉄関連遺物（炉壁）が出土した。

【小結】第19号・第22号竪穴住居跡、また後世の地盤削平により破壊され、西壁の一部しか残存していない。重複関係や出土遺物から、平安時代11世紀の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

#### 第19号竪穴建物跡（S119・S123）（図26・126、写真23・24・107）

【位置・確認】VM150グリッドに位置する。第1層上面で検出した。

【重複】第18号竪穴住居跡よりも新しく、第20・22号竪穴住居跡よりも古い。

【平面形・規模】短軸5.4m、長軸5.5mを測る方形を呈するとみられる。検出面からの深さは25cmを測る。

【堆積土】褐色土を主体にする土で黄褐色土が混入する。人為堆積とみられる。

【壁・床面】残存する壁は南西隅壁である。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は検出できなかった。I層を掘り込み、床は平坦でありやや北に傾斜している。

【柱穴・施設】柱穴は15基検出し、壁際に並んで構築される。

【カマド】第22号竪穴住居跡に壊されており、不明である。

【出土遺物】土師器坏、須恵器壺を図示した。

【小結】第20号建物に破壊されたのち、削平により破壊され、特に北東壁側の様相が不明である。残存する壁柱穴の状況から、北と東壁にも柱穴が伴っていた可能性がある。重複する遺構や出土遺物、柱穴の配置などから、平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

#### 第20号竪穴建物跡（S120）（図27・127・162、写真25・107・118）

【位置・確認】V0・VP151・152グリッドに位置する。第1層上面で検出した。

【重複】第561号ビット、第18・29号竪穴住居跡より新しく、第22号竪穴住居跡より古い。

【平面形・規模】長軸が5.1m、短軸が（4.3m）の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは34cmで、北部を第22号竪穴住居跡に破壊される。

【堆積土】にぶい黄褐色土と灰黄褐色土を主体にする土である。人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は床面から垂直に立ち上がる。床はI層を掘り込んで構築され、ほぼ平坦であり、やや北に傾斜している。

【柱穴・施設】柱穴は東側に位置するものを含め13基検出した。

【カマド】削平され破壊を受けていたが、長軸50cm、単軸40cmの火床面が残存していた。被熱深は12cmである。

【出土遺物】土師器甕2点、坏1点、須恵器壺1点を図示した。刀子、釘も出土している。

【小結】壁溝を伴う竪穴住居跡である。重複する遺構や出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。(工藤)

#### 第21号竪穴建物跡 (S121) (図29・30・127、写真26・107)

【位置・確認】VJ・K155・156グリッドに位置する。床面中央付近から炭化物が出土し、焼失建物と考えられる。

【重複】なし。

【平面形・規模】東西軸4.3m・南北軸3.6mを測り、長方形を呈する。検出面からの深さは30～54cmである。南側の壁は調査区外へと続く。

【堆積土】暗褐色土を主体にする。ロームブロックを多く含み、人為堆積である。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。ほぼ全面に貼床がなされ、平坦である。

【柱穴・施設】支柱なく、壁柱穴が巡る。

【カマド】南壁のやや東寄りに位置する。両袖と火床面を検出したが、煙道は調査区外にある。カマド覆土上位より扁平な礫が出土した。

【出土遺物】土師器甕8点・坏1点、須恵器甕2点を図示した。ほとんどがカマド付近より出土したものである。また鉄製品2点(釘1点・刀子1点)が出土した。鉄滓は鍛冶滓、含鉄鉄滓が出土した。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に廃絶したと考えられる。(永嶋)

#### 第22号竪穴建物跡 (S122) (図31・128、写真27・107)

【位置・確認】VM・VN・V0151・152・153グリッドに位置する。第I層上面で検出した。

【重複】第18号・第19号・第20号竪穴住居跡、第14号不明遺構と重複し、第18号・第19号・第20号竪穴住居跡より新しい。第14号不明遺構との新旧関係は不明である。

【平面形・規模】長軸が12m、短軸が(7.5m)の長方形を呈するとみられる。検出面からの深さは34.9cmで、北部と東部の遺構範囲が削平により不明瞭である。

【堆積土】暗褐色土を主体にする土で人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。床面はVI層を掘り込み構築される。床はやや北に傾斜している。

【柱穴・施設】確実に伴う柱穴は28基である。第19号土坑を南西隅に検出し、堆積土中に白色粘土が置かれた状態で出土した。位置、規模から、第22号竪穴住居跡付属1号土坑や第23号土坑も本遺構に伴う可能性が高い。

【カマド】検出しなかった。削平により破壊されたと考えられる。

【出土遺物】土師器坏を図示した。鉄関連遺物(流動滓・炉内滓・流出孔滓)が出土した。

【小結】削平のため破壊された影響と考えられるが、北壁と東壁の壁柱列が見られない。重複する遺構や出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。(工藤)

#### 第23号竪穴建物跡 (S123)

発掘調査時は第23号竪穴住居跡として精査したが、精査の結果、第19号竪穴住居跡の一部と判明し

たため、欠番とした。

#### 第24号竪穴建物跡 (S124) (図32・図128・163、写真28・29)

【位置・確認】V0・VP149・150グリッドに位置する。第1層上面で、炭化物と鉄滓の集積を確認した。

【重複】第1号溝跡よりも新しい。

【平面形・規模】長軸が2.0m、短軸が約1.5mの範囲に炭化物が集積し、炭化物を除去したところ硬化面1カ所、土坑2基を検出した。硬化面はほぼ検出面付近であり、削平による破壊が著しい。

【堆積土】炭化物を主体とする。

【壁・床面】壁は検出しなかった。床面は焼土が混入する硬化面である。

【柱穴・施設】柱穴6基、土坑2基検出した。1つは西部に検出し(SK1)、硬化面から西方に突出する形態で検出した。平面形態は長軸0.8m、短軸0.6m、深さ20cmを測り、隅丸方形の平面形を有する。最上層に碗型滓や流動滓を伴う。堆積土は底面付近に炭化物集積層、中層に炭化物や焼土を混入するにぶい褐色土が堆積し、上面に鉄滓が集中して検出された。底面は1層が強い被熱により硬化しており、壁には赤変の様子が観察された。もう1つは北部から検出したもので(SK2)、平面形態は長軸0.7m、短軸0.6m、深さ0.3mを測る、円形を呈する。検出時に確認した炭化物の多くは、本土坑に南方向から流入した形で堆積していた。

【カマド】検出しなかった。

【出土遺物】土坑2基のうち、SK1は炭化物が底部から堆積土上層にかけて検出されるもので、堆積土上層の炭化物は第24号竪穴遺構を広く覆うように観察された。SK2は炭化物や鉄滓を多く出土し、土師器壺1点を図示した。全体から、多くの鉄関連遺物(羽口、炉壁・流動滓・炉内滓・再結合滓・鉄塊系遺物・含鉄遺物・銹化遺物)が出土した。また図示していないが、土玉1点も出土した。

【小結】明確な壁を有する竪穴は確認できなかったが、焼土を混入する硬化部を一部で確認し、わずかな落ち込みが認められることから、工房跡と考えられる。SK1は炭化物の残存状況と壁の被熱状況から、炭窯と考えられ、炭材はエノキ属、アサダ、カツラ、シオジ節が確認された。青森県では平安時代の燃料材に多様な広葉樹を利用する傾向があり(第4章第5節)、本竪穴遺構は、炭窯跡を利用した鉄製鋳造構とみられ、その年代は平安時代10世紀の構築・廃絶の可能性が考えられる。(工藤)

#### 第25号竪穴建物跡 (S125) (図33、写真30)

【位置・確認】VJ・K157グリッドに位置する。斜面下位の東側壁が未検出である。第IV層上面で検出した。

【重複】斜面上位に第15号溝が隣接する。

【平面形・規模】東西・南北軸2.0mを測り、方形を呈する。検出面からの最深部は30cmを測る。

【堆積土】暗褐色土を主体とし、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からやや垂直に立ち上がる。

【柱穴・施設】柱穴は検出されず、床面中央北寄りに長軸70cmの住居内坑内を有する。斜面上位の西壁にも長楕円の掘り込みがある。

【カマド】検出されなかった。

【出土遺物】炉内滓が出土した。

【小結】周辺の遺構同様に、平安時代の遺構と考えられる。(永嶋)

#### 第26号竪穴建物跡 (S126)

発掘調査時は第26号竪穴住居跡として精査したが、精査の結果、第62A号竪穴住居跡の一部と判断したため、欠番とした。

#### 第27号竪穴建物跡 (S127) (図34・35・129・161・162、写真31・32・107・118)

【位置・確認】VR・VQ・VP146・147グリッドに位置する。第1層上面で検出した。

【重複】第28号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。

【平面形・規模】長軸が約6.3m、短軸が約5.2mの方形を呈する。検出面からの深さは39cmである。

【堆積土】にぶい黄褐色土や褐色土を主体とする。人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がる。床は第1層を掘り込み構築されている。壁溝を四方に巡らすが、カマドの位置は構築していない。このうち南壁には二本検出され、第28号竪穴住居跡の存在と合わせて複数回の拡張がみられた。

【柱穴・施設】柱穴は床面に2基、周溝に7基検出した。中央部付近に1基土坑が検出された。

【カマド】東壁北寄りと南寄りに2基検出した。2基とも削平により破壊されるが火床面が残存している。南部の1号カマドは煙道部や体部が一部残存している。このうち北部の2号カマドは、被熱箇所から1m西方に灰の集積を検出し、上位に貼床の施工を確認したことから、2号カマドが古く、1号カマドが新しいと判断した。

【出土遺物】土師器坏、甕、須恵器甕、手鎌、釘、紡錘車、鉄鍬、鉄関連遺物(炉壁・炉内滓)が出土した。うち土師器坏、甕、須恵器甕、手鎌、紡錘車、釘を図示した。

【小結】本遺構は、第28号竪穴住居跡を拡張して構築されたと考えられる。平安時代の構築・廃絶と考えられる。(工藤)

#### 第28号竪穴建物跡 (S128) (図34・129、写真32・107)

【位置・確認】VP145・146・147グリッドに位置する。第1層上面で検出した。

【重複】第27号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

【平面形・規模】短軸(1.1m)、長軸が4.7mの隅丸方形を呈する。南壁のみの検出である。他はすべて第27号竪穴住居跡に破壊される。

【堆積土】にぶい黄褐色土を主体にする人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がる。

【柱穴・施設】南部に2条の壁溝があり、層位から同時に存在した可能性がある。出入り口の痕跡の可能性もある。

【カマド】検出できなかった。第27号竪穴住居跡の第2号カマドが本遺構に伴う可能性がある。

【出土遺物】土師器甕2点を図示した。他に鉄関連遺物(炉壁)や釘が出土した。

【小結】重複遺構や出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。 (工藤)

#### 第29号竪穴建物跡 (SI29) (図27・129)

【位置・確認】VK・VL151・152グリッドに位置する。第I層上面で検出した。

【重複】第20号竪穴住居跡より古い。

【平面形・規模】短軸が(2.0m)、長軸が3.5mの方形を呈する。

【堆積土】にぶい黄褐色土を主体にし、自然堆積とみられる。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がる。I層を掘り込み床としている。床は北方に傾斜する。

【柱穴・施設】南東隅に柱穴1基と壁際に小Pit4基を検出した。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器甕、須恵器甕を図示した。鉄関連遺物(流動滓)が出土した。

【小結】出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。 (工藤)

#### 第30号竪穴建物跡 (SI30) (図36・129、写真33・107)

【位置・確認】VP・VQ147・148グリッドに位置する。第I層上面で検出した。

【重複】第61号竪穴住居跡より古い。

【平面形・規模】長軸が2.5m、短軸が(1.5m)の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは12cmである。

【堆積土】暗褐色土を主体にする土で人為堆積とみられる。

【壁・床面】削平により壁はほぼ残存しない。

【柱穴・施設】柱穴は2基検出した。直径は約10cmである。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器杯を4点図示した。

【小結】平安時代の構築・廃絶と考えられる。 (工藤)

#### 第31号竪穴建物跡 (SI31)

発掘調査時は第31号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、第9号竪穴建物跡(SI09)の一部と判明したため、欠番とした。

#### 第32号竪穴建物跡 (SI32) (図15~22・130・161・162・163・170・174、写真10~17・107・118・120・121)

【位置・確認】VP・VQ144・145グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】第9・34号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】7.1m×6.4mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは66cmである。

【堆積土】33層に分層した。褐色土を主体とする。27層は貼床である。貼床上部の層は全体的にロームブロック、焼土ブロック、炭化物が混入し、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。北壁の一部に壁溝が巡る。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴が51基、土坑が7基検出された。主柱穴は確認できなかった。壁沿いに壁柱穴が巡る。本遺構では、南西側で鍛冶炉が1基検出された。火床面の北側に掘り込みがあり、南側には補石と思われる一对の川原石が配置されていた。これらの礫は土を盛った上に設置されていた。

【カマド】東側に3基確認された。カマド①は中央北よりに構築されており、火床面は確認できなかった。カマド②はカマド①の南西側で確認された。石囲状で、西側が開口している。礫は土を盛ったところに設置されていた。石囲範囲の内、火床面は開口部側に寄っていた。カマド③は南側で検出された。火床面は確認できなかった。カマド3基は重複がなく、新旧は不明である。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、土師器把手付土器、土師器ミニチュア土器、須恵器甕、須恵器鉢、鋤鋸先、釘、刀子、紡錘車、織、炉壁、流動滓、炉内滓、含鉄遺物、銹化遺物、敲石、樹皮巻きが堆積土から出土した。うち、土師器甕2点、土師器坏8点、土師器把手付土器1点、土師器ミニチュア土器1点、須恵器甕1点、須恵器鉢1点、鋤鋸先1点、織1点、炉壁1点、炉内滓1点、流動滓1点、椀形滓1点、含鉄遺物1点、敲石1点、樹皮巻き1点を図示した。130-14は土師器坏で、内面黒色処理が施されている。130-02は把手付土器の把手で、中空である。161-1は鋤鋸先で、刃部が幅広である。風呂部はいずれも先端が欠損する。162-11は織である。台状間で、頸部間から先は平たくなっているが、欠損しているため形状は不明である。163-19は椀形滓で、2個の椀形滓が上下に叠着し、1つの滓となっている。断面にギラギラとした光沢がみられる。174-7は樹皮巻きで、第4章第3節の分析により、カバノキ属との結果が得られた。

【小結】出土遺物から、平安時代11世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

### 第33号竪穴建物跡(SI33)

発掘調査時は第33号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、第32号竪穴建物跡(SI32)の一部と判明したため、欠番とした。

### 第34号竪穴建物跡(SI34) (図15~22・131・161・162、写真10~17・108・118)

【位置・確認】VQ143・144、VR143グリッドに位置する。VI層で検出した。精査中に焼土と炭化物が多量に確認されたため、焼失住居と認定した。

【重複】第32・35号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が第32号竪穴建物跡より古く、第35号竪穴建物跡より新しい。

【平面形・規模】6.1×4.9mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは30cmである。本遺構の北側は、後世の耕作により削平されている。

【堆積土】11層に分層した。褐色土を主体とする。全体的に焼土ブロックや炭化物が確認されている。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。床面直上で炭化材が多数出土した。遺存状況はあまり良くないが、やや残りの良い南側で、炭化物の本目が建物の中心に向かってある程度縦に揃っているように思われた。

【柱穴・施設】柱穴は検出できなかった。土坑は2基検出された。西側全てと南北側3分の2、東側の一部の壁沿いに壁柱穴が巡る。東側の壁溝は第32号竪穴建物跡の貼床下から検出された。



【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、須恵器壺、釘、鐸、棒状鉄製品、炉壁が堆積土から出土した。うち、土師器甕2点、土師器坏1点、須恵器壺1点、釘1点、鐸1点を図示した。131-03は土師器坏で、内面黒色処理が施されている。底面には糸切痕が残る。161-6は釘で、頭部が方形に整えられている。162-14は鐸である。鐸は錫杖状鉄製品の一部で、薄い板材を筒状に丸めている。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

#### 第35号竪穴建物跡(S135) (図15~22・131、写真10~17・108)

【位置・確認】VQ142・143グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】第34号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。

【平面形・規模】5.5×4.6mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは18cmである。本遺構の北側は、後世の耕作により削平されている。

【堆積土】13層に分層した。暗褐色土を主体とする。いずれの層でもロームブロックが混入し、全体的に焼土ブロックや炭化物などが混入することから人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からやや緩やかに立ち上がる。残存する南壁と東西壁の一部には壁溝が巡る。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。床面西半では竪穴建物を構築する際に掘削した工具痕が検出された。

【柱穴・施設】柱穴が4基、土坑が1基検出された。Pit3・4は建物の角に配置されている。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器甕、鏝、炉壁が堆積土から出土した。うち、土師器甕1点を図示した。131-05は外面体部のほぼ全面にケズリが入る。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

#### 第36号竪穴建物跡(S136) (図37~40・131・132、写真34~38・108)

【位置・確認】VI164グリッドに位置する。VI層で検出した。精査中に焼土と炭化物が多量に確認されたため、焼失住居と認定した。

【重複】第37・38・39・77号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】東西・南北軸5.2mを測ると考えられ、方形を呈する。検出面からの深さは42cmである。本遺構の南側は、調査区外に位置する。

【堆積土】9層に分層した。暗褐色土を主体とする。5層で炭化物が多量に混入する。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。北側の一部の壁沿いに壁溝が巡る。壁溝が第39号竪穴建物跡のものから連続して構築されているようにみえることから、本遺構は第39号竪穴建物跡を拡張したものである可能性がある。床面直上で炭化材が多量出土した。遺存状況は比較的良好で、建物の東西に偏って出土した。西側で一部長軸が東西方向と南北方向の炭化材が重なって出土したことから、桁や垂木であった可能性がある。炭化物の一部で樹種同定を行い、クリとブナという結果が得られた。

【柱穴・施設】柱穴が4基、土坑が1基検出された。Pit1は壁柱穴の可能性がある。

【カマド】東側に1基確認された。火床面の両脇とその東側に扁平で方形の凝灰岩の袖石が倒れた状態で出土した。竈の上面が被熱していたことから、立っていた状態から外側に倒れたと考えられる。

【出土遺物】土師器甕、須恵器甕、須恵器壺、炉壁、炉内滓、流動滓、含鉄遺物、羽口が堆積土から出土した。うち、土師器甕6点、須恵器甕2点、須恵器壺1点を図示した。131-06・07・09～11、132-02はカマド上面からの出土で、焼土より下からの出土であることから、堅穴建物廃絶時に廃棄されたものと考えられる。131-10・11は土師器甕で、比較的残りが良い。いずれも小型で、底面に131-10には木葉痕、131-11には簾状圧痕が残る。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

### 第37号堅穴建物跡(S137) (図37～40-132、写真34～38-108)

【位置・確認】V1163グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】第36・39・77号堅穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。

【平面形・規模】残存部で1.8m×1.6mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは48cmである。

【堆積土】3層に分層した。黒褐色土と暗褐色土を主体とする。2・3層では粘土ブロックが混入する。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。北壁には壁溝がみられる。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は2基検出された。主柱穴は確認できなかった。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器甕、須恵器甕、流動滓、炉内滓が堆積土から出土した。うち、土師器甕1点、須恵器甕1点を図示した。132-04は土師器甕で、内面胴部にナデがみられる。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

### 第38号堅穴建物跡(S138) (図37～40-132-170、写真34～38-108-120)

【位置・確認】V1164・165グリッドに位置する。VI層で検出した。精査中に焼土と炭化物が多量に確認されたため、焼失住居と認定した。

【重複】第36号堅穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。

【平面形・規模】東西・南北軸2.9mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは42cmである。本遺構の南側は、調査区外に位置する。

【堆積土】11層に分層した。黒褐色土を主体とする。8層では焼土ブロックが多量に混入し、11層は粉状の炭化物層であった。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。東壁の一部を除いて壁溝が巡る。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴が1基、土坑が2基検出された。主柱穴は確認できなかった。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、須恵器壺、釘、石匙が堆積土から出土した。うち、土師器甕1

点、土師器坏1点、須恵器壺1点、石匙1点を図示した。132-07は小型の須恵器壺である。頸部が比較的短い。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

#### 第39号竪穴建物跡(SI39) (図37~40・132、写真34~38・108)

【位置・確認】VI163・164グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】第36・37・77号竪穴建物跡と重複しており、本遺構は第36号竪穴建物跡より古く、第37・77号竪穴建物跡より新しい。

【平面形・規模】東西・南北軸4mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは18cmである。本遺構の南側は、調査区外に位置する。

【堆積土】4層に分層した。暗褐色土を主体とする。一括性が高いことから人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。北西側と東側の一部の壁沿いに壁溝が巡る。床面直上で炭化物集中範囲を確認した。遺存状況は悪く、粉状であった。

【柱穴・施設】柱穴が19基、土坑が7基検出された。北西壁沿いに壁柱穴が巡る。

【カマド】東側に1基確認された。火床面のみを検出で、配置から、SK1は灰の掻き出しなどに使用されていた可能性がある。

【出土遺物】土師器甕、須恵器甕、刀子、炉壁、炉内滓、流動滓、含鉄遺物が堆積土から出土した。うち、土師器甕4点、須恵器甕1点を図示した。132-11は土師器甕で、内外面上半に炭化物が付着する。132-12も土師器甕で、残りが良く、外面にケズリが口縁部に及ぶ。底面には木炭痕が残る。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

#### 第40号竪穴建物跡(SI40) (図41・133、写真39・109)

【位置・確認】VK162グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】第1号掘立柱建物跡、第19号溝跡と重複しており、本遺構は第19号溝跡より古く、第1号掘立柱建物跡より新しい。

【平面形・規模】3.7×2.8mを測り、長方形を呈する。検出面からの深さは21cmである。

【堆積土】7層に分層した。黒褐色土を主体とする。全体的にロームブロックや炭化物などの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。壁際には壁溝が巡る。東側のみ二重で、外側の溝の北寄りが一部開口している。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴が6基、土坑が3基検出された。Pit1・2・5・6は建物の四隅に配置されている。Pit1・6が壁溝を掘り込み、その間に南北方向の溝がみられ、その溝の間にカマド構築されていることから、本遺構は建て替えにより縮小された可能性がある。

【カマド】東壁の南寄りに位置する。浅い掘り込みの内部に火床面を検出した。掘り込みの西側は開口している。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏が堆積土から出土した。うち、土師器甕4点、土師器坏2点を図示

した。133-04は土師器甕で、底面に簾状圧痕が残る。133-06は土師器坏で、内外面に炭化物が付着する。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

#### 第41号竪穴建物跡 (SI41) (図42~46・133・134・161、写真40・41・109・118)

【位置・確認】VK・L158・159グリッドに位置する。第VI層上面で検出した。炭化物を多く含む焼失建物である。

【重複】第42・43A・43B・46・117号竪穴住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。

【平面形・規模】主軸4.4m、横軸4.8mのやや横長の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは66cmを測る。

【堆積土】黒褐色土を主体にする。ロームブロックや粘土の混入が目立ち、人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。V層を掘り込み床としている。床はほぼ平坦である。

【柱穴・施設】壁柱穴を含む多くの小Pitを検出した。主柱相当のものは確認出来なかった。南壁寄りに長軸84cmの住居内土坑(SI41Pit26)が見られた。また北壁沿いにも長軸1.0mほどの土坑(SI41SK3)を検出した。

【カマド】当建物跡に伴う可能性のあるカマド3基(A~C)を検出した。うちカマドAとCは確実に当建物跡に伴い、カマドBはあるいはSI42に伴う炉の可能性もある。カマドAには袖芯材の凝灰岩の残存も確認された。煙道部は削平により未確認である。

【出土遺物】土師器甕4点・坏5点と鉄製品1点と支脚2点を図示した。図示した鉄製品は釘1点であるが、他に刀子片1点も出土した。支脚は石製のもので、断面六角形に削り出されており、被熱痕が著しい。また、図示はしていないが、炉壁、炉内滓、流動滓、含鉄遺物、錆化遺物といった製鉄関連遺物が出土した。

【小結】重複する第42号竪穴建物跡や出土遺物から、平安時代10世紀後半以降の構築・廃絶と考えられる。(永嶋)

#### 第42号竪穴建物跡 (SI42) (図42~46・134~135・161、写真41・109・118)

【位置・確認】VK~M158・159グリッドに位置する。第VI層上面で検出した。炭化物を多く含む焼失建物である。

【重複】第41・43B・117号竪穴住居跡と重複し、第41号竪穴建物に次いで新しい。

【平面形・規模】主軸4.6m、横軸5.6mの横長の長方形を呈する。検出面からの深さは24cmを測る。

【堆積土】褐色土を主体にする。ロームブロックの混入が目立ち、人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。V層を掘り込み床としている。床はほぼ平坦である。

【柱穴・施設】床面中央付近で数基の小Pitを検出した。主柱相当のものは確認出来なかった。幅10~20cmの壁周溝がほぼ全周巡る。第41号建物跡カマドBは当建物跡に伴う炉の可能性はある。建物跡外の東側に小Pitが並ぶように検出され、当建物跡に伴う付属建物の可能性がある。

【カマド】東壁やや北寄りに火床面とカマド右袖芯材を検出した。煙道部は削平により未確認である。

【出土遺物】注目される遺物に炭化材下より出土した平織りの布製品がある。分析の結果、アサ製であることが判明した（第4章第3節）。その他、土師器甕6点、鍋1点、把手付土器2点、須恵器甕の破片3点を図示した。鉄製品は刀子2点、鑿1点、鎌1点、釘3点、不明鉄製品1点が出土し、うち、良好に残存していた鑿1点を図示した。この鑿は袋状の着柄部の中に木質部が残存していた。炉内滓、流動滓、銹化遺物も出土している。

【小結】重複する第41・43号竪穴建物跡や出土遺物から、平安時代10世紀以降の廃絶と考えられる。

（永嶋）

#### 第43A号竪穴建物跡（S143）（図42・45、写真42）

【位置・確認】V L・M158グリッドに位置する。

【重複】第41・43B号竪穴住居跡と重複し、本遺構が最も古い。

【平面形・規模】現存東西軸1.1m・現存南北軸1.7mを測る。北西隅部分と西壁上端のみ残存していた。南壁はS141構築により破壊されているが、確認したコーナー部から本来の南北軸は6.2m前後と考えられる。検出面からの深さは66cmである。

【堆積土】記録なし。

【壁・床面】残存した北西隅付近では、壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はV層を掘り込み構築されていて平坦である。

【柱穴・施設】小Pitが2基検出された。幅10cm前後の周溝が見られる。

【カマド】残存しない。

【出土遺物】当遺構に伴うと考えられる遺物は出土しなかった。

【小結】重複関係や堆積土、出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に廃絶したと考えられる。

（永嶋）

#### 第43B号竪穴建物跡（S143）（図42・45）

【位置・確認】V L・M158グリッドに位置する。

【重複】第41・42・43B号竪穴住居跡と重複する。第42A号竪穴建物より新しく、第41・42号竪穴建物跡より古い。

【平面形・規模】現存東西軸1.0m・現存南北軸1.3mを測る。北西隅部分が残存していた。第42号竪穴建物跡床面内側から検出した周溝は当建物跡に伴う可能性がある。検出面からの深さは24cmである。

【堆積土】記録なし。

【壁・床面】残存した北西隅付近では、壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はV層を掘り込み構築されていて平坦である。

【柱穴・施設】長軸1.1mの建物内土坑を検出した。幅10cm前後の周溝が見られる。

【カマド】残存しない。

【出土遺物】当遺構に伴うと考えられる遺物は出土しなかった。

【小結】重複関係や堆積土、出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられ

る。

(永嶋)

**第44号(新)竪穴建物跡(SI44)(図47・48・136、写真42)**

【位置・確認】VP・Q156・157グリッドに位置する。第VI層上面で検出した。

【重複】第45号A竪穴住居跡と第19号溝跡と重複し、本遺構が最も古い。

【平面形・規模】現存主軸3.2m・現存横軸4.0~4.5mを測る。検出面からの深さは24cmである。

【堆積土】暗褐色土を主体とする。VI・VII層由来のロームブロックを多く含む人為堆積である。

【壁・床面】南西壁と南東壁は緩やかに立ち上がる。

【柱穴・施設】小Pitを2基検出した

【カマド】確認されなかった。

【出土遺物】土師器等の出土はあったが、小片のため図示していない。炉内滓と椀形滓が出土している。

【結】重複する第45号竪穴建物跡より、平安時代10世紀以降の廃絶と考えられる。

(永嶋)

**第45A竪穴建物跡(SI45A)(図47・48・136・161、写真42・110・118)**

【位置・確認】VP・Q157~159グリッドに位置する。第VI層上面で検出した。

【重複】第44号・45B・45C・4D・48竪穴住居跡と第19号溝跡と重複し、第44号・45C・48号竪穴建物跡より新しく、第45B・45D号竪穴建物跡と第19号溝跡より古い。

【平面形・規模】主軸5.3m・確認横軸3.4mを測る。検出面からの深さは70cmである。

【堆積土】暗褐色土を主体とする。人為堆積である。

【壁・床面】南壁の残存が比較的良好である。北部は削平により破壊されている。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。貼床なし。

【柱穴・施設】壁際および隅部に小Pit3基を検出した。南壁と東壁際に周溝を確認した。うち南壁際のは壁から約0.5m離れたものであり、建物跡拡張前のものかもしれない。

【カマド】天井部が崩落した状態で検出した。右袖粘土は良好に残存していたが、左袖は調査区外である。煙道と火床面の一部は第45D号竪穴建物跡により破壊されていた。

【出土遺物】土師器甕2点・内黒の坏1点・ミニチュア土器1点、須恵器壺1点・甕1点を図示した。また鉄釘1点も図示した。炉内滓、流動滓、含鉄遺物も出土した。

【結】出土遺物から平安時代10世紀以降の構築・廃絶と考えられる。

(永嶋)

**第45B竪穴建物跡(SI45B)(図47・48、写真42)**

【位置・確認】VP158・159グリッドに位置する。第45A号竪穴建物跡の南東隅調査中に、5~10cmの床面の高まりを確認した。第45A竪穴建物跡に伴う施設もしくは先行する竪穴建物跡の床面の可能性がある。

【重複】第45A竪穴住居跡の中におさまる。

【平面形・規模】現存部は0.8×1.1mを測る。

【堆積土】記録なし。

【壁・床面】貼床なし。

【柱穴・施設】未検出。

【カマド】未検出。

【出土遺物】遺物出土なし。

【小結】第45A号竪穴建物跡と同時期あるいはやや先行する、平安時代10世紀以降の廃絶と考えられる。  
(永嶋)

#### 第45C竪穴建物跡 (S145C) (図47・48・136、写真42・110)

【位置・確認】VP158・159グリッドに位置する。第VI層上面で検出した。

【重複】第45A・48竪穴住居跡と重複し、最も古い。

【平面形・規模】現存部0.8m×1.6mを測る。

【堆積土】記録なし。

【壁・床面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。貼床なし。

【柱穴・施設】未検出。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器小型鉢1点を図示した。

【小結】重複する第45A竪穴建物跡や出土遺物から平安時代10世紀後半以降の廃絶と考えられる。(永嶋)

#### 第45D竪穴建物跡 (S145D) (図47・48、写真42)

【位置・確認】VP158・159グリッドに位置する。第VI層上面で検出した。

【重複】第45A・48竪穴住居跡と重複し、最も新しい。

【平面形・規模】東西軸3.4m・確認南北軸0.3mを測る。検出面からの深さは48cmである。

【堆積土】暗褐色土と主体とし、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。貼床なし。

【柱穴・施設】南壁際一部に幅20cm弱の周溝と小Pit 3基を確認した。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器等が出土したが、小片のため図示していない。

【小結】重複する第45竪穴建物跡や出土遺物から平安時代10世紀後半以降の構築・廃絶と考えられる。  
(永嶋)

#### 第46竪穴住居跡 (S146) (図42・45・46・136)

【位置・確認】VK158～160グリッドに位置する。

【重複】第41・117号竪穴住居跡と重複する。第41号竪穴建物跡より古く、第117号竪穴建物跡との前後関係は不明である。

【平面形・規模】現存東西軸1.6m・南北軸6.8mを測る。検出面からの深さは24cmである。

【堆積土】暗褐色土と主体とし、ロームブロックを多く混入することから人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はV層を掘り込み構築されていて平坦であ

る。

【柱穴・施設】長軸1.2mの建物内土坑を検出した。建物外東側に小Pit列が検出されており、当建物跡に伴う付属建物が存在した可能性がある。

【カマド】残存しない。

【出土遺物】土師器甕2点・坏2点・内黒の坏1点・須恵器壺1点を図示した。また流動滓も出土した。

【小結】重複関係や堆積土、出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に廃絶したと考えられる。

(永嶋)

#### 第48号竪穴建物跡 (S148) (図47・48・136、写真42)

【位置・確認】VP159グリッドに位置する。第VI層上面で検出した。

【重複】第45A・45C・45D竪穴住居跡と重複し、第45C竪穴建物跡より新しく、第45A・45D竪穴建物跡より古い。

【平面形・規模】現存東西軸1.8m・現存南北軸2.0mを測る。

【堆積土】記録なし。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。貼床なし。

【柱穴・施設】南壁際一部に幅20cm弱の周溝を検出した。小Pit3基も検出した。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器甕3点を図示した。炉壁・流動滓も出土している。

【小結】重複する第45号竪穴建物跡や出土遺物から平安時代10世紀後半以降の構築・廃絶と考えられる。

(永嶋)

#### 第50号竪穴建物跡 (S150) (図49・136、写真43)

【位置・確認】VQ155・156グリッドに位置する。第VI層上面で検出した。

【重複】第51号A竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

【平面形・規模】現存部0.7m×1.1mを測る。検出面からの深さは42cmである。

【堆積土】暗褐色土を主体とする。V・VII層由来のロームブロックを含む人為堆積である。

【壁・床面】壁は緩やかに立ち上がる。

【柱穴・施設】未検出。

【カマド】未検出。

【出土遺物】当遺構に伴う遺物は出土していない。

【小結】重複する第51号竪穴建物跡や堆積土から平安時代10世紀後半以降の廃絶と考えられる。検出時には竪穴建物跡と考えたが、完掘時の形状から土坑である可能性がある。

(永嶋)

#### 第51A号竪穴建物跡 (S151A) (図49・136、写真43・110)

【位置・確認】VQ・R155・156グリッドに位置する。第VI層上面で検出した。

【重複】第50・51号B竪穴住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。



【平面形・規模】東西軸6.6m・現存南北軸0.6mを測る。検出面からの深さは66cmである。

【堆積土】褐色と暗褐色土を主体とする。Ⅶ層由来のロームブロックを多く含む人為堆積である。

【壁・床面】壁は垂直に立ち上がる。

【柱穴・施設】南壁と西壁際に幅20～25cmの壁溝と小Pit数基を検出した。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器甕2点と須恵器鉢1点を図示した。

【小結】出土遺物から平安時代10世紀以降の廃絶と考えられる。 (永嶋)

#### 第51B号竪穴建物跡 (SI51B) (図49、写真43)

【位置・確認】V R 154・155グリッドに位置する。第Ⅶ層上面で検出した。

【重複】第51号A竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

【平面形・規模】現存東西軸3.7m・現存南北軸0.4mを測る。検出面からの深さは54cmである。

【堆積土】暗褐色土を主体とする。Ⅶ層由来のロームブロックを含む人為堆積である。

【壁・床面】壁は垂直に立ち上がる。床面は東側がやや下がる。貼床なし。

【柱穴・施設】南壁と西壁際に幅10～20 cmの壁溝を検出した。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器片等が出土したが、小片のため図示しなかった。

【小結】重複する第51号A竪穴建物跡から平安時代10世紀後半以降の構築・廃絶と考えられる。

(永嶋)

#### 第53号竪穴建物跡 (SI53) (図50・137、写真43)

【位置・確認】V G～1160～162グリッドに位置するが、南西部は調査区外へ続く。第Ⅶ層上面で検出した。

【重複】南側に当竪穴建物跡構築に先行する竪穴建物跡の壁を検出した。

【平面形・規模】主軸5.3m、横軸6.8mの横長の長方形を呈する。検出面からの深さは30cmを測る。

【堆積土】暗褐色土を主体とする。V～Ⅶ層由来のロームブロックの混入が目立ち、人為堆積である。

【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。V層を掘り込み床とし、平坦である。

【柱穴・施設】全壁面に幅10～20cmの壁溝を検出したが、一部で途切れる部分もある。小Pit 2基と長軸1.2～1.3mほどの土坑 (SI53SK1・2) を検出した。

【カマド】カマド2基 (A～B) を検出した。共に良く被熱した火床面が残存しており、カマドAは両袖の粘土の残存も良好であり、芯材は見られない。

【出土遺物】土師器甕3点と坏1点と須恵器甕2点を図示した。また炉内滓と流動滓も出土した。

【小結】堆積土や出土遺物から、平安時代10世紀以降の廃絶と考えられる。 (永嶋)

#### 第55号竪穴建物跡 (SI55) (図51・137・138・162・163・164・167、写真44・110・118・119)

【位置・確認】VI・VII162グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】第56・77号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】東西・南北軸5.2mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは66cmである。本遺構の東側は、調査区外に位置する。

【堆積土】11層に分層した。暗褐色土を主体とする。1層は鉄滓出土範囲①にあたり、鉄滓が多量に出土する。7層は後世の耕作土で、11層は貼床である。全体的にロームブロックや炭化物などの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】南北壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、西壁はやや緩やかに立ち上がる。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は検出できなかった。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、土師器ミニチュア土器、須恵器甕、須恵器壺、刀子、織、炉壁、炉内滓、流動滓、椀形滓、再結合滓、鉄塊系遺物、含鉄遺物、錆化遺物、羽口が堆積土から出土した。うち、土師器甕5点、土師器坏2点、土師器ミニチュア土器1点、須恵器甕1点、須恵器壺2点、刀子1点、炉壁2点、炉内滓5点、流動滓2点、椀形滓4点、鉄塊系遺物3点、含鉄遺物1点、羽口4点を図示した。137-12・13は土師器坏で、いずれも内面黒色処理が施されている。138-02は土師器のミニチュア土器で、器体の大きさの割に比較的厚手である。手づくねにより成形されている。137-14は須恵器長頸壺で、肩部に刻書がみられる。鉄関連遺物については、調査時に鉄滓出土範囲①・②及びSI155覆土として分けたが、設楽政健氏の鑑定によりいずれも製鉄滓に分類されているため、同時期に廃棄された可能性がある。162-3は刀子の刃部で、若干反るように湾曲している。先端と茎部が欠損する。図163-21・22は炉壁で、22は溶着滓が表面のほぼ全面に付着し、比較的ガス質である。163-23～27は炉内滓で、25の裏面には砂粒が多量付着する。163-30・31、164-1・2は椀形滓で、30は第4章第7節の分析で、製鉄滓との結果が得られた。1は3個、2は2個の小型の椀形滓が上下に癒着し、1つの滓となっている。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。また、鉄関連遺物が多量に出土していることから、廃滓場として利用されていた可能性がある。(久保)

#### 第56号竪穴建物跡(SI56) (図51・138、写真44)

【位置・確認】VI・VII162グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】第55・77号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。

【平面形・規模】残存部で東西・南北軸2.1mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは36cmである。本遺構の東側は、調査区外に位置する。

【堆積土】大部分が第55・77号竪穴建物跡に壊され、確認できなかった。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は検出できず、土坑が1基確認された。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、炉壁が堆積土から出土した。うち、土師器甕1点、土師器坏1点

を図示した。138-05は土師器甕で、外面体部にはケズリが施される。

【**小結**】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

#### 第57号竪穴住居跡 (S157) (図52～54・138～139・164、写真45・110)

【**位置・確認**】VM～O157・159グリッドに位置する。第IV層上面で検出した。炭化物を多く含む焼失建物である。東側にPit群が検出されており、当竪穴建物跡に付属する建物跡を構成する可能性がある。

【**重複**】第58号竪穴住居跡と重複し、当竪穴建物跡が新しい。

【**平面形・規模**】S158BPit1・5・6を結んだラインを北壁、S157Pit17とS157SN2を結んだラインを東壁とする拡張前は想定主軸5.4m・想定横軸7.2mの極端な横長の長方形を呈する。S158APit3・4・7ラインを北壁S142Pit8からSX07東側へと続く小Pit列を東壁とする拡張後は想定主軸8.5m・想定横軸8.6mの正方形を呈する。付属建物は想定東西軸7.6m・想定南北軸7.8mである。竪穴建物跡と付属建物を合わせると実に主軸方向約16mにおよぶ大型の建物であった可能性がある。竪穴建物跡は検出面からの深さは40cmを測る。

【**堆積土**】暗褐色土を主体にする。ロームブロックの混入が目立ち、人為堆積とみられる。

【**壁・床面**】壁は底面から垂直に立ち上がる。V層を掘り込み床としている。床は平坦である。

【**柱穴・施設**】S157Pit3とS158Pit4は主柱穴とも考えられるが、小規模で浅い。西壁・南壁際に幅15～25cmの壁溝を検出した。また全周に壁柱穴が巡っており、建物外の東側で検出された小Pitは付属建物を形成していた可能性がある。一部において貼床が見られ、床面中央や南西寄りの床下で、還元面を有する焼け面が見られ、屋内鍛冶炉と判断した。またカマド袖状の粘土が両サイドに付設されたS157SN3は壁から極端に離れており、還元面を欠くものの鍛冶炉であった可能性もある。

【**カマド**】S157SN1・2は拡張前のカマド火床面の可能性があるが、袖部や煙道は除去されていた。

【**出土遺物**】土師器甕3点・坏2点・壺1点・蓋1点、須恵器甕1点・壺2点、炉内滓2点と流動滓1点を図示した。他に不明鉄製品1点や炉壁が出土している。

【**小結**】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降の構築・廃絶と考えられる。(永嶋)

#### 第58号竪穴建物跡 (S158) (図52～54・139、写真45)

【**位置・確認**】VO・P157グリッドに位置する。第VI層上面で検出した。

【**重複**】第57号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

【**平面形・規模**】現存東西軸0.8m・現存南北軸2.8mを測る。検出面からの深さは30cmである。

【**堆積土**】暗褐色土を主体とする。VII層由来のロームブロックを多く含む人為堆積である。

【**壁・床面**】壁は緩やかに立ち上がる。

【**柱穴・施設**】北壁と南壁際に幅15～25cmの壁溝の一部と思われる凹みを確認した。

【**カマド**】未検出。

【**出土遺物**】土師器甕1点、須恵器壺1点を図示した。

【**小結**】重複する第57号竪穴建物跡や出土遺物から平安時代10世紀後半以降の廃絶と考えられる。

(永嶋)

第59号竪穴建物跡 (S159) (図55・139、写真45)

【位置・確認】V O・P159・161グリッドに位置する。第VI層上面で検出した。

【重複】重複はないが、拡張の痕跡を確認した。

【平面形・規模】拡張前東西軸3.7m・現存南北軸3.2mを測る。拡張後東西軸4.4m・現存東西軸3.2mを測る。検出面からの深さは54cmである。

【堆積土】黒褐色土を主体とする。VI層由来のロームブロックを多く含む人為堆積である。

【壁・床面】壁は緩やかに立ち上がる。

【柱穴・施設】全面で壁柱穴と小Pitを検出した。

【カマド】未検出。【出土遺物】土師器甕1点、須恵器甕1点を図示した。

【小結】出土遺物から平安時代10世紀後半以降の廃絶と考えられる。(永嶋)

第61号竪穴建物跡 (S161) (図36・39、写真33)

【位置・確認】VQ147・148グリッドに位置する。第I層上面で検出した。

【重複】第30号竪穴住居跡より新しい。

【平面形・規模】長軸が2.8m、短軸が2.5mの隅丸方形を呈する。検出面からの深さは5cmで、北部を第11号(新)竪穴住居跡に破壊され南部のみ残存する。

【堆積土】暗褐色土を主体とする土で人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は検出できなかった。北壁際に溝を検出したが、壁溝か否かは判断できなかった。

【柱穴・施設】柱穴は5基検出した。

【カマド】煙道部と体部は検出できなかった。火焼面を検出した。

【出土遺物】土師器坏・須恵器甕を図示した。

【小結】平安時代の構築・廃絶と考えられる。(工藤)

第62A号竪穴建物跡 (S162A) (図56・57・128、写真46・107)

【位置・確認】VP・VQ151・152グリッドに位置する。第I層上面で検出した。

【重複】SI第62C号竪穴住居跡・SI第62B号竪穴住居跡・SI第67A号竪穴遺構・SI67B号竪穴遺構と重複し、第62B号・第62C号竪穴住居跡より新しく、第67A号竪穴住居跡・第67B号竪穴住居跡より古い。

【平面形・規模】長軸が4.5m、短軸が4.4mの方形を呈する。検出面からの深さは90～20cmで、北東部を第67A号竪穴遺構に破壊される。

【堆積土】褐色土を主体とする土である。床上南半部に炭化物や焼土が検出された。北半部からは検出できず、削平により破壊されたとみられる。人為堆積である。

【壁・床面】やや開きながら立ち上がる。壁溝は四方に巡る。床はやや北に傾く。床の比高差は19cmである。

【柱穴・施設】破壊を免れた3カ所の隅部に柱穴を検出した。また床面から3カ所柱穴を検出した。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】堆積土中の炭化物や焼土の上に、須恵器甕の1/2個体が破片でまとまって出土した。土

師器甕1点、須恵器甕3点壺1点を図示した。鉄関連遺物（炉壁・粘土質溶解物・流動滓）が出土した。

【小結】炭化物の出土状況や住居跡中央に残る焼土の痕跡から、焼失住居とみられる。平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

#### 第62B号竪穴建物跡（S162B）（図57、写真46）

【位置・確認】V0・VP151・152グリッドに位置する。第1層上面で検出した。

【重複】第62C号・第62号竪穴住居跡と重複し、第62C号竪穴住居跡より新しく、第62C号竪穴住居跡との新旧関係は不明である。

【平面形・規模】長軸が約3.6m、短軸が（1.2m）の隅丸方形を呈する。北部を第11号（新）竪穴住居跡に破壊され南部のみ残存する。残存部における検出面からの深さは40cmから50cmである。

【堆積土】灰黄褐色土を主体とする土で人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。南壁と東壁に壁溝を検出した。

【柱穴・施設】柱穴は壁溝端部に4基、床面に3基を検出した。

【カマド】検出しなかった。

【出土遺物】出土しなかった。

【小結】平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

#### 第62C号竪穴建物跡（S162C）（図57、写真46）

【位置・確認】V0・VP・VQ 151グリッドに位置する。第1層上面で検出した。

【重複】第62A号・第62B号竪穴住居跡と重複し、第62A号竪穴住居跡よりも古く、第62号B竪穴住居跡との新旧関係は不明である。

【平面形・規模】長軸が約5.0m、短軸が1.5mの隅丸方形を呈する。検出面からの深さは60cmで、北部を第11号（新）竪穴住居跡に破壊され南部のみ残存する。

【堆積土】暗褐色土を主体とする土で人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は検出できなかった。北壁際に溝を検出したが、壁溝かどうかは判断できなかった。

【柱穴・施設】柱穴は5基検出した。

【カマド】煙道部と体部は検出できなかった。火床面を検出した。

【出土遺物】遺物は出土しなかった。

【小結】平安時代の構築・廃絶と考えられる。（工藤）

#### 第63号竪穴建物跡（S163）（図58・139、写真47・110）

【位置・確認】VR・VS148・149グリッドに位置する。第1層上面で検出した。

【重複】第64号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

【平面形・規模】長軸が5.0m、短軸が（3m）の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは11cmである。

【堆積土】暗褐色土とにぶい黄褐色土を主体とする人為堆積層とみられる。

【壁・床面】床から開きながら立ち上がる。

【柱穴・施設】柱穴は9基検出した。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器甕2点、須恵器甕1点、壺1点を図示した。鉄関連遺物(炉壁・炉内滓・流動滓)が出土した。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀の構築・廃絶と考えられる。(工藤)

#### 第64号竪穴建物跡(S164)(図58・図140、写真47)

【位置・確認】VS・VR146・147グリッドに位置する。第I層上面で検出した。

【重複】第63号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。

【平面形・規模】長軸が約5.2m、短軸が(2.5m)の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは39cmである。

【堆積土】褐色土を主体にする土で人為堆積と思われる。

【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。壁際に柱穴が巡る。周溝は検出できなかった。

【柱穴・施設】柱穴は15基検出した。うち12基は壁柱穴であり、床からの深さはおよそ20cmから40cm内におさまる。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器坏、甕、須恵器甕を図示した。鉄関連遺物(炉壁・炉内滓・流動滓)が出土した。

【小結】出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。(工藤)

#### 第66A号竪穴建物跡(S166A)(図59・141、写真48・111)

【位置・確認】VR・VQ151・152グリッドに位置する。第I層上面で検出した。

【重複】第66号B号竪穴住居跡より新しい。

【平面形・規模】長軸が5.5m、短軸が(4.5m)の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは39cmである。

【堆積土】暗褐色土を主体にする土で人為堆積と思われる。

【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。壁際に柱穴が巡り、全周する。床はほぼ平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は10基検出のうち、張り出し部に4基壁際に検出される。このうちS166Apit4は主柱穴とみられる。深さは9から24cm程度である。張り出し部の床面は、本体部の床面より10cm程高くなっている。

【カマド】1基検出した。東壁に検出した。他に火床面を東壁際に1カ所検出した。

【出土遺物】土師器坏、甕を図示した。鉄関連遺物(炉壁)が出土した。

【小結】平安時代11世紀の構築・廃絶と考えられる。(工藤)

#### 第66号B号竪穴建物跡(S164B)(図59・141)

【位置・確認】VR・VQ151・152グリッドに位置する。第I層上面で検出した。

【重複】第66号A号竪穴住居跡より古い。

【平面形・規模】長軸が5.5m、短軸が(2.5m)の方形を呈する。

【堆積土】ほぼ全域が第66号A号竪穴住居跡により破壊され、堆積土の観察はできなかった。

【壁・床面】床はほぼ平坦である。

【柱穴・施設】柱穴の精査はできなかった。

【カマド】1基検出した。東壁に検出した。

【出土遺物】土師器坏、甕3点、須恵器2点出土した。

【小結】平安時代の構築・廃絶と考えられる。(工藤)

#### 第67A号竪穴建物跡 (S167A) (図59・142、写真49・111)

【位置・確認】VP・VQ152グリッドに位置する。第1層上面で検出した。

【重複】第66号B号竪穴住居跡より本遺構が新しい。

【平面形・規模】長軸が3m、短軸が2.5mの方形を呈する。検出面からの深さは39cmである。

【堆積土】暗褐色土を主体にする土で人為堆積と思われる。

【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。壁際に柱穴が巡り、全周する。床はほぼ平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は10基検出のうち、張り出し部に4基壁際に検出される。このうちS167Apit4は主柱穴である。深さは9から24cm程度である。張り出し部の床面は、本体部の床面より10cm程高くなっている。

【カマド】1基検出した。東壁に検出した。他に火床面を東壁際に1カ所検出した。

【出土遺物】第67号B号竪穴住居跡と共通で、土師器坏、甕、埴を図示した。

【小結】出土遺物から、平安時代の構築・廃絶と考えられる。(工藤)

#### 第67B号竪穴建物跡 (S167B) (図59、写真49)

【位置・確認】VP・VQ152・153グリッドに位置する。第1層上面で検出した。

【重複】第66号B号竪穴住居跡より本遺構が新しい。

【平面形・規模】長軸が約3.2m、短軸が2.9mの不整形方形を呈する。検出面からの深さは30cmである。

【堆積土】不明である。

【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。床はほぼ平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は10基検出のうち、張り出し部に4基壁際に検出される。このうちS166Apit4は主柱穴である。深さは9から24cm程度である。張り出し部の床面は、本体部の床面より10cm程高くなっている。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】第67号A号竪穴住居跡を参照。

【小結】平安時代の構築・廃絶と考えられる。(工藤)

#### 第68号竪穴建物跡 (S168) (図56・142、写真111)

【位置・確認】VP・VQ152・153グリッドに位置する。第1層上面で検出した。

【重複】第62A号竪穴住居跡、第67A号竪穴住居跡より本遺構が古い。

【平面形・規模】長軸が6.0m、短軸が3.1mの隅丸方形を呈する。検出面からの深さは3cmである。

【堆積土】灰黄褐色土を主体とする人為堆積層である。

【壁・床面】壁は底面から開くように立ち上がる。床面はやや凹凸があり、北に向かって傾斜する。

【柱穴・施設】本遺構に伴うとみられる柱穴は20基である。配置に規則性は見られない。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器把手付土器、甕を図示した。

【小結】平安時代11世紀の構築・廃絶と考えられる。

(工藤)

#### 第71号竪穴建物跡(S171) (図60-61・142-143、写真50-51-111)

【位置・確認】VM・VN162・163グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】第72号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。

【平面形・規模】5.2×4.7mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは54cmである。

【堆積土】10層に分層した。暗褐色土を主体とする。1層は自然堆積と考えられる。10層は粉状の炭化物が薄く堆積している。全体的にロームブロックや炭化物などの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。いずれの壁際にも壁溝が巡る。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は検出できず、土坑が7基検出された。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、須恵器壺、釘、紡錘車、炉壁、炉内滓、流動滓、椀形滓、再結合滓、鉄塊系遺物、含鉄遺物、銹化遺物が堆積土から出土した。うち、土師器甕1点、土師器坏13点、須恵器壺2点を図示した。土師器坏が多く出土しており、142-12、143-01~05には火槽がみられる。143-6・7は内面黒色処理が施されている。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。

(久保)

#### 第72号竪穴建物跡(S172) (図60-61・143-144・162-171、写真50-51-111-112-118-120)

【位置・確認】VM・VN163・164グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】第71号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】東西・南北軸4.2mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは36cmである。南壁の東側に張り出し部を持つ。

【堆積土】11層に分層した。暗褐色土を主体とする。1層は自然堆積と考えられる。10層は炭化物を多く含む。全体的にロームブロックや炭化物などの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。東壁の一部を除き、壁際には壁溝が巡る。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴が7基、土坑が5基検出された。Pit2・3・4・5は建物の角に配置されている。

【カマド】東壁の南寄りに位置する。火床面はSK5が埋没した後形成されていることから、SK5は建



物構築前から存在し、カマド構築にあたり埋められた可能性がある。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、須恵器甕、須恵器壺、手鎌、刀子、紡錘車、刀装具、棒状鉄製品、炉壁、粘土質溶解物、流動滓、含鉄遺物、銹化遺物、砥石が堆積土から出土した。うち、土師器甕4点、土師器坏4点、須恵器甕1点、須恵器壺2点、刀子1点、刀装具1点、砥石2点を図示した。144-06は須恵器短頸壺で、ロクロ成形の後、下半外面にケズリが施され、内面にナデがみられる。162-4は刀子で、茎部が欠損する。区が棟側にあり、刃部が反る。区から切先に向け刃部の幅が狭くなる。162-13は刀装具で、元は帯状の板を丸めて環状にした資金具と考えられる。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

### 第73号竪穴建物跡(S173) (図62・63・145・146、写真52・53・112・113)

【位置・確認】VL163・164グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】東西・南北軸4.7mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは42cmである。本遺構の東側は、後世の耕作により削平されている。

【堆積土】18層に分層した。暗褐色土を主体とする。1層は自然堆積と考えられる。5層はカマド②袖の粘土である。全体的にロームブロックや炭化物などの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。いずれの壁にも壁際には一部壁溝が巡る。床面はVI・VII層及び北西側は風倒木を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴が9基、土坑が1基検出された。Pit1・7・9は建物の四隅に配置されており、削平された北東角にも本来は柱穴が存在したと思われる。

【カマド】東壁の南寄りで2基検出された。カマド①は火床面が確認できなかったが、土を平にならしたところに一對の川原石が配置されていたことからカマドと判断した。中央付近に土師器の甕(145-02)が配置されており、出土時は割れていたが、支脚であった可能性がある。カマド②は袖に扁平な川原石と粘土が使用されていた。また、天井部分に利用された凝灰岩の扁平礫が割れ落ちた状態で出土している。左右袖の間では火床面が検出された。カマド①・②のいずれも地山直上ではなく、土を充填した上に構築されていた。しかし、下部には土坑などのような明確な掘り込みはなく、整地したものと考えられる。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、土師器ミニチュア土器、須恵器甕、須恵器壺、手鎌、板状鉄製品、不明鉄製品、炉壁、炉内滓、流動滓、碗形滓、含鉄遺物が堆積土から出土した。うち、土師器甕8点、土師器坏7点、土師器ミニチュア土器1点、須恵器甕3点、須恵器壺1点を図示した。土師器坏は赤みを帯びた胎土を使用しているのがみられる。また、146-03のように丸みを帯びた形状の坏もみられる。146-04・05は火罨がみられる。145-01・04・06～08はカマド②の割れ落ちた天井石上からの出土のため、カマド廃絶時に廃棄されたと考えられる。146-08は土師器のミニチュア土器で、割れ口から、底部の厚みはかなりあるものと考えられる。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

#### 第74号竪穴建物跡(S174)

発掘調査時は第74号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、第73号竪穴建物跡(S173)の一部と判明したため、欠番とした。

#### 第75号竪穴建物跡(S175) (図64-147、写真54-113)

【位置・確認】VL・VM161・162グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】3.2m×2.5mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは18cmである。

【堆積土】13層に分層した。黒褐色土を主体とする。全体的にロームブロックや粘土ブロックなどの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。南及び西壁際には一部壁溝が巡る。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴が6基検出された。Pit1・4・5・6が主柱穴と考えられる。

【カマド】西壁の北寄りに位置する。火床面を検出し、その北側で出土した扁平礫を位置関係から袖石としたが、火床面を覆う8層上面に存在することから、原位置を保っていない可能性がある。

【出土遺物】土師器甕、流動滓が堆積土から出土した。うち、土師器甕2点を図示した。147-01は土師器甕で、外面底部近くまで下方向のケズリが施されている。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

#### 第76号竪穴建物跡(S176) (図64-147、写真55)

【位置・確認】VL・VM161・162グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】東西・南北軸3.2mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは36cmである。

【堆積土】4層に分層した。黒褐色土を主体とする。4層は貼床である。全体的にロームブロックや炭化物などの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。いずれの壁際でも一部壁溝が巡る。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴が8基、土坑が1基検出された。主柱穴は確認できなかった。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器甕、土師器杯、須恵器甕、炉壁、炉内滓、流動滓、再結合滓が堆積土から出土した。うち、土師器甕1点、土師器杯1点、須恵器甕1点を図示した。147-04は土師器杯で、内面黒色処理が施されている。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

#### 第77号竪穴建物跡(S177) (図51-147、写真44-113)

【位置・確認】VJ・VK163・164グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】第37・55・56号竪穴建物跡と重複しており、本遺構は第55号竪穴建物跡より古く、第37・56

号竪穴建物跡より新しい。

【平面形・規模】東西・南北軸5.2mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは66cmである。本遺構の東側は、調査区外に位置する。

【堆積土】9層に分層した。褐色土と暗褐色土を主体とする。1層は混入物が少なく自然堆積と考えられ、2～9層はロームブロックを多量に含み、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はVI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は検出できなかった。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器坏、須恵器甕、炉壁が堆積土から出土した。うち、土師器坏1点、須恵器甕1点を図示した。147-06は土師器坏で、内面黒色処理が施されている。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。 (久保)

#### 第78号竪穴建物跡(S178)

発掘調査時は第78号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、第1号井戸跡(SE01)に振替、欠番とした。

#### 第79号竪穴建物跡(S179) (図65-66・147-162、写真56-57・113-118・120)

【位置・確認】VB・VC175・176グリッドに位置する。V・VI層で検出した。精査中に焼土と炭化物が多量に確認されたため、焼失住居と認定した。

【重複】第80号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】6.6×5.9mを測り、方形を呈する。検出面からの深さは18cmである。

【堆積土】19層に分層した。暗褐色土を主体とする。7・8・18層は貼床である。全体的に焼土ブロックと炭化物が混入する。

【壁・床面】壁は遺構上面が削平されているため、確認し難い。東側の一部を除き壁溝が巡る。溝が東側で二重、西側で三重になっていることから、2～3回の建て替えを行っていると考えられる。床面はV・VI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。北壁付近の床面に西側の開口する方形の浅い掘り込みがあり、その南側の一部に溝がみられる。火床面などが検出されていないため、カマドかは不明である。床面直上で炭化材が多数出土した。遺存状況はあまり良くない。西側の内側から2番目の壁溝まで炭化物の出土が止まることから、先に1番外側の壁溝に壁がある建物が存在し、建て替えにより東側にずらした後、廃絶したと考えられる。炭化材の一部で樹種同定を行ったところ、アスナロとクリという結果が得られた。

【柱穴・施設】柱穴が30基、土坑が1基検出された。主柱穴は確認できなかった。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、土師器ミニチュア土器、土師器埴、須恵器壺、釘、鈴、炉壁、炉内滓、流動滓、含鉄遺物、砥石が堆積土から出土した。うち、土師器甕3点、土師器坏3点、土師器埴1点、土師器ミニチュア土器1点、須恵器壺1点、鈴1点を図示した。147-10は土師器甕で、他と

比較して小型である。147-14は土師器のミニチュア土器で、欠損しているため全体形状は不明だが、内外面にナデを施している。162-15は鈴で、下半のみの出土である。薄手で、詳細は不明であるが、鏡であった可能性がある。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀前半以降に構築され廃絶した可能性がある。(久保)

#### 第80号竪穴建物跡(S180) (図65・66・148、写真56・57・114)

【位置・確認】VC175グリッドに位置する。V・VI層で検出した。

【重複】第79号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。

【平面形・規模】東西・南北軸3.9mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは12cmである。

【堆積土】3層に分層した。黒褐色土を主体とする。全体的にロームブロックや炭化物などの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は遺構上面が削平されているため、確認し難い。残存する全ての壁際に壁溝が巡る。床面はV・VI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は7基検出された。Pit1・7は建物の角に配置されている。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器坏、須恵器甕、炉内滓が堆積土から出土した。うち、須恵器1点、須恵器鉢1点を図示した。148-01は須恵器の底部である。内面に炭化物が付着している。

【小結】重複関係から、平安時代10世紀前半以前に構築され廃絶した可能性がある。(久保)

#### 第81号竪穴建物跡(S181) (図67・148・162、写真58・118)

【位置・確認】VL・N165・166グリッドに位置する。第I層上面で検出した。当初S181・82の2軒の重複と考えたが、調査進行により1軒のものだと判断した。

【重複】第32・33・91号土坑と重複し、第33・91号土坑より新しく、第32号土坑より古い。

【平面形・規模】東西軸6.3m・南北軸6.2mを測り、正方形を呈する。検出面からの深さは18cmである。

【堆積土】暗褐色土を主体とする。ロームブロックを含む人為堆積である。

【壁・床面】壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面はやや傾斜し、凹凸を有する。

【柱穴・施設】全面で小Pitを検出した。S181Pit7・8・40は主柱穴の可能性が有る。壁際に幅20～30cmの壁溝が見られる。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器甕3点・坏1点、須恵器壺2点、刀子1点を図示した。他に鉄釘1点、炉壁・炉内滓・流動滓・椀形滓・錆化遺物が出土している。

【小結】出土遺物から平安時代10世紀後半以降の構築・廃絶と考えられる。(永嶋)

#### 第83号竪穴住居跡(S183) (図68・69・148、写真58・114)

【位置・確認】VK・L166～168グリッドに位置する。第I層上面で検出した。

【重複】第85号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新しい。

【平面形・規模】主軸4.9m、横軸5.9mの横長の隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは60cmを測る。

【堆積土】黒褐色土と褐色土を主体に、ロームブロックの混入が目立ち、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は底面から垂直に立ち上がる。V層を掘り込み床としている。床はほぼ平坦である。

【柱穴・施設】小ピットを数基検出した。カマド構築部を除き、全壁際に幅20～30cmの壁溝とその中に壁柱穴が見られる。

【カマド】東壁の北寄りに半地下式のカマドを確認した。両袖共に安山岩を3～4個並べて立てて芯材とし、粘土で袖と天井部と煙道を構築していた。煙道の幅は60cm程度で、煙道から火床面の長さは1.9mほどを確認した。焚き口右袖寄りに土師器底部転用の支脚が設置されたままになっていた。

【出土遺物】土師器5点、須恵器甕2点を図示した。炉壁と炉内滓も出土した。(永嶋)

#### 第85号竪穴建物跡 (S185) (図68・70・149、写真59・114)

【位置・確認】V J・K166・167グリッドに位置する。第1層上面で検出した。

【重複】第82・86号竪穴住居跡と重複し、第82号竪穴建物に次いで新しい。

【平面形・規模】東西軸3.1m、南北軸2.8mのほぼ正方形を呈する。検出面からの深さは12cmと浅い。

【堆積土】にぶい黄褐色土を主体にする。覆土上位に第82号竪穴建物跡の貼床が形成されている。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。V層を掘り込み床としている。床はやや凹凸を有する。

【柱穴・施設】床面中央や壁際に数基の小Pitを検出した。主柱相当のものは確認出来なかった。幅10～25cmの壁溝が各壁際に見られるが、北西隅付近では確認出来なかった。床面中央付近に袖を有する火床面が検出された。

【カマド】明確に壁際に構築されたカマドは確認出来なかった。しかし前述の床面中央部の袖付の火床面が確認された。更に南西隅のS186火床面2としたものはあるいは、この竪穴建物跡に伴うカマド火床面の可能性も残る。

【出土遺物】土師器甕3点、坏3点を図示した。炉壁、炉内滓、流動滓、流出孔滓、含鉄遺物、銹化遺物が出土している。

【小結】重複する第83号竪穴建物跡や出土遺物から、平安時代10世紀後半以降の構築・廃絶と考えられる。(永嶋)

#### 第86号竪穴建物跡 (S186) (図68・71・図149、写真59・114)

【位置・確認】V J・K166・167グリッドに位置する。

【重複】第85・88号竪穴住居跡と重複し、第85号竪穴建物跡に続いて新しい。

【平面形・規模】主軸3.3m・横軸3.1mを測る。北西隅部分と西壁上端のみ残存していた。北壁は第86号竪穴建物跡に破壊されていた。検出面からの深さは36cmである。

【堆積土】記録なし。

【壁・床面】壁は底面から緩やかに立ち上がる。床面はV層を掘り込み構築され、やや凹凸を有する。

【柱穴・施設】壁柱穴が数基検出された。

【カマド】東壁北寄りに半地下式のカマドを検出した。左袖は第86号堅穴建物跡に破壊されており、火床面と右袖および煙道の一部のみ検出された。

【出土遺物】土師器甕1点を図示した。炉壁・炉内滓・流動滓・含鉄遺物も出土している。

【小結】重複関係や堆積土、出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(永嶋)

#### 第87号堅穴建物跡 (S187) (図72・149、写真59)

【位置・確認】V I・J 166・167グリッドに位置する。

【重複】重複なし。

【平面形・規模】東西軸2.4m・南北軸2.9mを測り長方形を呈する。検出面からの深さは12cmである。

【堆積土】黒褐色土を主体とする。

【壁・床面】壁は僅かな立ち上がりのみ確認した。床面はVI層を掘り込み、やや凹凸を有する。

【柱穴・施設】壁柱穴と幅10～20cmの壁溝が一部で確認された。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器甕1点、須恵器甕1点を図示した。炉壁・炉内滓・流動滓・砂鉄焼結塊・含鉄遺物・銹化遺物も出土している。

【小結】出土遺物や覆土の特徴から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。

(永嶋)

#### 第88号堅穴建物跡 (S188) (図68・71・149、写真59)

【位置・確認】V J 166・167グリッドに位置する。

【重複】第86・88号堅穴住居跡と重複し、本堅穴建物跡が古い。

【平面形・規模】第85号堅穴建物構築時にほとんど削平されており、南西側の壁溝のみが残存した状態で規模等は不明である。

【堆積土】記録なし。

【壁・床面】壁は残存せず、床面も僅かな残存であった。

【柱穴・施設】南西側に幅20cmの壁溝が確認された。壁際に縄文時代晩期の埋設土器が検出された。

【炉】未検出である。

【出土遺物】縄文時代晩期土器初頭の台付深鉢がPitより1点出土した。

【小結】出土遺物から、縄文時代晩期初頭の堅穴建物跡が僅かに残存したものと考えられる。(永嶋)

#### 第91号堅穴建物跡 (S191) (図73～75・149・164、写真60・114・119)

【位置・確認】VG～I 167～169グリッドに位置する。第VI層上面で検出した。カマドが付設された東壁外側にPit群と土坑が検出されており、当堅穴建物跡に付属する建物跡を構成していた可能性が

ある。

【重複】第94・97号竪穴住居跡と重複し、当竪穴建物跡が古い。

【平面形・規模】主軸方向は8.2mであるが、横軸方向に2回の拡張が確認され、当初S191pit16-20を結んだラインを北壁とする現存横軸8.0m、その後北側のS191pit7-14ラインへと0.9m拡張し、その後更にS191pit15-1-5を結ぶラインへと0.9m拡張されており、最終的には現存横軸9.8mの長方形の大型竪穴建物跡となる。また東壁外に分布するPit群も横軸方向の拡張痕のような分布を示している。竪穴建物跡は検出面からの深さ47cmを測る。

【堆積土】暗褐色土を主体にする。粘土の混入が目立ち、人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。V層を掘り込んだ床は平坦である。

【柱穴・施設】壁際に幅20cmの壁溝と壁柱穴を検出した。また長軸120cm・深さ60cmのSK94はこの竪穴建物跡内土坑と考えた。東外側に位置するSK98は当竪穴建物跡と軸方向を同じくすることから、付属建物内土坑の可能性が高い。

【カマド】3基の焼土面を検出し、それぞれカマド1～3としたが、袖部や煙道は見られなかった。

【出土遺物】土師器坏3点と把手付土器1点を図示した。製鉄関連遺物の出土が多く、炉壁・炉内滓・流動滓・椀形滓・流出孔滓・再結合滓・鉄塊系遺物・含鉄遺物・錆化遺物が出土しており、特徴的なものを図化した。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降の廃絶と考えられる。最低2回の拡張の跡が見られ、東側には付属建物跡が伴っていた可能性がある。(永嶋)

#### 第94号竪穴建物跡 (S194) (図76～80・150・151・161・164、写真61・114・115・118)

【位置・確認】VF～I169～171グリッドに位置する。第I～V層上面で検出した。調査当初は第94・107号の2軒の竪穴建物跡と考えていたが、最終的には大型の1軒の竪穴建物跡であることが判明した。カマドが付設された東壁外側にPitと土坑が検出されており、当竪穴建物跡に付属する建物跡を構成していた可能性がある。

【重複】第91・97号竪穴住居跡と重複し、当竪穴建物跡が新しい。

【平面形・規模】主軸9.5m・現存横軸7.2m、検出面からの深さは30cm弱である。

【堆積土】黒褐色・暗褐色・にぶい黄褐色土を主体にする。ロームブロックの混入が目立ち、人為堆積とみられる。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。V層を掘り込んだ床はやや凹凸を有する。

【柱穴・施設】壁際に幅20cmの壁溝と壁柱穴を検出した。東壁沿いの壁溝は50cmの幅広となる部分もある。また長軸160cm・深さ40cmのSK97はこの竪穴建物跡内土坑と考えた。東外側に位置するSK138は当竪穴建物跡と軸方向を同じくすることから、付属建物内土坑の可能性が高い。竪穴建物穴内に1基、付属建物内に3基の鍛冶炉を検出した(図80)。竪穴建物跡内鍛冶炉は長軸30cm弱の焼土面内に僅かな還元面が見られる。住居中央側に長軸50cmの掘り込みを伴い、一連のものと捉えた。付属建物内鍛冶炉1～3はそれぞれ、長軸20cm、12cm、30cmの焼土範囲が見られ、周縁部が赤色化し内側は黒色を帯びたものである。

【カマド】2基の焼土面を検出し、カマド1・2とした。カマド2のみ袖部が残存していた。

【出土遺物】 竪穴建物跡出土遺物では、土師器甕1点・壺1点・坏1点・皿1点を図示した。竪穴建物跡内第141号土坑出土遺物は、土師器甕2点・壺1点・坏1点、同第143号土坑出土遺物は土師器甕1点・坏1点を図示した。鉄製品は釘2点・鎌2点が出土し、それぞれ1点ずつ図示した。製鉄関連遺物は、炉壁・炉内滓・流動滓・椀形滓・銹化遺物が出土した。

【小結】 出土遺物から、平安時代10世紀後半以降の廃絶と考えられる。最低2回の拡張の跡が見られ、東側には付属建物跡が伴っていた可能性がある。(永嶋)

#### 第96号竪穴建物跡 (S196) (図81、写真62)

【位置・確認】 V K 169・170グリッドに位置する。

【重複】 西壁側に土坑様のふくらみが確認される。

【平面形・規模】 東西軸3.2m・南北軸2.6mを測る。検出面からの深さは30cmである。

【堆積土】 記録なし。

【壁・床面】 壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面はVI層を掘り込み構築され、やや凹凸を有する。西壁に重複した土坑が存在した可能性がある。

【柱穴・施設】 壁柱穴が僅かに確認された。

【カマド】 未検出。

【出土遺物】 土師器片等が出土したが、小片のため図示していない。

【小結】 堆積土の状況から平安時代に構築され廃絶したと考えられる。(永嶋)

#### 第97号竪穴建物跡 (S197) (図76～78・151)

【位置・確認】 V G・H169～171グリッドに位置する。

【重複】 第91・94号竪穴住居跡と重複し、第94号竪穴建物跡に続いて新しい。

【平面形・規模】 現存東西軸6.2m・現存南北軸1.3mを測る。北端のみ残存し、大部分を第94号竪穴建物跡に破壊されていた。検出面からの深さは20cmである。

【堆積土】 記録なし。

【壁・床面】 壁は底面から緩やかに立ち上がる。床面はV層を掘り込み構築され、やや凹凸を有する。

【柱穴・施設】 幅20cmと幅30を超える壁溝2条が見られる。壁柱穴と小Pitが数基検出された。

【カマド】 未検出。

【出土遺物】 土師器のミニチュア壺1点を図示した。その他、流動滓と銹化遺物も出土している。

【小結】 重複関係や堆積土、出土遺物から、平安時代10世紀以降に構築され廃絶したと考えられる。(永嶋)

#### 第101号竪穴建物跡 (S1101) (図82・151、写真62)

【位置・確認】 IV U・V184・185グリッドに位置する。

【重複】 第102号竪穴建物跡、第2・3号井戸、第105号溝跡と重複し、本遺構が最も古い。

【平面形・規模】 現存東西軸3.4m・現存南北軸4.0mを測り、長方形を呈する。検出面からの深さは



10cm以下であり、床面で確認した部分も多い。

【堆積土】黒褐色土を主体とし、ロームブロックを多く含む人為堆積である。

【壁・床面】西壁のみ僅かな立ち上がりのみ確認した。床面はVI層を掘り込んで構築され、平坦である。

【柱穴・施設】西壁沿いで壁柱穴が並んで確認された。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器甕1点、須恵器壺1点を図示した。その他、炉壁と炉内滓も出土している。

【小結】出土遺物や遺構の特徴から、平安時代に構築され廃絶したと考えられる。(永嶋)

#### 第102号竪穴建物跡 (S1102) (図82・写真62)

【位置・確認】IV T～V 185・186グリッドに位置し、床面と壁溝の検出で本遺構を確認した。

【重複】第101号竪穴建物跡と第105号溝跡と第103号土坑と重複し、第101号竪穴建物跡に次いで古い。

【平面形・規模】東西軸5.1m・南北軸4.8mを測り、ほぼ正方形を呈する。床面で検出した。

【堆積土】記録なし。

【壁・床面】壁は確認出来なかった。床面はVI層を掘り込んで構築され、平坦である。

【柱穴・施設】西壁沿いで壁柱穴が並んで確認された。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器甕底部1点を図示した。

【小結】出土遺物や遺構の特徴から、平安時代に構築され廃絶したと考えられる。(永嶋)

#### 第103号竪穴建物跡 (S1103) (図83、写真62)

【位置・確認】IV V・W184・185グリッドに位置し、床面の検出で本遺構を確認した。

【重複】第101号竪穴建物跡と第106号溝跡と第2号井戸と重複し、第106号溝跡と第2号井戸跡より古い。第101号竪穴建物跡との前後関係は不明である。

【平面形・規模】現存東西軸3.5m・南北軸2.4mを測る。床面で検出した。

【堆積土】IV層の床面と貼床のみ残存し、黒褐色土とロームブロックが混じった土が用いられていた。

【壁・床面】壁面は未検出である。床面は平坦である。

【柱穴・施設】南壁近くに長軸70cmほどの焼土範囲を検出した。

【カマド】未検出であるが、南壁近くの焼土範囲がカマド火床面であった可能性もある。

【出土遺物】土師器片等が出土したが小片のため図示していない。

【小結】遺構や堆積土の特徴から、平安時代の遺構と考えられる。(永嶋)

#### 第104号竪穴建物跡 (S1104A) (図84、写真62)

【位置・確認】IV X・Y181・182グリッドに位置し、VI層上面で確認した。

【重複】第104B号竪穴建物跡と第106号竪穴建物跡と重複し、本遺構が最も新しい。

【平面形・規模】現存東西軸3.0m・南北軸4.8mを測る。

【堆積土】黒褐色土を主体とし、ロームブロックを多く含み、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁面はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。

【柱穴・施設】未検出。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器片等が出土したが小片のため図示していない。

【小結】遺構や堆積土の特徴から、平安時代の遺構であり、第104B号竪穴建物跡を拡張したものと考えられる。  
(永嶋)

#### 第104B号竪穴建物跡 (S1104B) (図84、写真62)

【位置・確認】IV X・Y181・182グリッドに位置し、VI層上面で確認した。

【重複】第104B号竪穴建物跡と第106号竪穴建物跡と重複し、第104A号竪穴建物跡に次いで新しい。

【平面形・規模】現存東西軸3.3m・南北軸3.0mを測る。

【堆積土】黒褐色土を主体とし、ロームブロックを多く含み、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁面はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。

【柱穴・施設】床面中央付近に長軸96cmの土坑(S1104BSK1)、壁際に幅25cmほどの壁溝を検出した。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器片等が出土したが小片のため図示していない。

【小結】遺構や堆積土の特徴から、平安時代の遺構と考えられる。  
(永嶋)

#### 第105号竪穴建物跡 (S1105) (図85、写真62)

【位置・確認】VD177・178グリッドに位置し、VI層上面で確認した。

【重複】第122号溝跡と重複し、本遺構が古い。

【平面形・規模】現存部0.6×2.4mを測る。

【堆積土】黒褐色土を主体とし、ロームブロックを多く含み、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁面はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。

【柱穴・施設】未検出。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器片等が出土したが小片のため図示していない。

【小結】遺構や堆積土の特徴から、平安時代の遺構と考えられる。  
(永嶋)

#### 第106号竪穴建物跡 (S1106) (図84、写真62)

【位置・確認】IV X181グリッドに位置し、VI層上面で確認した。

【重複】第104A・B号竪穴建物跡と重複し、最も古い。

【平面形・規模】現存部1.0×2.3mを測る。

【堆積土】黒褐色土を主体とし、ロームブロックを多く含み、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁面はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。

【柱穴・施設】未検出。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器片等が出土したが小片のため図示していない。

【小結】重複した第104号竪穴建物跡や堆積土の特徴から、平安時代の遺構と考えられる。（永嶋）

#### 第111号竪穴建物跡(SI111) (図86・151・162、写真63・64・115・118)

【位置・確認】IVX・Y179グリッドに位置する。V・VI層で検出した。

【重複】第112・114号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。

【平面形・規模】残存部で4.9×3.8mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは12cmである。本遺構の北東側は、調査区外に位置する。

【堆積土】後世の削平などにより、遺構上面の大部分が壊されていることから、堆積土により新旧を判断することができなかった。そのため、第111・112・113・114号竪穴建物跡の土層を合わせて13層に分層した。黒褐色土を主体とする。4・5・9層では、V層由来のロームブロックが多く混入する。全体的にロームブロックや焼土ブロックなどの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は遺構上面が削平されているため、確認し難い。西壁及び南壁の一部に壁溝が巡る。床面はV・VI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴が27基、土坑が1基検出された。壁溝を掘り込み壁柱穴が並ぶ。主柱穴は確認できなかった。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、須恵器壺、紡錘車、炉内滓、羽口が堆積土から出土した。うち、土師器甕1点、土師器坏2点、須恵器壺1点、紡錘車1点を図示した。151-11は須恵器壺、151-12は土師器甕で、いずれも刻書がみられる。162-9は紡錘車で、軸の大部分が欠損する。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。（久保）

#### 第112号竪穴建物跡(SI112) (図86・151、写真63・64・115)

【位置・確認】IVX179グリッドに位置する。V・VI層で検出した。

【重複】第111・113・114号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が新しい。

【平面形・規模】残存部で3.9×2.7mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは12cmである。本遺構の南西側は、調査区外に位置する。

【堆積土】後世の削平などにより、遺構上面の大部分が壊されていることから、堆積土により新旧を判断することができなかった。そのため、第111・112・113・114号竪穴建物跡の土層を合わせて13層に分層した。黒褐色土を主体とする。4・5・9層では、V層由来のロームブロックが多く混入する。全体的にロームブロックや焼土ブロックなどの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は遺構上面が削平されているため、確認し難い。北壁に壁溝が巡る。壁の北側に壁溝と平行する溝が2条みられることから、建て替えを行った可能性があるが、詳細は不明である。床面はV・VI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は4基検出された。主柱穴は確認できなかった。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】土師器坏、釘、炉壁、炉内滓、碗形滓、羽口が堆積土から出土した。うち、土師器坏2点を図示した。151・13・14は土師器坏で、いずれも外面に刻書がみられる。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

#### 第113号竪穴建物跡(SI113) (図86、写真63・64)

【位置・確認】IVX179グリッドに位置する。V・VI層で検出した。

【重複】第111・112・114号竪穴建物跡と重複しており、本遺構は第112号竪穴建物跡古く、第111・114号竪穴建物跡より新しい。

【平面形・規模】残存部で4.2×2.3mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは33cmである。本遺構の南東側は、調査区外に位置する。

【堆積土】後世の削平などにより、遺構上面の大部分が壊されていることから、堆積土により新旧を判断することができなかった。そのため、第111・112・113・114号竪穴建物跡の土層を合わせて13層に分層した。黒褐色土を主体とする。4・5・9層では、V層由来のロームブロックが多く混入する。全体的にロームブロックや焼土ブロックなどの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は遺構上面が削平されているため、確認し難い。西壁に壁溝が巡る。床面はV・VI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は15基検出された。主柱穴は確認できなかった。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】なし。

【小結】重複関係から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

#### 第114号竪穴建物跡(SI114) (図86、写真63・64)

【位置・確認】IVX179グリッドに位置する。V・VI層で検出した。

【重複】第111・112・113号竪穴建物跡と重複しており、本遺構は第112・113号竪穴建物跡古く、第111号竪穴建物跡より新しい。

【平面形・規模】残存部で2.7×1.3mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは18cmである。本遺構の南西側は、調査区外に位置する。

【堆積土】後世の削平などにより、遺構上面の大部分が壊されていることから、堆積土により新旧を判断することができなかった。そのため、第111・112・113・114号竪穴建物跡の土層を合わせて13層に分層した。黒褐色土を主体とする。4・5・9層では、V層由来のロームブロックが多く混入する。全体的にロームブロックや焼土ブロックなどの混入物がみられることから、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁は遺構上面が削平されているため、確認し難い。北壁に壁溝が巡る。床面はV・VI・VII層を掘り込み構築されていて、比較的平坦である。

【柱穴・施設】柱穴は5基検出された。主柱穴は確認できなかった。

【カマド】検出できなかった。

【出土遺物】なし。

【小結】重複関係から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

#### 第115号竪穴建物跡(SI115)

発掘調査時は第115号竪穴建物跡として精査したが、精査の結果、地山の落ち込みと判断し、欠番とした。

#### 第116号竪穴建物跡(SI116) (図85、写真62)

【位置・確認】V D・E176グリッドに位置し、IV層上面で確認した。

【重複】第128号溝跡と重複し、本遺構が古い。

【平面形・規模】東西軸2.2m・南北軸3.9mを測る。

【堆積土】黒褐色土を主体とし、ロームブロックを多く含み、人為堆積と考えられる。

【壁・床面】壁面は緩やかに立ち上がり、床面はやや凹凸を有する。

【柱穴・施設】壁柱穴を含む小Pitを多数検出した。

【カマド】未検出。

【出土遺物】土師器片等が出土したが小片のため図示していない。

【小結】遺構や堆積土の特徴から、平安時代の遺構と考えられる。(永嶋)

#### 第117号竪穴建物跡(SI117) (図42・45、写真42)

【位置・確認】V K159・160グリッドに位置する。

【重複】第42・46号竪穴住居跡と重複する。第42号竪穴建物跡より古く、第46号竪穴建物跡との前後関係は不明である。

【平面形・規模】東西軸2.8m・現存南北軸2.0mを測る。検出面からの深さは24cmである。

【堆積土】記録なし。

【壁・床面】壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面V層を掘り込み構築されていて平坦である。

【柱穴・施設】南壁と西壁に幅20cm前後の周溝が見られる。

【カマド】残存しない。

【小結】重複関係や堆積土から平安時代10世紀後半以降に廃絶したと考えられる。(永嶋)

## 2 掘立柱建物跡

#### 第1号掘立柱建物跡(SB01) (図87・152・172、写真65・115・120)

【位置・確認】V J161グリッドに位置する。V・VII層で検出した。

【重複】第40号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。

【平面形・規模】4本柱建物の周囲に溝が巡る。柱穴は直径約36cm、深さ24～48cmの円形を呈する。柱間は東西3.3m×南北2.9mを測る。周溝は幅48cm、深さ18cmである。周溝の南西内側には、幅24

cm、深さ12cmの細い溝が確認され、溝の作り替えを行った可能性がある。

【出土遺物】須恵器甕、須恵器壺、有孔石製品が堆積土から出土した。うち、須恵器甕1点、須恵器壺2点、有孔石製品1点を図示した。152-02は須恵器甕で、外面はタタキ目がみられ、内面はナデによる調整がみられる。172-1は有孔石製品で、表裏面及び右側面を磨りにより平坦に仕上げている。形態から、縄文時代の所産であると考えられ、流れ込みの可能性がある。

【小結】重複関係から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

## 第2号掘立柱建物跡(SB02) (図88)

【位置・確認】VK・VL155グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】2間×2間の総柱建物である。柱穴は直径約42cm、深さ12～36cmの円形を呈する。柱間は1.4mを測る。

【出土遺物】なし。

【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、周辺の平安時代の竪穴建物跡と軸方向が同じであるため、同時期に存在していたと考えられる。(久保)

## 第3号掘立柱建物跡(SB03) (図6)

【位置・確認】SD23の西の延長上、VN・VO-147～148グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】なし。

【平面形・規模】5mの間に4基の柱穴が直線上に並ぶ。

【出土遺物】弥生土器片が1点出土した。

【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、周辺の平安時代の竪穴建物跡と軸方向が同じであるため、同時期に存在していた可能性がある。(永嶋)

## 3 製鉄関連遺構

### 第1号製鉄関連遺構(SS01) (図89・165、写真66)

【検出位置】VK163グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】なし。

【規模と形状】長軸約111cm・短軸約54cmの歪な楕円形状を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは9cmで、断面皿状を呈する。底面はほぼ平坦である。南北壁中央付近が被熱している。

【堆積土】3層に分層した。黒色土主体である。1層では焼土粒と鉄滓が多量に出土し、2層は炭化物が多量に出土した。3層は被熱している。

【出土遺物】手鎌、鎌、鐮?、炉壁、炉内滓、流動滓、再結合滓、含鉄遺物、錆化遺物が出土した。うち、炉壁1点、炉内滓2点、流動滓1点、再結合滓3点、含鉄遺物2点、錆化遺物2点を図示した。なお、本遺構の東側にあるSP1434は本遺構と一連の遺構である可能性があり、併せて図示した(165-1～11)。1は炉壁で、内面に錆が溶けきらずに付着している。2・3は炉内滓、5～7は再

結合滓で、ほぼ全面が錆に覆われている。その他、鉄製品が出土しているが、流れ込みと考えられる。

【小結】遺構の形状から、平安時代の製鉄炉の底面と考えられる。(久保)

### 第2号鉄関連遺構 (SS02) (図90～92・153・161・165・166・168、写真66～69・118・119)

【検出位置】V I 165・166グリッドに位置する。VI層上面で、緩やかな斜面に対して等高線に直交して構築された当遺構を検出した。

【重複】なし。

【規模と形状】製鉄炉と前庭部で構成され、両者の掘方長軸は2.07mである。

〔製鉄炉〕掘方は長軸0.93m、短軸0.84mの楕円形を呈し、深さ0.33cmである。掘方底面は楕円状で壁面は斜めに緩やかに立ち上がる。炉の斜面下位東側には幅0.45cmの掘方開口部がみられ、南北方向に長軸をもつ前庭部が検出された。

楕円形の掘方掘削後に粘土を貼り付けて、斜面下位の前庭部側には直角の2隅を構築している。一部が残存していた斜面上位側は焼け面の状況から判断すると、幅を狭めて、やや突出するような形状と考える。斜面上位側炉底部に還元面が確認された。前庭部側の粘土壁の上位には使用済の羽口(羽口5)を横方向に設置し、また南側の壁には3点の使用済の羽口(羽口1・2・4)を立てて、炉芯材として再利用されていた。なお調査時には羽口2に隣接して羽口3を確認していたが、整理段階で被熱した粘土塊であることが判明した。

〔前庭部〕製鉄炉の斜面下位の東側に位置し、楕円形を呈する。長軸1.14m、短軸1.71m、深さが0.57mである。底面はやや段を有するものの概ね平坦であり、製鉄炉側の壁はほぼ垂直に立ち、それ以外はやや傾斜を有して立ち上がる。

【堆積土】炉と前庭部で32層に分層したが、一部に土層の記録がない。黒色と黒褐色土主体である。焼土塊、粘土ブロック、鉄滓が多く混じっていた。

【出土遺物】内黒の土師器坏底部1点と須恵器壺1点を図示した。鉄製品は釘1本を図示し、他に棒状と不明鉄製品が1点ずつ出土している。前述した炉芯材とした4点を含め、6点の羽口が出土し、図化した。製鉄関連遺物は、炉壁・粘土質溶解物・炉内滓・流動滓・椀形滓・流出孔滓・再結合滓・砂鉄塊・含鉄遺物・錆化遺物などが多量に出土している。

【小結】使用済の羽口4点を炉芯材に転用した平安時代の製鉄炉である。(永嶋)

### 第3号製鉄関連遺構 (SS03) (図93・153・161・162・166・169、写真70・118・119)

【検出位置】V J・K164グリッドに位置する。VI層で検出し、当初製鉄炉と考えた。

【重複】なし。

【規模と形状】長軸約2.37m・短軸約0.99mの歪な楕円形状を呈する。壁はやや垂直に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がある。検出面からの深さは0.30mで、断面皿状を呈する。底面は凹凸を有する。

【堆積土】12層に分層した。黒褐色土主体である。焼土塊や炭化物、粘土塊が多く見られる。

【出土遺物】土師器甕の口頭部片と土師器坏底部を図示した。鉄製品は釘1本と刀子1点が出土し、

共に図示した。製鉄関連遺物は、炉壁・炉内滓・流動滓・椀形滓・流出孔滓・再結合滓・鉄塊系遺物・含鉄遺物・銹化遺物が出土し羽口2点と共に多数図示した。

【小結】確認当初は製鉄炉と考えて調査を進めたが、進行後に平安時代の廃滓場であることが判明した。凹凸を有する掘方に周辺の製鉄炉で排出された製鉄関連遺物が廃棄されたものと考えられる。

#### 4 井戸跡

##### 第1号井戸跡 (SE01) (図94・153・174、写真88・115・121)

【検出位置】VE175グリッドに位置する。第V・VI層で検出した。

【重複】なし。

【規模と形状】長軸約3.9m、短軸約3.4mの円形状を呈する。壁は上部では緩やかに立ち上がり、中部では急斜になる。下部では中部より直径が一回り小さくなり、ほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは5.1mで、底面はほぼ垂直である。上部では、横穴状のPitが3基検出された。

【堆積土】14層に分層した。黒褐色土主体である。自然堆積と考えられ、崩落により土層がずれている箇所がみられる。拳大の礫が多数出土した。下層は湧水のため固化できなかったが、ロームブロックや炭化物などが多量に混入し、人為堆積と考えられる。

【出土遺物】土師器甕、土師器坏、土師器ミニチュア土器、須恵器甕、須恵器壺、釘、炉壁、炉内滓、流動滓、椀形滓、銹化遺物、木製品が堆積土から出土した。うち、土師器甕2点、土師器坏4点、土師器ミニチュア土器1点、須恵器甕1点、須恵器壺2点、木製品5点を図示した153-09・10は土師器坏で、内面黒色処理が施されている。153-11はミニチュア土器で、手づくねにより成形されており、坏型を呈する。174-1～4は棒状木製品で、1は片側端部が摩擦し丸みを帯びている。もう片側は木目と垂直方向に加工が加えられている。2・4も同じく端部が摩擦し、4には一部樹皮が残る。3は1と同様の木目と垂直方向の加工が行われている。5は板状木製品で、板材の角を削るよう加工が行われている。

【小結】出土遺物から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。(久保)

##### 第2号井戸跡 (SE02) (図94・153、写真88)

【検出位置】IVV185・186グリッドに位置する。

【重複】第101号堅穴建物跡と重複し、本遺構が新しい。

【規模と形状】長軸約2.1m、短軸約1.3mの楕円形状を呈する。円形の井戸と隅丸方形の前庭部で構成されている。井戸部分は上端が1.3m×1.3m、深さ1m、前庭部は上端0.7m×1.1m、深さ0.2と浅い。井戸の底は1辺0.5mほどの隅丸方形を呈し、西側へ向かって50°の角度で立ち上がり、東の前庭部側へは55°とやや急傾斜を為す。地下水位が高い地点であることから、調査時にも水が湧き出しており、前庭部に下りれば容易に水を汲むことが可能であったと考えられる。

【堆積土】黒褐色土を主体に、5層に分層した。

【出土遺物】回転系切痕を有する土師器坏底部と須恵器壺頸部が出土した。

【小結】出土遺物より、周辺の遺構と同様に平安時代と考えられる。(永嶋)



### 第3号井戸跡 (SE03) (図94、写真89)

【検出位置】IVU184グリッドに位置する。

【重複】第101号竪穴建物跡と重複し、本遺構が新しい。遺構南側は攪乱によって破壊されている。

【規模と形状】現存する上端は隅丸長方形を呈し、長軸1.3m、短軸0.8m、深さは0.7mである。底面は0.4×0.6mの隅丸長方形を呈し、ほぼ垂直に立ち上がり、中端より斜め上方へと傾斜を有する。第2号井戸同様に水位が高い地点であることから、調査時にも湧水が多く見られ、満水状態であった。

【堆積土】黒色土を主体に、3層に分層した。

【出土遺物】なし。

【小結】遺物出土はなかったが、覆土の状況から周辺の遺構と同様に平安時代と考えられる。(永嶋)

### 第4号井戸跡 (SE04) (図94・153、写真89・115)

【検出位置】IVP186グリッドに位置する。

【重複】なし。

【規模と形状】掘方は一辺約1.2mの隅丸方形を呈する。板状のクリ材を用い上面で方形の井戸枠を構築している。下位には隅柱・棧木・縦板等は見られない。地下水位が高い地点であることから、調査時にも多くの水が湧き出していた。

【堆積土】湧水により上位のみの記録となったが、黒褐色土主体の3層を確認した。

【出土遺物】土師器甕の小片が出土したが、図示していない。また銹化遺物1点も出土した。

【小結】出土遺物より、平安時代と考えられる。当遺構堆積土中からは多様な植物遺体が得られ、井戸稼働期および埋没過程の周辺環境や当時の栽培植物等が類推できるデータが得られた。第4章第5節に詳しい。(永嶋)

## 5 土坑 (図95~106・154~155、写真71~87・115・116)

82基を土坑として報告する。大部分の土坑が本遺跡の主要時期を占める平安時代後半期のものであると考えられるが、出土遺物が無く詳細時期についての判断を保留し、帰属時期不明としたものも多い。また単独の土坑として調査したもので、その後住居内施設(土坑)や掘立柱建物跡を構成する柱穴としたものは、ここでは触れないものが多く、主に帰属遺構の中で報告した。また各担当者が手持ちの遺構番号を用いて、土坑番号を命名していったことから、使用せずに欠番となったものも多い。

本遺跡で土坑としたものは、大きく縄文時代と平安時代のものであり、時期別、形態別に概要を述べて、各遺構の法量等は表にて記載した。

### ① 縄文時代のフラスコ状土坑

縄文時代のフラスコ状土坑としたものは、第1・28・30・78・149号土坑の5基である。いずれも断面がフラスコ形を呈し、貯蔵穴と捉えられるものである。

5基のうち2基は詳細時期の想定が可能であったが、残りの3基は不明である。

第30号土坑は、底面に縄文時代晩期初頭の小型深鉢2点が置かれたような状態で出土している。本来貯蔵穴であったフラスコ状土坑が、墓に転用された可能性もある。

第78号土坑は、直径2m、深さも1.5mを超す大型のものである。覆土より僅かに出土した縄文時代後期前葉のやや大型の土器片から、それ以前のもので判断した。

第149号土坑は第78号土坑と同一グリッド内で近接しており、同様の時期の可能性もある。

第28号土坑は斜面下位の平坦面という立地は、第30号土坑に共通する。第1号土坑は1基のみ西側の斜面部において確認されたもので、小型であることから縄文時代後晩期におさまらるだろう。

## ② 平安時代の土坑

上記の縄文時代の土坑5基を除いた77基の大部分は平安時代の可能性が高い。柱穴様のもの、楕円形、円形、隅丸方形のものに大別される。そのうち方形のものには、一定の傾向がうかがえる。

Y軸163ライン以東に、堅穴建物跡に隣接した方形の土坑が目につく。第32・33・41・42・82・94・135・137・142号土坑が相当し、内外において建物跡と同一方向を指向するもので、無関係とは考えにくい。特に第32・33・41・42号土坑は、僅かに重複するが整然と並んでおり、建物跡に近接して意図的な配置がなされたように見える。第79・91・94号堅穴建物跡の内側やカマドが付設する東壁外側にも方形や長方形の土坑が付くのも特徴的である。

第17号堅穴建物跡西壁に隣接し、軸方向をほぼ同じくする第14号土坑は、楕円形を呈したかも縄文時代の楕円形の土坑墓のような形態を見せる。(永嶋)

## 6 溝跡(図107~117・156~157・161・169、写真90~101・114・118・119)

53条の溝跡を報告する。全ての溝に、帰属時期を示す良好な遺物出土があったわけではない。しかし、平安時代の遺構群と同様の堆積土で埋まっており、また平安時代の遺構と同じ主軸方向を有するものも多いことから、ほぼ全てが当遺跡の主体を占める平安時代後半期に帰属するものと考えた。

中でも、区画施設と考えられるもの、他の施設の一要素であるものが目に付き、その他のものは性格を明らかにすることは出来なかった。

ここでは特徴的な溝跡の概要を述べ、各遺構の法量等については、表にて記載した。他の遺構同様に、使用しなかった溝跡番号が残り、欠番が多く生じた。

### ① 区画施設と考えられるもの (SD02・12・13・14・15・18・19・22など)。

本遺跡では10世紀から11世紀代と考えられる集落跡を検出した。

調査区の西端部では、幅約2.5mの大型のSD02(第2号溝跡)が検出された。調査区の丘陵頂部のやや西側を南北に25mにわたって走り、南北共に調査区外へと続く。壁は底面より急斜に立ち上がり、上位では緩やかとなる。平坦な底面には、掘削時の工具痕が多数検出されている。堆積土の観察により、人為堆積ではなく自然に埋没したことがわかる。当遺構以西の斜面部には、平安時代の遺構は皆無である。このことから丘陵頂部を含む壕以東の集落を、西側と分断する目的の「壕」と考えられる。

集落内の平安時代の堅穴建物の多くは同一区域内で、数度にわたる建替えがなされており、重複した建物跡の集中が数箇所において確認された。

溝跡の中には、これらの堅穴建物群を区画するような配置を示すものがある。調査区西側の丘陵部を東西に走る幅30cmほどのSD12は、溝跡の中にピットが連続しており、柱列を何らかの素材で繋ぐ塀のような構造物が存在したのであろう。SD12は第22号堅穴建物跡によって壊されるが、それ以前は

土坑番号	位置	遺構	平面形	断面形	長軸長	短軸長	深さ	出土遺物	時期・その他
SK001	V N135	なし	円形	一部フラスコ状	150	120	78	鉄関連遺物(覆土)	1~4層 自然堆積。5~10層 人為堆積。縄文時代のフラスコ状土坑
SK003	V K151	SI7 <本遺構	円形	不正形	90	78	36		平安時代以降
SK004	V J151 V K151	SI7 <本遺構	楕円形	方形状	66	42	12		人為堆積。平安時代以降
SK005	V K152	SP515 <本遺構	楕円形	皿状	108	81	33	土師器	縄遺時期不明
SK014	V L149 V M149	なし	長楕円形	変な逆台形状	174	98	30		SI16-17と同層であり。平安時代の可能性
SK016	V L149 V L150	本遺構 < SI 17	長楕円形	変な皿状	216	150	36		
SK019	V M151 V N151	SI22 内土坑	円形	皿状	90	78	18		平安時代
SK020	V J159	SD21 <本遺構	楕円形	逆三角形	66	54	36		縄遺時期不明
SK021	V J157 V J158	SI 25 <本遺構	楕円長方形	皿状	108	90	9		縄遺時期不明
SK022	V K157	なし	不正円形	逆台形状	132	120	36		縄遺時期不明
SK023	V M152 V M153 V N152 V N153	なし	円形	方形状	93	84	33	鉄関連遺物	縄遺時期不明
SK024	V I158 V I159 V J158	なし	楕円方形	不正形状	150	120	36		縄遺時期不明
SK025	V L158 V L157	なし	長楕円形	方形状	150	84	66		縄遺時期不明
SK026	V I180	小 Pit より古い	円形	長方形状	114	114	30		縄遺時期不明
SK027	V Q155	なし	楕円長方形	長方形状	188	120	24		縄遺時期不明
SK028	V P159	なし	不正円形	フラスコ状	96	96	72		縄遺時期不明
SK029	V Q154 V R154	本遺構 < SS2B	不正円形	不正形	210	168	48		縄遺時期不明
SK030	V J160 V K160	なし	円形	フラスコ状	188	162	42		縄文時代晩期初頭の突形深鉢2点出土。縄文時代晩期前期の可能性
SK031	V K165 V K166	本遺構 < SP734	円形	長方形状	156	144	24	鉄関連遺物	縄遺時期不明
SK032	V L166	SI 81 <本遺構 < SK33	楕円長方形	長方形状	144	108	30		平安時代の可能性
SK033	V L166	SI 81 < SK32 <本遺構	楕円方形	長方形状	132	114	24	鉄関連遺物	平安時代の可能性
SK041	V K166 V L166	なし	楕円長方形	長方形状	162	132	30	土師器、鉄関連遺物	平安時代の可能性
SK042	V K166	SS85 <本遺構	楕円長方形	長方形状	156	132	30	須恵器、鉄関連遺物	平安時代の可能性
SK061	V O150 V P150	本遺構 < SI24	長楕円形	方形状	75	66	12		縄遺時期不明
SK062	V Q151	なし	円形	逆台形状	168	138	30		縄遺時期不明
SK069	IV V185	SI 103上の前後関係不明	円形	皿状	78	72	9		縄遺時期不明
SK078	V R145 V R146	なし	円形	フラスコ状土坑	210	170	160		縄文時代後期前半の土器片、土師器
SK080	V L160 V M160 V M161	本遺構 < SD19	円形	皿状	159	147	12		縄遺時期不明
SK081	V M160	本遺構 < SD19	円形	皿状	102	90	21		縄遺時期不明
SK082	V L162 V L163 V M162 V M163	なし	楕円方形	逆台形状	144	120	33		縄遺時期不明
SK083	V J161 V K161	SP1455・1456 <本遺構 < SP1451 ~ 1454	楕円方形	逆台形状	99	78	27	須恵器、鉄関連遺物(覆土)	縄遺時期不明
SK084	V N162	S K 85 <本遺構	楕円形	皿状	162	96	42		人為堆積後、自然堆積。縄遺時期不明
SK085	V N162	本遺構 < S K 85	円形	方形状	150	132	66	土師器	自然堆積。縄遺時期不明
SK086	V O162	SK88 <本遺構	楕円方形	逆台形状	83	60	21		自然堆積。縄遺時期不明
SK087	V I160	本遺構 < SS3	楕円方形	方形状	188	198	36	土師器	平安時代
SK088	V O162	本遺構 < S K 88	楕円方形	皿状	66	48	15	鉄関連遺物(覆土)	縄遺時期不明
SK089	V H165 V I165	SK90 <本遺構	円形	皿状	81	72	12		自然堆積。縄遺時期不明
SK090	V I165	本遺構 < S K 89	円形	台形状	72	63	12		縄遺時期不明
SK091	V M165 V M166	SS81 内土坑の可能性	不正長方形	変な皿状	150	96	30		
SK094	V H168	SS81 内土坑	楕円方形	逆台形状	138	114	30	鉄関連遺物	平安時代
SK095	V H173	なし	円形	長方形状	78	72	18		縄遺時期不明
SK098	V I169	本遺構 < SP1466	楕円方形	方形状	114	99	36	鉄関連遺物(覆土)	縄遺時期不明
SK099	V A176	SP1478 <本遺構	円形	皿状	87	87	18		縄遺時期不明
SK100	V A176 V A177	なし	不正円形	皿状	108	75	27		縄遺時期不明
SK101	IV V186	なし	楕円形	方形状	78	60	24		縄遺時期不明
SK102	IV T183 IV U186	小 Pit より古い新しい	楕円形	逆三角形+方形	90	72	30		縄遺時期不明
SK103	IV U185 IV U186	SI102 <本遺構	楕円形	皿状	276	198	30	土師器、鉄関連遺物	SK08と前後関係不明。縄遺時期不明。
SK104	IV R188	なし	楕円形?	逆台形状	94	94	36		縄遺時期不明

沢部(1)遺跡

土坑番号	位置	遺構	平面形	断面形	長軸長	短軸長	深さ	出土遺物	時期 - その他
SK106	IV Q185 IV R184 IV R185	なし	不正楕円形	長方形状	204	180	38	土師器、須恵器	縄漢時期不明
SK107	IV T185	なし	楕円形	不正形	78	48	18		縄漢時期不明
SK108	IV U185	Sk103との前後関係不明	半円形	長方形状	66	54	18		縄漢時期不明
SK109	IV U187	なし	円形	逆台形状	66	54	66		縄漢時期不明
SK110	IV W186	小 Pit との前後関係不明	円形	不正形	72	72	48		φ 18cm の柱底有り
SK111	IV V186 IV W186	なし	不正円形	楕形	60	54	30		縄漢時期不明
SK112	IV V186	小 Pit との前後関係不明	不正形	不正形	66	54	30		縄漢時期不明
SK113	IV V186 IV Y187	なし	半円形	長方形状	114	54	42		縄漢時期不明
SK114	IV Q185	なし	楕円形	隅丸長方形状	60	36	42	土師器	縄漢時期不明
SK115	IV Q187 IV R187	なし	楕円形	フラスコ状	126	120	36		縄漢時期不明
SK117	IV W186	なし	円形	方形状	54	54	36	土師器	縄漢時期不明
SK118	IV W186	なし	隅丸方形	方形状	42	42	18		縄漢時期不明
SK119	IV W187	なし	楕円形	逆三角形状	42	30	30		縄漢時期不明
SK121	IV W186	なし	円形	方形状	42	36	30		柱穴、縄漢時期不明
SK122	IV Q189	なし	隅丸方形	長方形状	30	24	42		縄漢時期不明
SK123	V A180	なし	隅丸方形	変な長方形状	96	84	30		縄漢時期不明
SK124	IV Y180	本遺構 < SK125	隅丸方形	変な方形状	42	36	18		縄漢時期不明
SK125	IV Y180	SD125-SK124 < 本遺構	隅丸方形	不正形	90	80	36		縄漢時期不明
SK126	V E172 V F172	なし	円形	方形状	48	48	30		縄漢時期不明
SK127	V F174 V F175	なし	円形	甕状	190	156	24	土師器、鉄関連遺物	縄漢時期不明
SK128	V J170 V J171	なし	不正楕円形	不正形	138	120	36	鉄関連遺物	縄漢時期不明
SK129	V K189	なし	隅丸方形	片フラスコ状	102	90	24		縄漢時期不明
SK130	V J189 V K189	なし	円形	方形状	54	54	48	土師器	柱底 24cm 有り、縄漢時期不明。
SK131	V K189 V L189	なし	隅丸方形?	逆三角形状	126	48	60		縄漢時期不明
SK132	V J171	なし	楕円形	不正形	114	48	48		縄漢時期不明
SK135	V B176 V B177	本遺構 < SX 9	隅丸方形	方形状	150	150	39	土師器	縄漢時期不明
SK136	IV Y177 IV Y178 V A177 V A178	SP1487 < 本遺構	隅丸方形	逆台形状	87	87	39	土師器	縄漢時期不明
SK137	V B177	なし	楕円形	甕状	183	128	48	須恵器	縄漢時期不明
SK140	V K168 V L168	本遺構 < 黒削木	不明	縦状?	174	54	36	縄文時代晚期初期土器、土師器。	B2m 増埴の黒削木より古い、平安時代以前。
SK142	V G170 V G171 V H170 V H171	SB4 に隣接	隅丸長方形	甕状	186	144	18	土師器、鉄関連遺物	縄漢時期不明
SK145	V H171	なし	隅丸長方形	甕状	144	60	18		縄漢時期不明
SK146	V B176	なし	隅丸方形	逆台形状	84	84	33		縄漢時期不明
SK148	V E174	なし	円形	長方形状	78	78	24		縄漢時期不明
SK149	V R146	なし	楕円形	フラスコ状	120	96	72		縄文時代の可能性有り、近くに縄文時代後期前半の SK78 有り。

遺構名	位置	遺構	断面形状	長さ (m)	幅 (m)	高さ (cm)	出土遺物	時期その他
S0002	V K ~ V S-140 - 141	なし	逆台形状	28	2.5	96 ~ 126	土師器、須恵器、鉄関連遺物(覆土)、石器	平成9年度に弘前市教委が一部トレンチを掘査し、「掘削」と報告。直後に個別工具収を多数検出。自然堆積。平安時代。
S0003	V L-146	なし	逆台形状	3.2	0.25	6		平安時代
S0004	V J163 V J164	本遺構<S019	逆台形状	6.3	0.4	6		平安時代
S0005	V J162 V K162	なし	逆台形状	4	0.2	3		平安時代
S0006	V N164	本遺構<SP714	皿状	2.1	0.2	9		自然堆積。平安時代
S0009	V D174 V D175 V D176 V E175 V E176	S178<本遺構<S0128	逆台形状	4.7	0.6	9		平安時代
S0010	V F177 V A177 V B177	SK127<本遺構<SP1165・1166	皿状	7.8	0.7	18	須恵器、鉄関連遺物(覆土)	自然堆積。平安時代
S0011	V N146	本遺構<SP38・67	皿状	2	0.5	6		平安時代
S0012	V N146 V N146 V N147 V N148 V N149 V N150 V O150 V O151	本遺構<S 1 22	方形	20	0.3	30	土師器	S013と一連のもの。平安時代
S0013	V O152 V O153 V O154 V O155	本遺構<S 1 22	方形	14.8	0.4	30	鉄関連遺物	S012と一連のもの。平安時代
S0014	V J157 V K158 V K157 V L158 V L157 V M156 V N156 V O156 V P155 V P156	なし	方形	26.4	0.4	24	越州窯青磁片、土師器、須恵器、鉄製品	溝中に柱穴を伴う。S015と平行し、S013・18とは直交する。平安時代。
S0015	V J157 V K157 V L156 V L157 V M156 V N156 V O156 V P156	S 1 50との前後関係不明	方形	28.3	0.6	30	鉄製品	S D 14と平行。平安時代
S0017	V P151 V O150 V O151 V R150	S162A・162C<本遺構	逆台形状	7.8	0.4	12		平安時代
S0018	V K153 V K154 V K155 V K156 V L155 V L156	なし	逆台形状	12.2	0.5	18		平安時代
S0019	V P・O-157, V O・P-158, V N・ O-159, V N・ N-160, V K・ L-161, V K-16	S140・44・45, SK80・81, S004, SK07<本遺構	方形	66	0.9	12	土師器、鉄関連遺物(覆土)	平安時代以降
S0020	V R151	なし	逆台形状	2.1	0.2	12		平安時代
S0021	V I159 V J159 V K159	S 1 46<本遺構<SK22	皿状	7.1	2.2	12	土師器	平安時代
S0022	V N 149 V O 149 ~ 151	本遺構<S122	逆台形状	7.6	0.4	12		S012と平行する溝。西延長上に柱穴が並ぶ。平安時代。
S0023	V F162・163	なし	逆台形状	1.3	0.5	18		平安時代以降
S0025	V G168 V G169	本遺構<S191・94	逆台形状	2	0.7	24	鉄製品	平安時代
S0028	V R185	S1103<本遺構	逆台形状	1.6	2.4	12		平安時代以降
S0031	V G171 V G171 V G172	S194<本遺構	半円状	5.5	0.3	18		平安時代以降
S0034	V R185	S1103	不明	0.9	—	—		平安時代以降
S0071	V F185 V F186	本遺構<S 1 102	皿状	3.9	0.8	24		平安時代
S0085	V T187	なし	逆台形状	2	0.3	18		平安時代の可能性
S0086	V T187	なし	逆三角形	0.8	0.3	12		S0102と平行に走る。
S0101	V R187 V R188 V S188	S0103<本遺構	逆台形状	6.3	0.5	30	土師器、須恵器、鉄関連遺物	平安時代の可能性
S0102	V S186 V S187 V T186 V T187	なし	皿状	7.6	0.5	6		平安時代の可能性
S0103	V R187 V R188	本遺構<S0101	底面平坦な逆三角形	2.7	0.4	30		平安時代の可能性
S0104	V T186 V U184 ~ 186, V V185	S1101・102<本遺構<SK103	逆台形状	7.0	0.3	18		途切れる箇所有り。平安時代
S0105	V R185 V U186	S1101・102<本遺構<SK103	逆台形状	4.2	0.2	6		平安時代の可能性
S0106	V V183・184, V W184 ~ 186, V X186	S 1 103<本遺構	逆台形状	17.1	0.4	12		平安時代以降
S0107	V Y185	本遺構<SK106	皿状	1.8	0.8	30		平安時代以降
S0109	V U186, V V186	S1103<本遺構	横丸方形	1.2	0.2	12		平安時代以降
S0110	V V186 V V187	本遺構<S1102	底面平坦な逆三角形	4.5	0.2	24		平安時代
S0111	V N188	小P1・群より古い	逆三角形	2.5	0.5	12		平安時代の可能性

遺構名	位置	書種	断面形	長さ (m)	幅幅 (m)	深さ (cm)	出土遺物	時期その他
SD112	IV 0191 IV F191	なし	皿状	4.9	0.4	6		平安時代の可能性
SD113	IV 0191 IV F191	なし	逆三角形状	1.8	0.3	12		平安時代の可能性
SD114	IV M192 IV M193 IV O192 IV O193	SD115 < 本遺構 < SD118	皿状	4	1.8	18	鉄屑遺物	平安時代の可能性
SD115	IV M193 IV M193	本遺構 < SD114	長方形状	6	0.2	12		平安時代の可能性
SD116	IV K93 IV L192 IV I93	SD117 < 本遺構	皿状	6.9	1.7	24	土師器	平安時代の可能性
SD117	IV K193 IV L192 IV L193 IV M192 IV M93	本遺構 < SD116	皿状	4.2	1.7	10		平安時代の可能性
SD118	IV K193 IV L193 IV M192 IV M193 IV M192 IV O192	SD114・117 < 本遺構	逆三角形状	14.6	0.2	18		平安時代の可能性
SD119	IV M191	なし	逆台形状	2.6	0.2	6		平安時代の可能性
SD120	IV L191	なし	逆台形状	0.6	0.2	6		平安時代の可能性
SD121	IV X180・181 IV Y180 IV Y181	SD125・S I 105 < 本遺構	長方形状	3.8	0.9	30	土師器	人為堆積、平安時代の可能性
SD122	V C178 V C179 V D176	SD125 < 本遺構	半円状	5.7	0.8	42		円形煎湯の可能性有り、SD122-1層はマウンド層の可能性も。主体部は未検出。調査区外に存在か？
SD123	V B179	SD124 < 本遺構	逆台形状	1.5	0.2	12		平安時代の可能性
SD124	V B179 V B180	本遺構 < SD123	長方形状	5.9	0.6	24	鉄屑遺物	人為堆積、平安時代の可能性
SD125	IV X180 IV Y180	SK125 SD121	長方形状	4.2	1.4	42	土師器	人為堆積、平安時代の可能性
SD126-1	V E173 V E174 V F174 V G174 V G175	なし	逆台形状	9.4	0.5	24		平安時代の可能性
SD128	V D176 V E175 V E176 V F175	SD129 < 本遺構 < S1116	皿状	10.4	1	12	土師器、須恵器、鉄製品、鉄屑遺物	人為堆積、平安時代の可能性
SD129	V D174 ~ 176 V E 176	SD128	皿状	6.4	0.6	12		平安時代の可能性

SD13に繋がりが、他のSD14・15、17、18と共に、各戸敷地の境界を区切ったものと考えられる。

丘陵が東へ向かって標高を下げ、傾斜がやや平坦となった所に、SI41・42、SI57などの竪穴建物群が構築されている。それらも数度にわたる建替えの痕跡が見られ、一定期間この区域を占有したことが想定される。SD14・15は、これらの住居群と同一方向に南北に平行に走る溝である。やや幅広の40cmほどの溝中に、柱穴が連続する部分があり、丘陵部と斜面下位の建物群を隔てる意図が感じられる。このSD14からは、9世紀末葉～10世紀中葉の生産とされる越州窯系の青磁皿の口縁部片が土師器片と共に、出土した。

#### ④ 他の施設の一部のもの (SD102・122)

SD102は、壁溝を全周有する第102号竪穴建物跡と隣接しており、あるいは同様に住居床面を欠した建物跡の壁溝の可能性もある。

SD122は幅80cmほどの弧状の溝である。弧状溝の内側にはマウンドの可能性のあるSD126-1層が堆積しており、あるいは推定直径5.5mほどの円形周溝を構成する可能性がある。大部分が調査区外へと伸びており、主体部様の土坑は未検出であった。(永嶋)

## 7 性格不明遺構

### 第1号性格不明遺構 (SX01) (図118、写真100)

【検出位置】V0142・143グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】なし。

【規模と形状】長軸約3.7m・短軸約1.5mの楕円形状を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは15cmで、断面皿状を呈する。底面はほぼ平坦である。

【堆積土】5層に分層した。暗褐色土主体である。崩落土や流入土による自然堆積と考えられる。

【出土遺物】土師器等が出土したが、小片のため図示しなかった。

【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、軸方向が周辺の遺構と同じであることから、平安時代と考えられる。(久保)

### 第2号性格不明遺構 (SX02)

発掘調査時は第2号性格不明遺構として精査したが、精査の結果、製鉄関連遺構と判明したため、第1号製鉄関連遺構 (SS01) に振替、欠番とした。

### 第3号性格不明遺構 (SX03)

発掘調査時は第3号性格不明遺構として精査したが、精査の結果、製鉄関連遺構と判明したため、第2号製鉄関連遺構 (SS02) に振替、欠番とした。

### 第4号性格不明遺構 (SX04)

発掘調査時は第4号性格不明遺構として精査したが、精査の結果、製鉄関連遺構と判明したため、第3号製鉄関連遺構 (SS03) に振替、欠番とした。

**第5号性格不明遺構 (SX05) (図118・158、写真102)**

【検出位置】V H171・172、V I171グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】北東側は現代の耕作によって削平されている。

【規模と形状】長軸約5.1m・短軸約1.1mの東側を開口した隅丸長方形を呈する。壁は垂直に立ち上がる。検出面からの深さは10cmで、底面は全体に凹凸を有する。

【堆積土】黒褐色土に浮石や焼土が混じっていた。

【出土遺物】底部を欠く土師器坏片を1点図示した。

【小結】底面の凹凸の状況や出土した遺物から、平安時代の堅穴建物跡の掘方部分の可能性ある。

(永嶋)

**第7号性格不明遺構 (SX07) (図118、写真103)**

【検出位置】V N・O158・159に位置する。VI層で検出した。

【重複】第57・58号堅穴建物跡、第19号溝跡と重複し、第19号溝跡の次に本遺構が新しい。

【規模と形状】長軸約3.3m・短軸約1.0mの隅丸長方形を呈する。短軸側の壁は緩やかに立ち上がり、長軸側はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは60cmで、断面は箱形を呈する。底面はほぼ平坦である。

【堆積土】6層に分層した。褐色土主体であり、炭化物や焼土粒を少量含む。

【出土遺物】なし。

【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、覆土の特徴から平安時代と考えられる。また、形状から炭窯の可能性ある。

(永嶋)

**第9号性格不明遺構 (SX09) (図118、写真85)**

【検出位置】IV Y177・178グリッドに位置する。V・VI層で検出した。

【重複】第136号土坑と重複しており、本遺構が新しい。

【規模と形状】長軸約2.6m・短軸約1.5mの歪な楕円形状を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは27cmで、断面方形状を呈する。底面はほぼ平坦である。

【堆積土】1層に分層した。黒褐色土である。比較的大ぶりのロームブロックなどが混入し、人為堆積と考えられる。

【出土遺物】土師器等が出土したが、小片のため図示しなかった。

【小結】重複関係から、平安時代10世紀後半以降に構築され廃絶したと考えられる。

(久保)

**第21号性格不明遺構 (SX21) (図118、写真103)**

【検出位置】V O144グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】第9号堅穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。

【規模と形状】長軸約4m・短軸約1mの歪な楕円形状を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは18cmで、断面皿状を呈する。底面は丸底である。



【堆積土】2層に分層した。黒褐色土である。崩落土や流入土による自然堆積と考えられる。

【出土遺物】土師器等が出土したが、小片のため図示しなかった。

【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、軸方向が周辺の遺構と同じであることから、平安時代と考えられる。 (久保)

#### 第22号性格不明遺構 (SX22) (図119)

【検出位置】V0144グリッドに位置する。VI層で検出した。本遺構は、平成9年度の弘前市教育委員会による調査で、一部トレンチ調査が行われており、第6号住居跡として報告されている。

【重複】第9号竪穴建物跡と重複しており、本遺構が古い。

【規模と形状】残存部で長軸約2.6m・短軸約60cmの長方形を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは12cmで、断面皿状を呈する。底面は丸底である。

【堆積土】弘前市教育委員会調査によると、上層が黒褐色土、下層が暗褐色土の2層に分層されている。

【出土遺物】土師器等が出土したが、小片のため図示しなかった。

【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、軸方向が周辺の遺構と同じであることから、平安時代と考えられる。 (久保)

#### 第89号性格不明遺構 (SX89) (図119)

【検出位置】IV T187グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】なし。

【規模と形状】長軸約96cm・短軸約72cmの隅丸長方形を呈する。壁は段を有して緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは18cmで、底面はほぼ平坦である。

【出土遺物】なし。

【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、周辺遺構同様に平安時代の可能性がある。 (永嶋)

#### 第90号性格不明遺構 (SX90) (図119)

【検出位置】IV T187グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】なし。

【規模と形状】長軸約66cm・短軸約60cmの歪な形を呈する。壁は一部垂直であるが、他は緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは24cmで、底面はほぼ平坦である。

【出土遺物】なし。

【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、周辺遺構同様に平安時代の可能性がある。 (永嶋)

#### 第112号性格不明遺構 (SX112) (図119・158、写真104)

【検出位置】IVW186・187グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】東側を現代の攪乱によって欠する。

【規模と形状】長軸約2.2m・短軸約1.9mであり、本来は隅丸方形あるいは隅丸長方形を呈するもの

と考えられる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは30cmで、断面箱形を呈する。底面は平坦である。

【堆積土】3層に分層した。暗褐色土主体であり、ロームブロックの混入が多く、人為堆積と考えられる。

【出土遺物】覆土の上位で、土師器甕の底部片と須恵器甕の胴部片が出土した。粘土質溶解物も出土した。

【小結】出土遺物より、平安時代と考えられる。(永嶋)

#### 第113号性格不明遺構 (SX113) (図119・158, 写真104)

【検出位置】VA179グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】なし。

【規模と形状】一辺約2.5mのやや歪な隅丸方形を呈する。壁はほぼ垂直立ち上がる。検出面からの深さは20～30cmで、底面はほぼ平坦である。

【堆積土】6層に分層した。黒色土主体であり、ロームブロックを多く含んでおり、人為堆積と考えられる。

【出土遺物】覆土中より、土師器甕の底部破片が出土した。

【小結】出土遺物より、平安時代と考えられる。(永嶋)

#### 第114号性格不明遺構 (SX114) (図119, 写真104)

【検出位置】IVX180グリッドに位置する。VI層で検出した。

【規模と形状】長軸約1.1m・短軸約0.8mの楕円形状を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは18cmで、断面碗状を呈する。底面はほぼ平坦である。

【堆積土】周辺部と共にロームブロックを多く含む黒褐色土が堆積していた。

【出土遺物】なし。

【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、覆土の特徴より平安時代と考えられる。また周辺部と同じ堆積土で埋まっており、本来は周辺を含めたより大きな遺構であったと考えられる。(永嶋)

#### 第115号性格不明遺構 (SX115) (図119, 写真104)

【検出位置】IVX180グリッドに位置する。VI層で検出した。

【重複】なし。

【規模と形状】長軸約1.9m・短軸約0.5mである。検出面からの深さは12cmで、断面箱形を呈する。底面はほぼ平坦である。

【出土遺物】なし。

【小結】帰属時期の詳細は不明であるが、周辺遺構と同様に平安時代と考えられる。(永嶋)

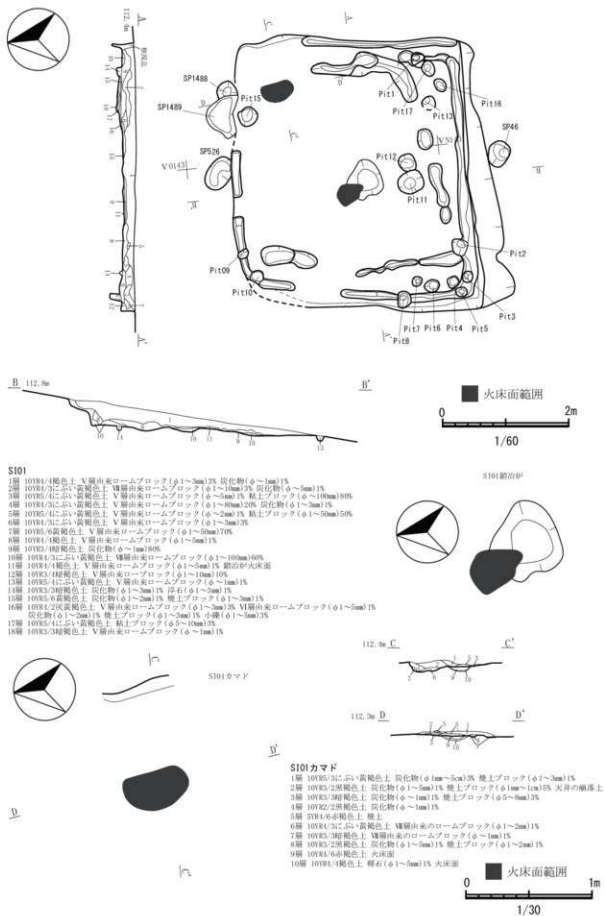


図9 第1号竪穴建物跡

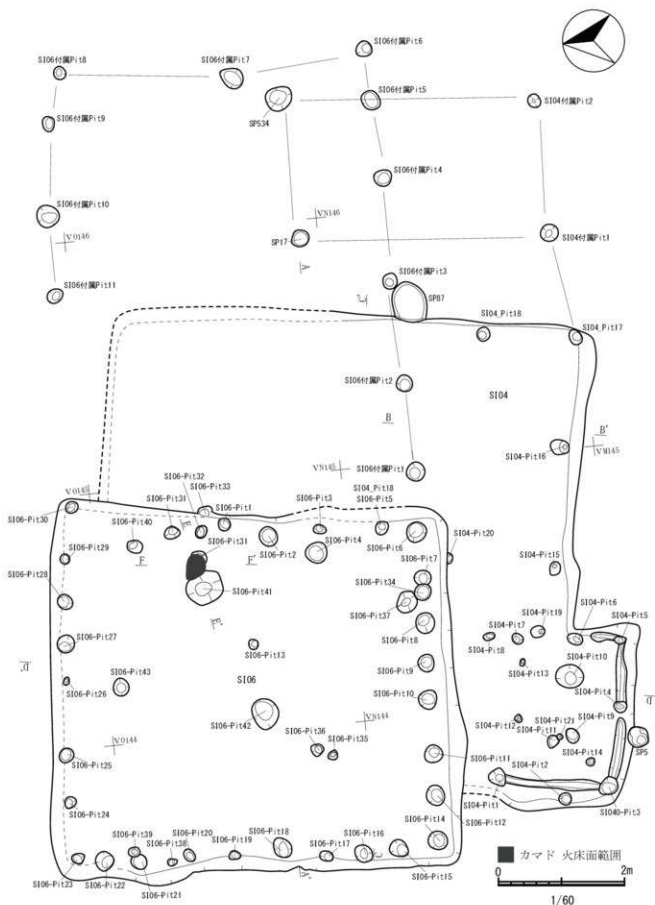
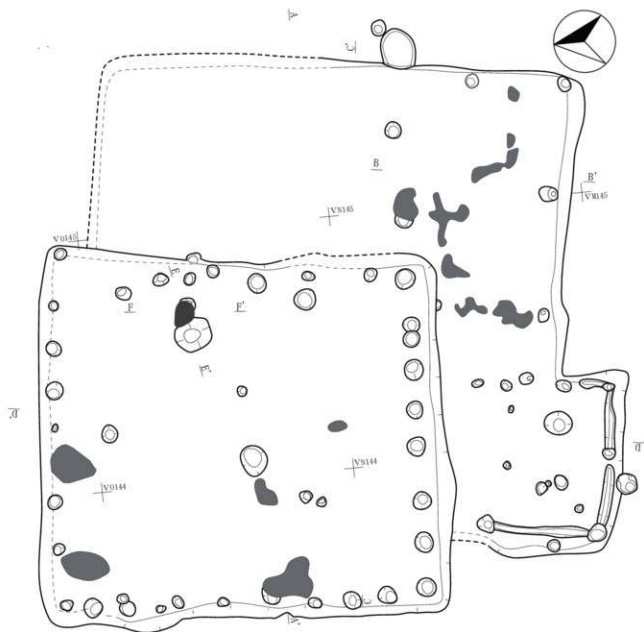


図10 第4・6号竪穴建物跡(1)



## S104

- 1層 10182/2黒褐色土 VI層由束ROOMブロック(φ1~1m)1% 炭化物(φ1~5mm)1%
- 2層 10183/3暗褐色土
- 3層 10184/2C黄褐色土 VI層由束ROOMブロック(φ1~5m)1% 炭化物(φ1~5mm)1% 焼土ブロック(φ1~5m)1%
- 4層 10183/4暗褐色土 VI層由束ROOMブロック(φ1~5m)1% 炭化物(φ1~5m)1% 焼土ブロック(φ1~5m)1%
- 5層 10184/6褐色土 VI層由束ROOMブロック(φ1~10m)1% 炭化物(φ1~10)1% 焼土ブロック(φ1~15m)2%
- 6層 10185/4にぶい黄褐色土 VI層由束ROOMブロック(φ1~5m)3% 炭化物(φ1~15m)2% 焼土ブロック(φ1~3m)1% VI層由束ROOMブロック(φ1~20m)2%
- 7層 10185/4にぶい黄褐色土 VI層由束ROOMブロック(φ1~8m)1% 炭化物(φ1~8m)3%
- 8層 10185/3にぶい黄褐色土 VI層由束ROOMブロック(φ1~8m)1% 炭化物(φ1~5m)1%
- 9層 10182/4暗褐色土 VI層由束ROOMブロック(φ1~8m)1%
- 10層 10184/8褐色土 VI層由束ROOMブロック(φ1~8m)1% 炭化物(φ1~5m)3%
- 11層 10184/4褐色土 VI層由束ROOMブロック(φ1~8m)1% 炭化物(φ3~10m)7%
- 12層 10184/3にぶい黄褐色土 VI層由束ROOMブロック(φ1~8m)1% 炭化物(φ1~5m)3%
- 13層 10183/4暗褐色土 VI層由束ROOMブロック(φ1~8m)1%

■ 焼土範囲

■ カマド 火床面範囲

0 2m

1/60

図11 第4・6号竪穴建物跡(2)

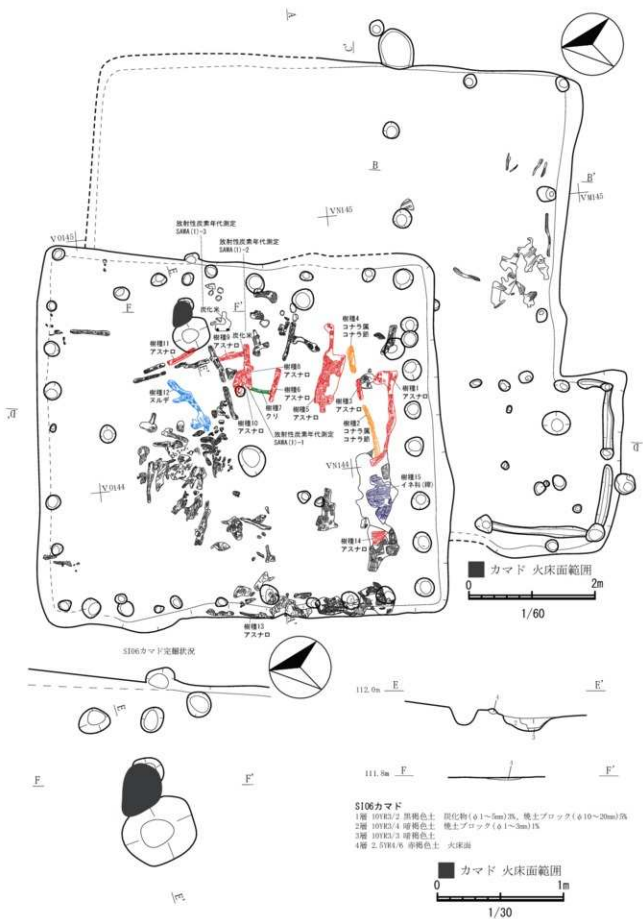


図12 第4・6号竪穴建物跡(3)

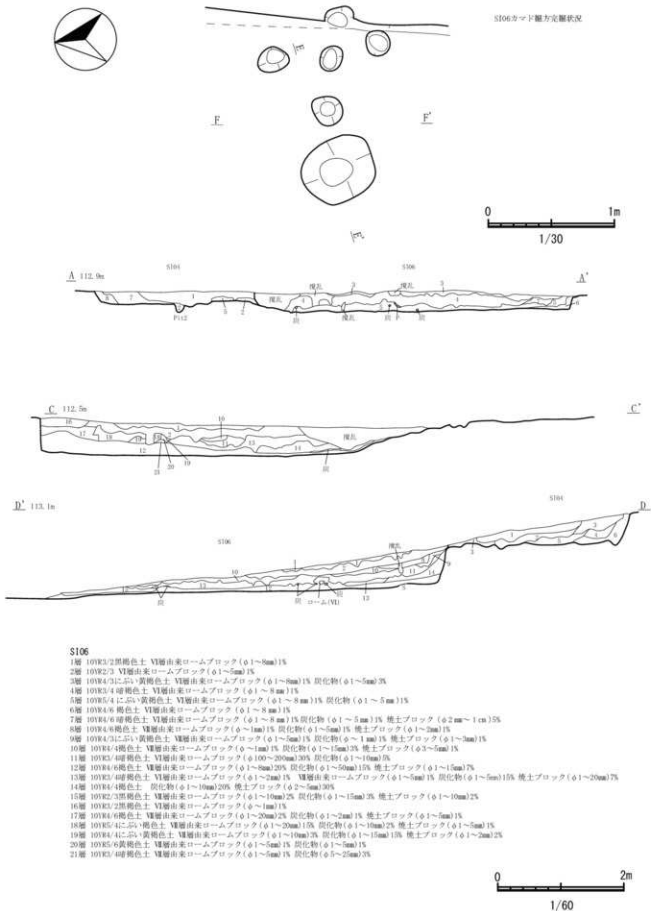
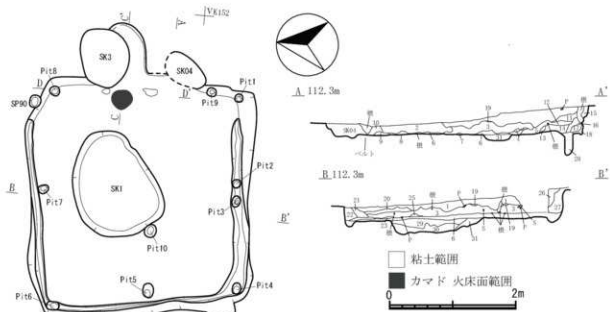
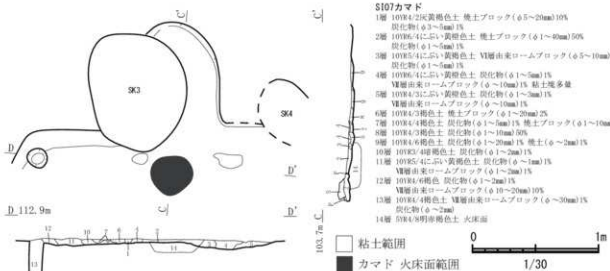


図13 第4・6号竪穴建物跡(4)



- S107**
- 1層 10YR/4褐色土 V層由來ロームブロック(φ~30cm)1% VI層由來ロームブロック(φ1~45cm)5% 炭化物(φ1~15cm)5% 焼土ブロック(φ1~20cm)2%
  - 2層 10YR5/4C2.5黄褐色土 VI層由來ロームブロック(φ1~5cm)2% 炭化物(φ5~10cm)1%
  - 3層 10YR/3暗褐色土 VI層由來ロームブロック(φ1~30cm)2% 焼土ブロック(φ5~20cm)1% 炭化物(φ1~3cm)1% V層由來ロームブロック(φ1~5cm)1%
  - 4層 10YR5/4C2.5黄褐色土 粘土ブロック(φ5~20cm)50%
  - 5層 10YR/4C2.5黄褐色土 VI層由來ロームブロック(φ1~5cm)1% 焼土ブロック(φ1~2cm)1% 炭化物(φ3~10cm)1%
  - 6層 10YR3/4暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ2~5cm)1%
  - 7層 10YR2/3暗褐色土 炭化物(φ~5cm)10%
  - 8層 10YR5/4C2.5黄褐色土 V層由來ロームブロック(φ5~10cm)2% 炭化物(φ2~5cm)1% 焼土ブロック(φ2~40cm)1%
  - 9層 10YR2/3暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ10~40cm)2% 炭化物(φ1~2cm)1%
  - 10層 10YR3/4暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ~6cm)1% 炭化物(φ1~6cm)2%
  - 11層 10YR4/6褐色土 VI層由來ロームブロック(φ1~30cm)2% 炭化物(φ1~2cm)1%
  - 12層 10YR5/4C2.5黄褐色土 V層由來ロームブロック(φ3~10cm)2% V層由來ロームブロック(φ1~2cm)2% 炭化物(φ1~2cm)1%
  - 13層 10YR5/4C2.5黄褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~2cm)1%
  - 14層 10YR4/3C2.5黄褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~3cm)2% VI層由來ロームブロック(φ2~15cm)2% 炭化物(φ3~3cm)1%
  - 15層 10YR4/4C2.5黄褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~2cm)1% 炭化物(φ6cm)1%
  - 16層 7.5R4/6褐色土 VI層由來ロームブロック(φ1~15cm)2% 炭化物(φ~2cm)1%
  - 17層 10YR5/4C2.5黄褐色土 VI層由來ロームブロック(φ1~15cm)5% 炭化物(φ1~3cm)1%
  - 18層 10YR4/6褐色土 V層由來ロームブロック(φ10~40cm)1%
  - 19層 10YR5/4C2.5黄褐色土 炭化物(φ~1cm)1% V層由來ロームブロック(φ1~3cm)1% V層由來ロームブロック(φ~3cm)1%
  - 20層 10YR3/4暗褐色土 焼土ブロック(φ2~5cm)1% V層由來ロームブロック(φ1~3cm)1% VI層由來ロームブロック(φ1~15cm)5% 炭化物(φ1~10cm)1%
  - 21層 10YR3/4暗褐色土 VI層由來ロームブロック(φ1~30cm)2% 炭化物(φ~1cm)1% V層由來ロームブロック(φ1~100cm)5%
  - 22層 10YR3/4暗褐色土 焼土ブロック(φ~10cm)1% 炭化物(φ~1cm)1% V層由來ロームブロック(φ~50cm)20%
  - 23層 10YR4/3C2.5黄褐色土 VI層由來ロームブロック(φ1~40cm)10%
  - 24層 7.5R4/6褐色土 V層由來ロームブロック(φ~20cm)70%
  - 25層 10YR3/4暗褐色土 VI層由來ロームブロック(φ1~5cm)2% 炭化物(φ1~2cm)1%
  - 26層 10YR3/4暗褐色土 VI層由來ロームブロック(φ~3cm)1% 炭化物(φ~5cm)1%
  - 27層 10YR3/4暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~3cm)1% 炭化物(φ1~2cm)1% V層由來ロームブロック(φ~70cm)2%
  - 28層 10YR3/4暗褐色土 VI層由來ロームブロック(φ1~5cm)1% 炭化物(φ~1cm)1% P14層土
  - 29層 10YR5/4C2.5黄褐色土 VI層由來ロームブロック(φ5~10cm)1% V層由來ロームブロック(φ10~30cm)1% 焼土ブロック(φ~10cm)1%
  - 30層 10YR3/4暗褐色土 炭化物(φ~5cm)1% V層由來ロームブロック(φ~10cm)1% V層由來ロームブロック(φ5~50cm)30%
  - 31層 10YR3/4黄褐色土 V層由來ロームブロック(φ10~50cm)30% 炭化物(φ1~5cm)1%



- S107カマド**
- 1層 10YR/2灰黄褐色土 焼土ブロック(φ5~20cm)10%
  - 2層 炭化物(φ3~5cm)5%
  - 3層 10YR5/4C2.5黄褐色土 焼土ブロック(φ1~40cm)50% 炭化物(φ1~5cm)1%
  - 4層 10YR5/4C2.5黄褐色土 VI層由來ロームブロック(φ5~10cm)1% 炭化物(φ1~5cm)1%
  - 4層 10YR5/4C2.5黄褐色土 炭化物(φ1~5cm)1%
  - 4層 10YR5/4C2.5黄褐色土 炭化物(φ~10cm)1% 粘土塊多量
  - 5層 10YR4/3C2.5黄褐色土 炭化物(φ1~3cm)1% V層由來ロームブロック(φ~10cm)1%
  - 6層 10YR4/3褐色土 焼土ブロック(φ1~20cm)2%
  - 7層 10YR4/4褐色土 炭化物(φ1~3cm)1% 焼土ブロック(φ1~15cm)1%
  - 8層 10YR4/3褐色土 炭化物(φ1~10cm)50%
  - 9層 10YR4/6褐色土 炭化物(φ1~20cm)1% 焼土(φ~2cm)1%
  - 10層 10YR3/4暗褐色土 炭化物(φ1~2cm)1%
  - 11層 10YR5/4C2.5黄褐色土 炭化物(φ~1cm)1% V層由來ロームブロック(φ1~2cm)1%
  - 12層 10YR4/6褐色土 炭化物(φ1~2cm)1% V層由來ロームブロック(φ10~20cm)10%
  - 13層 10YR4/4褐色土 V層由來ロームブロック(φ~30cm)1% 炭化物(φ~2cm)
  - 14層 5YR4/8明赤褐色土 火床面

図14 第7号竪穴建物跡



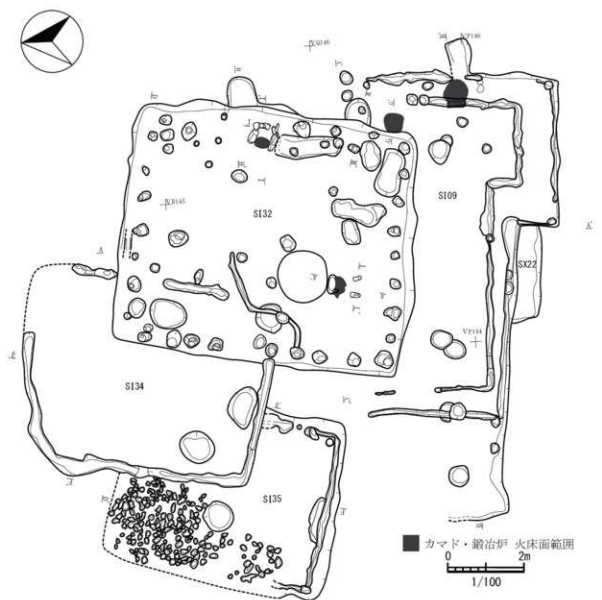


図15 第9・32・34・35号竪穴建物跡(1)

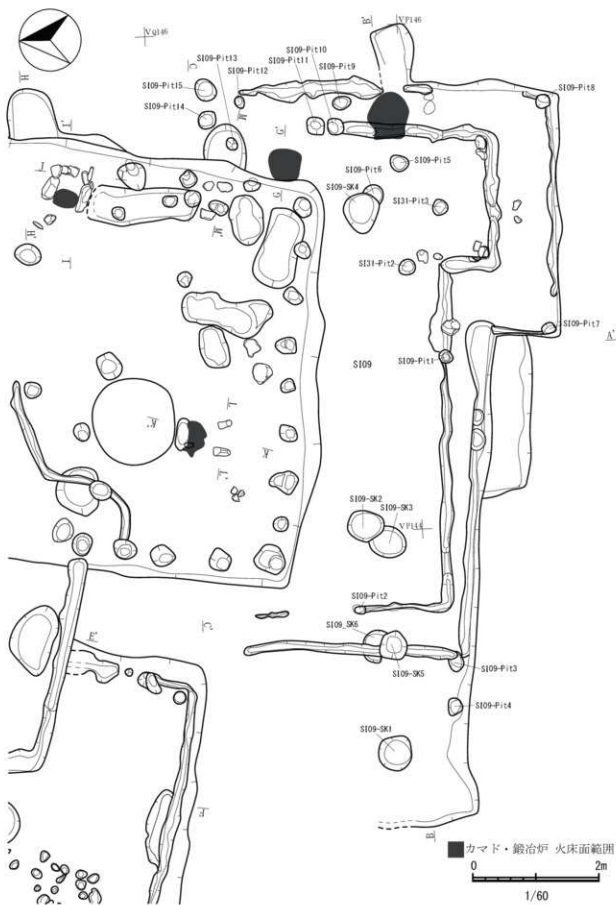


図16 第9・32・34・35号竪穴建物跡(2)

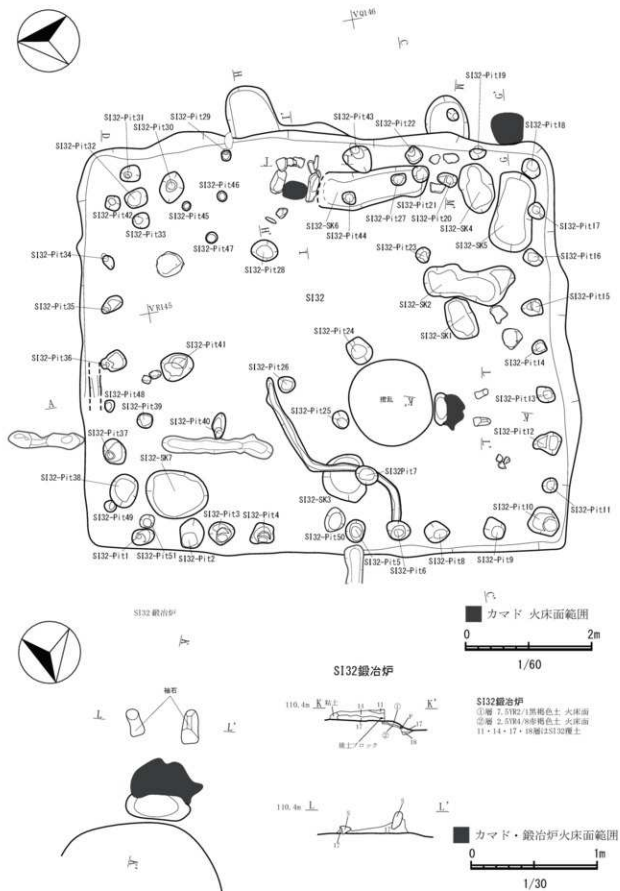


図17 第9・32・34・35号竪穴建物跡(3)

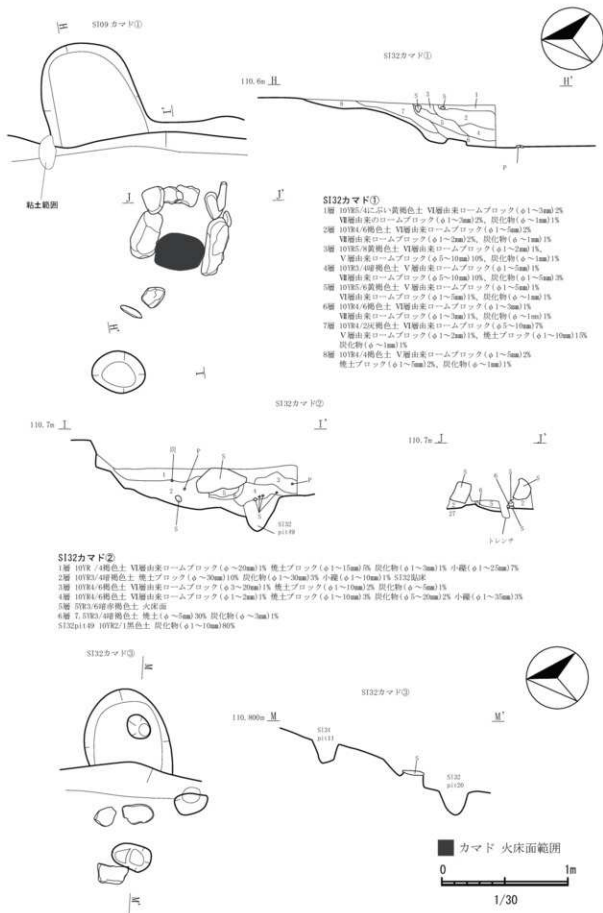


図18 第9・32・34・35号竪穴建物跡(4)



图19 第9・32・34・35号竖穴建物跡(5)

S100

- 1層 10TR4/2Cに5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% 粘土ブロック(φ5~10mm)7% 炭化物少
- 2層 10TR4/2B黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% 粘土ブロック(φ1~2mm)15% 炭化物少
- 2層 10TR3/4暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~5mm)25% V層由来ロームブロック(φ1~5mm)25% 粘土ブロック15% 炭化物有
- 4層 10TR4/1Cに5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)10%土 V層由来ロームブロック(φ1~5mm)25% 炭化物少
- 5層 10TR4/1Bに5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)10% V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% 粘土ブロック(φ1~2mm)15% 炭化物少
- 6層 10TR4/1Aに5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~20mm)12% V層由来ロームブロック(φ1~10mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~10mm)15% 炭化物(φ1~10mm)1%
- 7層 10TR4/6褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~10mm)15% 炭化物物極小
- 8層 10TR5/6黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~20mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~10mm)25% V層由来ロームブロック(φ20~70mm)25% 炭化物物極小
- 10層 10TR5/4Cに5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% 炭化物(φ1mm)1%
- 10層 10TR5/4Bに5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% 炭化物(φ1~2mm)1%
- 11層 10TR5/4Cに5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% 炭化物(φ1~2mm)1%
- 12層 10TR5/6黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~20mm)10% V層由来ロームブロック(φ1~10mm)10% 炭化物(φ1~10mm)1% 浮石(φ~20mm)
- 13層 10TR4/4褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~20mm)10% V層由来ロームブロック(φ5~10mm)5% 浮石(φ10~20mm)5%
- 14層 10TR5/3Cに5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)10% 炭化物(φ1~10mm)20% 浮石(φ1~5mm)15% V層由来ロームブロック30%
- 15層 10TR4/4褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~5mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~5mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~5mm)15% 炭化物(Φ1mm)1%
- 16層 10TR5/4Cに5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~20mm)10% V層由来ロームブロック(φ1~10mm)15% 炭化物(φ1~10mm)1%
- 17層 10TR5/6黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~5mm)40% V層由来ロームブロック(φ1~5mm)40%
- 18層 10TR5/4Cに5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~5mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~5mm)15%
- 19層 10TR4/6褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~5mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~5mm)15%
- 20層 10TR4/6褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~5mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~7mm)12% V層由来ロームブロック(φ1~20mm)7% 粘土ブロック(φ1~1mm)1% 炭化物(φ1~5mm)1%
- 20層 10TR5/4Cに5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)25% V層由来ロームブロック(φ1~5mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~10mm)25% 炭化物(φ1~5mm)1%
- 21層 5TR4/1に5赤褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)1% V層由来ロームブロック(φ50~100mm)100% 炭化物(φ1~10mm)2%
- 22層 10TR4/4に5赤褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)1% 粘土ブロック(φ1~1mm)1% 炭化物(φ1~3mm)1%
- 23層 10TR4/6黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~3mm)1% V層由来ロームブロック(φ1~3mm)1% 炭化物(φ1~2mm)1%
- 24層 10TR3/8黄褐色土 粘土ブロック(φ1~1mm)1%
- 25層 5TR3/4暗赤褐色土 S109マッド状床面

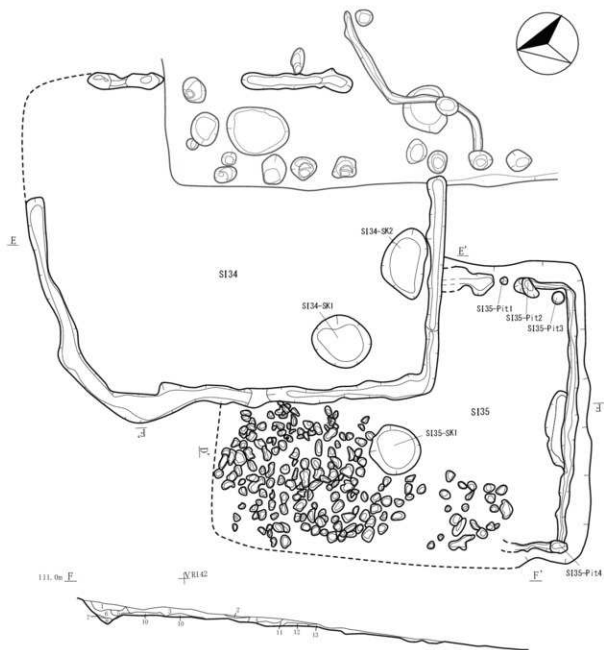
S132

- 1層 10TR2/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ2~5mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~5mm)15% 粘土ブロック(φ1~5mm)15% 炭化物(φ1~10mm)1%
- 2層 10TR2/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~10mm)15% 粘土ブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ1~3mm)2%
- 3層 10TR2/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~15mm)25% 粘土ブロック(φ1~10mm)25% 炭化物(φ1~5mm)1%
- 4層 10TR1/2に5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~1mm)15% 粘土ブロック(φ1~1mm)1%
- 5層 10TR2/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)100% 粘土ブロック(φ1~1mm)1%
- 6層 10TR4/4褐色土 粘土ブロック(φ1~2mm)15% 炭化物(φ1~1mm)1%
- 7層 10TR2/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~5mm)15% 炭化物(φ1~2mm)1%
- 8層 10TR2/2暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~1mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~3mm)15% 粘土ブロック(φ1~10mm)15% 炭化物(φ1~10mm)15%
- 9層 10TR1/2に5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~1mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~30mm)10% 粘土ブロック(φ1~15mm)25% 炭化物(φ1~10mm)1%
- 10層 10TR3/4暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~5mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~100mm)20% 粘土ブロック(φ1~2mm)12% 炭化物(φ1~10mm)7%
- 11層 10TR4/6褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% V層由来ロームブロック(φ10~100mm)125% 粘土ブロック(φ2~5mm)1%
- 12層 10TR4/4褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~1mm)15% 炭化物(φ1~1mm)1%
- 13層 10TR3/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)15% V層由来ロームブロック(φ5~30mm)25% 粘土ブロック(φ2~10mm)15% 炭化物(φ1~15mm)7%
- 14層 10TR4/4暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~30mm)25% 粘土ブロック(φ2~15mm)15% 炭化物(φ1~1mm)1%
- 15層 10TR4/6褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~1mm)15% 粘土ブロック(φ1~1mm)15% 炭化物(φ1~1mm)1%
- 16層 10TR4/4褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~20mm)25% 炭化物(φ1~5mm)1%
- 17層 10TR2/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ5~20mm)30% 粘土ブロック(φ1~2mm)3% 炭化物(φ1~30mm)30% カマド遺構土
- 18層 10TR4/1に5赤褐色土 粘土ブロック(φ1~10mm)20% 炭化物(φ1~2mm)1% カマド遺構土
- 19層 7.5TR3/1暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~5mm)15% 粘土ブロック(φ1~10mm)10% 炭化物(φ1~5mm)1% カマド遺構土
- 20層 10TR5/6黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~5mm)15% V層由来ロームブロック(φ2~5mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~20mm)20% 粘土ブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ1~3mm)1%
- 21層 10TR4/3に5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~5mm)15% 炭化物(φ1~1mm)1%
- 22層 10TR4/4暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ2~5mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% 炭化物(φ1~1mm)1%
- 23層 10TR2/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~3mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~20mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~25mm)20% 粘土ブロック(φ1~2mm)2%
- 24層 10TR4/4暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% 粘土ブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ1~3mm)1%
- 25層 10TR4/2C黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~5mm)25% 炭化物(φ1mm)1% S109マッド状床面
- 26層 10TR5/4に5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% 粘土ブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ1~1mm)1%
- 27層 10TR4/6褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~20mm)10% 炭化物(φ1~2mm)1% 粘土
- 28層 10TR4/4褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~20mm)5% V層由来ロームブロック(φ1~40mm)30% 粘土ブロック(φ1~10mm)20% 炭化物(φ1~10mm)25%
- 29層 10TR4/6褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% 炭化物(φ1~2mm)1%
- 30層 10TR4/4褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~10mm)15% 粘土ブロック(φ2~100mm)20% 粘土ブロック(φ1~10mm)1%
- 炭化物(φ1~10mm)1%
- 31層 10TR4/1に5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)25% V層由来ロームブロック(φ1~50mm)30% 粘土ブロック(φ10~70mm)30% 粘土ブロック(φ1~1mm)25% 炭化物(φ1~20mm)2%
- 32層 10TR4/4褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~1mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~10mm)25% V層由来ロームブロック(φ1~15mm)25% 粘土ブロック(φ1~20mm)3% 粘土ブロック(φ1~10mm)25% 炭化物(φ2~3mm)1%
- 33層 10TR4/6褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% V層由来ロームブロック(φ5~100mm)80% 粘土ブロック(φ10~20mm)5% 粘土ブロック(φ1~10mm)15% 炭化物(φ1~5mm)1%

S134

- 1層 10TR3/4暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)25% 粘土ブロック(φ1~20mm)5% 炭化物(φ1~10mm)3%
- 2層 10TR4/4褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~5mm)35% V層由来ロームブロック(φ1~10mm)35% 粘土ブロック(φ1~10mm)35% 炭化物(φ1~3mm)1%
- 3層 10TR4/4褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)25% V層由来ロームブロック(φ1~2mm)25% 粘土ブロック(φ1~2mm)15% 炭化物(φ1~2mm)10%
- 4層 10TR5/6黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~15mm)35% V層由来ロームブロック(φ5~25mm)20% V層由来ロームブロック(φ5~25mm)10%
- 5層 10TR5/6黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~3mm)15% V層由来ロームブロック(φ1~5mm)15% 炭化物(φ1~2mm)1%
- 6層 10TR5/4Cに5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)15% 粘土ブロック(φ1~10mm)25% 炭化物(φ1~2mm)1%
- 7層 10TR3/2暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~3mm)25% V層由来ロームブロック(φ2~60mm)25% 粘土ブロック(φ1~3mm)25% 炭化物(φ1~10mm)2%
- 8層 10TR4/1に5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~5mm)15% 粘土ブロック(φ1~2mm)15% 炭化物(φ1~10mm)25%
- 9層 10TR4/4褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~15mm)25% 粘土ブロック(φ1~3mm)25% 炭化物(φ1~1mm)25%
- 10層 10TR4/4褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~3mm)15% V層由来ロームブロック(φ2~15mm)25% 粘土ブロック(φ1~3mm)15% 炭化物(φ1~2mm)2%
- 11層 10TR4/3に5黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)25% V層由来ロームブロック(φ1~20mm)25% V層由来ロームブロック(φ1~20mm)25% 粘土ブロック(φ1~1mm)25% 粘土ブロック(φ1~10mm)3%

図20 第9・32・34・35号竪穴建物跡(6)



## S135

- 1層 10YK3/4暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~20mm)10% VI層由束ロームブロック(φ5~30mm)10% VII層由束ロームブロック(φ10~20mm)1%  
 焼土ブロック(φ1~5mm)1% 炭化物(φ3~10mm)1%
- 2層 10YK3/4暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~5mm)1% VI層由束ロームブロック(φ1~5mm)1% VII層由束ロームブロック(φ1~10mm)1%  
 焼土ブロック(φ~1mm)1% 炭化物(φ1~10mm)1%
- 3層 10YK1/6暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~30mm)3% VI層由束ロームブロック(φ1~20mm)1% VII層由束ロームブロック(φ1~40mm)3%
- 4層 10YK3/4暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~5mm)1% VI層由束ロームブロック(φ2~30mm)1% VII層由束ロームブロック(φ5~20mm)1%  
 焼土ブロック(φ1~10mm)1% 炭化物(φ1~10mm)1%
- 5層 10YK3/4暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~20mm)5% VI層由束ロームブロック(φ10~30mm)20% VII層由束ロームブロック(φ1~5mm)1%  
 6層 10YK3/4暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~20mm)10% VI層由束ロームブロック(φ1~25mm)1% VII層由束ロームブロック(φ~10mm)1%  
 炭化物(φ3~10mm)1%
- 7層 10YK2/3暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~10mm)1% VII層由束ロームブロック(φ~10mm)1% 炭化物(φ~1mm)1%
- 8層 10YK3/4暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ~15mm)1% VI層由束ロームブロック(φ1~50mm)50% VII層由束ロームブロック(φ~30mm)5% 炭化物(φ1~5mm)1%
- 9層 10YK1/6暗褐色土 焼土ブロック(φ~1mm)1% 炭化物(φ~1mm)1% VI層由束ロームブロック(φ1~10mm)1% V層由束ロームブロック(φ1~10mm)1%
- 10層 10YK3/4暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~10mm)1% VI層由束ロームブロック(φ1~10mm)1% VII層由束ロームブロック(φ5~10mm)1%
- 11層 10YK3/4暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~10mm)1% VI層由束ロームブロック(φ1~10mm)1% VII層由束ロームブロック(φ1~10mm)1%  
 焼土ブロック(φ1~5mm)1% 炭化物(φ1~10mm)1%
- 12層 10YK3/4暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~5mm)1% VI層由束ロームブロック(φ1~50mm)40% 炭化物(φ1~3mm)1%
- 13層 10YK3/4暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~10mm)1% VI層由束ロームブロック(φ1~30mm)5% 焼土ブロック(φ~1mm)1% 炭化物(φ~1mm)1%

0 2m

1/60

図21 第9・32・34・35号竪穴建物跡(7)

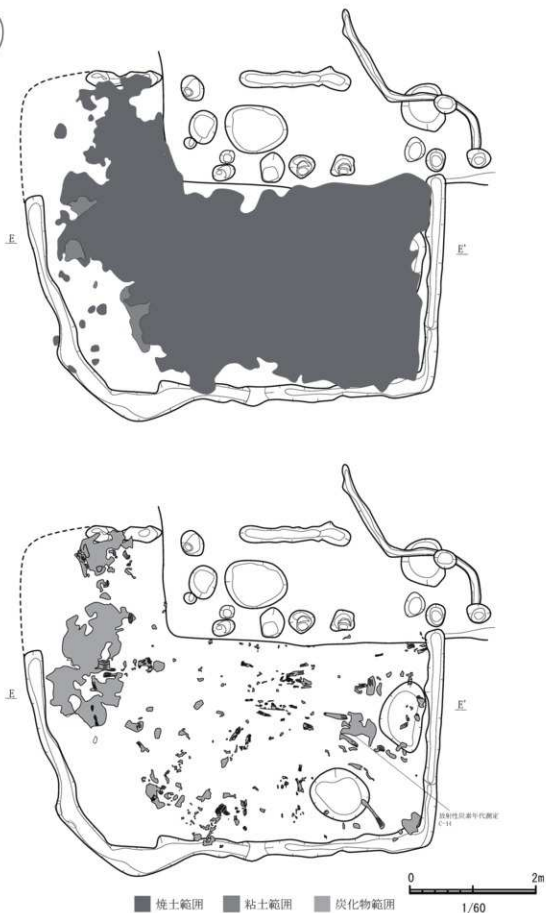


图22 第9·32·34·35号竖穴建物跡(8)



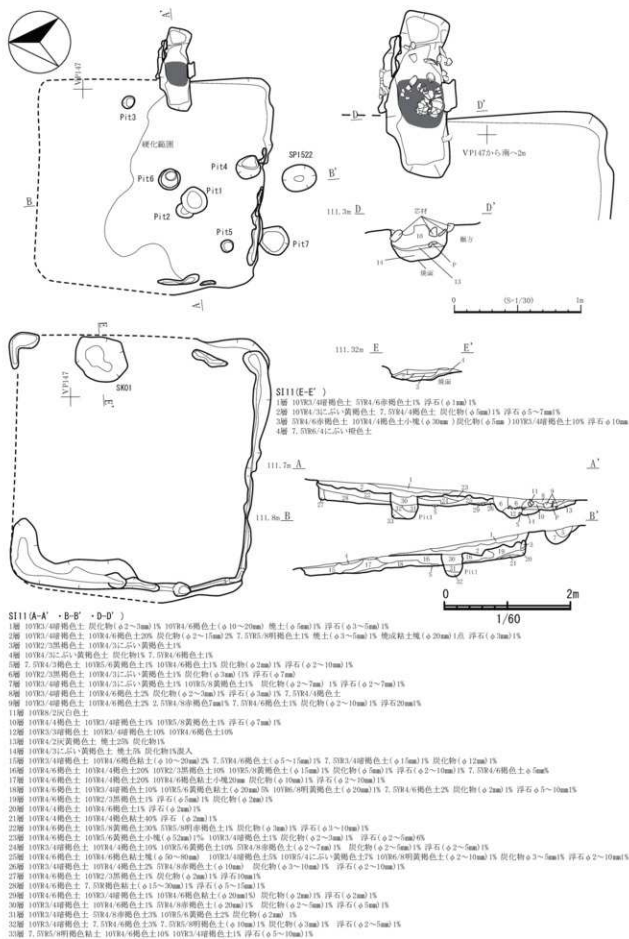
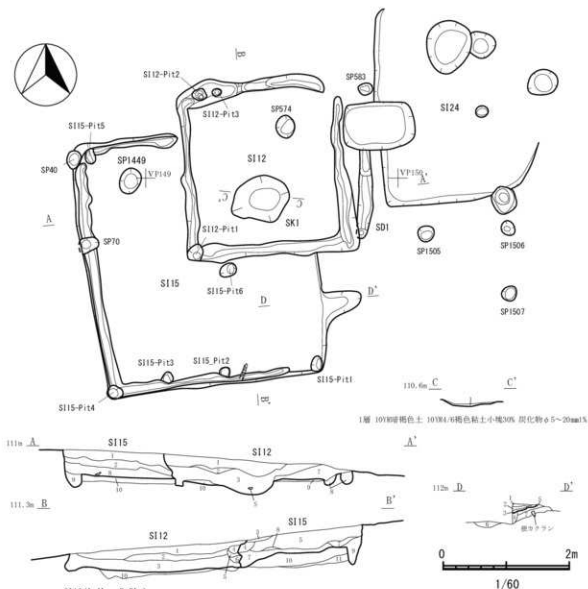


図23 第11号竪穴建物跡



SI12(A-A'・B-B')

- 1層 10YR3/2暗褐色土 10YR4/6褐色土1% 7.5YR5/9明褐色土3% 炭化物(φ1~20mm)1% 浮石(φ2~10mm)1%
- 2層 10YR黒褐色土 7.5YR4/4褐色土10% 炭化物(φ2~20mm)1% 浮石(φ15mm)1%
- 3層 10YR2/3暗褐色土 10YR5/6黄褐色土10% 10YR4/6褐色土1% 炭化物(φ2~20mm)1% 浮石(φ1~5mm)1%
- 4層 10YR3/3暗褐色土 10YR4/4褐色土1% 10YR3/6褐色土(φ3mm)1% 炭化物(φ1~5mm)1% 浮石(φ5mm)1%
- 5層 10YR3/3暗褐色土 V層由束土1% 10YR4/6褐色土(φ30mm)1%
- 6層 10YR3/3暗褐色土 V層由束土小塊(φ70mm)20%
- 7層 10YR4/3にふい黄褐色土 V層由束土小塊(φ10~50mm)
- 8層 10YR6/6明黄褐色土 V層由束土小塊(φ30mm)
- 9層 10YR5/5黄褐色土(φ5mm)1% 10YR3/3暗褐色土5% 炭化物(φ3mm)1%
- 10層 10YR5/4にふい黄褐色土 無く締まる

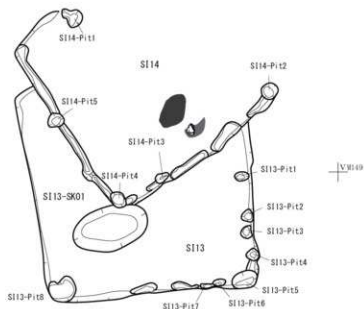
SI15(A-A'・B-B')

- 1層 10YR2/3暗褐色土 V層由束土1% 10YR3/6暗褐色土1% 共層(φ2~10mm)1%
- 2層 10YR2/3暗褐色土 10YR4/6褐色土30% 7.5YR 4/6褐色土1% 浮石(φ2~10mm) 炭化物1%
- 3層 10YR3/3暗褐色土 10YR6/6明黄褐色土1% 浮石(φ3mm)1%
- 4層 10YR3/3暗褐色土 10YR4/6褐色土2% 10YR5/4にふい黄褐色粘土1% 炭化物1mm1% 浮石(φ1~3mm)1%
- 5層 10YR3/3暗褐色土 10YR5/4にふい黄褐色粘土小塊(φ10~70mm)3% 10YR4/6褐色土(φ5~10mm)1%炭化物(φ1~5mm)1%
- 6層 10YR3/3暗褐色土 10YR5/4にふい黄褐色粘土(φ5mm)1% 10YR2/2暗褐色土 1%
- 7層 10YR3/3暗褐色土 10YR5/4にふい黄褐色粘土小塊(φ10~100mm)10% 7.5YR4/6褐色土(φ20mm)1%炭化物(φ1~20mm)5%浮石φ1~5mm1%
- 8層 10YR6/6明黄褐色土(φ20mm)小塊 浮石φ5~10mm1% V層由束土小塊微量
- 9層 10YR5/4にふい黄褐色土V層由束土小塊20%
- 10層 10YR4/3にふい黄褐色土 V層由束土小塊40%
- 11層 10YR3/3暗褐色土 V層由束土小塊20%

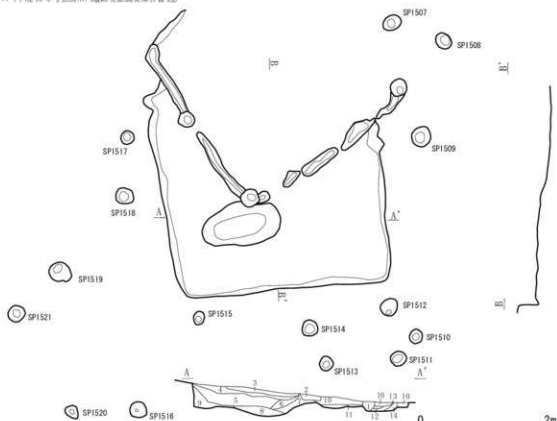
SI15(D-D')

- 1層 10YR3/3暗褐色土 10YR5/3にふい黄褐色土20% 10YR6/6明黄褐色土10% 浮石(φ1mm~2mm)1%
- 2層 10YR4/2黄褐色粘土 10YR4/3黄褐色土50% 10YR6/3にふい黄褐色土10% 炭化物(φ5mm)1%
- 3層 10YR4/3黄褐色土 10YR5/3にふい黄褐色土30% 10YR 6暗褐色土10mm2%
- 4層 10YR6/3にふい黄褐色粘土 10YR5/3にふい黄褐色土20% 20YR/4にふい黄褐色土(φ10mm)2% 炭化物(φ3mm)1%
- 5層 20YR4/4褐色土 10YR5/3にふい黄褐色土20% 10YR6/2黄褐色土20% 浮石(φ1mm~3mm)1% 10YR2/2暗褐色土1% 10YR5/8黄褐色土10%
- 6層 20YR3/6赤褐色土 7.5YR4/4褐色土10% 浮石(φ1mm)1%
- 7層 10YR4/6褐色土 V層由束土 炭化物(φ1mm)1% 浮石φ1mm1%

図24 第12・15号竪穴建物跡



以下平成9年度弘前市教育委員会による発掘調査図に加工・  
再トレース（平成10年『弘前市内遺跡発掘調査報告書2』）



#### B12 第2号住居跡 (A-A')

- 1層 黒褐色土10YR3/2しまりあり。層性ややあり。炭化物、焼土、IV層の靨を含む。
- 2層 灰黄褐色土10YR4/2しまりあり。層性少ない。焼土を多量に含む。
- 3層 黒褐色土10YR2/2しまりあり。層性ややあり。炭化物・焼土、IV層の靨を含む。
- 4層 暗褐色土10YR3/3しまり。層性ややあり。炭化物、焼土、IV層の靨を含む。
- 5層 黒褐色土10YR2/2しまり。層性あり。炭化物、焼土、IV層の靨を含む。
- 6層 近い黄褐色土10YR4/3しまりあり。層性ややあり。IV層のプロットの痕跡が目立つ。炭化物、焼土を含む。
- 7層 暗褐色土10YR3/3しまりゆるく。層性ややあり。IV層のプロットの痕跡が目立つ。炭化物、焼土を含む。
- 8層 暗褐色土10YR3/2しまりゆるく。層性ややあり。炭化物を含む。
- 9層 黒褐色土10YR3/2しまりややあり。層性あり。IV層のプロットを多量に含む。
- 10層 近い黄褐色土10YR4/3しまりあり。層性少ない。炭化物、IV層の靨を含む。
- 11層 近い黄褐色土10YR4/3とてもよくしまっている。層性少ない。炭化物、IV層の靨を含む。
- 12層 黒褐色土10YR3/2しまりややあり。層性ややあり。IV層のプロット、炭化物を含む。
- 13層 黒褐色土10YR3/2しまりややあり。層性あり。IV層の靨を含む。
- 14層 黒褐色土10YR2/2しまりややあり。層性あり。IV層の痕跡が目立つ。

図25 第13・14号竪穴建物跡

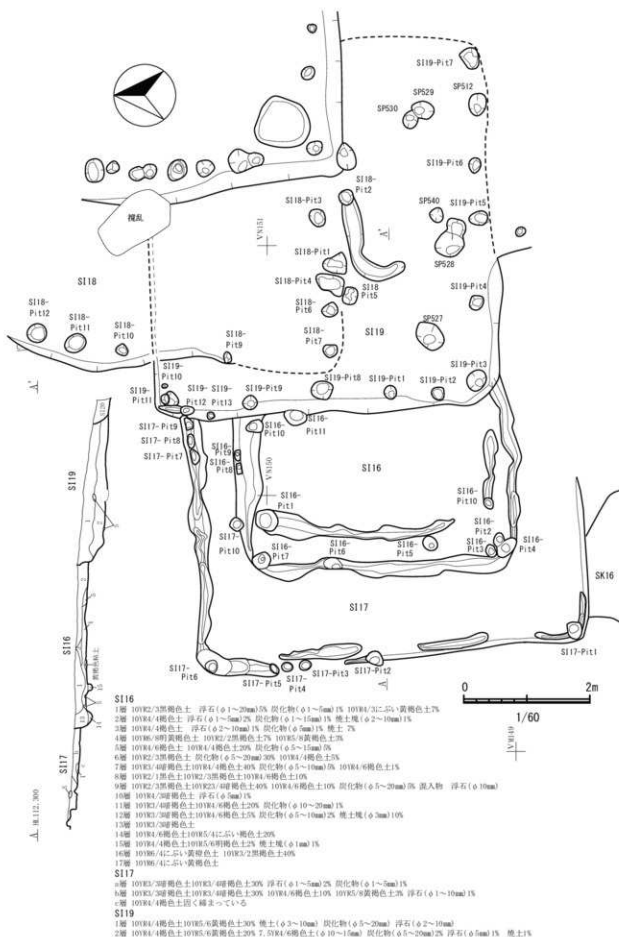


図26 第16・17・18・19号竪穴建物跡

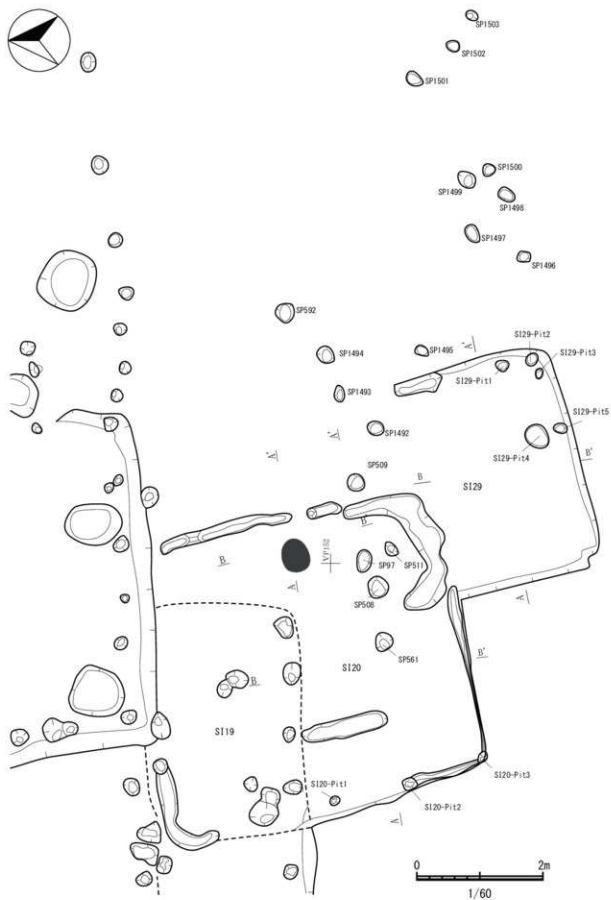
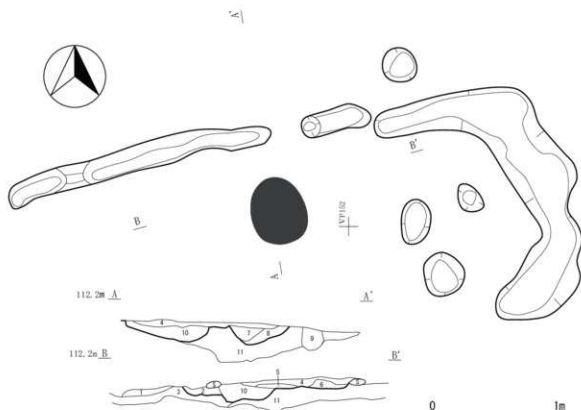


図27 第20・29号竪穴建物跡（1）



112.2m A

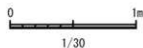
A'

112.2m B

B'

**S120カマド(A-A'・B-B')**

- 1層 10YR4/6褐色土 浮石(φ1~5mm)1% 炭化物(φ1mm)1%
- 2層 10YR4/6褐色土 10YR4/4褐色土20%
- 3層 10YR5/4L2.5Y黄褐色土 10YR4/4褐色土20% 炭化物(φ1mm)1%
- 4層 10YR4/4褐色土 10YR4/2L2.5Y黄褐色土30% 10YR5/6黄褐色土塊(φ20mm)炭化物(φ1mm)3% 5YR4/6赤褐色土30% 5YR3/4暗褐色土20%
- 5層 10YR4/4褐色土 5YR6/4赤褐色土30% 5YR4/4L2.5Y黄褐色土30%
- 6層 10YR5/6黄褐色土 10YR5/4L2.5Y黄褐色土30%編まりあり 10YR4/6褐色土10%
- 7層 10YR4/6褐色土 10YR3/4暗褐色土20%
- 8層 10YR4/4褐色土 10YR4/2L2.5Y黄褐色土20% 炭化物(φ1mm)1%
- 9層 10YR4/2L2.5Y黄褐色土 10YR3/4暗褐色土30% 10YR4/4褐色土20% 炭化物(φ1mm~3mm)1%
- 10層 5YR4/6赤褐色土(焼土粒) 7.5YR4/4褐色土10% 炭化物(φ1mm)1%
- 11層 10YR4/6褐色土 10YR6/8暗黄褐色土(φ2~3mm)1% 炭化物(φ1~2mm)1% 浮石(φ1~10mm)1%



113.6m A

A'

113.6m B

B'

**S120(A-A'・B-B')**

- 1層 10YR4/2L2.5Y黄褐色土 10YR4/2L黄褐色土30%10YR4/4褐色土10%
- 2層 10YR4/2L2.5Y黄褐色土 10YR4/4褐色土40% 10YR4/6褐色土20% 10YR5/6黄褐色土20%編まりあり 炭化物(φ5~30mm)3%
- 3層 10YR4/2L黄褐色土

112.9m A

A'

112.9m B

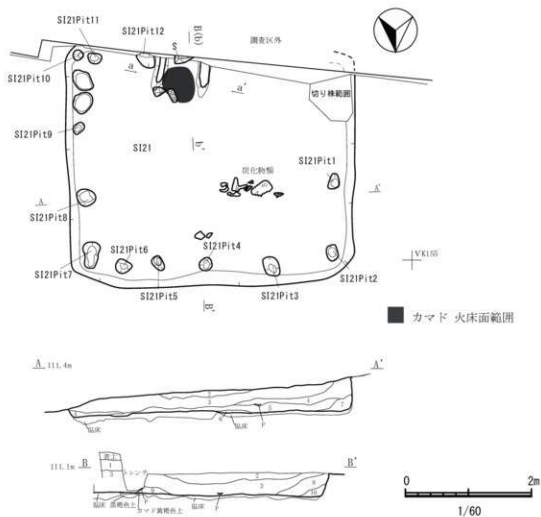
B'



**S129(A-A'・B-B')**

- 1層 10YR5/4L2.5Y黄褐色土 10YR4/4褐色土30% 10YR4/6褐色土小塊(φ25~50mm) 10YR7/8黄褐色土(φ10mm) 炭化物(φ5~7mm)1% 浮石(φ5~10mm)1%
- 2層 10YR4/2L2.5Y黄褐色土 10YR5/4L2.5Y黄褐色土30% 10YR4/6褐色土小塊(φ10mm)1% 炭化物(φ2~15mm)3% 浮石(φ2~20mm)3%
- 3層 10YR3/4暗褐色土 10YR2/3黑褐色土30% 10YR4/4褐色土10% 浮石(φ1mm)1% 炭化物(φ1mm)1%

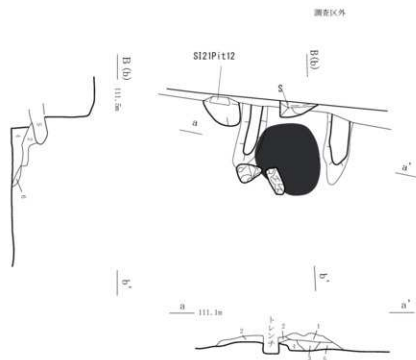
図28 第20・29号竪穴遺構(2)



## S121

- 1層 109K3/2 黒褐色 ピンクロームφ2~3mm% 黄褐色ロームφ10~30mm% 焼土(1mm)% 炭化物(2~5mm)%  
 2層 109K5/3 濃い黄褐色 ローム(に濃い黄砂10W7/4)φ5~50mm% 浮石φ5~10mm% 粗土状の砂塊を含むφ5mm以下2% 球状の砂片を含むφ2mm以下1%  
 3層 109K4/4 褐色 ロームφ5~30mm% 浮石φ3~30mm% 5~10mmの網を少量含む 炭化物φ2~5mm%  
 4層 109K5/4 濃い黄褐色 黄褐色ローム(109K5/6)φ10~30mm% ピンクローム 褐色109K4/6φ10mm% 炭化物φ2~3mm%  
 5層 109K3/4 暗褐色 ロームφ2~20mm%~2% ピンクロームφ30mm% 炭化物φ1~10mm%  
 6層 109K3/4 暗褐色 炭化物φ1~30mm%以上を含む ピンクロームφ20mm%  
 7層 109K4/4 褐色 ロームφ1~3mm% 炭化物φ1mm%  
 8層 109K5/4 濃い黄褐色 ピンクロームブロックφ20~70mm% 明黄褐色ロームφ20~40mm% 濃い黄褐色ロームφ5~20mm% 炭化物10mm以下1%  
 9層 109K3/4 暗褐色 明黄褐色ロームφ5~20mm% ピンクロームブロック(30mm以下)2% 炭化物φ1~2mm% 焼土(φ1mm)%  
 10層 109K3/4 暗褐色 黄褐色ロームφ10~40mm% ピンクロームφ10~40mm% 炭化物φ3mm%  
 貼床種土 黒褐色土60% 千皮浮石層10%(V層) ピンクローム10%(V層) VI層20%の黒土層

図29 第21号竪穴建物跡(1)



**S121カマド**

- 1層 10YR4/3 に近い黄褐色 焼土 焼色(7.5YR4/3)φ1~30mmの塊あり30%
- 黄褐色ローム(10YR5/6)φ1~10mm1% 灰黄褐色(10YR4/2)少量含む カマド天井部陥落積土
- 2層 10YR3/4 暗褐色 炭が土壌化したものに少量のロームが混入 灰化物φ1~5mm2% 焼土少量混入
- 3層 10YR3/3 暗褐色 焼土φ1~5mm30% ロームφ1~40mm10% 土壌化した炭を少量含む 炭入土
- 4層 10YR2/3 黒褐色 ロームφ2~10mm3% 灰化物φ2~10mm以下10% 焼土φ2~5mm1% 炭入土
- 5層 10YR3/4 暗褐色 に近い黄褐色ローム(10YR5/6)少量含む 一部に焼土塊有り 土壌化した炭が一部混じる カマドツツの一部
- 6層 10YR4/3 に近い黄褐色 土壌化した炭にロームが少量混じる 焼土φ5~20mm3% 灰化物φ1~5mm以下1% カマド天井部陥落土



S121 カマド遺物出土状況

図30 第21号竪穴建物跡(2)



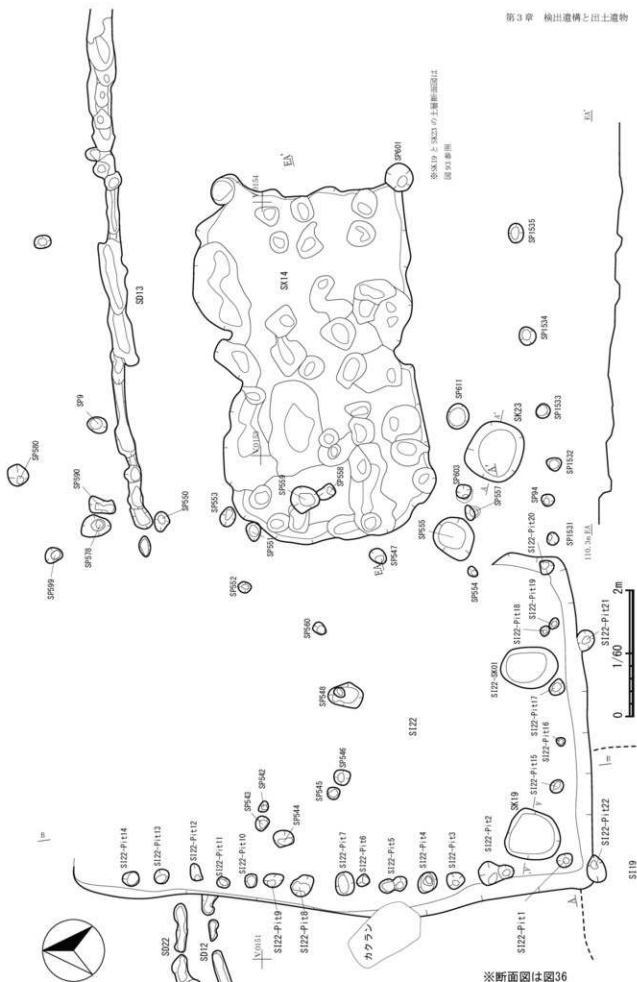
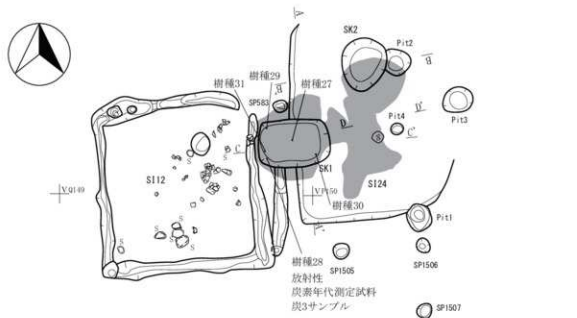


図31 第22号竪穴遺構・第14号性格不明遺構



S124内SK1 (A-A'・C-C')

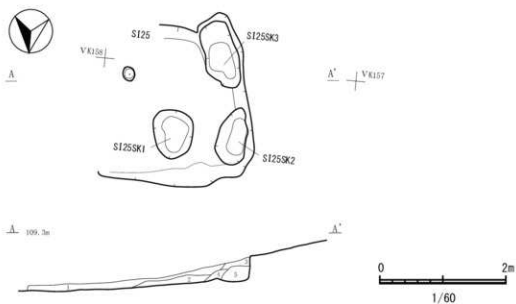
- 1層 10YR2/3黒褐色土 10YR5/4に濃い黄褐色粘土(φ2~10mm) 1% 5YR4/4に濃い赤褐色土(φ20mm) 1% 浮石(φ2~4mm) 1% 炭化物(φ1~5mm) 1% (焼土)
- 2層 砂浮層 7.5YR3/4暗褐色土 10YR2/1黒色土20% 黒褐色土30% 5YR3/4暗赤褐色土(焼土)10% 10YR5/8黄褐色土5% 炭化物(φ5mm) 10%
- 3層 10YR3/4暗褐色土 10YR2/3黒褐色土3% 10YR5/8黄褐色土1% 7.5YR4/6暗褐色土(φ5mm) 1% 炭化物(φ1~15mm) 1% 浮石(φ1~10mm) 1%
- 4層 7.5YR3/4暗褐色土 10YR3/4暗褐色土50% V層土由来
- 5層 7.5YR5/4に濃い赤褐色土(焼土) 7.5YR4/6暗褐色土40% 浮石(φ1mm) 1% 炭化物(φ1mm) 1%
- 6層 2.5YR4/2 オリーブ褐色土10(BK) 炭化物小塊20% 7.5YR5/8明褐色土(焼土) 高 砂浮
- 7層 砂浮層

111.8a B-B' S124内SK2 (B-B')

- 1層 10YR3/4暗褐色土 10YR2/2黒褐色土10% 10YR4/4炭化物(φ1~5mm) 1%
- 2層 10YR1.7/1黒色土 10YR2/3黒褐色土30% 10YR5/4に濃い黄褐色土30%
- 3層 10YR2/3黒褐色土 10YR2/2黒褐色土30% 10YR8/2灰色粘土混合の小塊(φ30mm) 1% 炭化物(φ2~30mm) 10% 浮石(φ1mm) 1%



図32 第24号竪穴建物跡



S125

- 1層 10YR4/4 褐色 黄褐色ロームφ10mm以下1% ピンタロームφ30mm以下1% 炭化物φ10mm以下3% 焼土粒φ2mm以下微量
- 2層 10YR3/4 暗褐色 ピンタロームφ20mm以下0% 黄褐色ロームφ10mm以下2% 炭化物φ10mm以下1% 焼土φ10mm以下微量
- 3層 10YR3/3 暗褐色 ピンタロームφ15mm以下0% 黄褐色ロームφ20mm以下1% 炭化物φ10mm以下1% 焼土φ10mm以下微量
- 4層 10YR3/4 暗褐色 ピンタロームブロックφ30mm以下20% 炭化物φ5mm以下微量
- 5層 10YR3/3 暗褐色 ピンタロームφ25mm以下0% 黄褐色ロームφ10mm以下1% 焼土φ10mm以下微量 炭化物φ10mm以下微量



S125 調査状況

図33 第25号竪穴建物跡

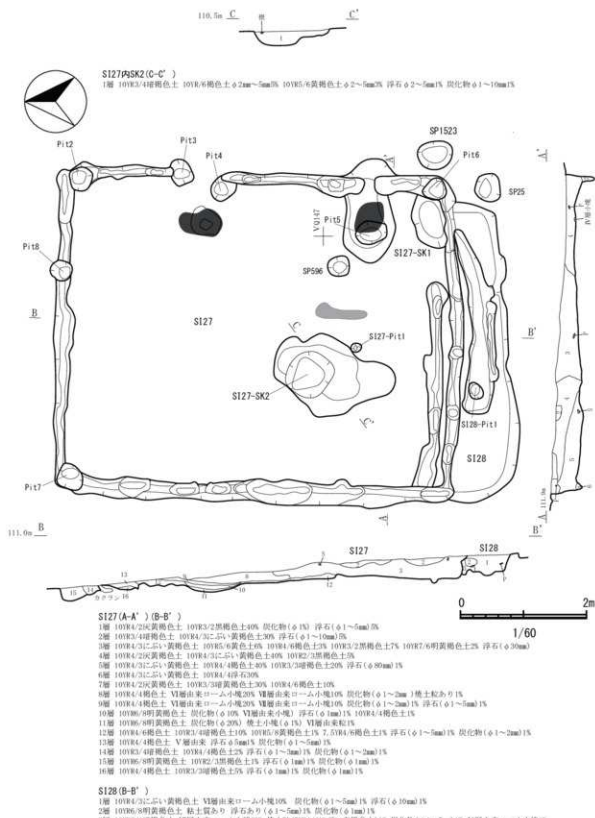
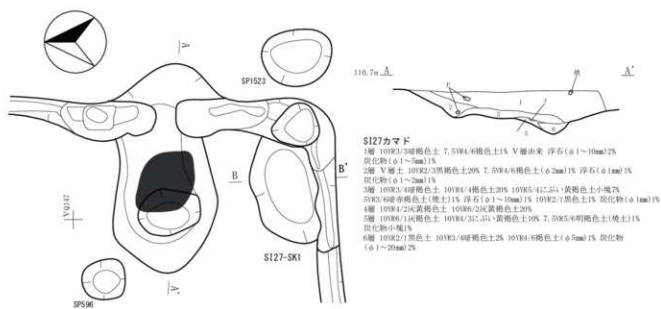
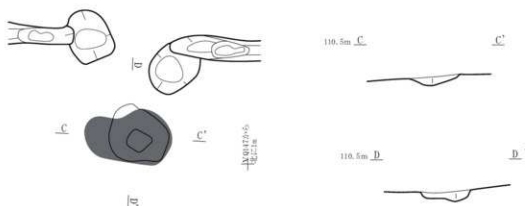


図34 第27・28号竪穴建物跡



## S127カマド

- 1層 10R3/3暗褐色土 7.5R4/6褐色土1% V層由来 浮石(φ1~10mm)2%  
炭化物(φ1~5mm)1%
- 2層 V層土 10R2/3黒褐色土20% 7.5R4/6褐色土(φ2mm)1% 浮石(φ1mm)1%  
炭化物(φ1~2mm)1%
- 3層 10R3/4暗褐色土 10R4/4褐色土20% 10R5/4にぶい黄褐色土小塊2%  
5R3/6暗赤褐色土(塊土)1% 浮石(φ1~10mm)1% 10R2/1黒色土1% 炭化物(φ1mm)1%  
4層 10R4/2浅褐色土 10R6/2浅黄褐色土20%
- 5層 10R4/3浅褐色土 10R4/3にぶい黄褐色土10% 7.5R5/6明褐色土(塊土)1%  
炭化物小塊1%
- 6層 10R2/1黒色土 10R3/4暗褐色土2% 10R4/6褐色土(φ5mm)1% 炭化物  
(φ1~20mm)2%



## S127 2号カマド(G-C'・D-D')

- 1層 10R4/4褐色土 10R5/4にぶい黄褐色土20% 2.5R3/2黒褐色土20% 7.5R5/6明褐色土φ1~7mm(塊土) 炭化物φ1~5mm1% 浮石φ1mm1%



## S127内SK1(B-B')

- 1層 10R4/3にぶい黄褐色土 V層由来ブロック1% 浮石(φ1mm)1% 塊石φ50mm0% 焼土あり1%
- 2層 10R4/3にぶい黄褐色土 V層由来ブロック1% 炭化物(φ5mm) V層由来 浮石(φ1mm)1% 土器1点

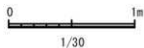
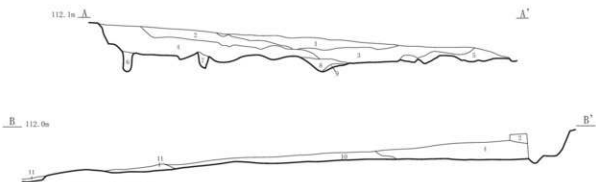


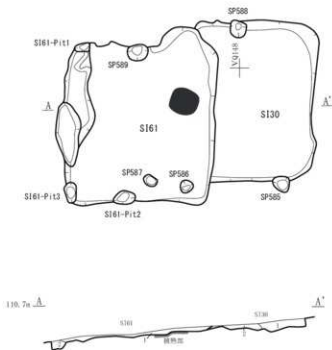
図35 第27号竪穴建物跡



**S122 (A-A'・B-B')**

- 1層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/6暗褐色土30% 浮石(φ5~15mm)2% 焼土塊(φ5mm)1%
- 2層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/6暗褐色土5% 炭化物(φ5mm~10mm)2% 浮石(φ5~15mm)1%
- 3層 10YR4/4褐色土 10R2/3黒褐色土25% 10YR5/6黄褐色土3% 浮石(φ10~25mm)3% 焼土塊(φ20mm)1%
- 4層 10YR4/4褐色土 10R3/4暗褐色土2% 浮石φ15~40mm5% 炭化物(φ5~10mm)1%
- 5層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/4褐色土30% 10YR5/6に2:1黄褐色土20% 炭化物(φ1~10mm)3% 焼土塊(φ5mm)
- 6層 10YR4/4褐色土層より無し
- 7層 10YR4/4褐色土 10YR4/6黄褐色土10% 10YR5/6黄褐色土1%
- 8層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/6褐色土2%層よりあり 炭化物(φ1~10mm) 浮石(φ5mm)1%
- 9層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/6褐色土30% 焼土塊(φ10mm)2% 炭化物(φ10mm)1%
- 10層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/4褐色土15% 10YR5/3に2:1褐色土5% 10YR5/2に黄褐色土1% 10YR6/4に2:1黄褐色土炭化物(φ1mm~10mm)3% 浮石(φ5mm)1%
- 11層 10YR3/4暗褐色土(φ1~3mm) 炭化物2%

※S122 平面図は図 31



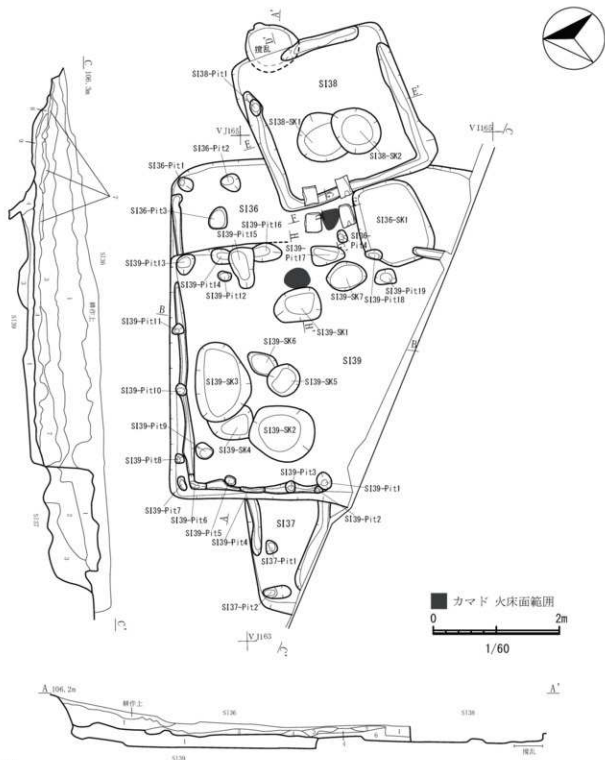
**S130**

- 1層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/4褐色土小塊(φ50mm)1% 炭化物(φ2mm)1%
- 2層 10YR3/4暗褐色土 V層由来 7. 10YR4/6褐色土(焼土)小塊2% 炭化物(φ2~5mm)3% 浮石φ1~5mm)1%

**S161**

- 1層 10YR3/4暗褐色土 10YR4/4褐色土(φ5~10mm)10% 10YR2/1黒色土10% 7. 10YR4/6褐色土(焼土)1% 炭化物(φ1~5mm)1% 浮石(φ1~10mm)1%
- 2層 10YR4/4褐色土 10YR3/4暗褐色土2%

図36 第30・61号竪穴建物跡

**S136**

- 1層 101R3/4暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~5mm)1% VI層由来ロームブロック(φ1~20mm)10% 炭化物(φ1~20mm)7% 粘土ブロック(φ1~2mm)2%  
 2層 101R2/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ~1mm)1% VII層由来ロームブロック(φ1~3mm)2% 炭化物(φ2~20mm)5% 粘土ブロック(φ1~5mm)1%  
 3層 51R5/6暗赤褐色土 VII層由来ロームブロック(φ~30mm)3% 粘土ブロック(φ1~5mm)1% 炭化物(φ1~5mm)1%  
 4層 101R2/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)1% 粘土ブロック(φ1~100mm)10% 炭化物(φ1~70mm)7%  
 5層 101R1/71 黒色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)2% 粘土(φ1~10mm)2% 炭化物(φ1~10mm)50%  
 6層 101R2/3 暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ2~5mm)3% 粘土ブロック(φ1~5mm)1% 炭化物(φ1~5mm)1% VII層由来ロームブロック(φ1~100mm)30%  
 7層 101R3/3 暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~40mm)10% VI層由来ロームブロック(φ1~30mm)10% 粘土ブロック(φ1~20mm)10%  
 粘土ブロック(φ1~20mm)2% 炭化物(φ1~20mm)37%  
 8層 101R2/3 暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)1% VI層由来ロームブロック(φ1~20mm)3% 粘土ブロック(φ1~10mm)2% 炭化物(φ1~10mm)2%  
 9層 101R2/3 暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)1% VII層由来ロームブロック(φ1~20mm)13% 炭化物(φ1~10mm)30%

**S137**

- 1層 101R3/4暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~5mm)1% VII層由来ロームブロック(φ1~20mm)11% 炭化物(φ1~30mm)7% 粘土ブロック(φ1~2mm)2% S177 塵土  
 2層 101R2/3 暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~20mm)5% VII層由来ロームブロック(φ1~30mm)3% 粘土ブロック(φ1~20mm)2% 炭化物(φ1~10mm)3%  
 3層 101R4/4 褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~25mm)7% VI層由来ロームブロック(φ1~30mm)11% 粘土ブロック(φ1~20mm)7% 炭化物(φ1~10mm)7%

図37 第36・37・38・39号竪穴建物跡(1)

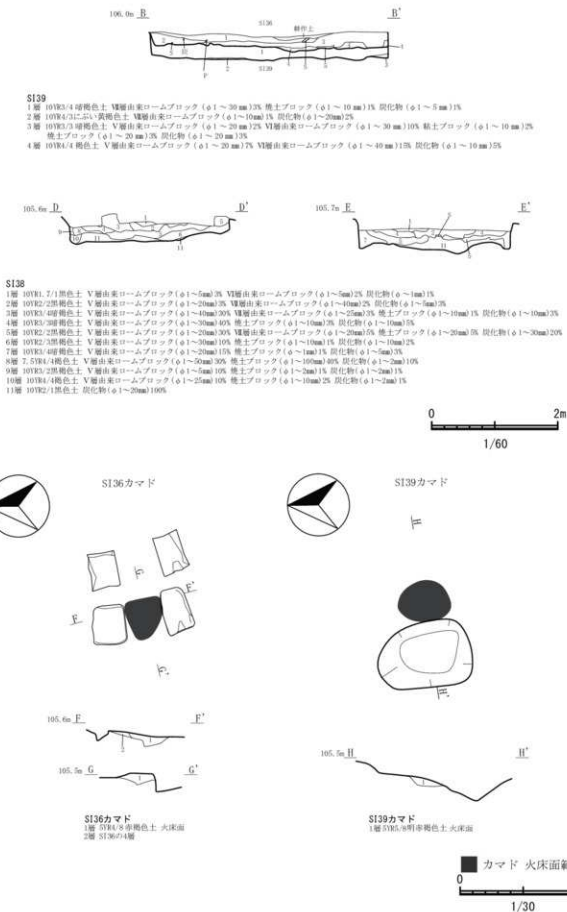


図38 第36・37・38・39号竪穴建物跡(2)



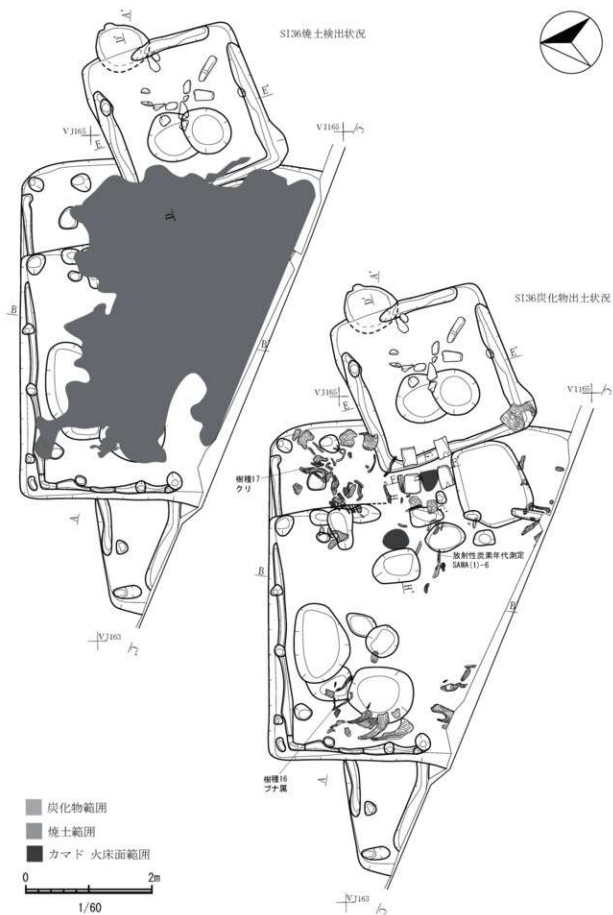


図39 第36・37・38・39号竪穴建物跡(3)

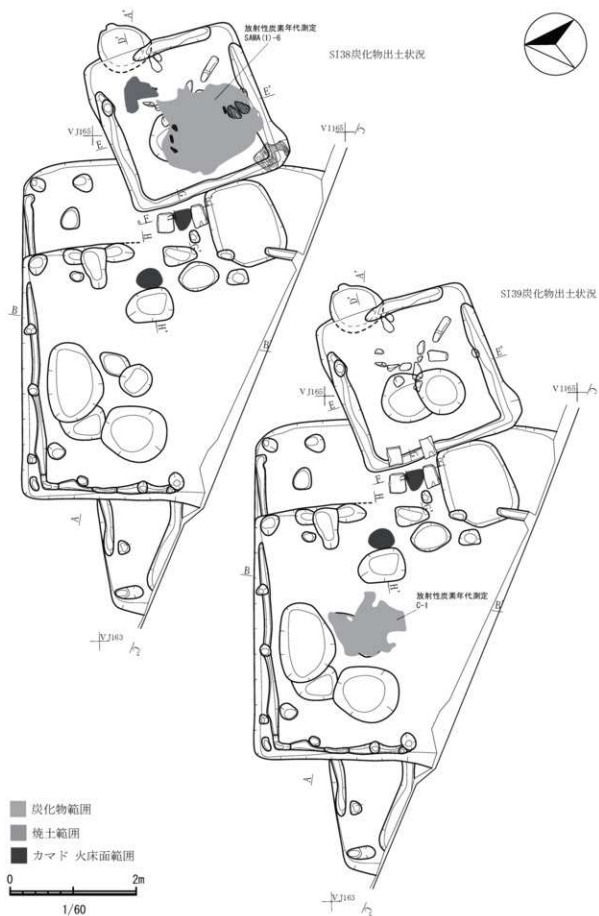
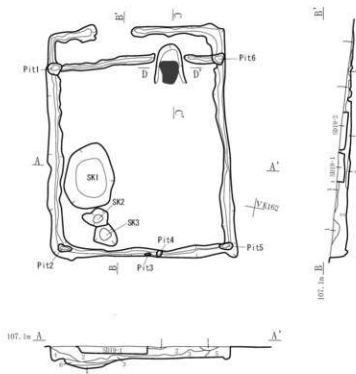


図40 第36・37・38・39号竪穴建物跡(4)



## S140

- 1層 101R2/3黒褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~20mm)7% V層由來ロームブロック(φ1~100mm)10% 炭化物(φ1~5mm)2% 焼土ブロック(φ1~10mm)1%  
 2層 101R2/2暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~50mm)1% V層由來ロームブロック(φ1~70mm)10% 焼土ブロック(φ1~5mm)1% 炭化物(φ1~5mm)1%  
 3層 101R2/3黒褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~10mm)3% V層由來ロームブロック(φ1~10mm)1% 炭化物(φ1~5mm)1%  
 4層 101R2/3黒褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~20mm)5% V層由來ロームブロック(φ1~50mm)2% 炭化物(φ~1mm)1%  
 5層 101R3/4暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~50mm)5% V層由來ロームブロック(φ1~40mm)2% 炭化物(φ1~3mm)1%  
 6層 101R3/4暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~20mm)7% V層由來ロームブロック(φ1~70mm)10% 焼土ブロック(φ~5mm)1% 炭化物(φ1~5mm)1%  
 7層 101R4/6褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~10mm)1% V層由來ロームブロック(φ1~70mm)10% 焼土ブロック(φ1~20mm)3% 炭化物(φ1~5mm)1%

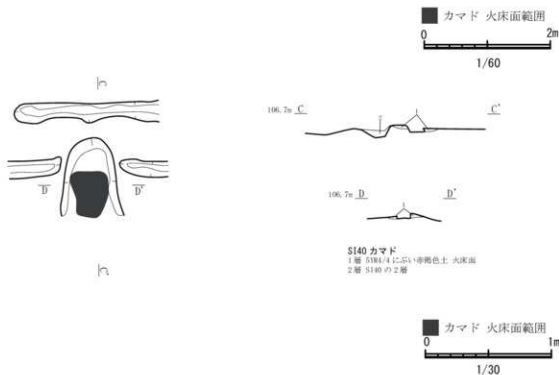


図41 第40号竪穴建物跡

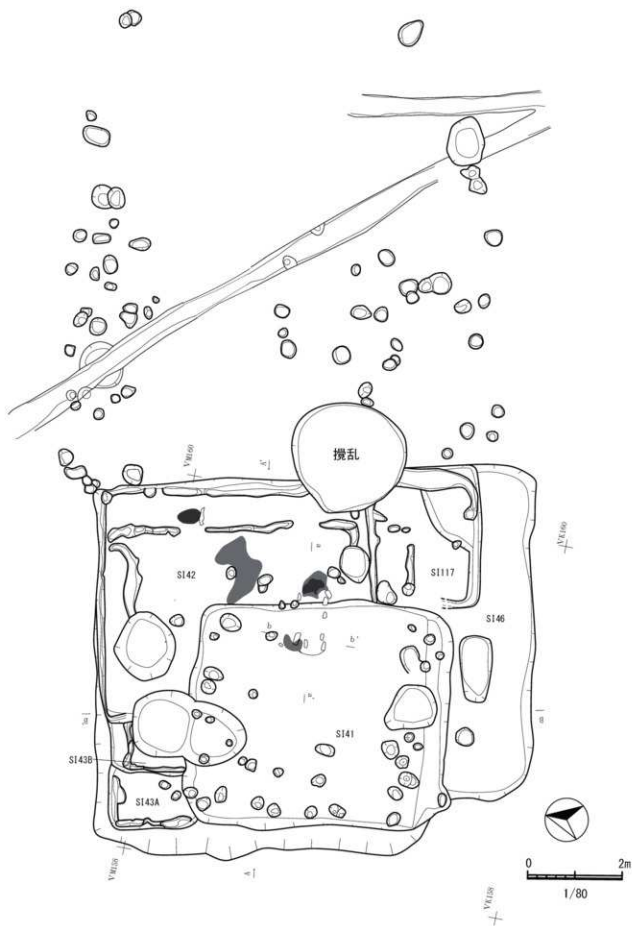
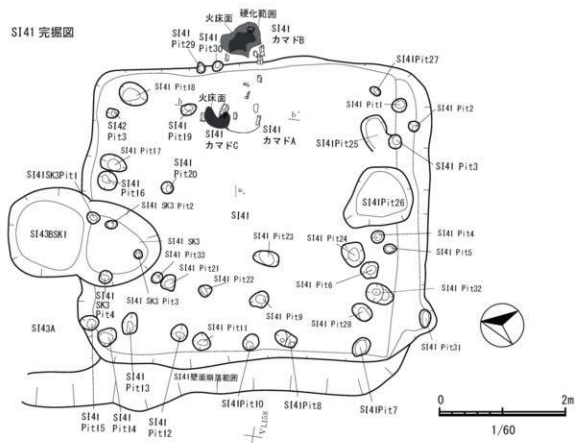


图42 第41・42・43・46・117号竪穴建物跡(1)

S141 完掘図

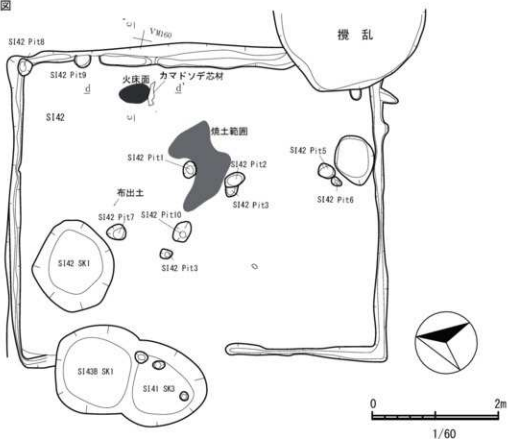


S141 炭化材等出土状況



図43 第41・42・43・46・117号竪穴建物跡(2)

S142 完掘図



S142 炭化材等出土状況

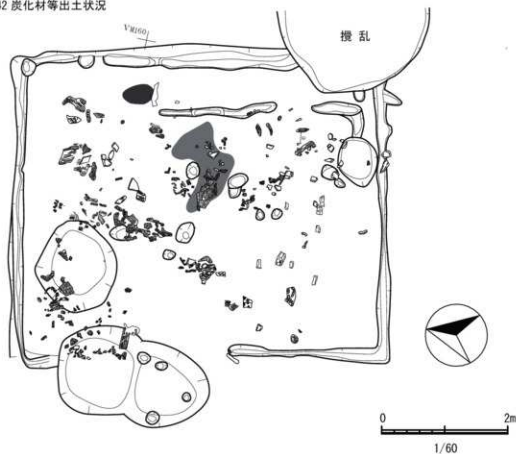


図44 第41・42・43・46・117号竪穴建物跡(3)

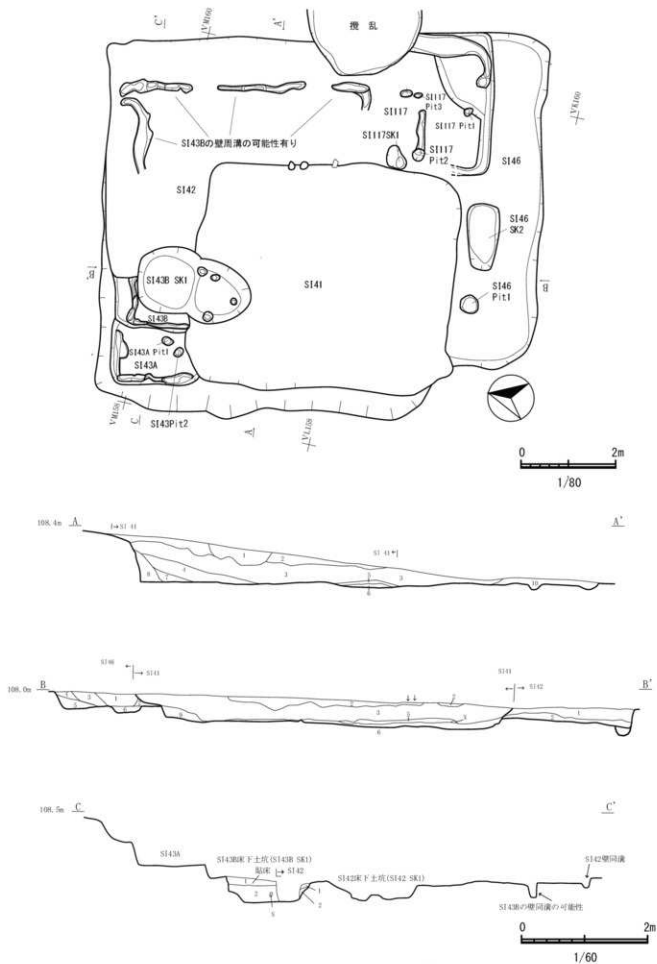


図45 第41・42・43・46・117号竪穴建物跡(4)

SI41

- 1層 10YR3/4 暗褐色 粘土(5YR4/6 褐色)φ1~30mm 30% V層由來ローム(10YR2/6 明黄褐色)φ1~200mm 25% 炭化物φ1mm少量 焼土粒φ1mm微量
- 2層 10YR2/2 黒褐色 V層由來ロームブロックφ1~190mm 粘土(10YR4/6 褐色)φ0.5~30mm 5% 炭化物φ0.5~15mm 2% 焼土粒微量
- 3層 10YR3/4 暗褐色 粘土(10YR4/6 褐色)φ0.5~10mm 10% 炭化物φ0.3~30mm 2% V層由來ロームφ1~2mm少量 焼土粒φ1mm以下少量 浮石少量
- 4層 10YR3/4 暗褐色 粘土(7.5YR4/6 褐色)φ0.2~20mm 7% 粘土(10YR5/6 黄褐色)φ0.2~15mm 5% 炭化物φ2mm以下少量 V層由來ロームφ2mm以下少量
- 5層 10YR3/4 暗褐色 炭化物φ0.1~15mm 5% 粘土(7.5YR4/6 褐色)φ10mm少量 粘土(10YR5/6 黄褐色)φ10mm少量 V層由來ローム微量 炭化材を多量に含む層
- 6層 10YR3/4 暗褐色 粘土(7.5YR4/6 褐色)φ0.3~40mm 3% 粘土(10YR5/6 黄褐色)φ10mm以下少量 炭化物粒少量 焼土(5YR3/6 暗赤色)φ0.5~10mm 3% 一部混じる
- 7層 10YR3/4 暗褐色 粘土(7.5YR4/6 褐色)φ2mm以下少量 粘土(10YR5/6 黄褐色)φ2mm以下少量 炭化物φ2mm以下少量 V層由來ロームφ1mm以下微量
- 8層 10YR3/4 暗褐色 粘土(10YR5/6 黄褐色)φ0.5~100mm 30%の中に褐色粘土混じる 炭化物φ0.1~0.5mm 3% V層由來ロームφ0.1~10mm 2% 浮石微量 焼土粒微量
- 9層 10YR3/4 暗褐色 炭化和混じりの土 50% 粘土(7.5YR4/6 褐色)φ1mm少量 粘土(10YR5/6 黄褐色)φ1mm少量 V層由來ローム少量 炭化物微量
- 10層 10YR3/4 暗褐色 粘土(7.5YR4/6 褐色)φ0.2~15mm 3% 粘土(10YR5/6 黄褐色)φ0.2~15mm 3% 炭化物φ0.1~20mm 5% V層由來ロームφ15mm以下 1% 黒褐色土(10YR2/2)の中に暗褐色土(10YR3/4)混じる 焼土粒少量

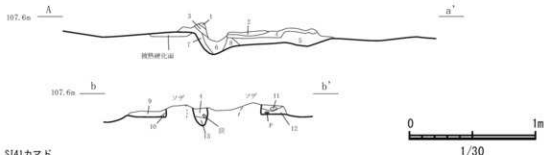
SI42

- 1層 10YR4/6 褐色 10YR5/6 黄褐色土ブロックφ100mm 粘土(10YR4/6 褐色)φ1~30mm 3% V層由來ロームφ0.3~15mm 2% 炭化物φ0.1~15mm 2% 焼土粒少量 炭化材を多量に含む層
- 2層 10YR3/4 暗褐色 炭化物φ0.1~40mm 20% 粘土(7.5YR4/6 褐色)φ25mm以下 2% 黄褐色土ブロック(10YR5/6)の中に炭化物少量混 70mm以下 V層由來ローム少量 浮石少量

SI46

- 1層 10YR3/4 暗褐色 V層由來ロームφ0.1~40mm 5% 粘土(7.5YR5/6 明褐色)φ40mm以下 2% 炭化物少量 浮石少量
- 2層 10YR3/4 暗褐色 粘土(7.5YR5/6 明褐色)φ2mm以下少量 V層由來ロームφ0.1mm以下少量 炭化物微量
- 3層 10YR3/4 暗褐色 褐色土ブロック(10YR4/6)φ100mm V層由來ロームφ0.5~30mm 7% 粘土(10YR5/6 黄褐色)(7.5YR4/6 褐色)φ20mm以下 7% 炭化物少量 浮石少量
- 4層 10YR3/4 暗褐色 V層由來ロームφ0.4~10mm以下 2% 炭化物少量 浮石微量
- 5層 10YR3/4 暗褐色 V層由來ロームφ0.1~30mm以下 10% 炭化物φ0.1~10mm 1% 粘土(7.5YR4/6 褐色)φ10mm以下 1%
- 6層 10YR3/4 暗褐色 V層由來ロームφ0.5~20mm以下 2% 炭化物φ0.5mm以下 1% 柱礎アケ土

SI41カマド a-a' b-b' 断面図



SI41カマド

- 1層 10YR4/6 褐色 V層由來ロームφ1~2mm 5% カマド構造の崩落土
- 2層 7.5YR4/6 褐色 暗褐色土(10YR3/4)20% 炭化物φ1~15mm 5% V層由來土少量含む
- 3層 10YR3/4 暗褐色 粘土φ1~2mm 5% 炭化物少量含む V層由來土少量含む
- 4層 10YR3/4 暗褐色 褐色土ブロック(7.5YR4/6)φ20mm点 炭化物φ1~15mm 5% 焼土少量含む V層由來土少量含む
- 5層 10YR4/6 褐色 V・VI層混じりφ0.5~15mm 5% 炭化物φ1~5mm 5% 焼土φ1~20mm 2% 穴状土上面の土
- 6層 10YR2/2 黒褐色 暗褐色土(10YR3/4)10% 粘土φ1~10mm 5% 炭化物少量含む V層由來土少量含む
- 7層 10YR3/4 暗褐色 褐色土(10YR4/6)2% 粘土φ1~15mm 7% 炭化物少量含む
- 8層 10YR3/4 暗褐色 V・VI層混じりφ1~10mm 7% 炭化物少量含む
- 9層 10YR4/6 褐色 黄褐色土(10YR5/6)40% 炭化物φ1~3mm 2% 焼土少量含む
- 10層 10YR3/4 暗褐色 炭化物 焼土少量含む
- 11層 10YR2/2 黒褐色 暗褐色土(10YR3/4)40% 4 粘土φ1~10mm 5% 炭化物少量含む
- 12層 7.5YR3/4 暗褐色 50mm大の土器片含む 暗褐色土(10YR3/4)20% 焼土φ1~10mm 5% 炭化物少量含む V・VI層由來土φ1~10mm 5%
- 13層 10YR4/6 褐色 暗褐色土(10YR5/6)10% 焼土φ2~15mm 5% V・VI層由來土φ10mm少量 炭化物少量含む 植物硬皮面(5YR4/6 赤褐色)

SI42カマド c-c' d-d' 断面図



SI42カマド

- 1層 10YR3/4 暗褐色 黒褐色土(10YR2/2)20% 褐色土(10YR4/6)15% 粘土φ1~10mm 5% 炭化物φ1~2mm 2%
- 2層 10YR2/2 黒褐色 黒色土(10YR2/1)10% 褐色土(10YR4/6)3% VI層由來土φ5mm少量 焼土φ1~10mm 5% 炭化物φ1~15mm 1%
- 3層 10YR2/2 黒褐色 黒褐色土(10YR3/1)10% 炭化物φ3~10mm 15% 焼土φ1~10mm 10% V層由來土φ1~5mm 5% VI層由來土φ2mm少量
- 4層 10YR2/2 黒褐色 黒褐色土(10YR2/2)2% 焼土φ1~30mm 5% 炭化物φ1~30mm 2% V層由來土φ1~3mm少量 VI層由來土φ1~3mm少量

図46 第41・42・43・46・117号竪穴建物跡(5)



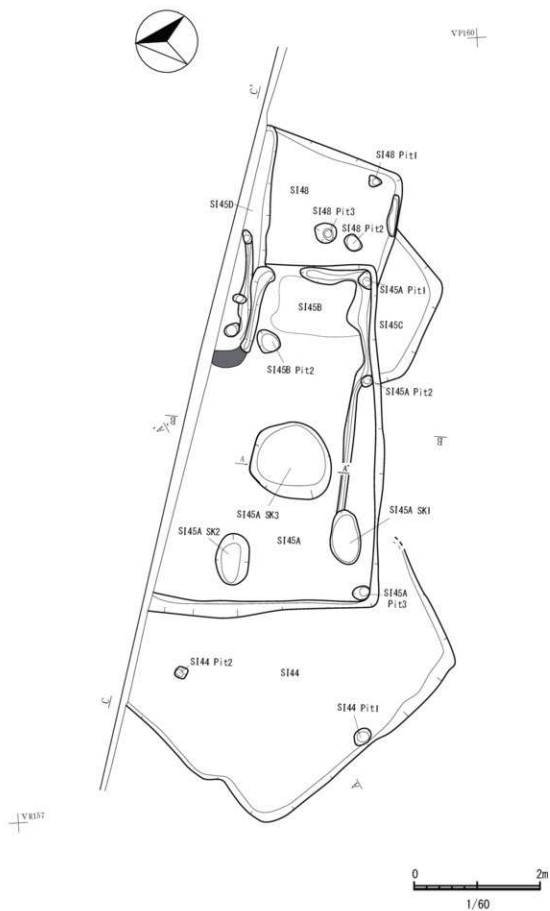


図47 第44・45・48号竪穴建物跡（1）

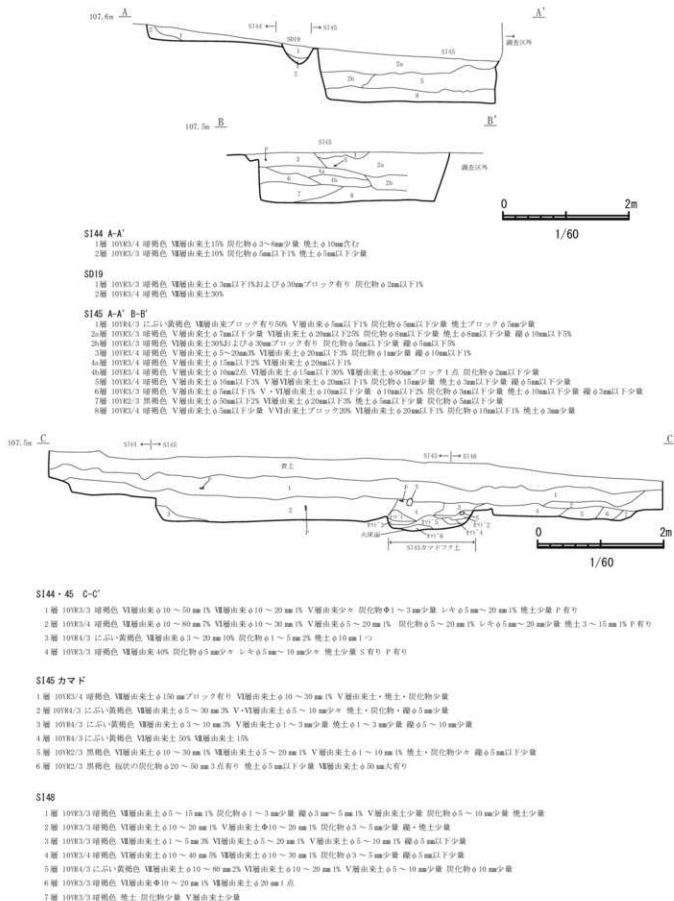


図48 第44・45・48号竪穴建物跡(2)

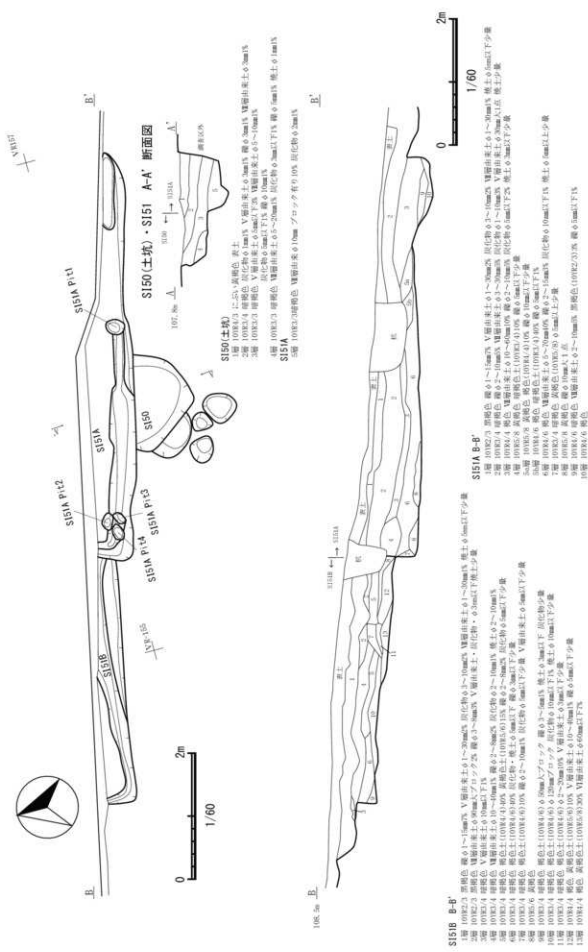
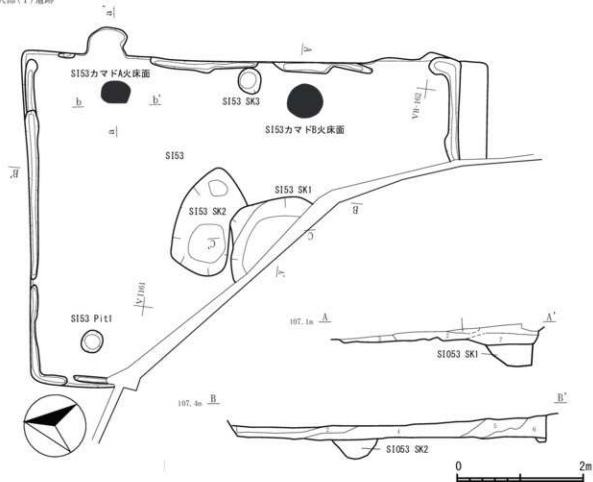


図49 第50・51号竪穴建物跡



- 1層 101K3/3 暗褐色土 VI層由束ブロック50% V層由束ロームφ5mm以下少量 炭化物φ2mm以下微量
  - 2層 101K3/3 暗褐色土 V層由束ロームφ5mm以下2% 炭化物φ5mm以下少量 VI層由束ブロックφ15mm以下40%
  - 3層 101K3/3 暗褐色土 V層由束土φ20mm2% VI層由束土φ20mm以下2% V層由束ロームφ10mm以下2% 炭化物φ2mm以下少量 焼土φ2mm以下微量
  - 4層 101K3/4 暗褐色土 VI層由束ブロックφ100mm以下2% V層由束土φ20mm以下2% V層由束ロームφ10mm以下2% 炭化物φ5mm以下少量 焼土φ2mm以下微量
  - 5層 101K3/4 暗褐色土 VI層由束50%以上 V層由束土φ20mm以下 炭化物φ1mm以下微量 V層由束土φ10mm以下 焼土
  - 6層 101K3/4 暗褐色土 黒褐色土(101R2/2)5% VI層由束ブロックφ10mm以下40% V層由束土φ20mm以下2% 炭化物φ2mm以下微量
  - 7層 101K3/4 暗褐色土 VI層由束ブロックφ80mm以下50%以下 V層由束土φ10mm以下1% 炭化物φ2mm以下微量
- 記号なし: 基本層序VI層が床面



- 1層 101R4/4 褐色土 V層由束土φ30mm以下2% VI層土主体の層
- 2層 101R2/3 黒褐色土 V層由束ブロックφ80mm以下40% V層由束土φ20mm以下3% 炭化物φ2mm以下少量
- 3層 101K3/3 暗褐色土 V層由束ブロックφ100mm以下30% V層由束土φ100mm以下20% 黒褐色土(101R2/3)3% 炭化物φ2mm微量



- 1層 101R4/4 褐色土 焼土が被覆したもの(101R4/4に5%非褐色色)40% 炭化物φ1~5mm少量
- 2層 101R4/6 褐色土 暗褐色土(101K3/3)3% V層由束土φ1~10mm 炭化物φ2mm微量 V層由束土φ20mm少量 カマド粘土
- 3層 101R4/6 褐色土(101R4/6)10% 炭化物φ1~2mm微量
- 4層 101R4/4 褐色土 黒褐色土(101R2/2)5% V層由束土φ1~10mm少量
- 5層 101R4/4 褐色土 V層由束土φ30mm10%
- 6層 7.5R4/4 褐色土(S1K3/4暗褐色色)20%
- 7層 101R4/4 褐色土 V層由束土80%以上
- 8層 101R4/6 褐色土 暗褐色土(101K3/3)2%に炭化物混ざる 焼土少量
- 9層 S1K3/6 暗褐色土 焼土(101R4/6 非褐色色)2% 炭化物φ1~2mm カマド火床由被覆層
- 10層 101R4/4 褐色土 黒褐色土(101R2/2)炭化物混じった土 炭化物φ1~5mm2% V層少量
- 11層 101R6/6 明黄褐色土 明褐色土(7.5R5/6)2% 褐色土(101R4/4)1% 炭化物少量

図50 第53号竪穴建物跡

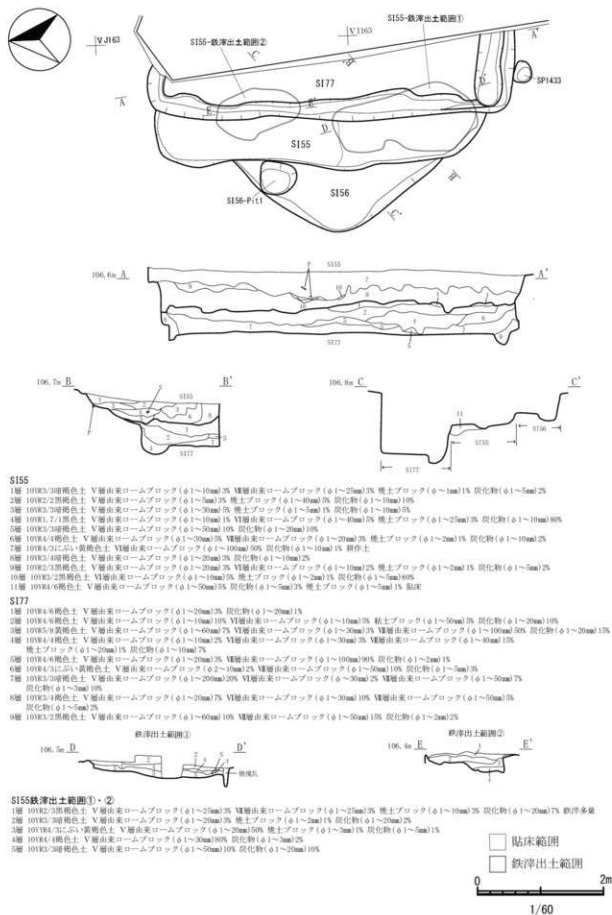


図51 第55・56・77号竪穴建物跡



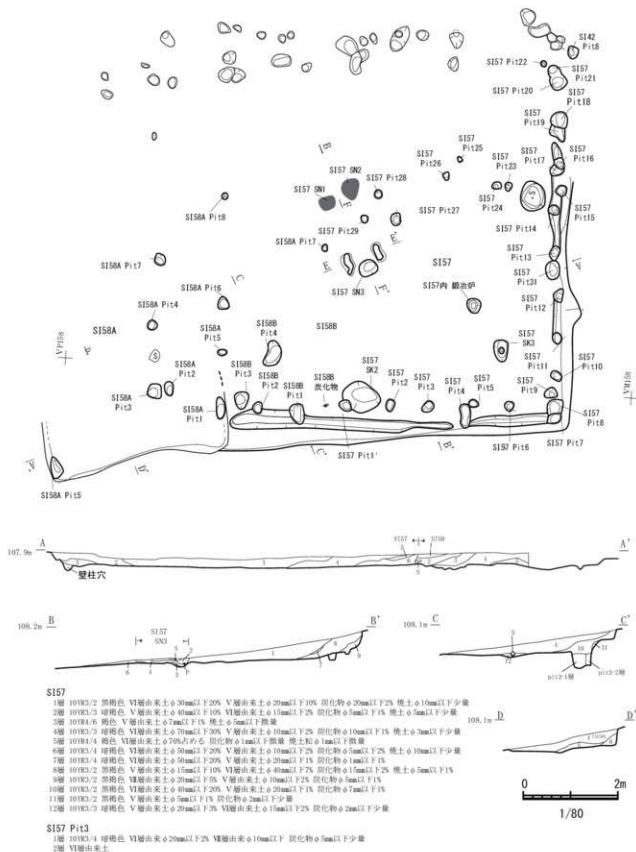
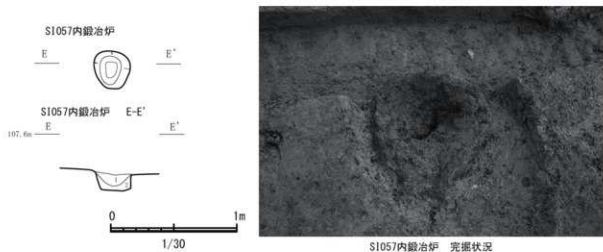
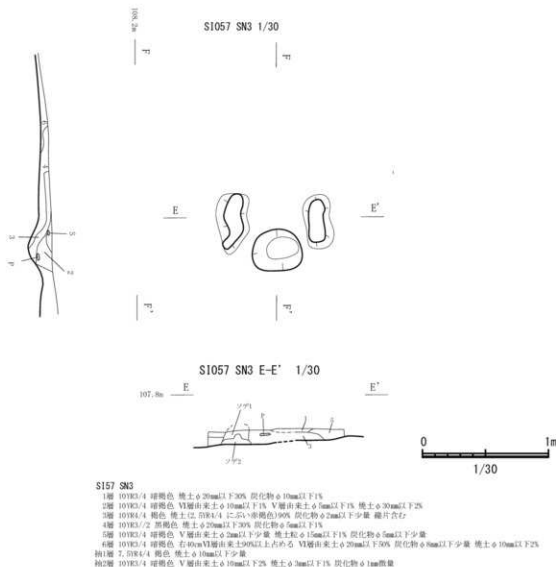


図53 第57・58A・58B号竪穴建物跡(2)



- 1層 5GY7/1 明オリーブ褐色 2.5Y4/6 オリーブ褐色 40% 鍛冶炉埋込面  
 2層 10YR4/6 褐色 炭 $\phi$ 1mm以下少量

S1057内鍛冶炉 完掘状況



S157 SN3

- 1層 10YR3/4 暗褐色 焼土 $\phi$ 20mm以下30% 炭化物 $\phi$ 10mm以下1%  
 2層 10YR3/4 暗褐色 V層由來土 $\phi$ 10mm以下1% V層由來土 $\phi$ 5mm以下1% 焼土 $\phi$ 30mm以下2%  
 3層 10YR4/1 褐色 焼土に5YR4/1 に近い赤褐色)90% 炭化物 $\phi$ 2mm以下少量 雜片含む  
 4層 10YR3/2 暗褐色 焼土 $\phi$ 20mm以下30% 炭化物 $\phi$ 5mm以下1%  
 5層 10YR2/4 暗褐色 V層由來土 $\phi$ 20mm以下少量 焼土 $\phi$ 15mm以下1% 炭化物 $\phi$ 5mm以下少量  
 6層 10YR3/4 暗褐色 右40%V層由來土90%以上占める V層由來土 $\phi$ 20mm以下50% 炭化物 $\phi$ 5mm以下少量 焼土 $\phi$ 10mm以下2%  
 埋1層 7.5YR4/4 褐色 焼土 $\phi$ 10mm以下少量  
 埋2層 10YR3/4 暗褐色 V層由來土 $\phi$ 10mm以下2% 焼土 $\phi$ 3mm以下1% 炭化物 $\phi$ 1mm少量

図54 第57・58A・58B号竪穴建物跡(3)



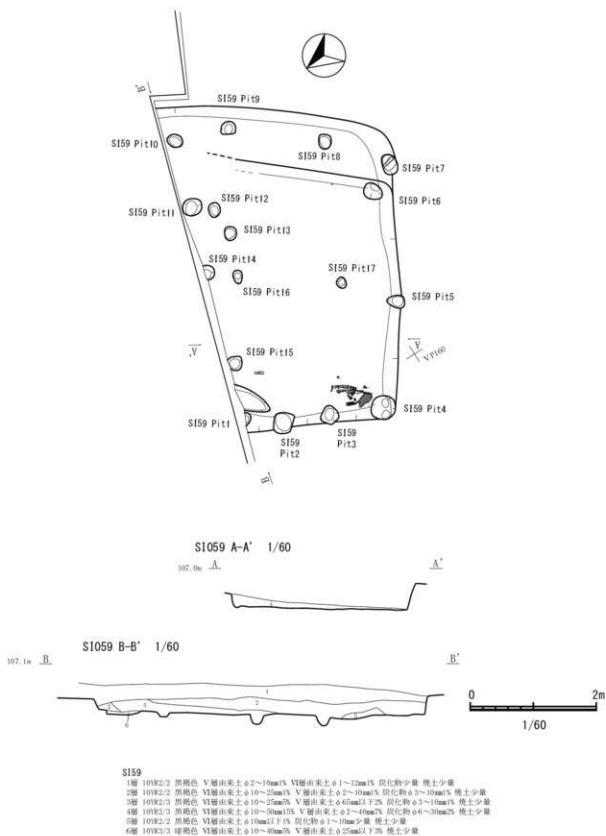


図55 第59号竪穴建物跡

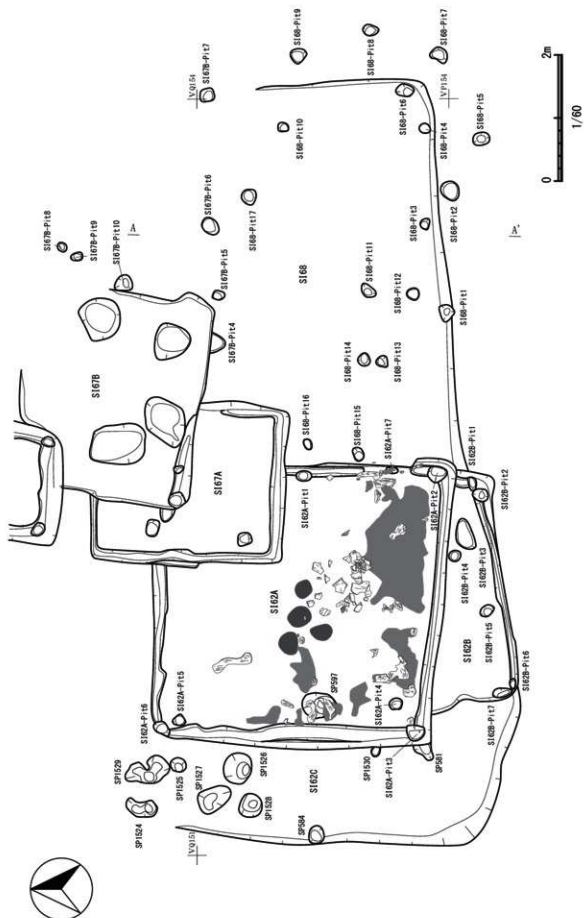


图56 第62・68号竖穴建物跡

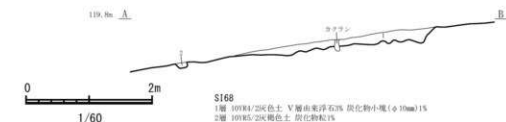
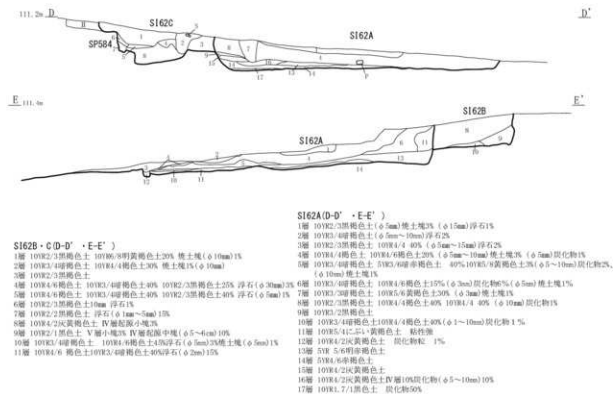
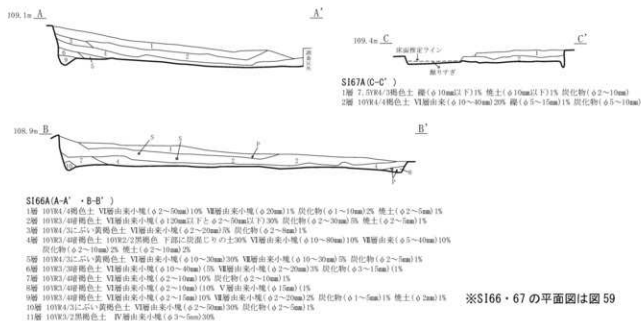
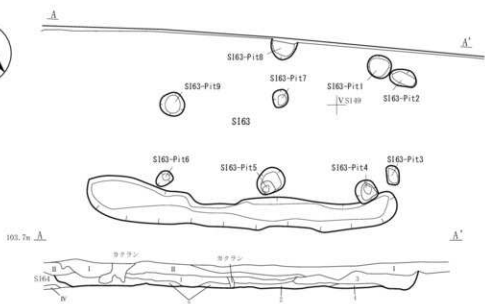
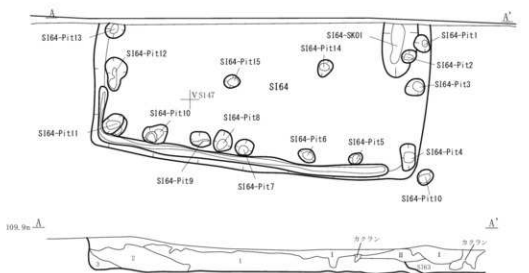


図57 第62A・62B・62C・66A号竪穴建物跡



**S163**

- 1層 10YR3/3暗褐色土 10YR4/2C-5L黄褐色土10%焼土粒(φ5mm)1%  
 2層 10YR6/6明黄褐色土 10YR4/4褐色土10%  
 3層 10YR4/2C-5L黄褐色土 炭化物(φ1mm~3mm)1%  
 4層 10YR4/4褐色土 炭化物粒(φ1mm)1%



**S164**

- 1層 10YR4/4褐色土 10YR3/4暗褐色土10% 炭化物(φ30mm)10% 焼土(φ1mm~10mm)1% 浮石(φ1mm)1%  
 2層 10YR4/4褐色土 10YR5/6黄褐色土10% VI層由來ローム10% 炭化物(φ10mm)1% V層由來1% 浮石(φ5mm)1%  
 3層 10YR4/4褐色土 VI層由來ローム30% 10YR3/4暗褐色土1% 浮石(φ5mm)1% 焼土粒(φ1mm)1%

0 2m

1/60

図58 第63・64号竪穴建物跡

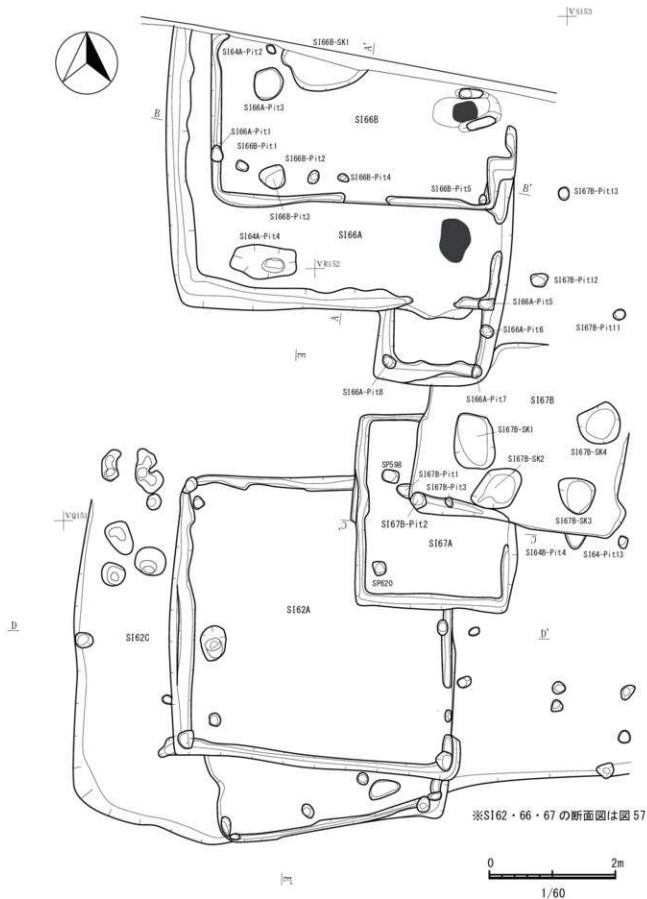
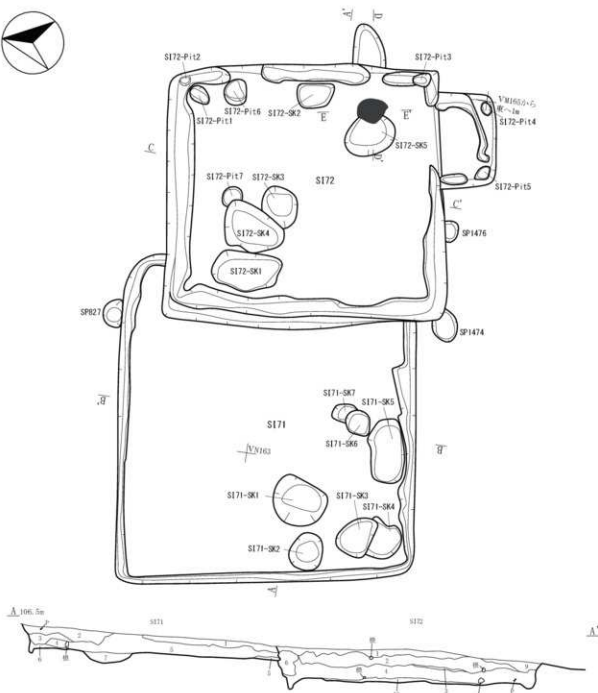


図59 第66A・66B・67A・67B号住居跡

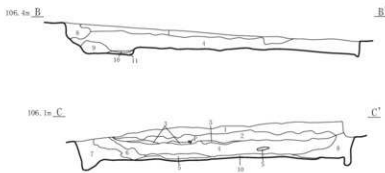


S171

- 1層 101K2/2黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)2% VI層由来ロームブロック(φ1~50mm)3% VII層由来ロームブロック(φ1~5mm)1% 焼土ブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ1~10mm)2%
- 2層 101K3/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~15mm)3% VI層由来ロームブロック(φ1~50mm)10% VII層由来ロームブロック(φ1~2mm)1% 焼土ブロック(φ1~5mm)1% 炭化物(φ1~30mm)2%
- 3層 101K3/4暗褐色土 VI層由来ロームブロック(φ1~30mm)7% 焼土ブロック(φ1~50mm)30% 炭化物(φ1~20mm)40%
- 4層 101K3/4暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~80mm)7% VI層由来ロームブロック(φ1~100mm)30% VII層由来ロームブロック(φ1~5mm)1% 焼土ブロック(φ1~20mm)2% 炭化物(φ1~50mm)20%
- 5層 101K4/3赤い黄褐色土 VI層由来ロームブロック(φ1~100mm)60% V層由来ロームブロック(φ1~40mm)10% 焼土ブロック(φ~1mm)1% 炭化物(φ1~2mm)2%
- 6層 101K4/4褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~30mm)1% VI層由来ロームブロック(φ1~100mm)40% 焼土ブロック(φ1~3mm)1% 炭化物(φ1~2mm)1%
- 7層 101K3/2黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~30mm)2% VII層由来ロームブロック(φ1~20mm)3% 焼土ブロック(φ~1mm)1% 炭化物(φ1~2mm)7%
- 8層 101K2/2黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)7% VI層由来ロームブロック(φ1~50mm)3% 焼土ブロック(φ1~5mm)1% 炭化物(φ1~5mm)7%
- 9層 101K2/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~3mm)1% VII層由来ロームブロック(φ1~30mm)12% 焼土ブロック(φ5~20mm)11% 炭化物(φ1~3mm)11%
- 10層 101K2/1黒色土 VI層由来ロームブロック(φ1~60mm)10% 炭化物(φ1~20mm)30%

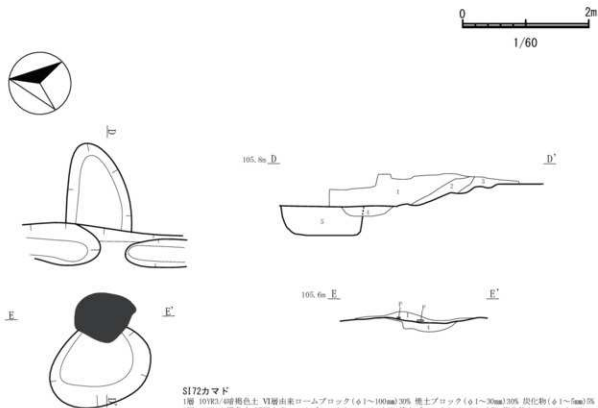


図60 第71・72号竪穴建物跡(1)



## SI72

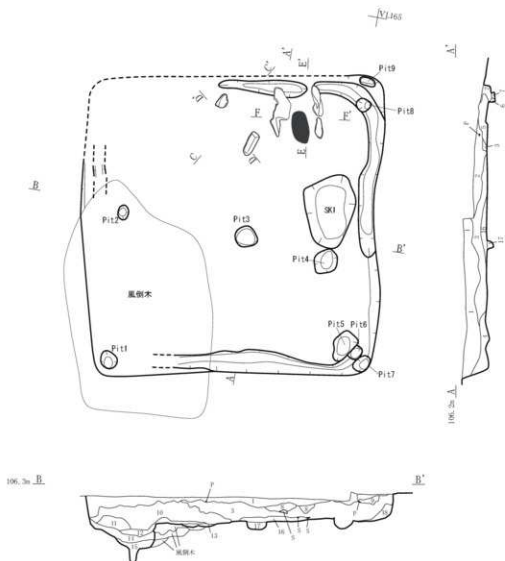
- 1層 10YR2/2黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)2% VI層由来ロームブロック(φ1~50mm)3% VII層由来ロームブロック(φ1~5mm)1%  
 焼土ブロック(φ1~3mm)1% 炭化物(φ1~10mm)2%
- 2層 10YR2/3黒褐色土 VI層由来ロームブロック(φ1~50mm)10% V層由来ロームブロック(φ1~20mm)11% 焼土ブロック(φ1~30mm)1% 炭化物(φ1~15mm)1%
- 3層 10YR2/3黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ10~15mm)1% VII層由来ロームブロック(φ1~10mm)11% 炭化物(φ1~10mm)1% 焼土ブロック(φ1~2mm)1% 稀少
- 4層 10YR2/3黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~40mm)1% VI層由来ロームブロック(φ1~50mm)50% 炭化物(φ1~10mm)1% 焼土ブロック(φ1~10mm)1%
- 5層 10YR2/1黒色土 VI層由来ロームブロック(φ1~10mm)11% 焼土ブロック(φ1~3mm)1% 炭化物(φ1~20mm)90%
- 6層 10YR4/3にぶい黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~5mm)11% VI層由来ロームブロック(φ1~50mm)70% 炭化物(φ1~20mm)20%
- 7層 10YR2/2黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)1% VI層由来ロームブロック(φ1~50mm)5% 焼土ブロック(φ5~40mm)11% 炭化物(φ~1mm)稀少
- 8層 10YR2/2黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)2% VI層由来ロームブロック(φ1~30mm)3% VII層由来ロームブロック(φ1~2mm)1% 焼土ブロック(φ1~3mm)1%
- 炭化物(φ1~3mm)2%
- 9層 10YR3/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)3% VI層由来ロームブロック(φ1~30mm)3% 焼土ブロック(φ~1mm)1% 炭化物(φ1~3mm)5%
- 10層 10YR3/4にぶい黄褐色土 V層由来ロームブロック(φ~1mm)1% VI層由来(φ1~10mm)2% 焼土ブロック(φ1~5mm)2% 炭化物(φ1~20mm)100%
- 11層 10YR4/6褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)1% 焼土ブロック(φ1~30mm)2% 炭化物(φ1~20mm)2%



## SI72カマド

- 1層 10YR3/6暗褐色土 VI層由来ロームブロック(φ1~100mm)30% 焼土ブロック(φ1~30mm)30% 炭化物(φ1~5mm)5%
- 2層 10YR4/4褐色土 VI層由来ロームブロック(φ1~10mm)3% 焼土ブロック(φ1~20mm)5% 炭化物(φ1~10mm)10%
- 3層 10YR2/2黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)1% VI層由来ロームブロック(φ1~10mm)1%
- 焼土ブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ1~2mm)1%
- 4層 10YR2/2黒褐色土 大床面
- 5層 10YR3/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)1% VI層由来ロームブロック(φ1~10mm)1% SI72-SK5焼土

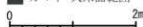
図61 第71・72号竪穴建物跡(2)



S173

- 1層 10YR2/3黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~40mm)2% VI層由来ロームブロック(φ1~20mm)2% 焼土ブロック(φ1~20mm)2% 炭化物(φ1~10mm)2%
- 2層 10YR4/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~20mm)2% VI層由来ロームブロック(φ1~50mm)10% 焼土ブロック(φ1~10mm)2%
- 3層 10YR3/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~50mm)1% VI層由来ロームブロック(φ1~20mm)20% VII層由来ロームブロック(φ2~10mm)2%  
焼土ブロック(φ1~5mm)1% 炭化物(φ1~5mm)5%
- 4層 10YR3/4暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~20mm)2% VII層由来ロームブロック(φ1~30mm)15% VIII層由来ロームブロック(φ1~20mm)3%  
焼土ブロック(φ~1mm)1% 炭化物(φ1~10mm)5%
- 5層 10YR4/4褐色土 カマド芯土
- 6層 10YR2/2黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)15% 炭化物(φ1~5mm)20%
- 7層 10YR4/6褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~2mm)25% 炭化物(φ1~3mm)10%
- 8層 10YR2/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ8~10mm)1% VII層由来ロームブロック(φ1~15mm)1%
- 9層 10YR3/4暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ10mm)1% 焼土ブロック(φ1~5mm)1% 炭化物(φ1~2mm)1% VIII層由来ロームブロック(φ3~10mm)1%
- 10層 10YR3/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~30mm)1% VII層由来ロームブロック(φ1~40mm)2% 焼土ブロック(φ1~15mm)1% 炭化物(φ1~10mm)1% 小礫稀少
- 11層 10YR3/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ~5mm)1% VII層由来ロームブロック(φ1~30mm)2% 焼土ブロック(φ1~15mm)1% 炭化物(φ1~10mm)
- 12層 10YR3/4暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ5~10mm)1% VII層由来ロームブロック(φ1~200mm)20% 焼土ブロック(φ1~50mm)40% 炭化物(φ1~20mm)20%
- 13層 10YR3/4暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~30mm)1% VII層由来ロームブロック(φ1~30mm)80% 焼土ブロック(φ1~10mm)1% 炭化物(φ1~10mm)2%
- 14層 10YR4/6褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10mm)1% VII層由来ロームブロック(φ1~30mm)2% 焼土ブロック(φ1~10mm)1% 炭化物(φ1~5mm)1%
- 15層 10YR3/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ~10mm)1% VII層由来ロームブロック(φ1~130mm)20% 炭化物(φ1~10mm)2%
- 16層 10YR3/3暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ3~8mm)1% VII層由来ロームブロック(φ1~40mm)2% 焼土ブロック(φ1~5mm)1% 炭化物(φ1~5mm)1%
- 17層 10YR3/1黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ5~30mm)2% VII層由来ロームブロック(φ10~50mm)10%
- 18層 10YR3/4暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ10~30mm)20% VII層由来ロームブロック(φ10~20mm)7% 炭化物稀少

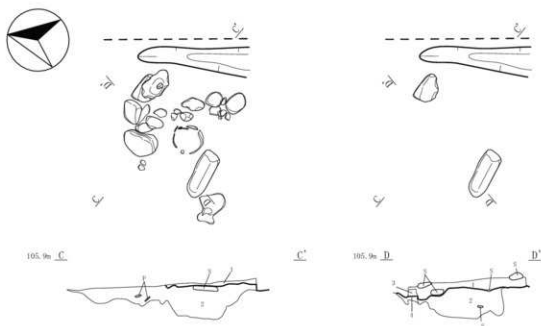
■ カマド 火床面範囲



1/60

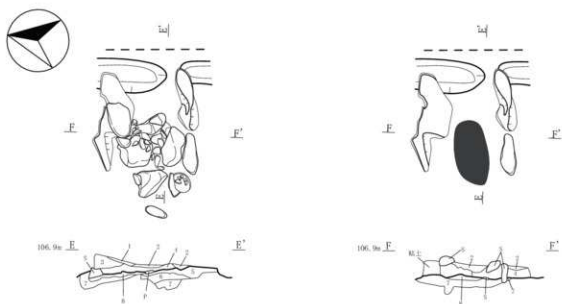
図62 第73号竪穴建物跡(1)





## S173カマド①

- 1層 101R4/3にぶい・黄褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~5mm)2% V層由來ロームブロック(φ2~10mm)2% V層由來ロームブロック(φ1~15mm)5% 焼土ブロック(φ1~8mm)3% 炭化物(φ1~5mm)2%
- 2層 7.51R4/4暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~5mm)1% V層由來ロームブロック(φ1~10mm)2% V層由來ロームブロック(φ1~20mm)3% 焼土ブロック(φ1~20mm)3% 炭化物(φ1~10mm)2%
- 3層 101R4/3にぶい・黄褐色土 焼土ブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ1~2mm)1%
- 4層 101R3/2黒褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~10mm)10% 焼土ブロック(φ~1cm)

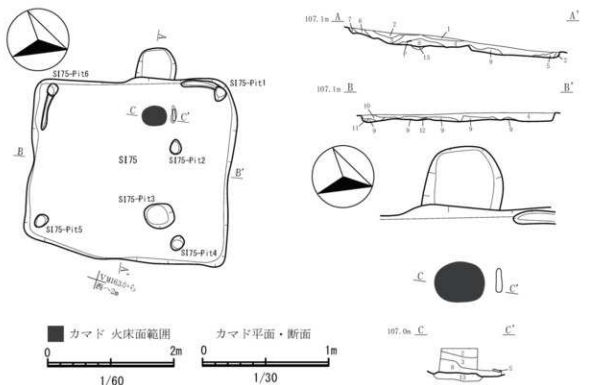


## S173カマド②

- 1層 101R2/3黒褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~5mm)1% V層由來ロームブロック(φ1~20mm)3% 焼土ブロック(φ~1cm)1% 炭化物(φ1~5mm)1%
- 2層 101R3/2暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~5mm)1% V層由來ロームブロック(φ1~20mm)3% 焼土ブロック(φ1~20mm)3% 炭化物(φ~1cm)1%
- 3層 101R3/4暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~5mm)1% V層由來ロームブロック(φ1~20mm)3% 焼土ブロック(φ1~20mm)3% 炭化物(φ1~10mm)1%
- 4層 7.51R2/3暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ~1cm)1% V層由來ロームブロック(φ1~10mm)2% 炭化物(φ~1cm)1%
- 5層 101R2/3黒褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~5mm)1% V層由來ロームブロック(φ1~10mm)3% 焼土ブロック(φ1~10mm)3% 炭化物(φ1~5mm)1%
- 6層 101R3/4暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~10mm)1% V層由來ロームブロック(φ1~20mm)3% 焼土ブロック(φ1~10mm)1% 炭化物(φ~1cm)1%
- 7層 101R2/2暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~20mm)3% V層由來ロームブロック(φ3~20mm)10% 炭化物(φ~1cm)1%
- 8層 51R5/8明赤褐色土



図63 第73号竪穴建物跡(2)



- S175**
- 1層 10YR2/3黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~5cm)1% VI層由来ロームブロック(φ1~50cm)7% 焼土ブロック(φ1~10cm)1% 炭化物(φ1~5cm)1%
  - 2層 10YR2/3黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10cm)1% VI層由来ロームブロック(φ1~5cm)1% 粘土ブロック(φ1~30cm)10% 焼土ブロック(φ1~10cm)1% 炭化物(φ1~10cm)1%
  - 3層 10YR3/4暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ~1cm)1% VI層由来ロームブロック(φ1~100cm)10% 焼土ブロック(φ1~5cm)1%
  - 4層 10YR2/3黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10cm)5% VI層由来ロームブロック(φ1~10cm)5% 粘土ブロック(φ~10cm)1% 焼土ブロック(φ1~30cm)1%
  - 炭化物(φ1~10cm)1%
  - 5層 10YR4/6褐色土 V層由来ロームブロック(φ2~50cm)1% 焼土ブロック(φ~1cm)1%
  - 6層 10YR2/3 黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10cm)1% VI層由来ロームブロック(φ1~5cm)1% 粘土ブロック(φ1~50cm)10% 焼土ブロック(φ1~30cm)15% 炭化物(φ1~10cm)1%
  - 7層 10YR3/4暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~30cm)10% VI層由来ロームブロック(φ1~20cm)5% 焼土ブロック(φ1~1cm)1%
  - 8層 10YR2/3 黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~15cm)1% VI層由来ロームブロック(φ1~15cm)7% 粘土ブロック(φ1~20cm)1%
  - 焼土ブロック(φ1~30cm)25% 炭化物(φ1~5cm)1%
  - 9層 10YR3/4 暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~30cm)3%
  - 10層 10YR2/3 黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~10cm)3% VI層由来ロームブロック(φ1~50cm)15% 焼土ブロック(φ~1cm)1% 炭化物(φ~1cm)1%
  - 11層 10YR2/3 黒褐色土 V層由来ロームブロック(φ~10cm)1% 炭化物(φ~1cm)1%
  - 12層 10YR3/4 暗褐色土 V層由来ロームブロック(φ1~20cm)23% VI層由来ロームブロック(φ~20cm)20% 炭化物(φ1~5cm)1%
  - 13層 2.5YR5/6明赤褐色土 火床面

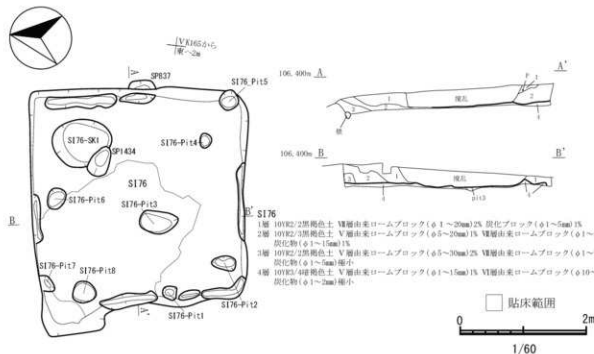
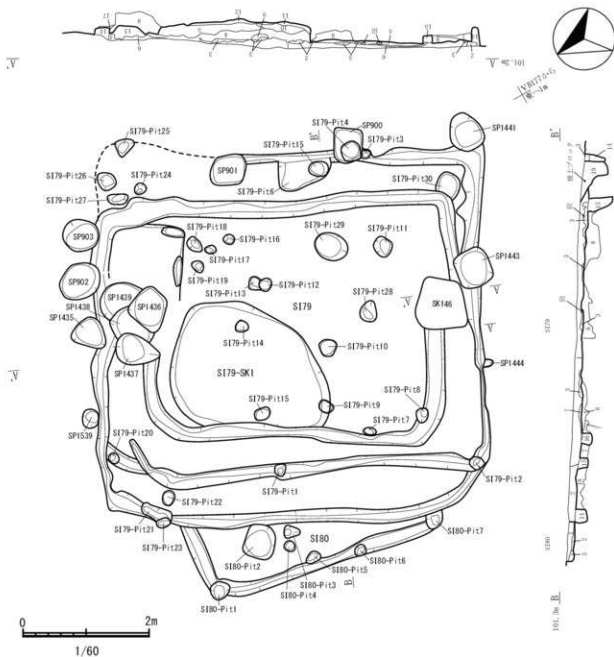


図64 第75・76号竪穴建物跡



## SI79

- 1層 10YR2/3黒褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~20mm)2% VI層由來ロームブロック(φ1~30mm)3% 焼土ブロック(φ1~40mm)3% 炭化物(φ1~30mm)2%  
 2層 10YR3/3暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~15mm)5% VI層由來ロームブロック(φ1~20mm)7% 焼土ブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ1~5mm)2%  
 3層 10YR3/3暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~2mm)1% VI層由來ロームブロック(φ1~30mm)30% 炭化物(φ1~10mm)2%  
 4層 10YR3/3暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~20mm)10% VI層ロームブロック(φ1~10mm)3% 焼土ブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ1~5mm)1%  
 5層 10YR2/3黒褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~20mm)5% VI層由來ロームブロック(φ1~20mm)7% 焼土ブロック(φ1~15mm)2% 炭化物(φ1~2mm)1%  
 6層 5YR4/4C赤褐色土 焼土(φ1~25mm)70% 炭化物(φ1~5mm)7%  
 7層 10YR3/4暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~20mm)20% VI層由來ロームブロック(φ1~5mm)1% 焼土ブロック(φ1~3mm)1% 炭化物(φ1~30mm)2%  
 8層 10YR2/3暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ2~20mm)20% VI層由來ロームブロック(φ1~3mm)1% 焼土ブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ1~5mm)3% 粘埃  
 9層 10YR2/3暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~20mm)1% VI層由來ロームブロック(φ1~40mm)7% 焼土ブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ1~3mm)2%  
 10層 10YR3/4暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~20mm)20% VI層由來ロームブロック(φ1~50mm)7% 焼土ブロック(φ1~1mm)1% 炭化物(φ1~5mm)2%  
 11層 10YR4/4褐色土 焼土ブロック(φ~1mm)1% 炭化物(φ~1mm)1%  
 12層 10YR4/6褐色土 焼土ブロック(φ~1mm)1% 炭化物(φ~1mm)1%  
 13層 10YR3/1黒褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~10mm)2% VI層由來ロームブロック(φ1~5mm)2% 焼土ブロック(φ1~30mm)3% 炭化物(φ1~5mm)3%  
 14層 10YR3/1暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~10mm)2%  
 15層 10YR3/1暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~10mm)2%  
 16層 10YR3/3暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~5mm)1%  
 17層 10YR3/3暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~5mm)20% VI層由來ロームブロック(φ1~2mm)2% 炭化物(φ1~2mm)1%  
 18層 10YR2/3暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ2~20mm)3% VI層由來ロームブロック(φ1~10mm)2% 焼土ブロック(φ1~3mm)1% 炭化物(φ1~5mm)3%  
 19層 10YR2/3暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~40mm)10% VI層由來ロームブロック(φ1~10mm)7% 焼土ブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ1~5mm)2% SP1437積土

## SI80

- 1層 10YR2/3暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~10mm)2% VI層由來ロームブロック(φ1~10mm)2% 炭化物(φ1~2mm)2%  
 2層 10YR3/4暗褐色土 VI層由來ロームブロック(φ1~10mm)10% 焼土ブロック(φ1~3mm)1% 炭化物(φ1~20mm)3%  
 3層 10YR2/3暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~5mm)3% VI層由來ロームブロック(φ1~5mm)3% 焼土ブロック(φ~1mm)1% 炭化物(φ1~3mm)2%

図65 第79・80号竪穴建物跡(1)

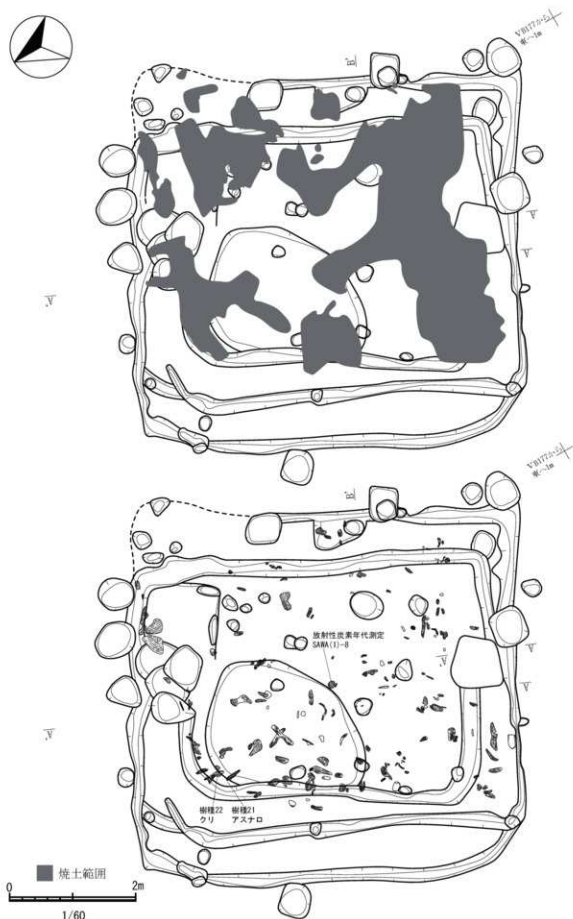
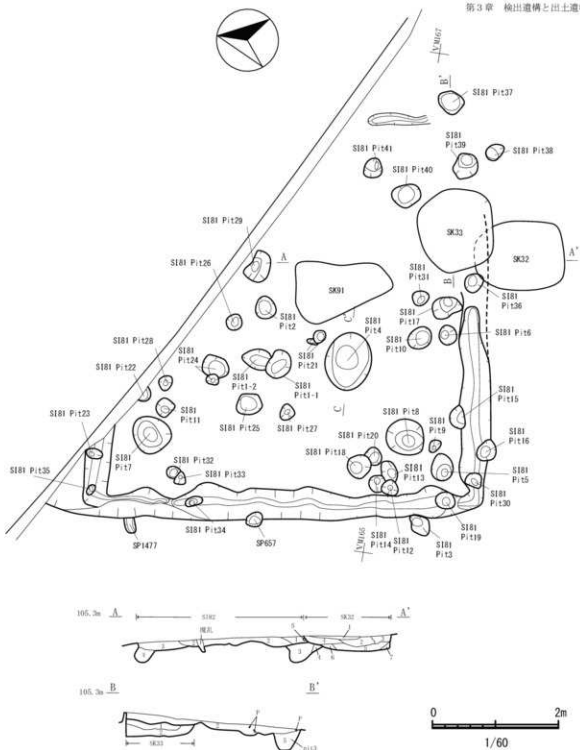


図66 第79・80号竪穴建物跡(2)



## S182

- 1層 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色土(10YR5/0)1% 丸籠φ50mm1点 浮石φ1~10mm1% 土器1点
- 2層 10YR3/4 暗褐色土 棕色土(7.5YR5/4)2% 黄褐色土(10YR5/0)中籠φ20% 浮石φ2~10mm1% 炭化物φ1~5mm 土器片2点
- 3層 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土(10YR2/2)20% 黄褐色土(10YR5/0)極小籠1% 浮石φ1mm1% 炭化物φ5mm1%
- 4層 10YR3/4 褐色土 暗褐色土(10YR3/4)10% 褐色土(10YR4/6)10% 浮石φ1mm1%
- 5層 10YR2/3 黒褐色土 褐色土(10YR4/6)1% 黄褐色土(10YR5/0)1% 浮石φ1mm1% 炭化物φ1mm1%

## SK92

- 1層 10YR3/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)極小籠1% 浮石φ1~2mm1% 炭化物φ1~2mm1%
- 2層 10YR2/2 黒褐色土 褐色土(10YR4/6)10% 浮石φ1mm1% 炭化物φ5mm1%
- 3層 10YR2/3 黒褐色土 褐色土(10YR4/6)極小籠1% 赤褐色土(5YR4/8)φ3mm1% 炭化物φ1~3mm1%
- 4層 10YR3/3 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)0% 浮石φ10mm1% 炭化物φ1~5mm1%
- 5層 10YR2/2 黒褐色土 褐色土(10YR4/4)10% 浮石φ10mm1% 炭化物φ1mm1%
- 6層 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土(10YR5/0)1% 褐色土(10YR4/6)小籠φ20mm 炭化物φ1~2mm1%
- 7層 10YR3/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)極小籠1% 浮石φ1~5mm1%

## SK33

- 1層 10YR3/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)10% 黄褐色土(10YR5/0)1% 浮石φ3~20mm1% 炭化物φ1~5mm1%
- 2層 10YR3/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)10% 浮石φ1~10mm1% 炭化物φ1~5mm1%
- 3層 10YR3/3 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)11% 赤褐色土(5YR4/0)φ5mm1% 浮石φ1~2mm1% 炭化物φ1~2mm1%
- 4層 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土(10YR5/0)2% 浮石φ1mm1% 炭化物φ5mm1%

図67 第81・82号竪穴建物跡

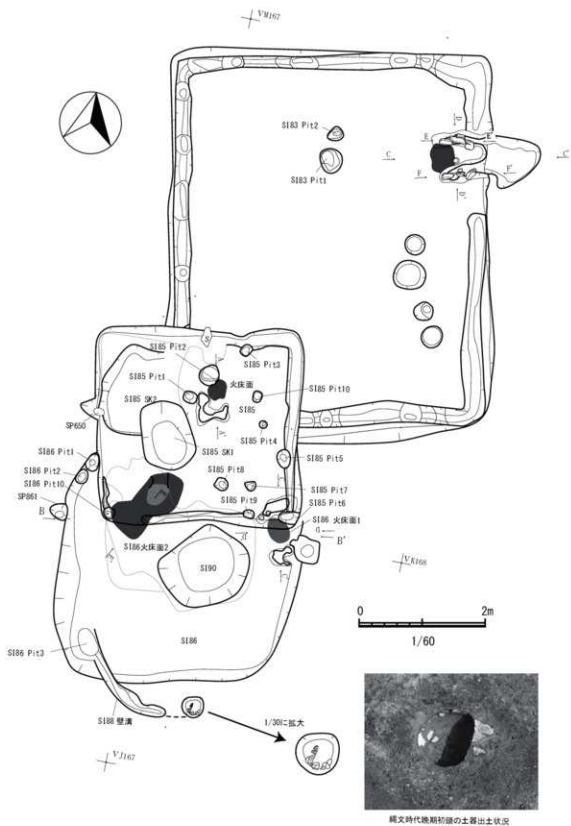
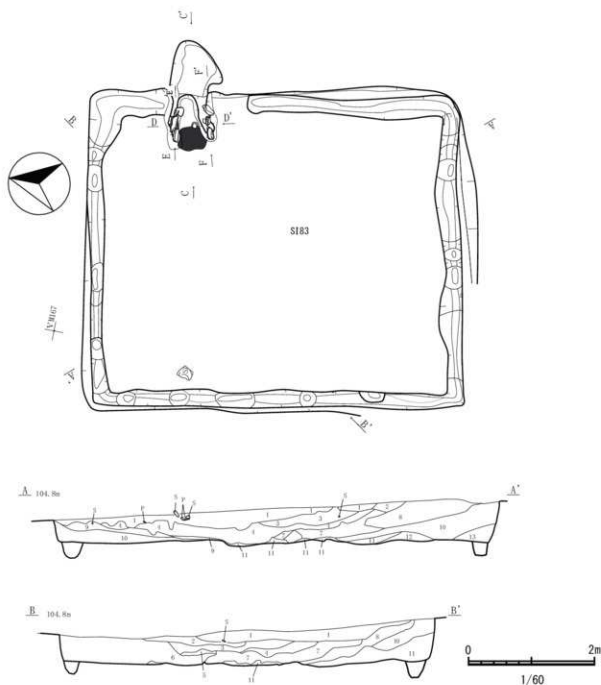


図68 第83・85・86・88号竪穴建物跡(1)



## S183

- 1層 10YR2/2 黒褐色土 褐色土(10YR4/6)15% 浮石φ1~10mm10% 炭化物φ1~2mm1% 丸鏡1点 土器片1点
- 2層 10YR4/6 褐色土 黒褐色土(10YR2/3)5% 黄褐色粘土(10YR5/8)5% 浮石φ1~15mm1% 炭化物φ1~2mm1%
- 3層 10YR2/1 黒色土 褐色土(10YR4/6)10% 黄褐色土(10YR5/8)1% 浮石φ1~5mm10% 炭化物φ1mm1% 丸鏡1点
- 4層 10YR4/6 褐色土 黒褐色土(10YR2/3)5% 上5%黄褐色土(10YR5/4)1% 浮石φ1~5mm1% 炭化物φ1~2mm1%
- 5層 10YR5/4 上5%黄褐色土(覆層由來) 黒色土(10YR2/1)1% 浮石φ1mm1%
- 6層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色粘土(10YR4/6)(覆層由來)40% 黄褐色土(10YR5/8)1% 浮石φ1~5mm5% 炭化物φ1~5mm1%
- 7層 10YR4/6 褐色土 黄褐色粘土(10YR5/8)(V~覆層由來)13% 黒色土(10YR2/1)1% 浮石φ1~10mm5%
- 8層 10YR4/6 褐色土 黒褐色土(10YR2/3)10% 黄褐色土(10YR5/8)1% 浮石φ1~10mm5% 炭化物φ1~2mm1%
- 9層 10YR2/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)20% 黒褐色土(10YR2/3)1% 黄褐色土(10YR5/8)1% 浮石φ1~5mm1% 炭化物φ1~5mm 丸鏡φ20mm1点
- 10層 10YR4/6 褐色土 暗褐色粘土(10YR3/4)(覆層由來)10% 浮石φ1~10mm5% 炭化物φ1~2mm1%
- 11層 10YR3/4 暗褐色土 褐色土(10YR4/6)20% 黄褐色土(10YR5/8)5% 褐色土(10YR4/4)1% 黒色土(10YR2/1)1% 浮石φ1~5mm5% 炭化物φ1~3mm1%
- 12層 10YR4/4 褐色土 黄褐色土(10YR5/8)5% 黒褐色土(10YR2/3)1% 浮石φ1~3mm1%
- 13層 10YR4/6 褐色土(覆層由來) 上5%黄褐色土(10YR5/4)5% 浮石φ1~2mm1% 炭化物φ1mm1%

図69 第83・85・86・88号竪穴建物跡(2)

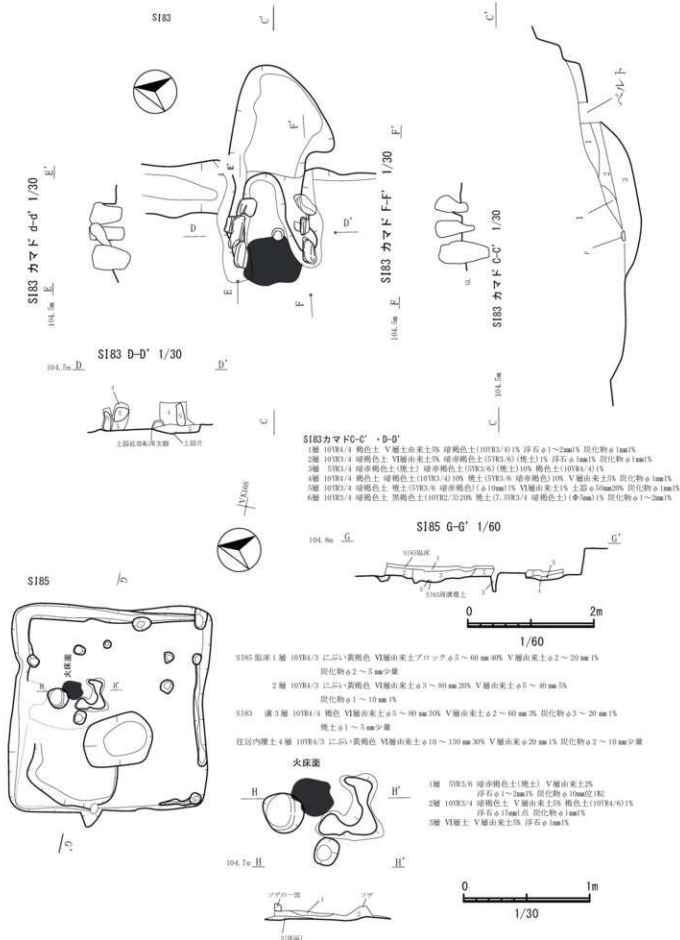


図70 第83・85・86・88号竪穴建物跡(3)



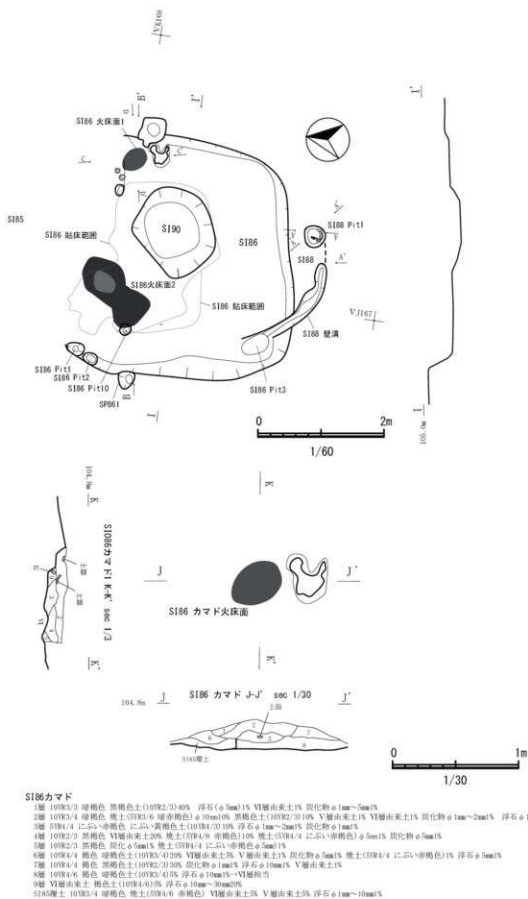
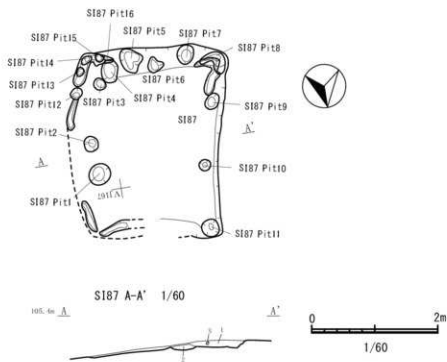
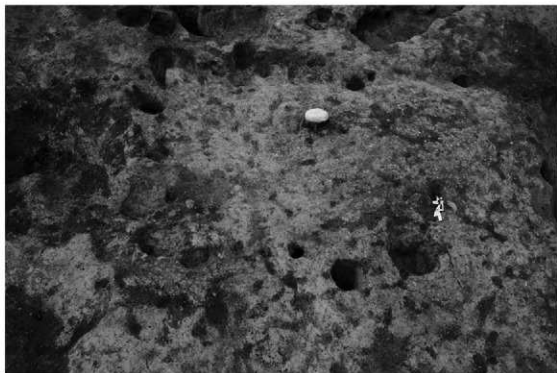


図71 第83・85・86・90号竪穴建物跡(4)



S187

1層 101R2/2 黒褐色 黄褐色土(101R5/6)稀少粒状 赤褐色土(101R4/6)稀少粒状 浮石φ1~5mm1% 炭化物φ1~5mm1% 角礫1点  
 2層 101R2/3 黒褐色土 黄褐色土(101R5/6)φ5mm1% 赤褐色土(101R4/6)φ10mm1% 浮石φ5~10mm1%



S187完掘状況 東から

図72 第87号竪穴建物跡

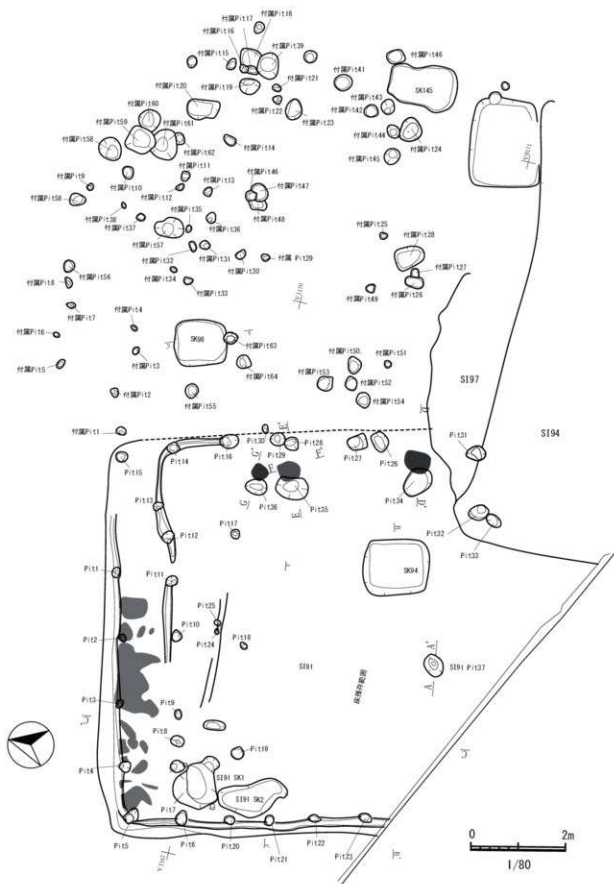


图73 第91号竖穴建物跡(1)

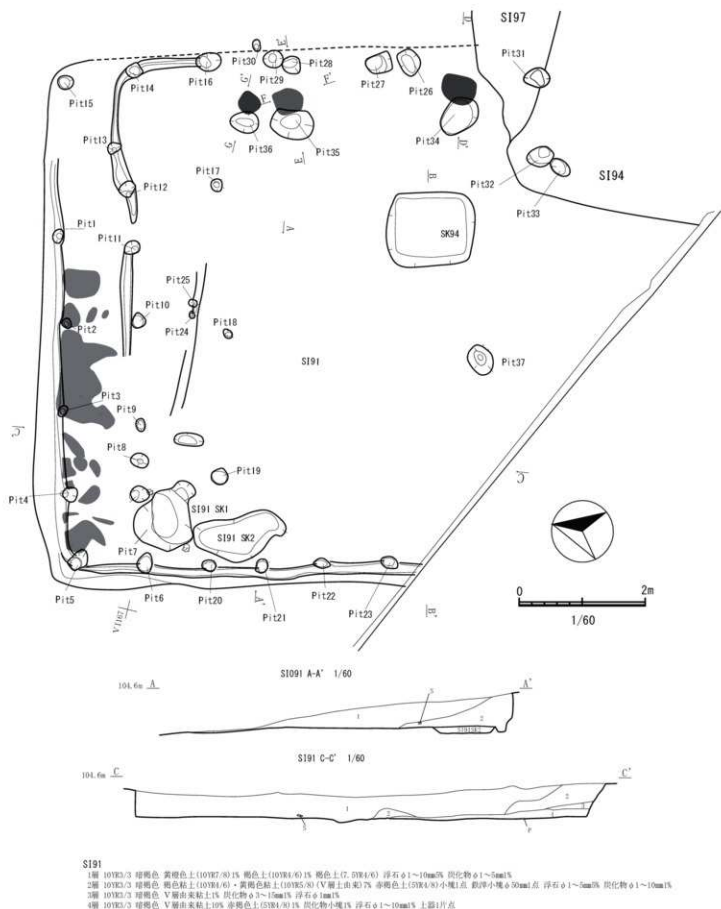


图74 第91号竖穴建物跡(2)

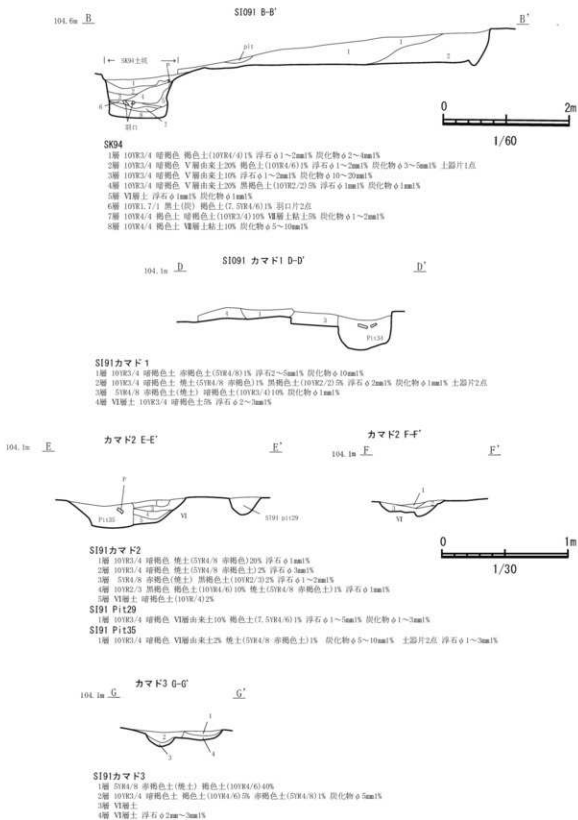


図75 第91号竪穴建物跡(3)

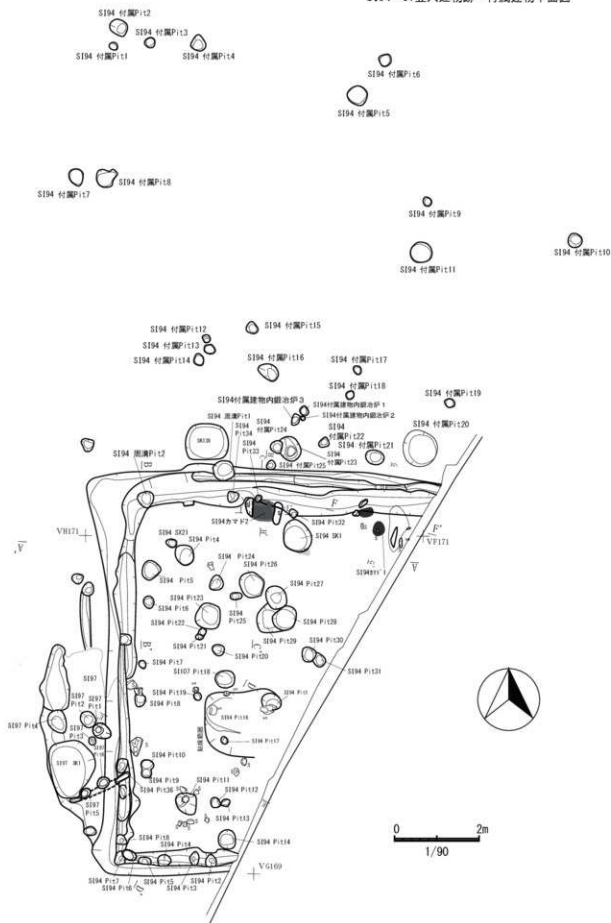


图76 第94・97号竪穴建物跡(1)

S19・97 竪穴建物跡平面図

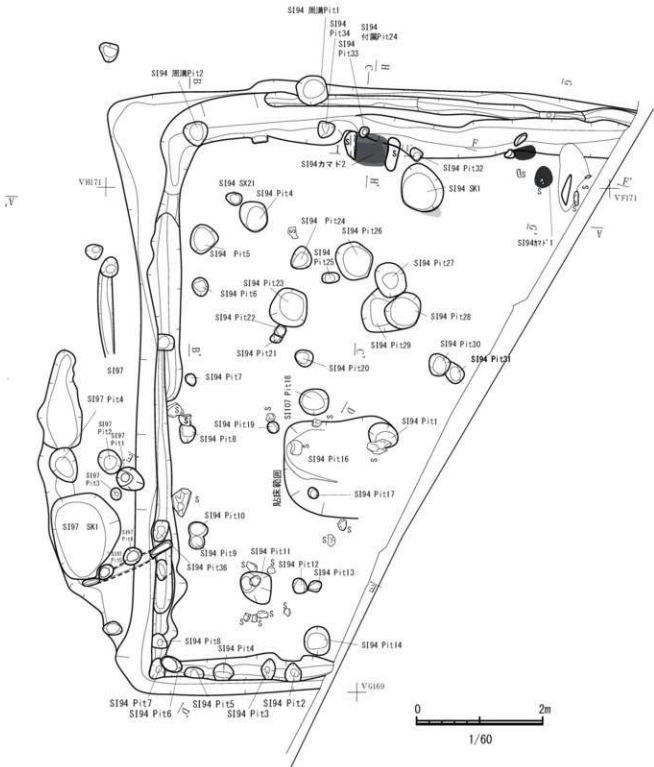
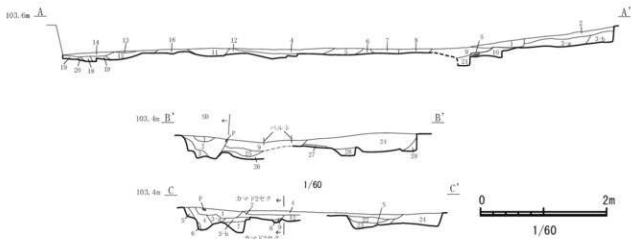


図77 第94・97号竪穴建物跡（2）



S194

- 1層 10184/2 灰黄褐色 VI層由來土φ1～30mm 20% VI層由來土φ5～15mm 3% 雜φ5～15mm 2% 炭化物φ1～10mm 2% 焼土粒φ2～7mm 微量
- 2層 10183/3 暗褐色 V層由來土φ1～30mm 20% VI層由來土φ10mm～20mm 1% V層由來土φ8～10mm 1% 炭化物φ1～20mm 7% 焼土粒φ1～5mm 少量 雜φ1～20mm 10%
- 3層 a 10184/3 に近い黄褐色 V層由來土φ1～40mm 30% VI層由來土φ10～30mm 20% V層由來土φ10mm 少量 炭化物φ1～10mm 3% 焼土粒φ1mm 微量 雜φ2～20mm 1%
- 3層 b 10184/4 褐色 V層由來土φ10～30mm 1% VI層由來土φ7～15mm 1% 炭化物φ1～5mm 1%
- 4層 10182/3 黒褐色 V層由來土φ5～50mm 30% VI層由來土φ5～30mm 10% V層由來土φ1～20mm 3% 綠色凝灰岩φ70mm 焼土φ1～90mm 2% 炭化物φ1～15mm 2%
- 5層 10184/3 に近い黄褐色 VI層由來土φ10～40mm 2% V層由來土φ2～30mm 1% 炭化物φ1～10mm 1% 焼土粒φ5mm 少量
- 6層 10184/3 に近い黄褐色 V層由來土φ5～20mm 50% VI層由來土φ5～15mm 2% 炭化物φ1～5mm 1% 焼土粒φ2～5mm 少量
- 7層 10182/3 黒褐色 V層由來土φ2～20mm 20% 炭化物φ2～10mm 1% 焼土粒φ2～3mm 少量
- 8層 10182/3 暗褐色 V層由來土φ1～5mm 8% 炭化物φ1～15mm 20% 焼土φ2～10mm 10%
- 9層 10182/3 暗褐色 V層由來土φ2～20mm 7% V層由來土φ7～30mm 2% V層由來土φ1～3mm 少量 炭化物φ2～15mm 3% 焼土φ1～10mm 2%
- 10層 10182/3 暗褐色 V層由來土φ5～40mm 40% VI層由來土φ2～10mm 1% 炭化物φ2～5mm 1% 焼土粒φ2mm 微量
- 11層 10184/2 灰黄褐色 V層由來土φ2～40mm 5% VI層由來土φ2～20mm 2% V層由來土φ5～20mm 1% 綠色凝灰岩φ1～25mm 1% 炭化物φ2～10mm 1% 焼土φ1～20mm 1% 土面上に土器片あり
- 12層 10184/2 灰黄褐色 V層由來土φ2～40mm 7% VI層由來土φ2～10mm 3% 炭化物φ2～10mm 2% 焼土φ2～5mm 少量
- 13層 10183/4 暗褐色 V層由來土φ2～30mm 7% 炭化物φ1～5mm 少量 焼土φ1～30mm 7%
- 14層 10184/3 に近い黄褐色 V層由來土φ5～30mm 7% VI層由來土φ20～90mm 3% 炭化物φ2～5mm 1% 焼土φ1～50mm 7%
- 15層 10184/3 に近い黄褐色 VI層由來土φ2～40mm 3% 炭化物φ2～5mm 微量 焼土φ2～70mm 30%
- 16層 10183/4 暗褐色 VI層由來土φ5～30mm 7% VI層由來土φ1～30mm 7% V層由來土φ2～10mm 1% 炭化物φ2～5mm 少量 焼土φ1～10mm 1% 綠色凝灰岩φ5mm 少量
- 17層 10183/4 暗褐色 VI層由來土φ10～20mm 3% 焼土φ2～30mm 30%
- 18層 10183/4 暗褐色 焼土φ2～10mm 2%
- 19層 10184/3 に近い黄褐色 VI層由來土φ2～30mm 7% 炭化物φ2～10mm 1% 焼土φ1～20mm 2%
- 20層 10184/4 褐色 (VI層由來) 炭化物φ3mm 少量 焼土φ3mm 少量
- 21層 10184/3 に近い黄褐色 VI層由來ブロックφ80～120mm 60% 炭化物φ2～3mm 少量 焼土φ2mm 少量
- 22層 10183/4 暗褐色 VI層由來土φ2～40mm 20% V層由來土φ5～20mm 1% 炭化物φ2～10mm 1% 焼土φ2～5mm 少量
- 23層 10184/2 灰黄褐色 VI層由來土φ2～20mm 7% 炭化物φ2～10mm 3% 焼土φ2～5mm 1%
- 24層 10183/3 暗褐色 V層由來土φ2～25mm 20% VI層由來土φ5～40mm 20% V層由來土φ5～40mm 20% 炭化物φ2～35mm 5% 焼土φ2mm 1%
- 25層 10183/4 暗褐色 VI層由來土φ5～30mm 3% V層由來土φ3mm 微量 炭化物φ2～15mm 1% 焼土φ2mm 微量
- 26層 10184/4 褐色 (VI層由來)
- 27層 10184/3 に近い黄褐色 V層由來土φ20～30mm 3% V層由來土φ5mm 微量 炭化物φ2mm 微量
- 28層 10184/3 に近い黄褐色 V層由來土φ5～15mm 1% 炭化物φ5mm 微量
- 29層 10184/3 に近い黄褐色 V層由來土φ2～10mm 7% VI層由來土φ10～20mm 2%

S194 カマド 2

- 1層 7.5183/3 暗褐色 VI層由來土φ5～120mm 5% 炭化物φ1～10mm 1% 焼土φ2～50mm 20%
- 2層 10183/3 暗褐色 VI層由來土φ10～30mm 7% V層由來土φ2～15mm 3% 炭化物φ2～10mm 1% 焼土φ1～20mm 3% 綠色凝灰岩φ1～10mm 1%
- 3層 a 10182/4 暗褐色 VI層由來土φ3～10mm 2% 炭化物φ2～10mm 1% 焼土φ1～20mm 3%
- 3層 b 10184/4 に近い黄褐色 炭化物φ1～5mm 1% 焼土φ1～10mm 2% 綠色凝灰岩φ1～5mm 少量
- 4層 10183/3 暗褐色 V層由來土φ2～40mm 7% VI層由來土φ2～20mm 2% 炭化物φ1～10mm 1% 焼土φ1～10mm 少量
- 5層 10184/2 灰黄褐色 VI層由來ブロックφ60mm 40% V層由來土φ2～5mm 1% 炭化物φ1～5mm 1% 焼土φ2mm 微量
- 6層 10185/3 に近い黄褐色
- 7層 10184/3 に近い黄褐色 V層由來土φ15mm 1% 炭化物φ1～2mm 少量 焼土φ1～15mm 7%
- 8層 10182/2 黒褐色 VI層由來土φ5～15mm 5% 炭化物φ2～3mm 1% 焼土φ10mm 1%
- 9層 10184/4 褐色 炭化物φ1mm 微量

図78 第94・97号竪穴建物跡(3)



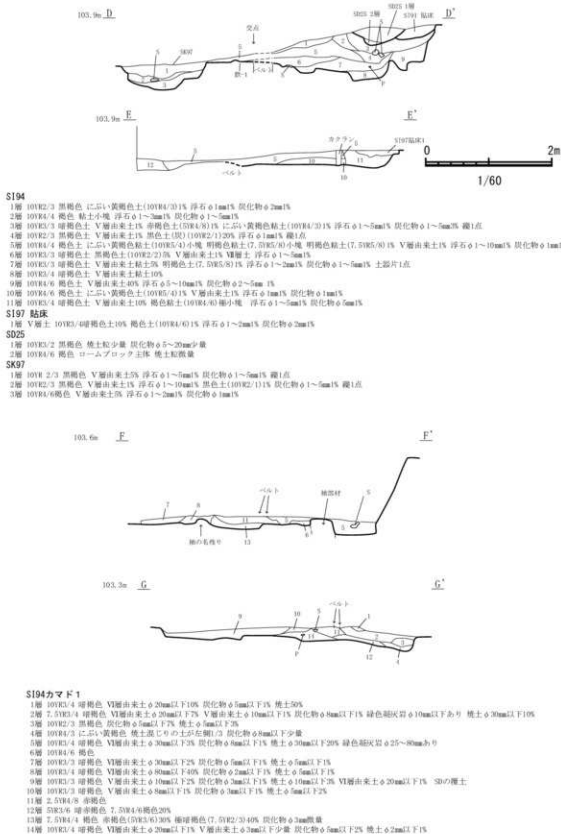


図79 第94・97号竪穴建物跡(4)

沢部(1)遺跡

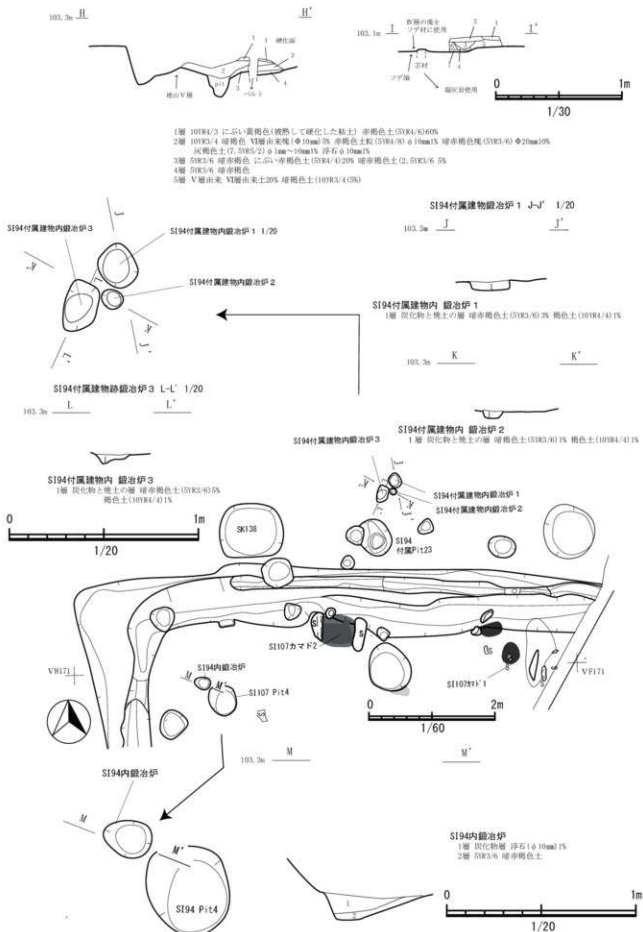
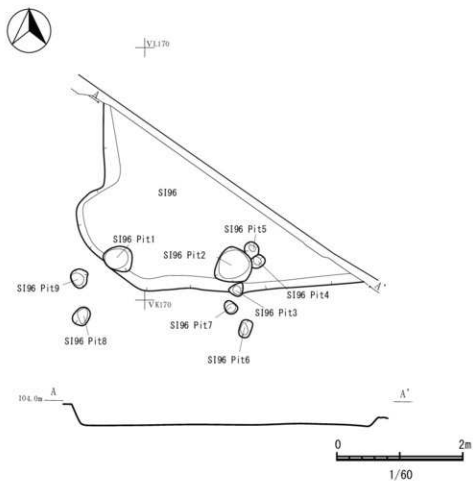


図80 第94・97号竪穴建物跡(5)



S196 完掘状況

図81 第96号竪穴建物跡

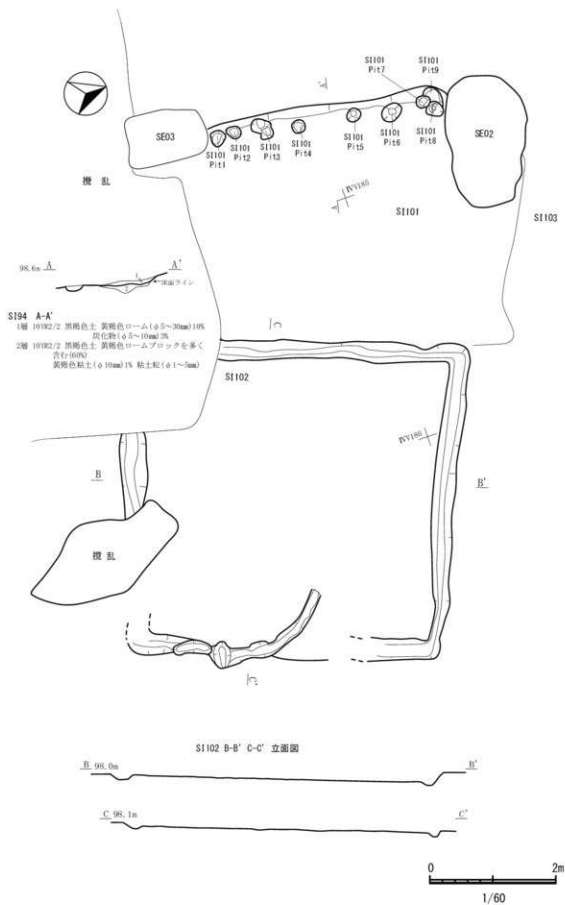
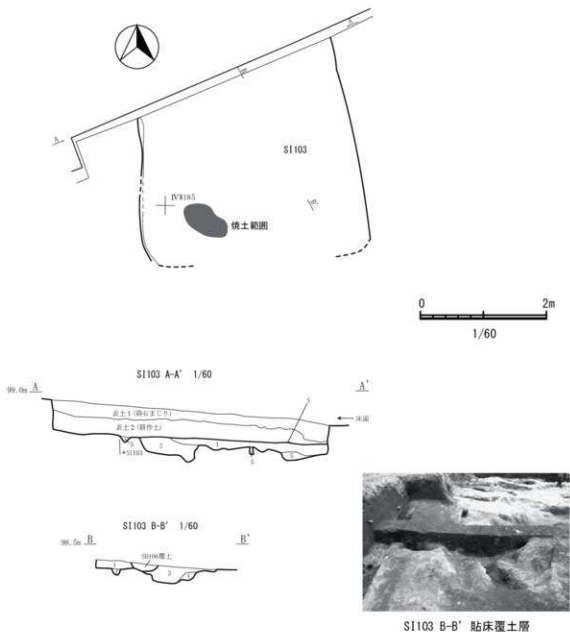


図82 第101・102号竪穴建物跡



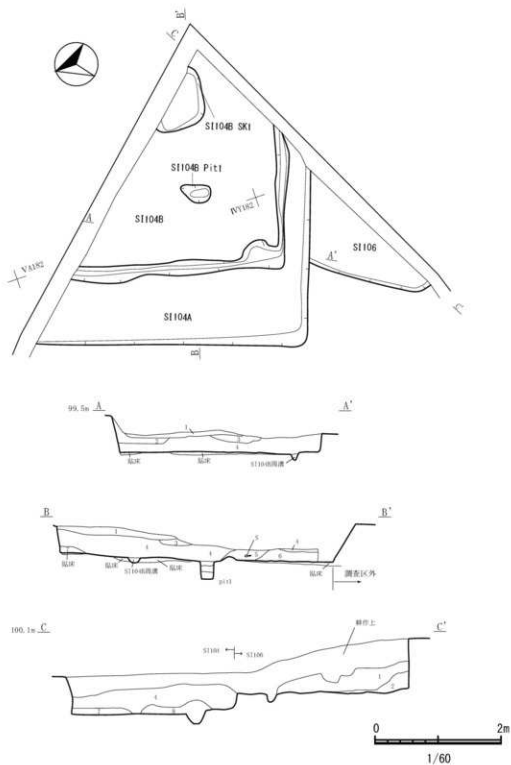
## S1103 A-A' B-B'

- 1層 10YR2/2 黒褐色 黄褐色ロームφ20mm以下20% 炭化物φ10mm以下2% 焼土粒φ1mm散量 浮石粒φ3mm散量  
 建物の敷居板φ20mm以下層の中に含む ヒンクリームφ20mm以下1% 貼床覆土
- 2層 10YR2/2 黒褐色 黄褐色ロームブロックφ50mm以下40% 炭化物φ10mm以下1% 焼土粒φ1mm散量 貼床覆土
- 3層 10YR2/3 暗褐色 黄褐色ロームブロックφ50mm以下30% 炭化物φ5mm以下散量 焼土粒φ1mm以下散量 浮石粒φ5mm以下散量 黒土10%混入 貼床覆土
- 4層 10YR2/3 暗褐色 黄褐色ロームφ30mm以下7% ピンクリームφ40mm以下0% 炭化物φ3mm以下散量 貼床覆土
- 5層 10YR2/2 黒褐色 黄褐色ロームブロックφ30mm以下0% 炭化物φ2mm以下散量 焼土粒φ1mm散量 貼床覆土

## S1106 覆土

- 10YR3/3 暗褐色 千代含むロームφ20mm以下0% 炭化物φ1mm散量 焼土粒φ1mm散量

図83 第103号竪穴建物跡



SI104A・104B

- 1層 101W3/1 黒褐色 V層由束土φ40mm以下20% V層由束土φ20mm以下1% 炭化物φ5mm以下少量
- 2層 101W2/2 黒褐色 V層由束土φ60mm以下20% 炭化物φ3mm以下1% VI層由束土φ30mm以下2%
- 3層 101W2/2 黒褐色 V層由束土φ40mm以下30% VI層由束土ブロックφ80mm以下2% 炭化物φ3mm以下少量
- 4層 101W3/2 黒褐色 V層由束土ブロックφ120mm以下40% 炭化物φ2mm以下少量
- 5層 101W2/2 黒褐色 V層由束土φ30mm以下20% VI層由束土φ20mm以下1% 炭化物φ5mm以下1% 焼土粒φ3mm以下少量
- 6層 101W2/2 黒褐色 V層由束土φ60mm以下30% VI層由束土φ50mm以下10% 炭化物φ5mm以下1% 焼土粒φ3mm以下少量
- 7層 101W2/2 黒褐色 V層由束土φ80mm以下50%以上 VI層由束土φ50mm以下10%
- 8層 101W3/3 暗褐色 V層由束土φ40mm以下30% 炭化物φ10mm以下少量

SI106

- 1層 101W2/2 黒褐色 V層由束土φ40mm以下30% VI層由束土φ20mm以下1% 炭化物φ20mm以下2%
- 2層 101W2/2 黒褐色 V層由束土φ100mm以下20% VI層由束土φ100mm以下10% 炭化物φ1mm少量 焼土粒φ2mm以下微量

図84 第104A・B・106号竪穴建物跡

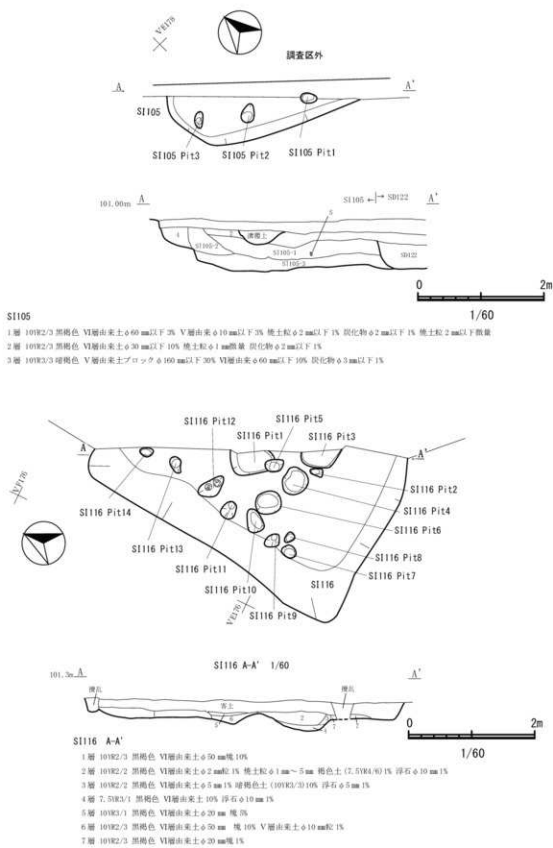
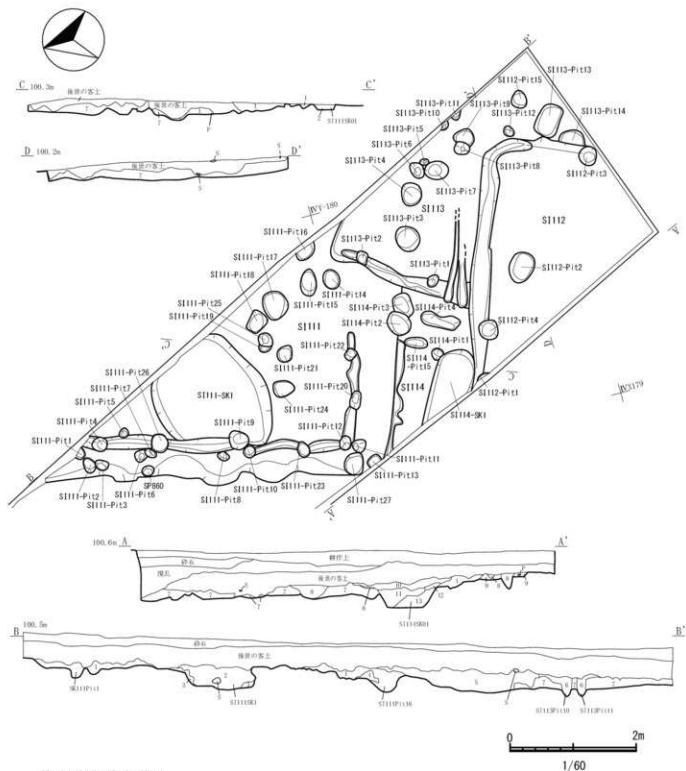


図85 第105・116号竪穴建物跡

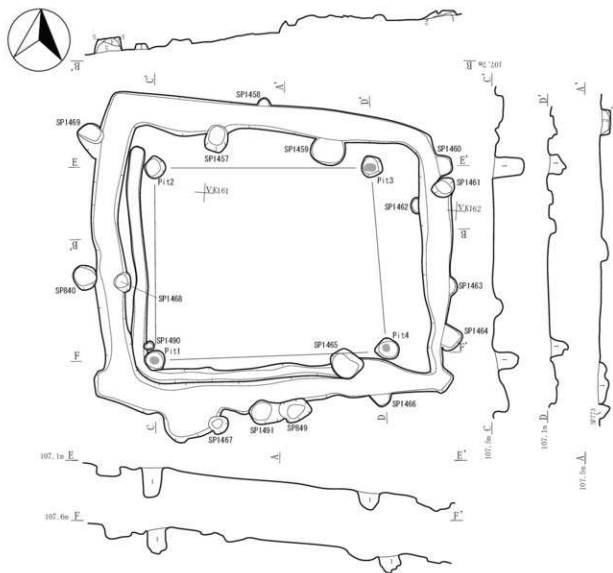


SI111・SI112・SI113・SI114

- 1層 10YR2/2 黒褐色土 V層由來ロームブロック (φ5～50mm)10% VI層由來ロームブロック (φ5～20mm)2% 焼土ブロック (φ1～5mm)1% 炭化物 (φ1～10mm)1%
- 2層 10YR2/1 黒色土 V層由來ロームブロック (φ5～20mm)1% VI層由來ロームブロック (φ～1mm)1% 焼土ブロック (φ～1mm)1%以下 炭化物 (φ～1mm)1%
- 3層 10YR4/6 褐色土 V層由來ロームブロック (φ1～5mm)2%
- 4層 10YR2/2 黒褐色土 V層由來ロームブロック (φ10～150mm)95%
- 5層 10YR2/2 黒褐色土 V層由來ロームブロック (φ5～100mm)20% VI層由來ロームブロック (φ5～10mm)2% 焼土ブロック (φ1～5mm)1% 炭化物 (φ～1mm)1%
- 6層 10YR2/2 黒褐色土 V層由來ロームブロック (φ1～20mm)2% VII層ロームブロック (φ1～2mm)1% 焼土ブロック (φ～1mm)1% 炭化物 (φ～1mm)1%
- 7層 10YR2/3 暗褐色土 V層由來ロームブロック (φ1～100mm)50% VI層由來ロームブロック (φ1～2mm)1% 焼土ブロック (φ1～2mm)1% 炭化物 (φ1～2mm)1%
- 8層 10YR2/1 黒褐色土 V層由來ロームブロック (φ1～30mm)5% 炭化物極少
- 9層 10YR2/2 黒褐色土 V層由來ロームブロック (φ1～10mm)50%
- 10層 10YR2/1 黒褐色土 V層由來ロームブロック (φ1～30mm)2% 焼土ブロック (φ1～10mm)2% 炭化物 (φ1～5mm)1%
- 11層 10YR2/2 黒褐色土 V層由來ロームブロック (φ1～10mm)1% 焼土ブロック (φ1～10mm)1% 炭化物 (φ1～5mm)1% VI層由來ロームブロック (φ5～30mm)1%
- 12層 10YR3/1 黒褐色土 V層由來ロームブロック (φ1～5mm)1%
- 13層 10YR2/2 黒褐色土 V層由來ロームブロック (φ1～5mm)1% 焼土ブロック (φ1～10mm)1% 炭化物 (φ1～5mm)1%

図86 第111・112・113・114号竪穴建物跡



**S801層溝**

- 1層 101K3/3暗褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~50mm)5% V層由米ロームブロック(φ1~10mm)2% 焼土ブロック(φ~1mm)1% 炭化物(φ1~2mm)1%  
 2層 101K3/4暗褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~30mm)10% V層由米ロームブロック(φ1~30mm)10% 炭化物(φ1~10mm)1%  
 3層 101K3/3暗褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~50mm)10% 焼土ブロック(φ~2mm)1% 炭化物(φ1~5mm)1%  
 4層 101K3/4暗褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~10mm)1% V層由米ロームブロック(φ~1mm)1% 炭化物(φ~1mm)1%  
 5層 101K4/3L赤い・黄褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~50mm)1% V層由米ロームブロック(φ1~50mm)10% 炭化物(φ1~2mm)1%

**S801(Pit1~Pit4)**

- 1層 101K3/1黒褐色土 V層由米ロームブロック(φ~20mm)1%

■ 柱痕範囲

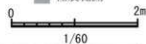


図87 第1号掘立柱建物跡

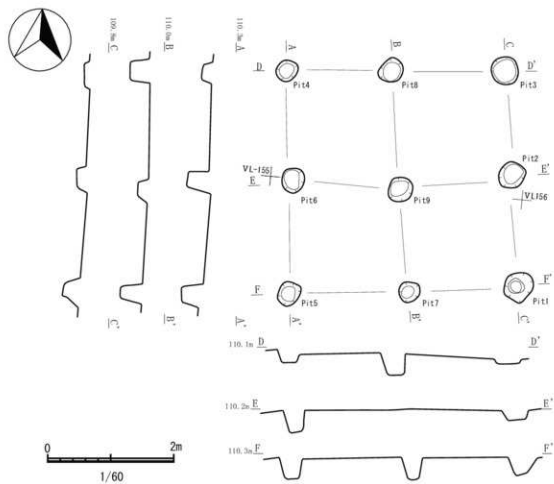


图88 第2号掘立柱建物跡

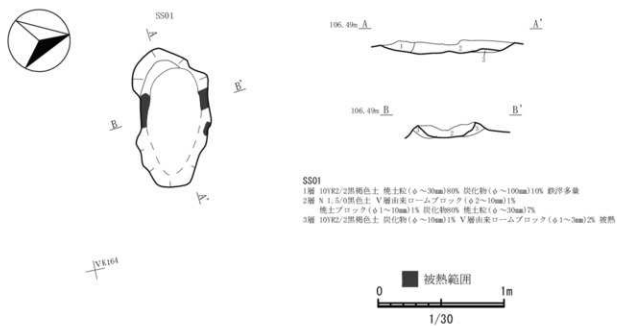
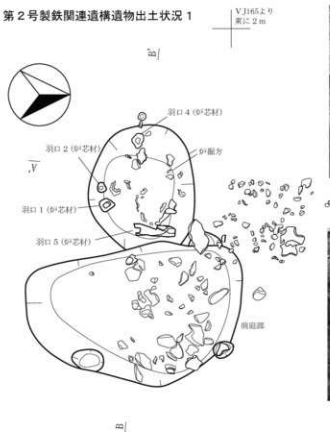


図89 第1号製鉄関連遺構

第2号製鉄関連遺構遺物出土状況1



第2号製鉄関連遺構遺物出土状況2

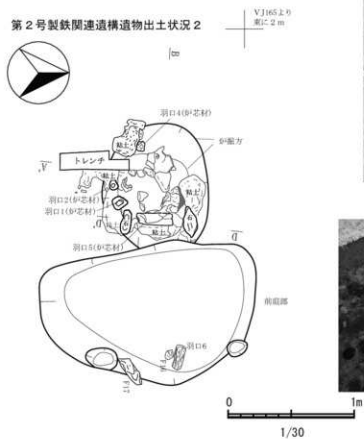
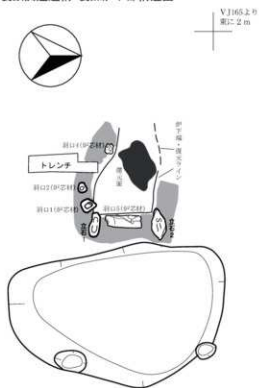


図90 第2号製鉄関連遺構1

第2号製鉄関連遺構 製錬炉下部構造図



第2号製鉄関連遺構 製錬炉掘方図

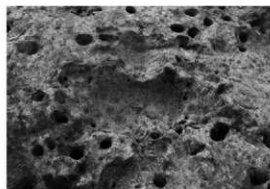
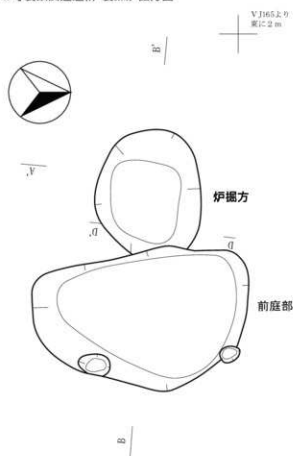
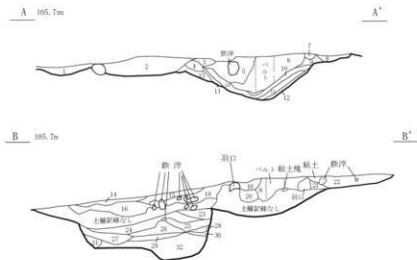


図91 第2号製鉄関連遺構 2



SS02

- 1層 10VR2/3 黒褐色 褐色土(10VR4/6)2% 炭化物φ1~5mm1% 浮石φ1mm1%
- 2層 10VR2/3 黒褐色 明褐色土(7, 5VR5/6)φ1~15mm1% 褐色土(10VR4/6)1% 炭化物φ5~15mm1% 浮石φ1~5mm1%
- 3層 7, 5VR5/3 に近い褐色 炭化物φ1~2mm1% 浮石φ15mm1%
- 4層 7, 5VR3/3 暗褐色(黄土) 褐色土(7, 5VR4/6)20% (黄土) 浮石φ5mm1%
- 5層 10VR2/3 黒褐色 炭化物φ100mm大塊, 明黄褐色(10VR6/6)粘土ブロックφ40mm
- 6層 10VR3/4 暗褐色 明黄褐色土(10VR6/6)小塊φ5~10mm
- 7層 7, 5VR4/3 褐色(黄土) 褐色土(7, 5VR4/6)20%(黄土)
- 8層 10VR2/2 黒褐色 黄褐色土(10VR5/6)小塊φ5mm1% 褐色土(7, 5VR4/6)(黄土)小塊φ2mm
- 9層 10VR2/3 黒褐色
- 10層 5VR4/4 に近い赤褐色(黄土) 明褐色土(7, 5VR5/6)20% 浮石φ1~10mm1%
- 11層 10VR3/4 暗褐色
- 12層 10VR4/6 褐色 浮石φ1mm1%
- 13層 10VR4/6 褐色 V層土由来60% 褐色土(7, 5VR4/6)(黄土)1%
- 14層 10VR2/3 黒褐色 明黄褐色土(10VR6/6)φ1mm1%
- 15層 10VR2/3 黒褐色 褐色土(7, 5VR4/6)φ5~10mm1% 黄褐色土(10VR5/6)φ1~10mm2%
- 16層 10VR3/3 暗褐色 黄褐色土(10VR5/6)20%
- 17層 10VR2/1 黒色 暗褐色土(10VR3/4)φ10mm1%
- 18層 10VR2/3 黒褐色 褐色土(10VR4/6)φ20mm10% 褐色土(7, 5VR4/6)(黄土)φ20mm1% 炭化物φ2~20mm1%
- 19層 10VR5/4 に近い黄褐色 暗褐色土(10VR3/4)30% 明褐色土(7, 5VR5/6)(黄土)φ15mm1% 黄褐色土(10VR6/6)φ3~5mm1%
- 20層 10VR7/4 に近い黄褐色 黄褐色土(10VR5/6)4塊φ30mm 7, 5V4/4 黄褐色土(10VR5/4)小塊φ30mm
- 21層 10VR2/3 黒褐色 明褐色土(7, 5VR5/6)(黄土)小塊5% 黄褐色土(10VR6/6)粘土小塊1%
- 22層 10VR2/3 黒褐色 黄褐色土(10VR7/6)φ20mm小塊, 明褐色土(7, 5VR5/6)φ15mm小塊, 浮石φ2mm1% 炭化物φ30mm1点, 炭化物φ5mm1%
- 23層 5VR2/4 暗赤褐色 砂混じり土, 赤褐色土(5VR4/6)(黄土)10% V層土由来1% 浮石φ1mm1%
- 24層 5VR2/4 暗赤褐色 砂混じり土, 赤褐色土(5VR4/6)(黄土)粘土少量, 黄褐色土(5VR2/1)1% 浮石φ1mm3% 炭浮石φ
- 25層 5VR2/4 暗赤褐色 砂混じり土, 黒褐色土(5VR2/1)10% 暗赤褐色土(5VR2/6)(黄土)1%
- 26層 5VR2/4 暗赤褐色土, 赤褐色土(5VR4/6)(黄土)粘土少量, 炭化物φ2~3mm2% 炭浮石φ15mm1%
- 27層 5VR2/2 黒褐色 V層土由来2% 赤褐色土(5VR4/6)(黄土)1% 浮石φ1~3mm1%
- 28層 10VR4/6 褐色粘土
- 29層 10VR2/1 黒色 褐色土(10VR4/6)粘土1% 炭浮石(砂混じり)2%
- 30層 10VR2/3 黒褐色, 赤褐色土(5VR4/6)(黄土)粘土φ1% 褐色土(10VR4/6)粘土1%
- 31層 10VR4/6 褐色 V層土由来2% 炭化物φ1~2mm1%
- 32層 10VR2/3 黒褐色土, V層土由来10%, 赤褐色土(5VR4/6)(黄土)粘土φ1% 炭化物φ1~2mm2% 浮石φ1mm1%

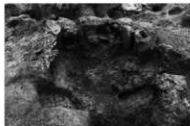


図92 第2号製鉄関連遺構3

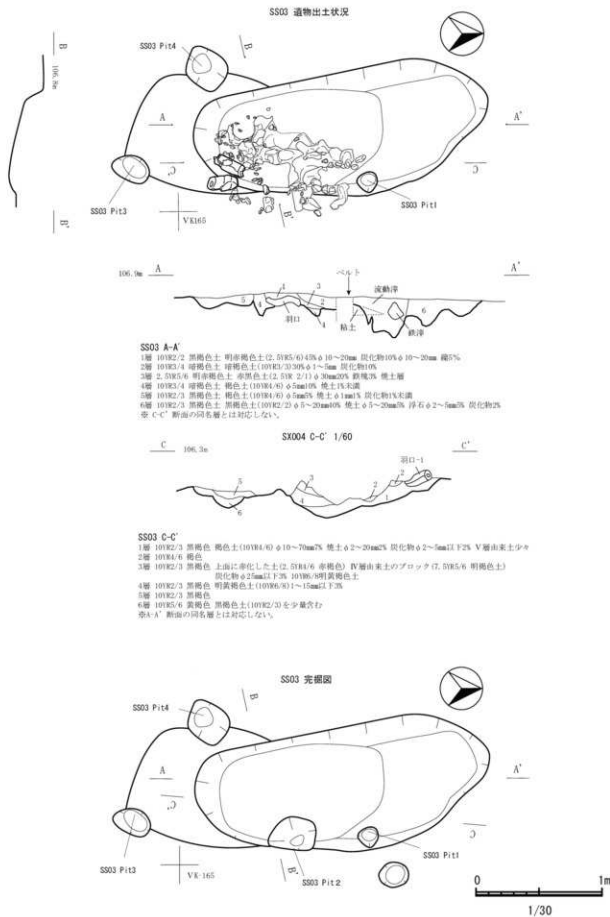


図93 第3号製鉄関連遺構

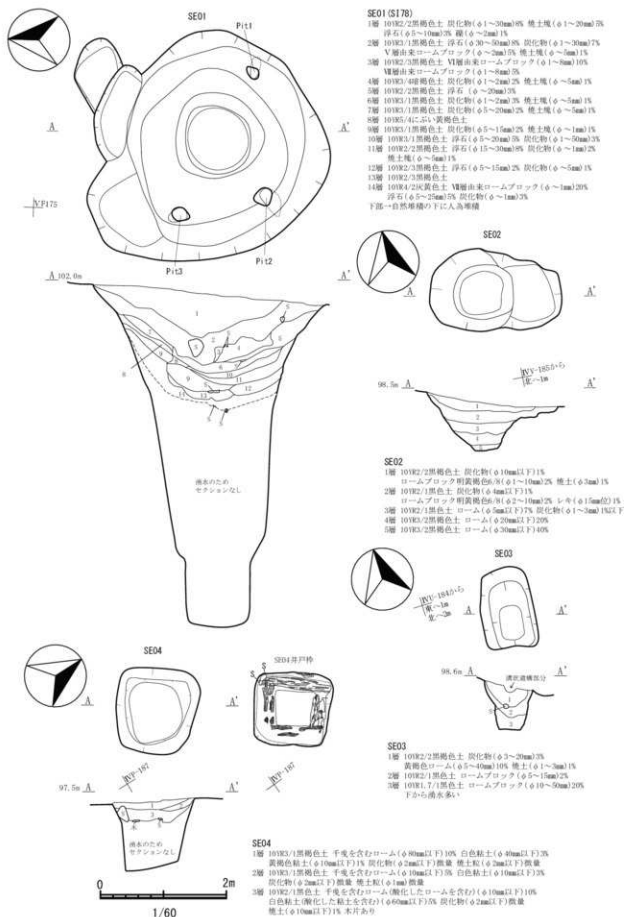


図94 第1・2・3・4号井戸跡



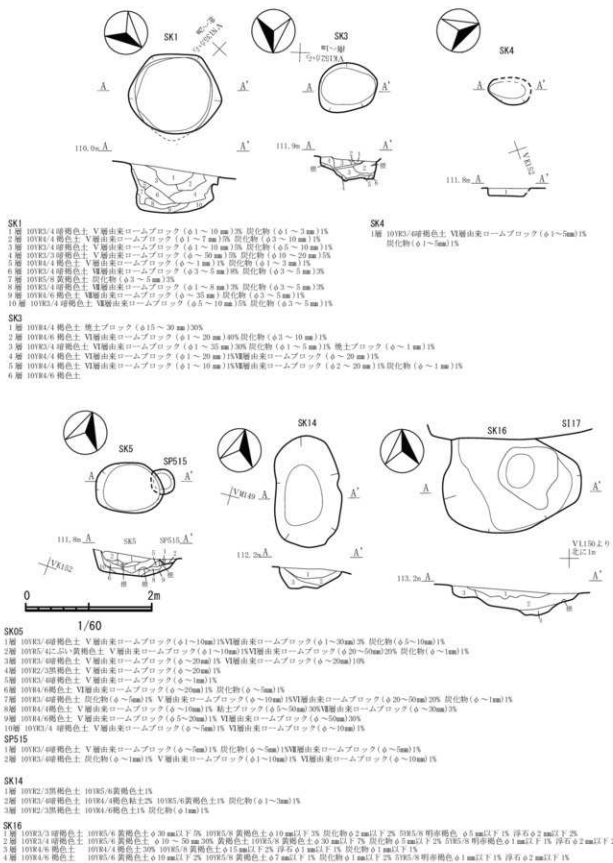
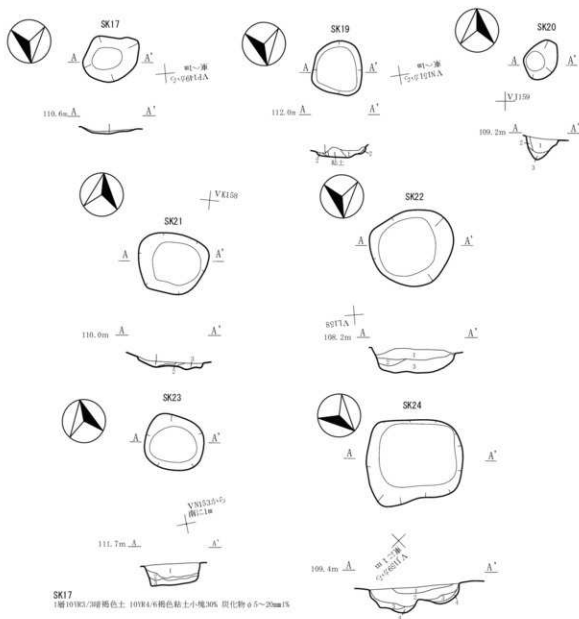


図95 土坑(1)



**SK17**

1層 10YR3/3暗褐色土 10YR4/6褐色粘土小塊30% 炭化物φ5~20mm以下

**SK19**

1層 10YR4/6褐色土 10YR5/6黄褐色土30% 炭化物φ5mm以下 5YR4/6赤褐色土20%  
2層 10YR4/6褐色土 5YR5/8明赤褐色土50% 5YR4/8赤褐色土20%

**SK20**

1層 10YR3/3暗褐色土 V層山菜ロームφ30mm以下10% V層山菜ロームφ50mm以下1% 炭化物φ2mm以下微量 焼土ブロックφ10mm以下2%  
2層 10YR3/4暗褐色土 V層山菜ロームφ10% 炭化物φ1mm以下微量  
3層 10YR4/3に灰・黄褐色土 V層山菜ロームφ50mm以下20% V層山菜ロームφ30mm以下2% 炭化物φ20mm以下1%

**SK21**

1層 10YR3/4暗褐色土 下部にV層山菜ロームφ1% V層山菜ロームφ2mm以下1% 炭化物φ1mm以下 炭化程度の浮石1%以下  
2層 10YR3/4暗褐色土 V層山菜ロームφ10% 炭化物φ1mm以下微量  
3層 10YR4/3に灰・黄褐色土 V層山菜ロームφ1% 炭化物φ5mm以下微量V層山菜ロームφ30mm以下1% 焼土粒φ2mm以下微量

**SK22**

1層 10YR2/3黒褐色土 V層山菜φ1~30mm20% V層山菜φ1~20mm7% 炭化物φ1~5mm以下  
2層 10YR2/3黒褐色土 V層山菜φ1~20mm7% V層山菜φ1~20mm2%  
3層 10YR2/2黒褐色土 V層山菜φ1~10mm5% V層山菜φ1~5mm7% 炭化物φ1~2mm以下微量

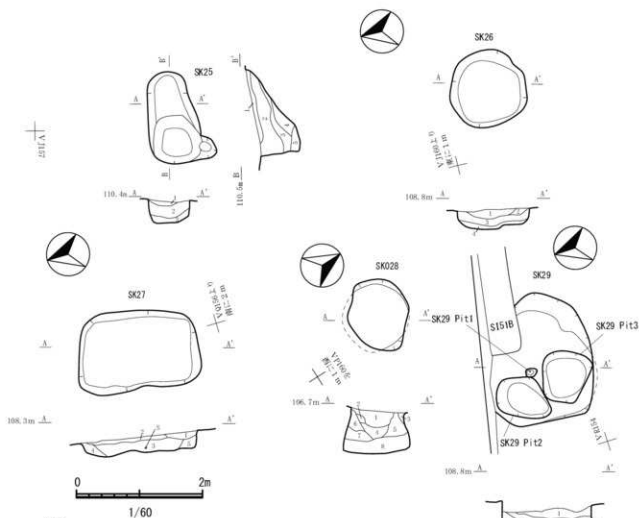
**SK23**

1層 10YR3/3暗褐色土 10YR4/4褐色土40% 10YR4/6褐色土10% 浮石(φ1mm~5mm)5% 10YR2/3黒褐色土1% 炭化物(φ1mm~2mm)1%  
2層 10YR3/4暗褐色土 炭化物(φ30mm~40mm)30% 10YR4/4褐色土10% 焼土5YR3/6暗赤褐色土(φ1mm~3mm)1% 浮石(φ1mm~10mm)1%  
3層 10YR3/4暗褐色土 10YR5/4に灰・黄褐色土30% 10YR4/4褐色土30% 炭化物(φ10mm)1% 5YR3/4暗赤褐色土(φ10mm)1%

**SK24**

1層 10YR3/3暗褐色土 V層山菜ロームφ15mm以下7% 炭化物φ3mm以下微量  
2層 10YR2/2黒褐色土 V層山菜ロームφ20mm以下10% 炭化物φ8mm以下微量  
3層 10YR2/3暗褐色土 V層山菜ロームφ50mm以下7% 炭化物φ2mm以下微量 焼土粒φ1mm以下微量  
4層 10YR3/4暗褐色土 V層山菜ロームφ40mm以下5%

図96土坑(2)



## SK25

- 1層 101K3/3 暗褐色土 V層由来ロームφ10mm以下2% 炭化物φ1mm以下  
 2層 101K3/2 黒褐色土 V層由来ロームφ40mm以下7% 炭化物φ1mm以下 V層由来ロームφ20mm以下1%  
 3層 101K3/2 黒褐色土 V層由来ロームφ20mm以下5% 炭化物φ1mm以下2% 焼土φ20mm以下1% 炭化物φ5mm以下1%  
 4層 101K2/3 黒褐色土 V層由来ロームφ20mm以下5% V層由来ロームφ20mm以下2% 炭化φ1mm以下少量 焼土粒φ1mm以下  
 5層 101K3/3 暗褐色土 V層由来ロームφ20mm以下5% 炭化物φ2mm以下1% V層由来ロームφ10mm以下3%

## SK26

- 1層 101R3/4 暗褐色土 V層由来ロームφ5mm以下3% V層由来ロームφ5mm以下 炭化物φ3mm以下1%  
 2層 101R2/4 暗褐色土 白色粘土ブロックφ90mm50%以上 V層由来ロームφ5mm以下1%  
 3層 101R3/3 土色・黄褐色土 V層由来ロームφ10mm以下3% 焼土粒φ3mm以下1% 炭化物φ5mm以下1%  
 4層 101R3/3 暗褐色土 炭化物φ3mm以下1%

## SK27

- 1層 101K3/3 暗褐色土 V層由来φ5mm以下5% V層由来φ40mm以下30% 炭化物φ5mm以下2%  
 2層 101R1/3 土色・黄褐色土 V層由来φ30mm以下10% V層由来φ40mm以下25% 炭化物φ5mm以下2% 焼土φ30mm以下2% 焼土φ5mm以下2%  
 3層 101R1/4 褐色土 V層由来φ50mm以下13% V層由来φ30mm以下30% 炭化物φ3mm以下1% 焼土φ30mm以下5%  
 4層 101R3/4 暗褐色土 V層由来φ20mm以下1% V層由来φ20mm以下3%  
 5層 101K3/3 暗褐色土 V層由来φ30mm以下3% V層由来φ50mm以下20% 炭化物φ3mm以下1%

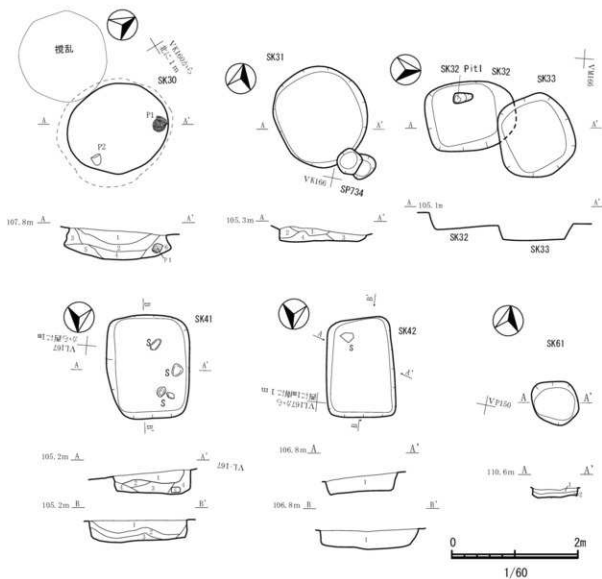
## SK28

- 1層 101R2/2 黒褐色土 V層由来φ5mm以下2% 炭化物φ3mm以下1%  
 2層 101R3/1 黒褐色土 V層由来φ4mm以下40%  
 3層 101R4/2 灰黄褐色土 V層由来ブロック20%  
 4層 101R2/1 黒色土 V層由来φ5mm以下1% V層由来φ6mm以下1%  
 5層 101R2/2 黒褐色土 V層由来φ3mm以下5%  
 6層 101R2/2 黒褐色土 V層由来φ5mm以下2% V層由来ブロックφ20mm混入  
 7層 101R2/2 黒褐色土 V層由来ブロック20% V層由来ブロック2%  
 8層 101R2/1 黒色土 V層由来3mm以下2% V層由来ブロック1%

## SK29

- 1層 101K3/3 暗褐色土 V層由来ロームブロック50%以上 浮石φ1mm以下2% レキφ15mm以下2% 焼土φ7mm以下1% 炭化物φ5mm以下2%  
 2層 101K3/3 暗褐色土 焼土粒φ30mm以下1% 炭化物φ5mm以下1% V層由来ロームブロックφ45mm  
 3層 101R3/4 暗褐色土 焼土φ5mm以下1% 炭化物φ3mm以下1% V層由来φ15mm以下5% V層由来φ25mm以下2%  
 4層 101R4/4 褐色土 炭化物φ2mm以下1% V層由来ローム50%以上

図97 土坑(3)



**SK30**

- 1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR3/4暗褐色土φ60mm以下40% 焼土粒φ1mm以下1% 炭化物φ1mm以下1% 浮石少量
- 2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR3/4暗褐色土混じる(φ50mm以下5%) V層由來ロームφ10mm以下1% 炭化物φ10mm以下少量 浮石少量
- 3層 10YR2/3 暗褐色土 V層由來ロームφ60mm以下50%以上 炭化物φ5mm以下少量 浮石少量
- 4層 10YR2/2 黒褐色土 V層由來ロームφ10mm以下7% V層由來ロームφ15mm以下10% 炭化物φ2mm以下少量
- 5層 10YR2/2 暗褐色土 V層由來ロームブロックφ60mm以下50% V層由來ローム20mm以下2% 炭化物φ1mm以下少量 V層由來ロームφ3mm以下少量
- 6層 10YR2/3 暗褐色土 10YR4/6褐色土φ80mm以下混じる10% 炭化物φ1mm粒数 焼土φ2mm粒数 縄文時代前期定形土器出土

**SK31**

- 1層 10YR3/1 黒褐色土 10YR2/1 黒色土1% 10YR5/6 黄褐色土10% φ5~10mm炭化物1% φ1~5mm焼土1%未測
- 2層 10YR2/3 暗褐色土 φ10~25mm浮石1% 10YR2/2 暗褐色土10% φ5mm焼土1%未測
- 3層 10YR2/3 暗褐色土 10YR4/3 に近い黄褐色土30% 10YR2/2 暗褐色土10% φ5~20mm浮石5% φ5~20mm炭化物2%
- 4層 10YR2/2 暗褐色土 10YR4/6 褐色土20% φ15mm炭化物1% φ1mm焼土1%未測

**SK41**

- 1層 10YR3/2 暗褐色土 10YR3/4 暗褐色土30% φ炭化物1~20mm1% φ2~5mm焼土1%未測
- 2層 10YR2/1 黒色土 10YR4/3 に近い黄褐色土50% φ炭化物1~5mm1% φ1mm焼土1%未測
- 3層 10YR2/2 暗褐色土 10YR1/7 白色土2% φ1~10mm浮石5% φ1mm炭化物1%未測
- 4層 10YR2/3 暗褐色土 10YR4/6 褐色土25%

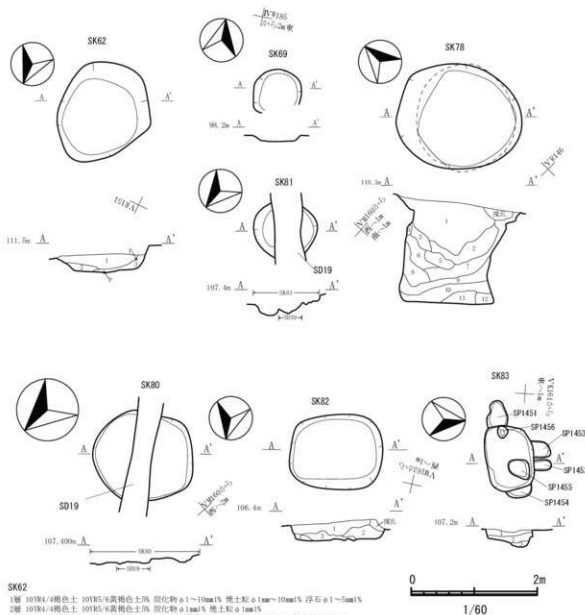
**SK42**

- 1層 10YR3/2 暗褐色土 10YR3/4 暗褐色土30% φ炭化物1~20mm1% φ2~5mm焼土1%未測

**SK61**

- 1層 10YR4/4褐色土 V層由來土(φ10mm)1% 浮石(φ5mm)1% 炭化物(φ1~10mm)5% V層由來土(φ30mm)10%
- 2層 10YR4/4褐色土 V層由來土 10YR4/6褐色土1% 炭化物(φ1~10mm)1% V層由來土(φ5mm)1% 浮石(φ1~10mm)1%

図98 土坑(4)



## SK62

- 1層 10YR4/4黄褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~10mm)2% 焼土粒(φ1mm~10mm)1% 浮石φ1~5mm1%  
 2層 10YR4/4褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~20mm)3% 焼土粒(φ1mm)1%  
 3層 10YR4/4褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~10mm)1% 焼土粒(φ1~5mm)1%

## SK78

- 1層 10YR1/7白色土 V層由束ロームブロック(φ1~10mm)2% V層由束ロームブロック(φ1~50mm)10% 焼土ブロック(φ1~3mm)10% 炭化物(φ1~5mm)2%  
 2層 10YR2/2黒褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~20mm)3% V層由束ロームブロック(φ1~5mm)7% V層由束ロームブロック(φ1~5mm)2%  
 3層 10YR3/3暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~5mm)2% 焼土ブロック(φ5~80mm)20% 炭化物(φ1~3mm)3%  
 4層 10YR3/3暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~5mm)3% V層由束ロームブロック(φ1~5mm)1%  
 5層 10YR3/4暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ~80mm)10% 焼土ブロック(φ1~20mm)3% 炭化物(φ1~3mm)2% 焼土ブロック(φ1~2mm)1%  
 6層 10YR5/5灰色黄褐色土 焼土ブロック(φ~1mm)1% 炭化物(φ~1mm)1% 焼土ブロック(φ2~5mm)90%  
 7層 10YR3/3暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~10mm)5% V層由束ロームブロック(φ1~10mm)10% 焼土ブロック(φ2~10mm)3%  
 8層 7.5YR3/3褐色土 焼土ブロック(φ5~30mm)90% 炭化物(φ1~2mm)1% 焼土ブロック(φ1~2mm)1%  
 9層 7.5YR4/4褐色土 焼土ブロック(φ5~50mm)90% 炭化物(φ1~10mm)10%  
 10層 10YR2/2黒褐色土 焼土ブロック(φ5~15mm)15% 炭化物(φ1~15mm)5%  
 11層 7.5YR5/5暗褐色土 焼土ブロック(φ5~15mm)30% 炭化物(φ1~10mm)2%  
 12層 10YR5/6黄褐色土 焼土ブロック(φ5~100mm)40% 炭化物(φ1~3mm)1%

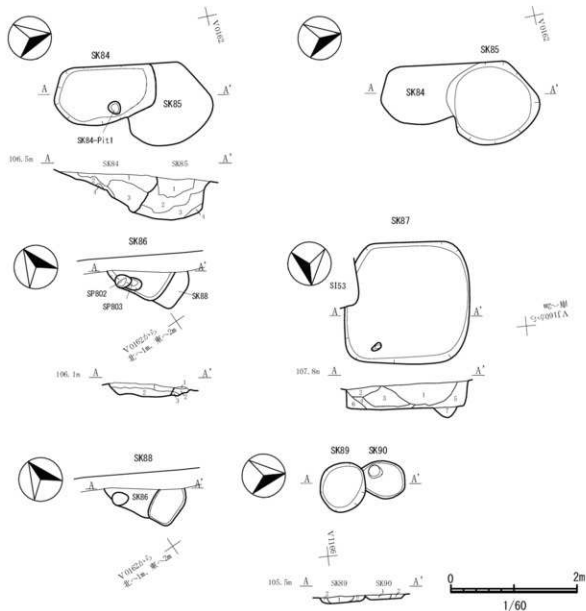
## SK82

- 1層 10YR2/2黒褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~30mm)3% V層由束ロームブロック(φ1~80mm)3% 焼土ブロック(φ~1mm)1% 炭化物(φ~1mm)1%  
 2層 10YR2/2黒褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~5mm)1% V層由束ロームブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ~1mm)1%  
 3層 10YR2/2黒褐色土 焼土ブロック(φ1~5mm)1% V層由束ロームブロック(φ1~20mm)3% 炭化物(φ1~3mm)1%  
 4層 10YR3/3暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~5mm)1% V層由束ロームブロック(φ1~50mm)10% 炭化物(φ1~2mm)1%

## SK83

- 1層 10YR3/3暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ2~20mm)7% V層由束ロームブロック(φ1~20mm)10% 焼土ブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ1~5mm)2%  
 2層 10YR3/3暗褐色土 V層由束ロームブロック(φ2~20mm)3% V層由束ロームブロック(φ2~15mm)5% 炭化物(φ1~5mm)1%  
 3層 10YR2/2黒褐色土 V層由束ロームブロック(φ1~15mm)2% V層由束ロームブロック(φ1~50mm)30% 炭化物(φ1~5mm)2%

図99 土坑(5)



**SK84**

- 1層 10YR2/3黒褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~30mm)1% V層由米ロームブロック(φ1~3mm)1% 炭化物(φ1~5mm)1%
- 2層 10YR2/4暗褐色土 VI層由米ロームブロック(φ1~3mm)1% V層由米ロームブロック(φ1~3mm)1% 炭化物(φ1~5mm)1%
- 3層 10YR4/3褐色土 VI層由米ロームブロック(φ30~50mm)10% V層由米ロームブロック(φ1~3mm)1% 炭化物(φ1~3mm)2%
- 4層 10YR5/8黄褐色土 炭化物(φ~1mm)1%

**SK85**

- 1層 10YR2/3黒褐色土 V層由米ロームブロック(φ~1mm)1% V層由米ロームブロック(φ~1mm)1% 炭化物(φ~1mm)1% 焼土ブロック(φ1~3mm)1%
- 2層 10YR2/3黒褐色土 VI層由米ロームブロック(φ1~10mm)1% V層由米ロームブロック(φ~1mm)1% 炭化物(φ1~3mm)1%
- 3層 10YR3/3暗褐色土 VI層由米ロームブロック(φ1~3mm)1% V層由米ロームブロック(φ1~3mm)1% 炭化物(φ1~3mm)1%
- 4層 10YR2/3黒褐色土 VI層由米ロームブロック(φ~1mm)1% 炭化物(φ~1mm)1%

**SK86**

- 1層 10YR3/4暗褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~20mm)1% VI層由米ロームブロック(φ1~10mm)1% 焼土ブロック(φ1~6mm)1% 炭化物(φ1~5mm)2%
- 2層 10YR2/3黒褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~5mm)2% VI層由米ロームブロック(φ1~3mm)1% 焼土ブロック(φ1~5mm)1% 炭化物(φ1~10mm)1%

**SK87**

- 1層 10YR2/3黒褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~10mm)1% VI層由米ロームブロック(φ1~50mm)2% 焼土ブロック(φ1~10mm)1% 炭化物(φ1~10mm)1%
- 2層 10YR3/3暗褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~15mm)1% VI層由米ロームブロック(φ1~10mm)60% 炭化物(φ1~3mm)1%
- 3層 10YR4/3褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~20mm)2% VI層由米ロームブロック(φ1~10mm)60% 炭化物(φ1~2mm)1%
- 4層 10YR3/3暗褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~10mm)1% VI層由米ロームブロック(φ1~50mm)60% V層由米ロームブロック(φ~40mm)1% 炭化物(φ1~2mm)1%
- 5層 10YR2/3暗褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~15mm)1% VI層由米ロームブロック(φ1~50mm)50% 炭化物(φ1~10mm)1%
- 6層 10YR2/2黒褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~30mm)1% VI層由米ロームブロック(φ1~1mm)1% 炭化物(φ1~2mm)1%
- 7層 7.5YR4/4褐色土 VI層由米ロームブロック(φ~50mm)50% V層由米ロームブロック(φ~50mm)50%

**SK88**

- 1層 10YR2/3黒褐色土 VI層由米ロームブロック(φ1~10mm)10%
- 2層 10YR4/6褐色土 VI層由米ロームブロック(φ30~50mm)50%
- 3層 10YR2/3暗褐色土 V層由米ロームブロック(φ~1mm)1% VI層由米ロームブロック(φ1~10mm)10% 炭化物(φ1~3mm)2%

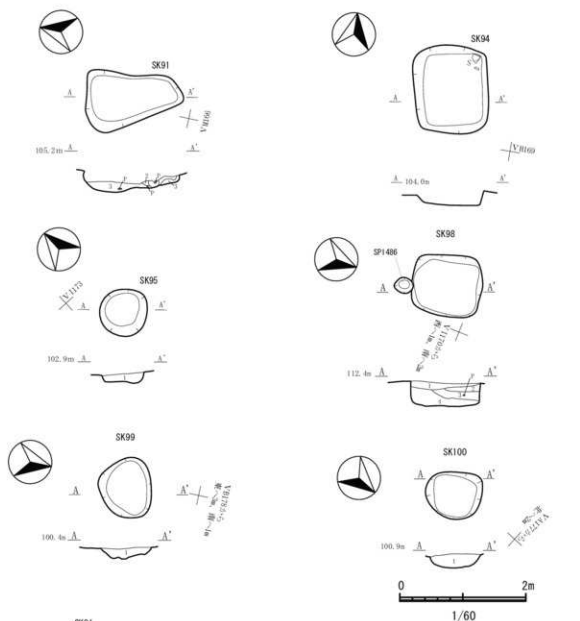
**SK89**

- 1層 10YR2/3暗褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~30mm)20%
- 2層 10YR3/4暗褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~20mm)10%

**SK90**

- 1層 10YR4/2濃い黄褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~20mm)2%
- 2層 10YR3/2黒褐色土 V層由米ロームブロック(φ1~30mm)10%

図100 土坑(6)

**SK91**

- 1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR3/3 暗褐色土30% 2. 5YR3/4 暗赤褐色土(焼土)3% φ5mm~15mm炭化物3% 10YR4/6 褐色土1%未満  
2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6 黄褐色土40%  
3層 10YR2/3 暗褐色土 10YR4/6 褐色土30% 10YR2/3 黒褐色土10% 10YR5/6 黄褐色土5% 7.5YR4/6 褐色土5% φ20mm炭化物

**SK95**

- 1層 10YR3/3 暗褐色 Ⅴ層山束 φ5~30mm炭化物 φ1~2mmシャ 籾 φ5mm少量

**SK98**

- 1層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層山束ロームブロック(φ~10mm)10% Ⅴ層山束ロームブロック(φ~10mm)5% 炭化物(φ~10mm)10%  
2層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層山束ロームブロック(φ~5mm)1% 炭化物(φ~2mm)1% 焼土ブロック(φ~5mm)1% 浮石(φ~5mm)1%  
3層 10YR3/3暗褐色土 Ⅴ層山束ロームブロック(φ~5mm)5% 炭化物(φ~10mm)10%  
4層 10YR4/6褐色土 Ⅴ層山束ロームブロック(φ~20mm)5% Ⅴ層山束ロームブロック(φ~20mm)10% 炭化物(φ~10mm)10% 浮石(φ1~20mm)5%

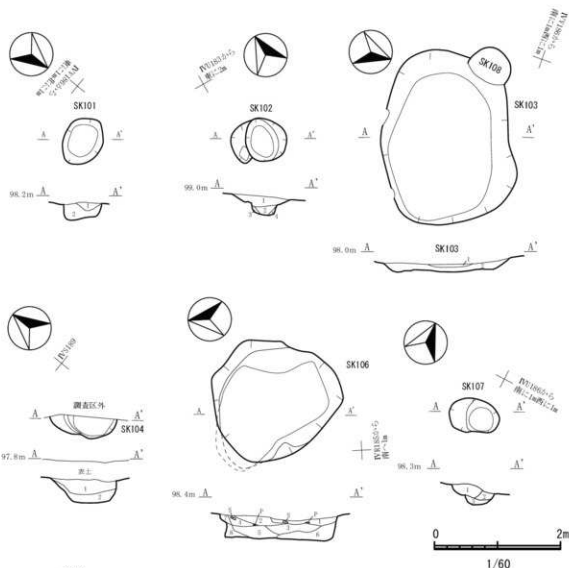
**SK99**

- 1層10YR1.7/1黒色土 Ⅴ層山束ロームブロック(φ1~10mm)1%

**SK100**

- 1層 10YR3/4暗褐色土 Ⅴ層山束ロームブロック(φ1~30mm)30%

図101 土坑(7)



**SK101**

- 1層 10YR2/3 黒褐色土 にぶい黄褐色粘土(10YR5/4)2% 焼土粒(φ1mm)1% 炭化物(φ3~5mm)1% 褐色土(10YR4/6)φ20mm1%
- 2層 10YR2/3 黒褐色土 粘土粒(φ2~5mm)10% 焼土粒(φ5mm)1% 炭化物(φ5mm)

**SK102**

- 1層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック黄褐色(φ5~30mm)3%
- 2層 10YR2/1 黒色土 ローム(φ1~3mm)1%
- 3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム(φ1~10mm)2.5%
- 4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム(φ1~10mm)50%

**SK103**

- 1層 10YR2/1 黒色土 黄褐色ロームφ1~20mm2% 炭化物φ5~10mm1%
- 2層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ1~30mm10% 黄褐色粘土φ10~20mm1% 炭化物φ5mm1%

**SK104**

- 1層 10YR2/1 黒色土 黄褐色ローム(10YR5/6)φ5mm以下1% 焼土φ1~2mm以下1% 明褐色浮石(7.5YR5/6)φ5~10mm1% 炭化物φ1~2mm1%
- 2層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色粘土(10YR5/6)φ2~10mm30%

**SK106**

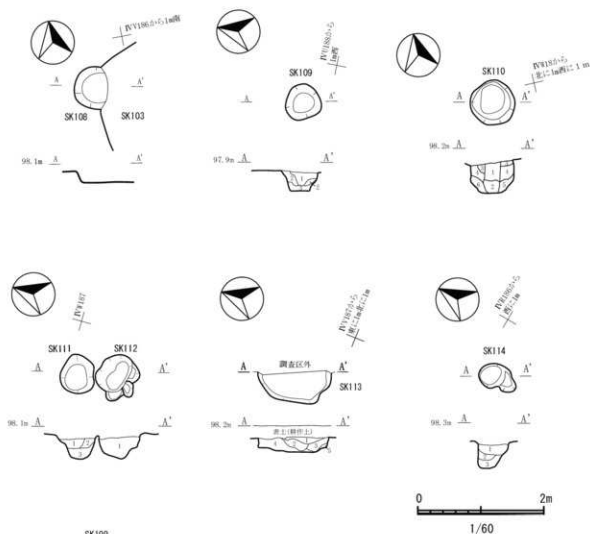
- 1層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ローム(φ5~40mm)10% にぶい黄褐色ローム(φ30mm以下)2% 炭化物1%
- 2層 10YR2/1 黒色土 黄褐色ローム(φ20mm以下)3% にぶい黄褐色ローム(φ20mm以下)1% 炭化物1%
- 3層 10YR2/1 黒色土 黄褐色ローム(φ9~90mm)以下20% にぶい黄褐色ローム(φ10~60mm)5%
- 4層 10YR3/1 黒褐色土 黄褐色ローム(φ10mm以下)1% 焼土粒(φ2mm)散見 炭化物(φ2mm)1%
- 5層 10YR3/1 黒褐色土 黄褐色ローム(φ5~50mm)25% 白色粘土ブロック(φ20mm以下)1%
- 6層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ローム(φ10~60mm)40% にぶい黄褐色ローム(φ10~30mm)30%
- 7層 10YR2/1 黒色土 黄褐色ローム(φ10mm以下)1%
- 8層 10YR2/1 黒色土 にぶい黄褐色ローム(φ5mm以下)2% 焼土粒(φ2mm以下)1%

**SK107**

- 1層 10YR2/1 黒褐色土 黄褐色ロームφ60mm以下30% 炭化物φ5mm以下3% 焼土粒φ2mm以下1%
- 2層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ20mm以下90%以上 炭化物φ2mm以下1%
- 3層 10YR4/2 灰黄褐色土 黄褐色ロームφ10mm以下49%以上 炭化物φ2mm以下1%

図102 土坑(8)





## SK109

- 1層 10YK3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ20mm以下F3% 炭化物φ10mm以下散在 焼土粒φ2mm以下F1%
- 2層 10YK3/4 暗褐色土 ピンク粘土ブロックφ30mm~80mm50% φ100×100mmのロームブロック 焼土塊φ10~30mm
- 3層 10YK3/3 暗褐色土 黄褐色ロームφ30mm以下F10% 焼土粒φ1mm以下

## SK110

- 1層 10YK3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ2mm~5mm3% 炭化物φ2mm以下F2% 焼土粒 1%
- 2層 10YK2/3 暗褐色土 黄褐色ロームφ2mm~20mm10% 炭化物φ2mm以下F1% 焼土粒 1%
- 3層 10YK3/3 暗褐色土 黄褐色ロームφ2mm~20mm7% 炭化物φ2mm以下散在 焼土粒φ1mm以下F1%
- 4層 10YK3/2 暗褐色土 黄褐色ロームφ30mm以下F20% 炭化物φ2mm以下散在 焼土粒φ1mm以下
- 5層 10YK2/3 暗褐色土 黄褐色ロームブロックφ5mm~60mm50% 黄白粘土φ20mm以下F1% ピンクロームφ10mm以下

## SK111

- 1層 10YK3/3 暗褐色土 ロームφ10mm以下F1% 炭化物φ10mm以下F1% 焼土φ3mm以下F1%
- 2層 10YK3/3 暗褐色土 ロームφ30mm以下F30% 炭化物φ5mm以下F1%
- 3層 10YK3/4 暗褐色土 ロームφ60mm以下F50%以上 ピンクロームφ10mm以下F2%

## SK112

- 1層 10YK2/3 暗褐色土 ロームφ30mm以下F10% 炭化物φ2mm以下F1% 焼土粒φ1mm以下F1% ピンクロームφ30mm以下

## SK113

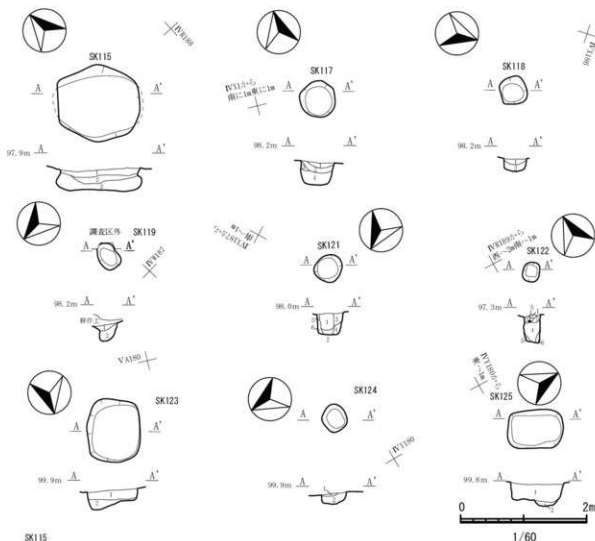
- 1層 10YK3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ20mm以下F2% 炭化物φ2mm以下 焼土粒φ1mm以下
- 2層 10YK2/2 暗褐色土 黄褐色ロームφ30mm以下F10% 焼土粒φ1mm以下
- 3層 10YK2/2 暗褐色土 黄褐色ロームφ10mm以下F3%
- 4層 10YK2/3 暗褐色土 黄褐色ロームブロックφ60mm以下F50%
- 5層 10YK3/8 黄褐色 ローム

## SK114

- 1層 10YK2/2 黒褐色土 ロームφ20mm以下F10% ピンクロームφ10mm以下F1% 白色粘土φ10mm以下F1% 炭化物φ5mm以下F1% 焼土φ50mm以下
- 2層 10YK1/7/1 赤色土 ロームφ10mm以下F2%
- 3層 10YK1/7/1 赤色土 ロームφ2mm以下F10%

図103 土坑(9)

沢部(1)遺跡



SK115

- 1層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ロームが堆積に見られるφ20~60mm 黄褐色ローム粒φ30mm以下炭化物粒φ5mm以下1% 焼土粒φ1mm以下1% 白色粘土φ20mm以下5%
- 2層 10YR2/1 黒色土 黄褐色ロームブロックφ50mm以下 焼土粒φ1mm以下1%
- 3層 10YR5/8 黄褐色土 白色粘土ブロックφ10mm

SK117

- 1層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ30mm以下10% ピンクロームφ5~10mm% 炭化物粒φ2mm程度 焼土粒φ1mm 1%
- 2層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ10mm以下5% ピンクロームφ20mm% 炭化物粒φ2mm以下1%
- 3層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ5mm以下7%
- 4層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ20mm以下10% 黒色土1%

SK118

- 1層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ20mm以下5% 焼土粒φ1mm% 炭化物φ1mm%5
- 2層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ30mm以下7%

SK119

- 1層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ10mm以下5% 炭化物φ20mm以下1% 焼土粒φ2mm以下1%
- 2層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ30mm以下10% 炭化物φ2mm以下1%

SK121

- 1層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ2mm以下5% ピンクロームφ20mm以下少量 白色粘土φ10mm以下少量炭化物粒φ10mm以下1% 焼土粒φ1mm以下1% 柱状腐土
- 2層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ20mm以下5% 柱状腐土
- 3層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ5mm以下10% 焼土粒φ5mm% 炭化物φ2mm以下1%
- 4層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ20mm以下20% 焼土粒φ10mm%5
- 5層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ5mm以下40%
- 6層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ30mm以下50% 焼土粒φ1mm%5

SK122

- 1層 粘土塊 焼土粒φ1mm%5
- 2層 10YR2/2 黒褐色土 焼土50mm×60mm 焼土粒φ1mm%5
- 3層 10YR2/1 黒色 黄褐色ロームφ10mm以下2% 焼土粒φ1mm%5
- 4層 10YR2/1 黒色 黄褐色ロームφ50mm以下10% 焼土粒φ1mm%5
- 5層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ30mm以下20%
- 6層 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色ロームφ10mm以下7% 焼土粒φ1mm%5

SK123

- 1層 10YR3/1 黒褐色 V層由来φ1~30mm以下5% 炭化物1%
- 2層 V層由来土層 10YR3/1 黒褐色φ20mm以下 V層由来2% 焼土1%

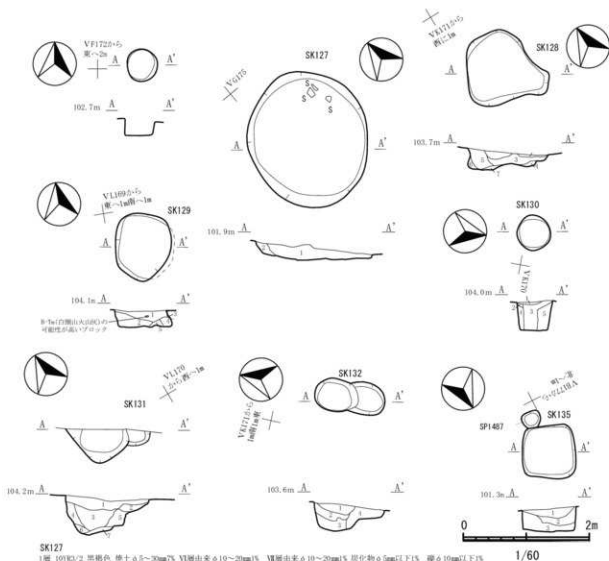
SK124

- 1層 10YR3/1 黒褐色 V層由来ブロックφ20% 焼土φ70mm以下5% 炭化物1%
- 2層 10YR3/1 黒褐色 V層由来φ30mm以下3% 炭化物φ1~3mm少量 焼土1%

SK125

- 1層 10YR2/2 黒褐色 V層由来φ50mm以下20% 炭化物φ2~5mm以下2% V層由来φ15mm以下
- 2層 V由来土 V層由来φ40mm以下

図104 土坑 (10)



SK127

- 1層 109K3/2 黒褐色 焼土 $\phi$ 3~5mm2% V層由束 $\phi$ 10~20mm1% V層由束 $\phi$ 10~20mm1% 炭化物 $\phi$ 5mm以下1% 縄 $\phi$ 10mm以下1%  
 2層 109K3/2 暗褐色 V層由束 $\phi$ 3~10mm1% 炭化物 $\phi$ 3~25mm1% 焼土 $\phi$ 1~10mm1% 縄 $\phi$ 3mm以下1%

SK128

- 1層 109K3/2 黒褐色 焼土 $\phi$ 3~5mm以下少量 V層由束 $\phi$ 5mm以下1% 縄 $\phi$ 3~10mm1% 炭化物 $\phi$ 3mm以下1%  
 2層 109K3/2 黒褐色 V層由束 $\phi$ 10~40mm2% V層由束 $\phi$ 10mm以下1% 縄 $\phi$ 5mm以下1% 焼土・炭化物 $\phi$ 3mm以下1%  
 3層 109K3/4 暗褐色 V層由束 $\phi$ 5~15mm1% 縄 $\phi$ 5mm以下1% 焼土・炭化物 $\phi$ 3mm以下1%  
 4層 109K3/6 褐色 縄 $\phi$ 5mm以下1%

SK129

- 1層 109K2/2 黒褐色 V層由束 $\phi$ 2~3mm2% 縄 $\phi$ 5~10mm1% 炭化物 $\phi$ 5mm以下1%  
 2層 109K2/2 黒褐色 V層由束 $\phi$ 10~10mm2% 縄 $\phi$ 5mm以下1%  
 3層 109K4/6 褐色 V層由束土と黒褐色土が混入  
 4層 109K2/1 黒色 V層由束 $\phi$ 5mm以下1%  
 5層 109K5/8 黄褐色 109K3/4暗褐色土30%

SK130

- 1層 109K2/2 黒褐色 V層由束 $\phi$ 25~45mm3% V層由束 $\phi$ 1~10mm2% 炭化物 $\phi$ 2mm少量 焼土 $\phi$ 2mm以下1%  
 2層 109K4/1 褐色 V層由束 $\phi$ 20mm以下1% V層由束 $\phi$ 20mm以下1% 黒褐色土(109K2/2)少量 暗褐色土(109K3/4)1%  
 3層 109K2/2 暗褐色 V層由束 $\phi$ 3~5mm2%  
 4層 109K3/4 暗褐色 V層由束 $\phi$ 2~7mm2%  
 5層 109K3/3 暗褐色 V層由束 $\phi$ 10~40mm2% V層由束 $\phi$ 10~20mm2% 炭化物 $\phi$ 2mm以下少量 V層由束ブロック $\phi$ 70mm2%

SK131

- 1層 109K3/4 暗褐色 黒色土(109K2/1)2% V層由束 $\phi$ 1~10mm2% 縄 $\phi$ 3~10mm1% 焼土・炭化物 $\phi$ 3mm以下1%  
 2層 109K3/2 暗褐色 黒色土(109K2/1)30% V層由束 $\phi$ 5mm以下1% 縄 $\phi$ 3mm以下1%  
 3層 109K3/3 暗褐色 黒色土(109K2/1)1% V層由束 $\phi$ 1~10mm2% V層由束 $\phi$ 40mmブロック混入  
 4層 109K3/3 暗褐色 黒色土 焼土・炭化物 $\phi$ 3mm以下1%  
 5層 109K2/2 暗褐色 109K2/1黒色土% V層由束 $\phi$ 1~10mm2% 縄 $\phi$ 5mm以下1% 炭化物 $\phi$ 3mm以下1%  
 6層 109K3/3 暗褐色 V層由束 $\phi$ 10mm以下2% 縄 $\phi$ 5~10mm以下1% 炭化物 $\phi$ 3mm以下1%  
 7層 109K3/3 暗褐色 V層由束 $\phi$ 90 $\times$ 90mmブロック V層由束 $\phi$ 60 $\times$ 60mmブロック10%  
 8層 109K3/3 暗褐色 V層由束 $\phi$ 10mm以下1% 炭化物 $\phi$ 3mm以下1% 焼土 $\phi$ 2~5mm以下1%

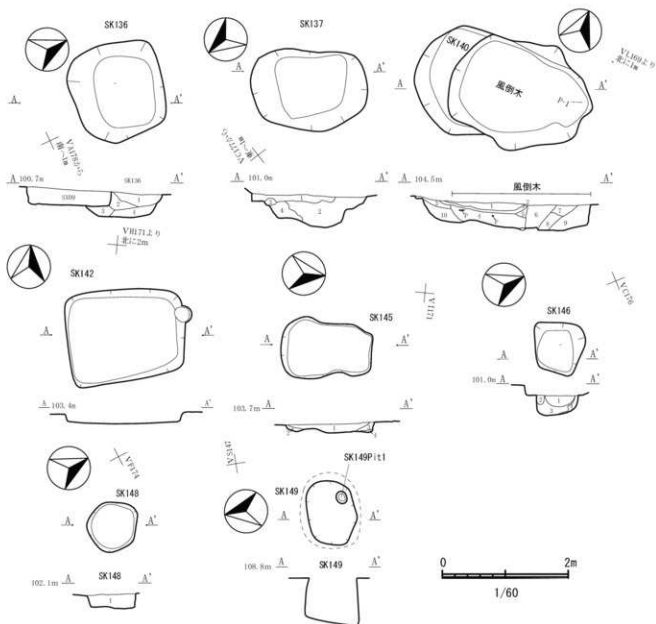
SK132

- 1層 109K2/2 暗褐色 V層由束 $\phi$ 2~10mm V層由束 $\phi$ 10mm以下1%  
 2層 109K2/2 暗褐色 V層由束 $\phi$ 3~10mm1% V層由束 $\phi$ 1~10mm1% 焼土 $\phi$ 10mm以下少量 V層由束 $\phi$ 20mm以下1%  
 3層 109K2/1 暗褐色 暗褐色土(109K2/2)混入 V層由束 $\phi$ 15mm以下1% V層由束 $\phi$ 5~20mm2% 炭化物 $\phi$ 3mm1%  
 4層 109K3/2 暗褐色 V層由束 $\phi$ 10mm以上のブロック20% V層由束 $\phi$ 25mm以下1% V層由束 $\phi$ 30mm以下1%

SK135

- 1層 109K2/2 暗褐色土 V層由束ロームブロック( $\phi$ 1~10mm)1% V層由束ロームブロック( $\phi$ 1~20mm)1% 焼土ブロック( $\phi$ 1~20mm)1% 炭化物( $\phi$ 1~5mm)1%  
 2層 109K2/2 暗褐色土 V層由束ロームブロック( $\phi$ 1~10mm)1% V層由束ロームブロック( $\phi$ 1~20mm)1% 焼土ブロック1% 炭化物1%  
 3層 109K2/2 暗褐色土 V層由束ロームブロック( $\phi$ 1~20mm)2% V層由束ロームブロック( $\phi$ 1~10mm)1% 炭化物1%

図105 土坑 (11)



SK136

- 1層 103K/2 黒褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~30mm)3% VI層由來ロームブロック(φ1~20mm)1% 炭化物(φ1~3mm)1%  
 2層 103K/2 黒褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~20mm)25%  
 3層 103K/4 暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~20mm)70%  
 4層 103K/3 黒褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~30mm)1%

SK137

- 1層 103K/2 黒褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~10mm)2% VI層由來ロームブロック(φ1~10mm)2% VII層由來ロームブロック(φ1~10mm)2% 焼土ブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ1~2mm)1%  
 2層 103K/2 黒褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~30mm)2% VI層由來ロームブロック(φ1~5mm)2% 焼土ブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ1~5mm)1%  
 3層 103K/2 暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~2mm)1% VII層由來ロームブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ~1mm)1%  
 4層 103K/2 暗褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~20mm)1% VI層由來ロームブロック(φ1~2mm)1% 炭化物(φ1~2mm)1%

SK140

- 3層 103K/2 黒褐色 埋褐色土(103K/4)10% 浮石φ5mm~10mm1% V層由來肥φ5mm1%  
 10層 103K/3 埋褐色 VI層由來10% 炭化物φ1mm1%

SK145

- 1層 103K/3 埋褐色 炭化物φ2~5mm2% 黄褐色土粒φ5mm2%  
 2層 103K/3 に近い黄褐色 黄褐色土粒φ2~3mm1%  
 3層 103K/3 に近い黄褐色 炭化物φ2mm1%  
 4層 103K/3 に近い黄褐色

SK146

- 1層 103K/2 黒褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~5mm)1% VI層由來ロームブロック(φ1~20mm)2% 焼土ブロック(φ1~20mm)1% 炭化物(φ1~20mm)1%  
 2層 103K/2 黒褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~5mm)1% VI層由來ロームブロック(φ1~20mm)2% 焼土ブロック(φ1~20mm)1% 炭化物(φ1~20mm)2%  
 3層 103K/2 埋褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~20mm)2% VI層由來ロームブロック(φ1~20mm)2% 焼土ブロック(φ1~10mm)2% 炭化物(φ1~20mm)2%  
 4層 103K/4 黒褐色土 V層由來ロームブロック(φ1~10mm)2% VI層由來ロームブロック(φ1~60mm)30% 焼土ブロック(φ1~5mm)1% 炭化物(φ1~5mm)1%

SK148

- 1層 103K/2 黒褐色 に近い黄褐色土(103K/3)φ5~20mm2% VI層由來φ2~60mm2% V層由來φ1~20mm1% 炭化物・焼土微量

図106 土坑 (12)

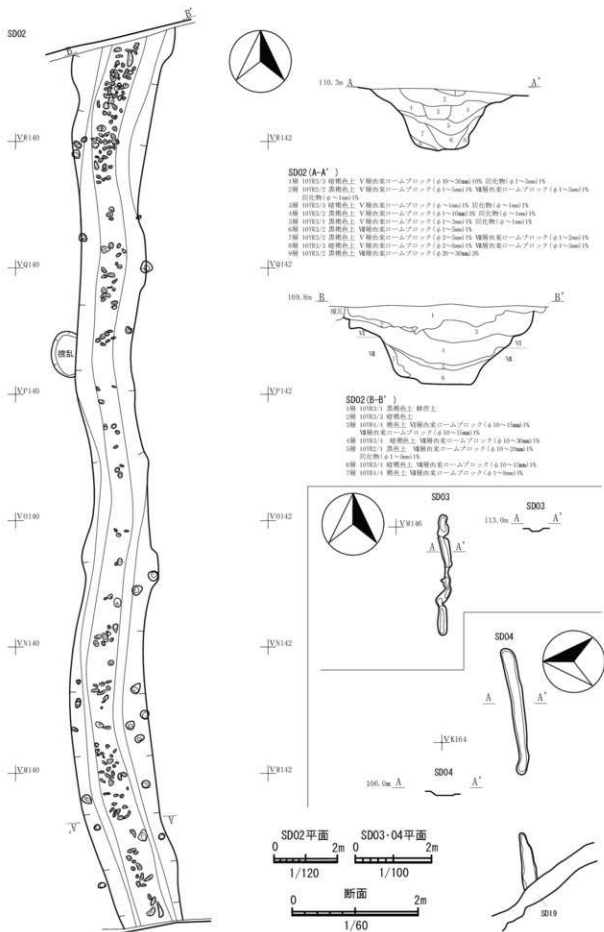


図107 第2・3・4号溝跡

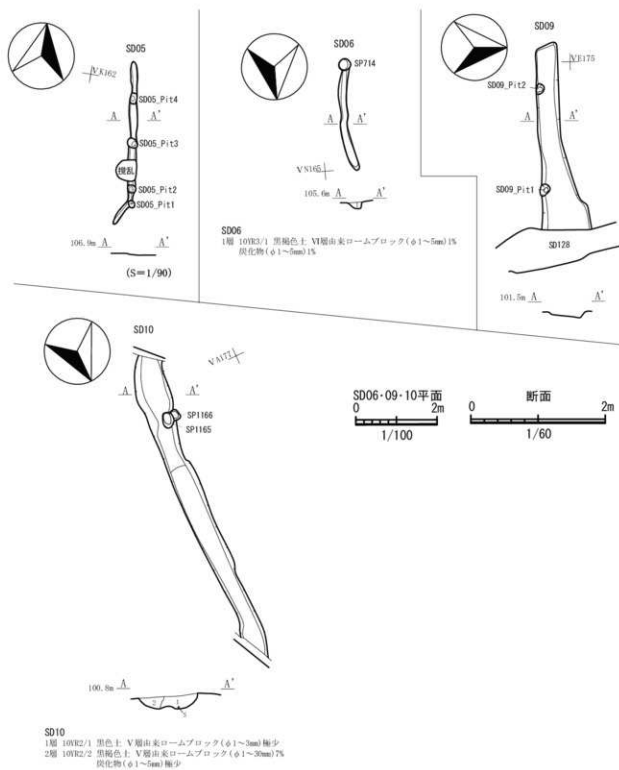


図108 第5・6・9・10号溝跡

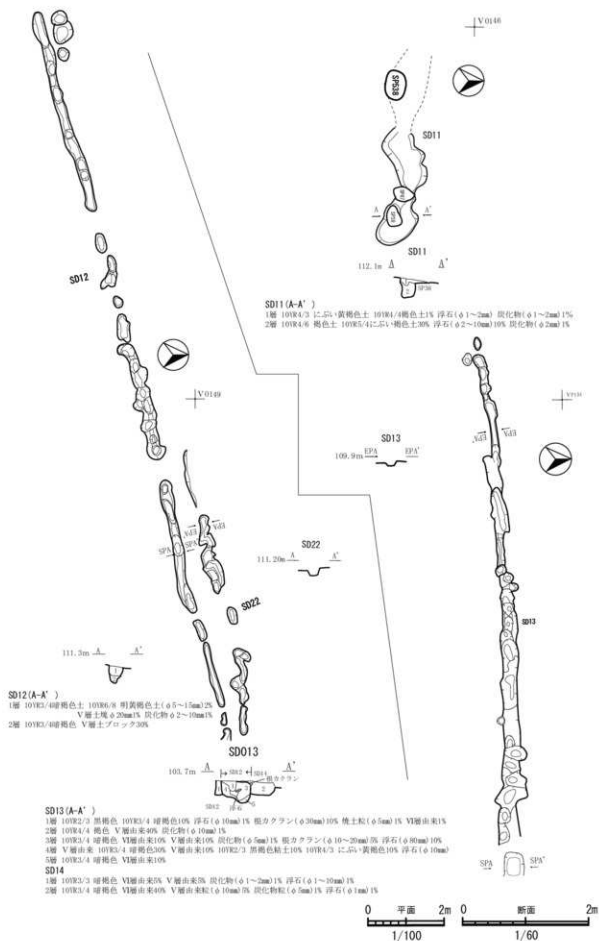


図109 第11・12・13・22号溝跡

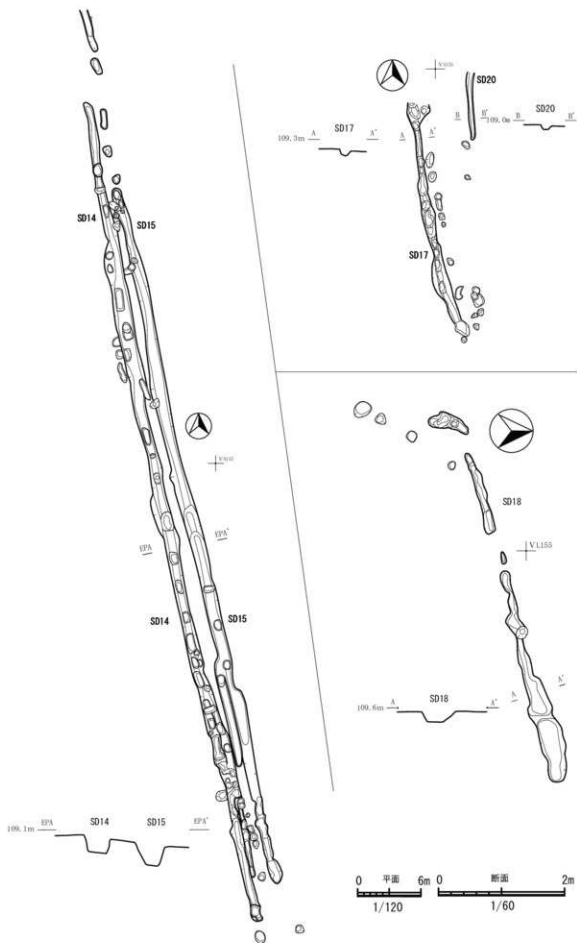


图110 第14·15·17·18·20号溝跡



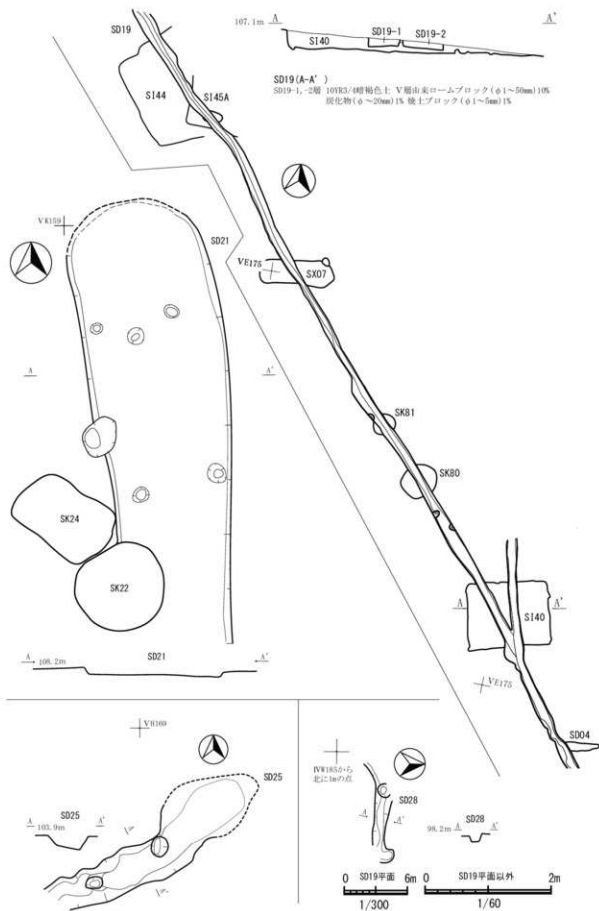


図111 第19・21・25・28号溝跡

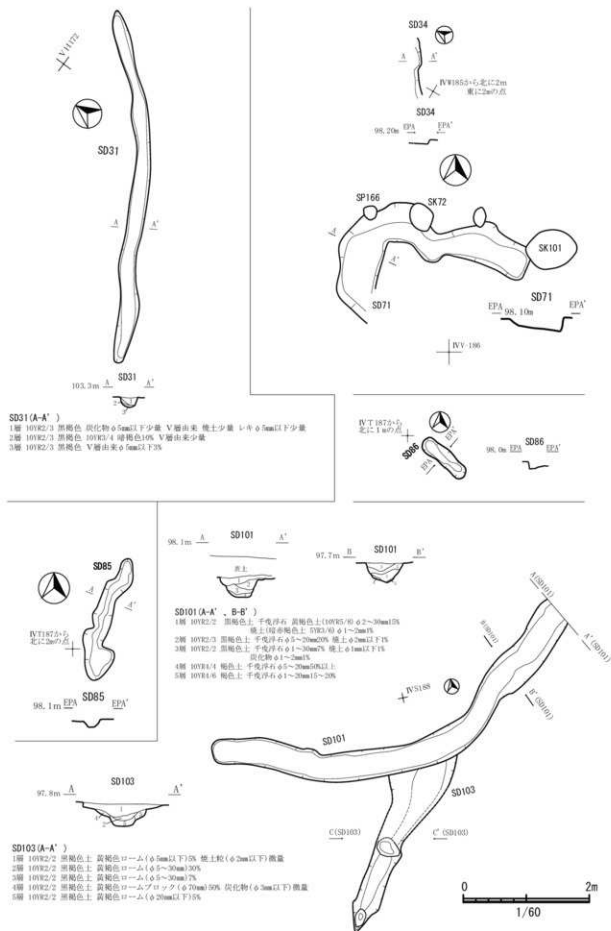


図112 第31・34・71・85・86・101・103号溝跡

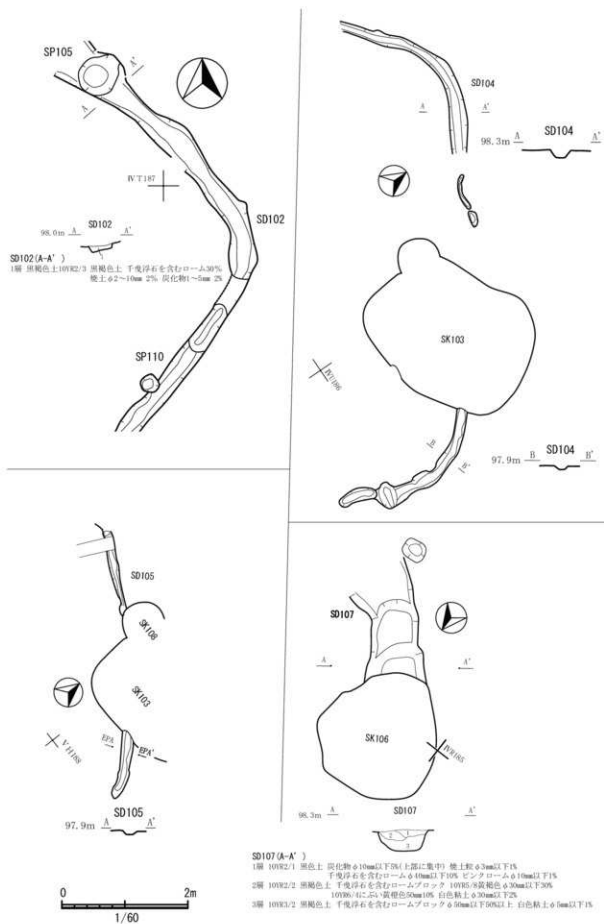


図113 第102・104・105・107号溝跡

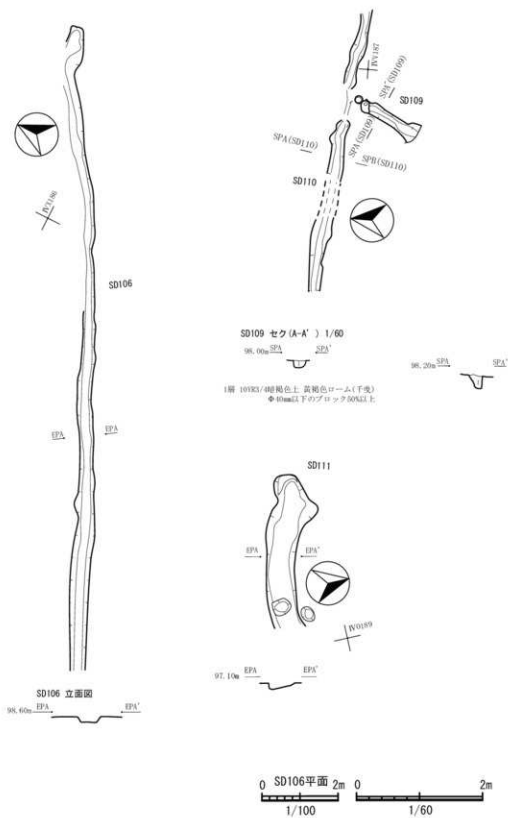


図114 第106・109・111号溝跡平面図

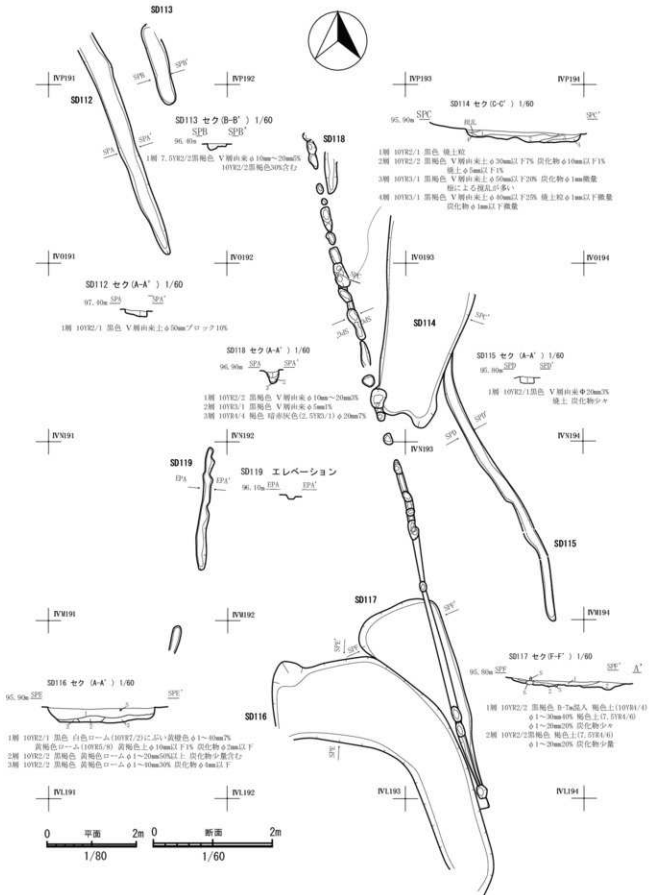


図115 第112～118号溝跡平面図

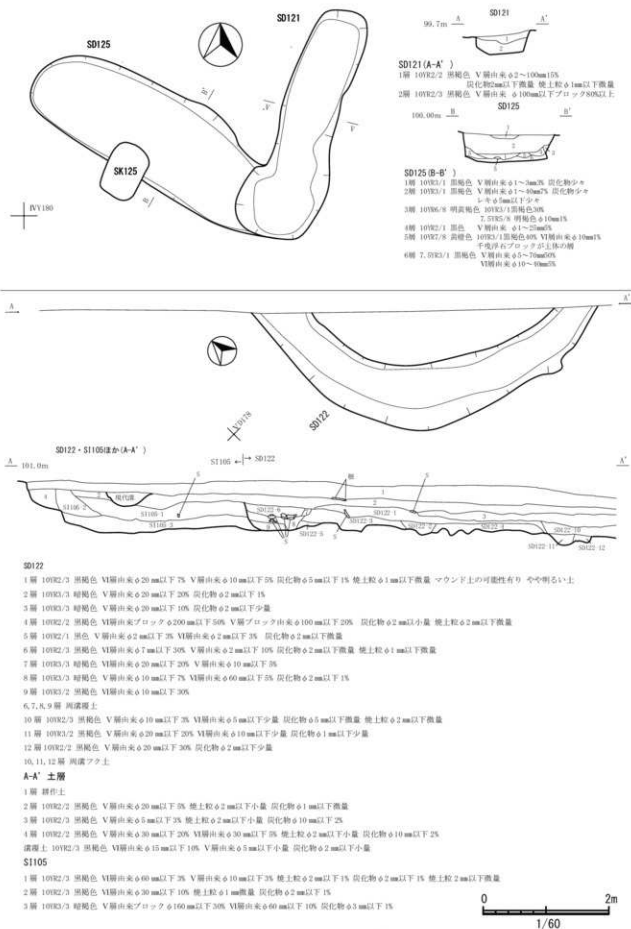


図116 第121・122・125号溝跡平面図

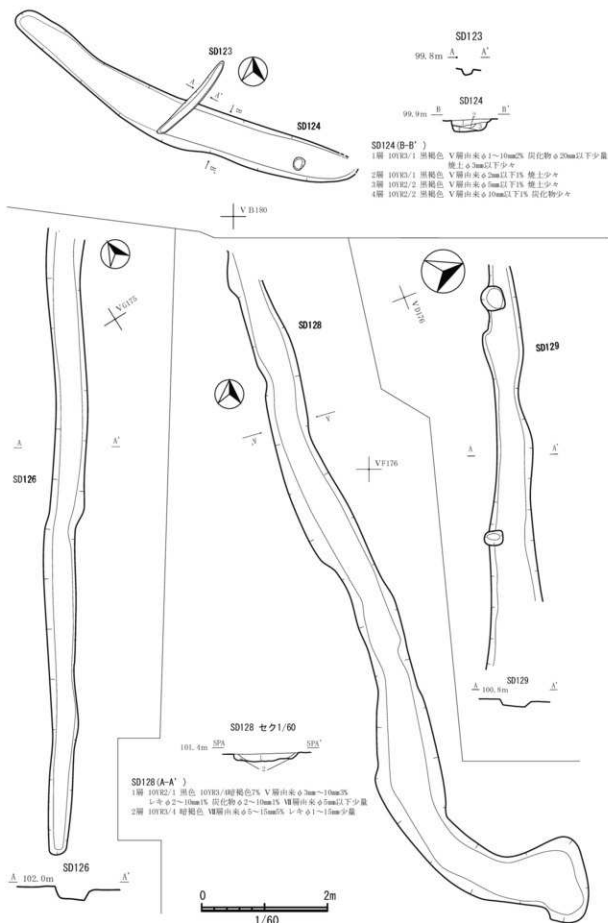


図117 第126・128・129号溝跡平面図

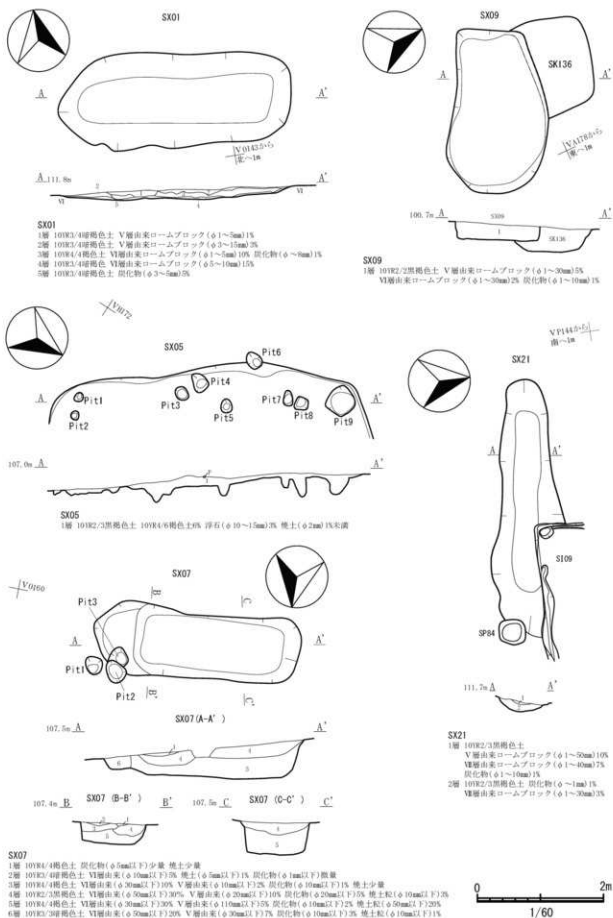


図118 第1・5・7・9・21号性格不明遺構



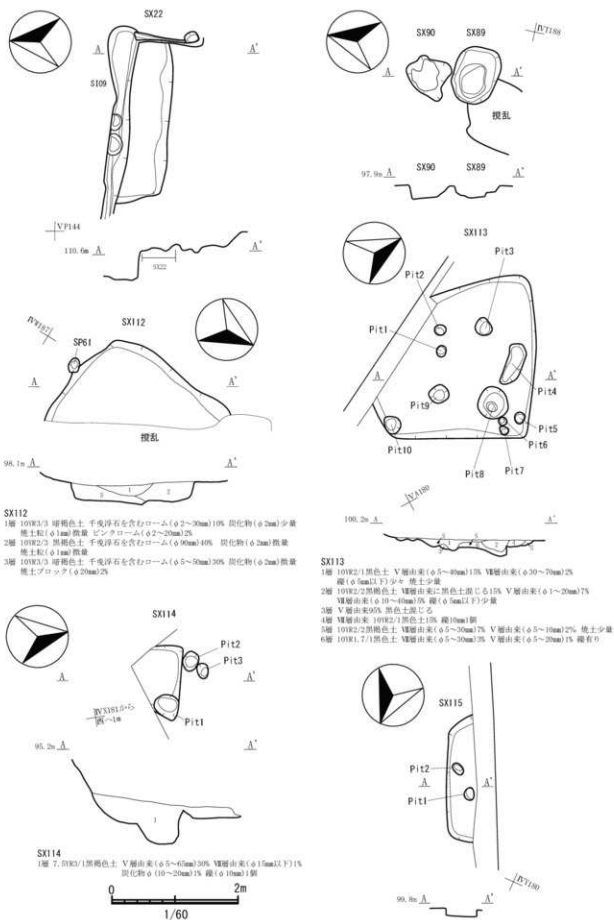


図119 第22・89・90・112・113・114・115号性格不明遺構

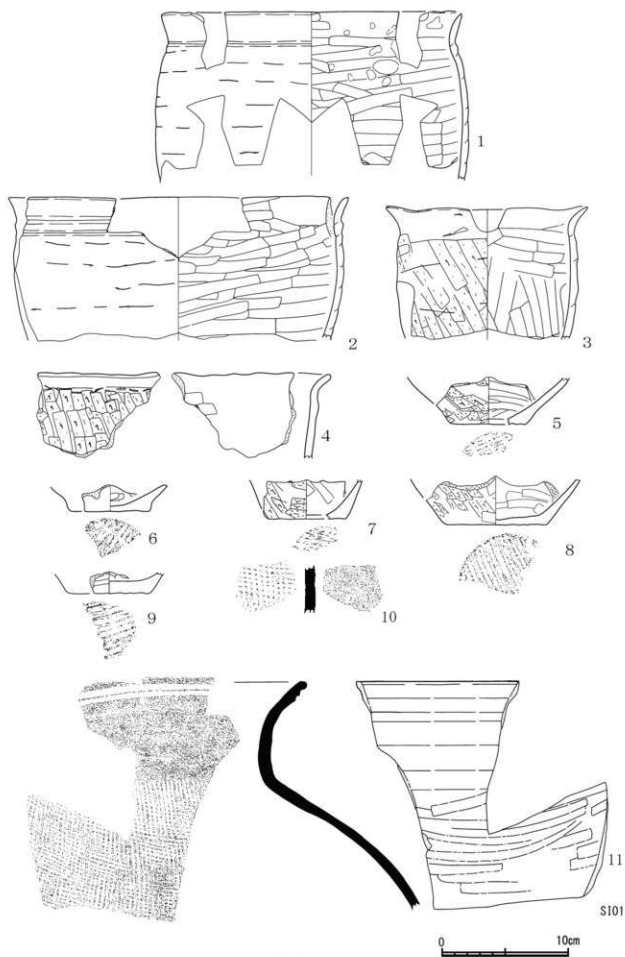


图120 遺構内出土土器(1)

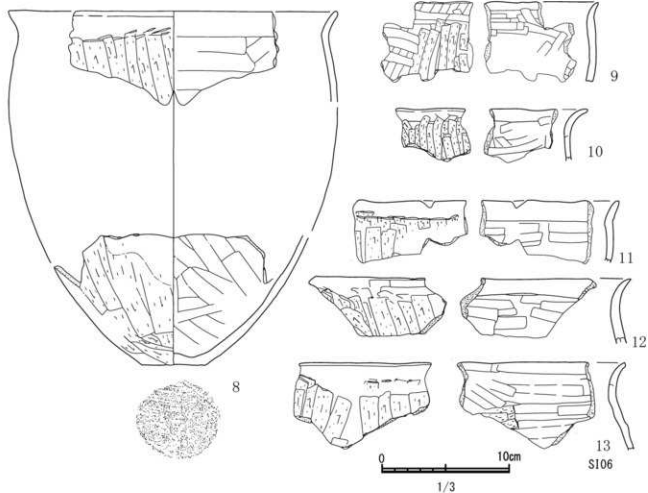
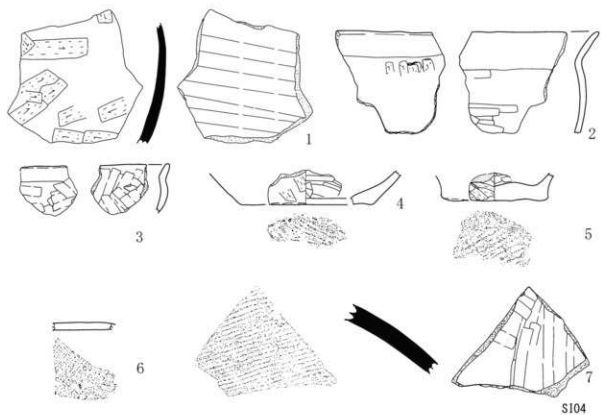


图121 遺構内出土土器（2）

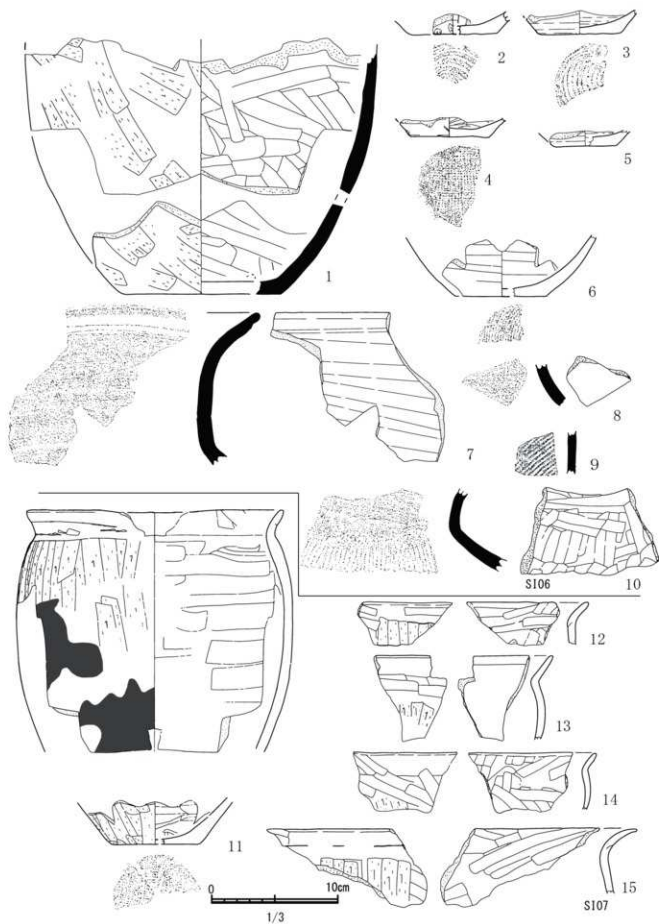


图122 遺構内出土土器(3)

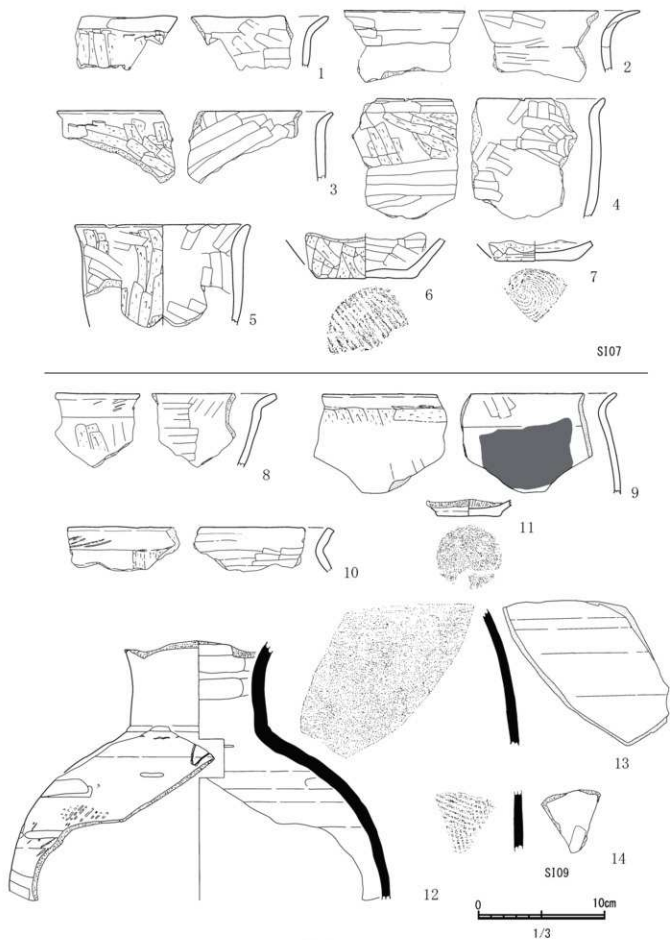


图123 遺構内出土土器(4)

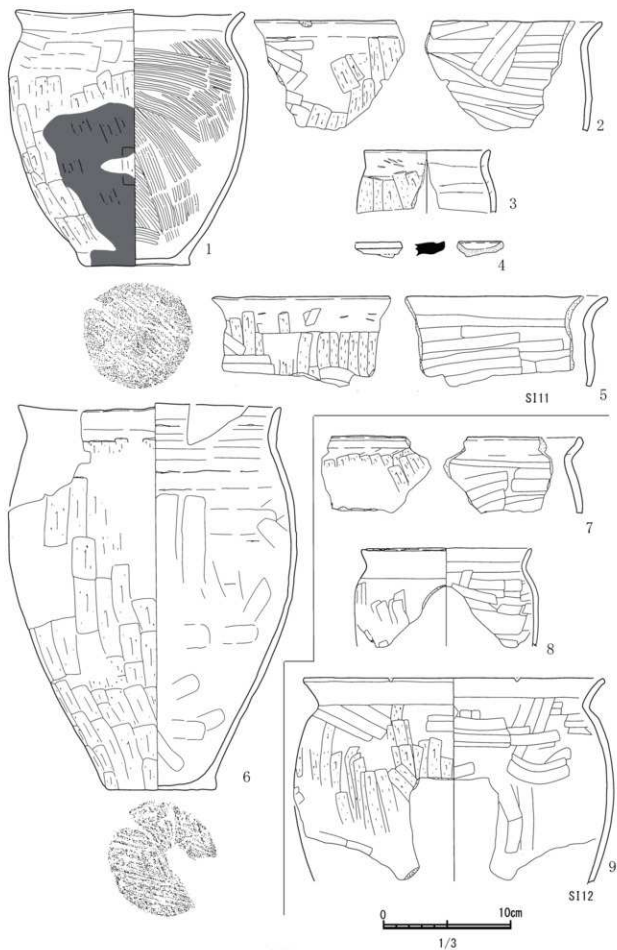


图124 遺構内出土土器(5)

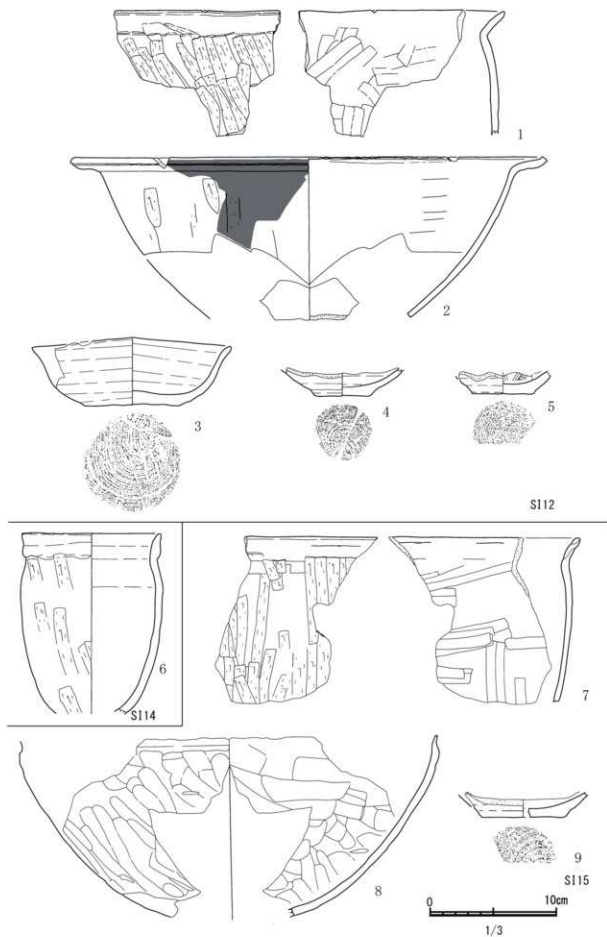


图125 遺構内出土土器(6)

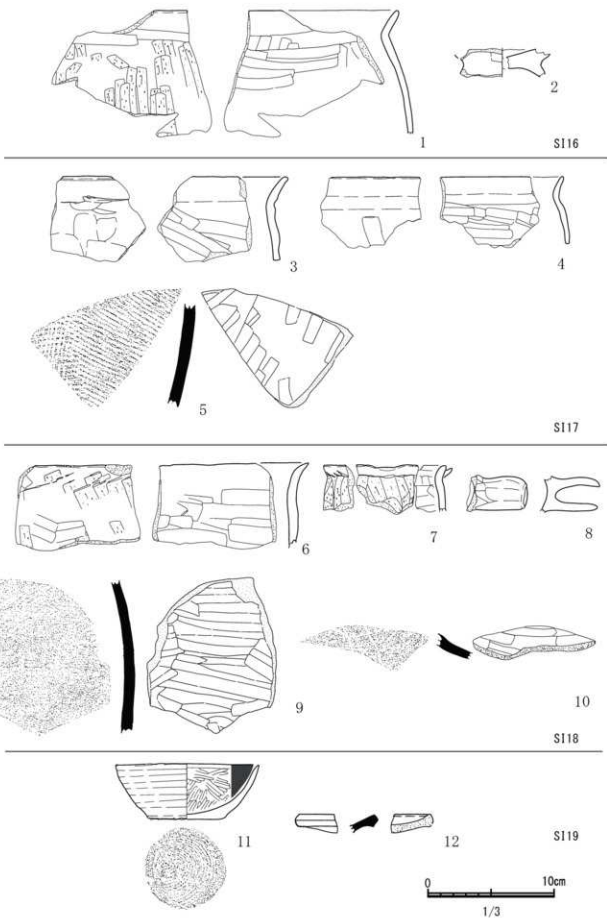


图126 遺構内出土土器(7)



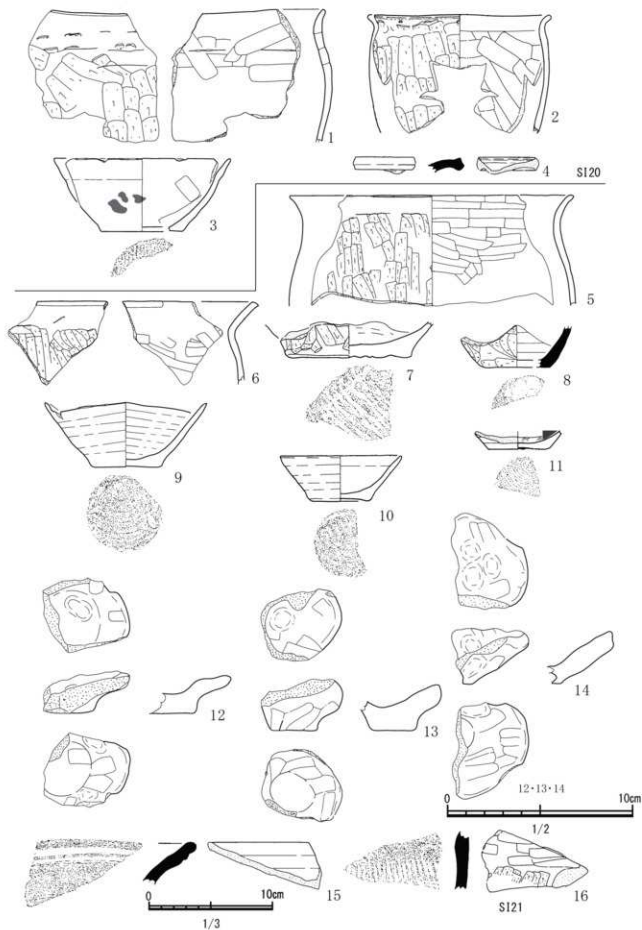


图127 遺構内出土土器(8)

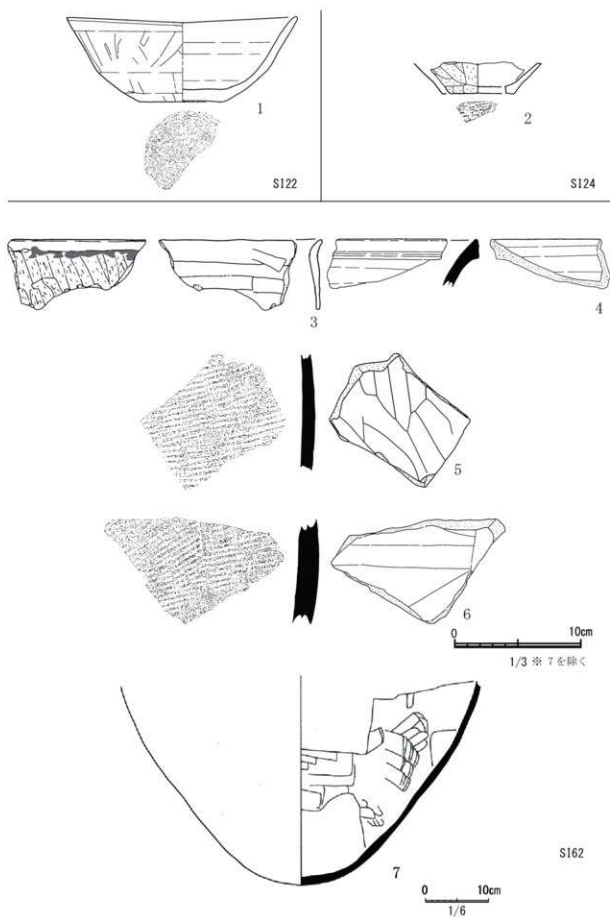


图128 遺構内出土土器(9)

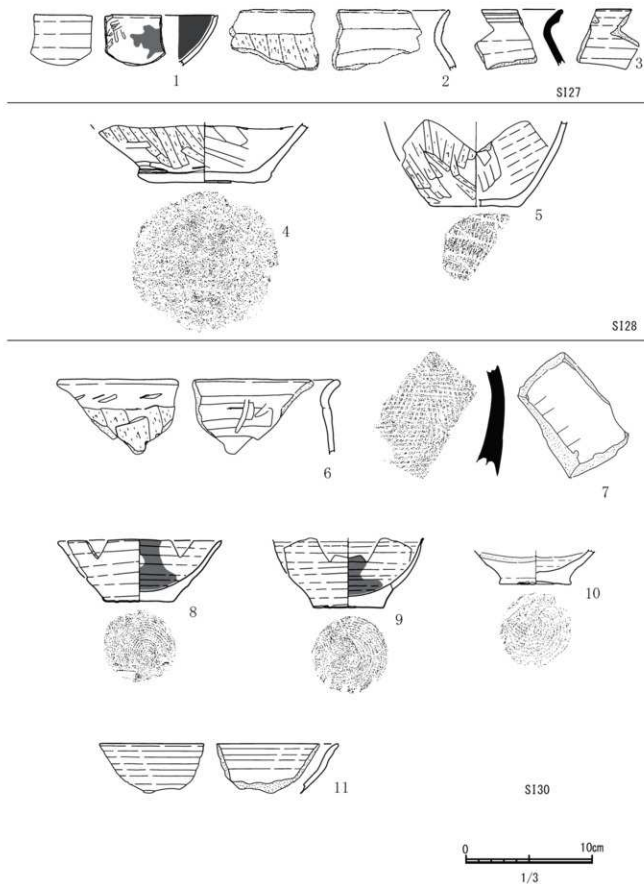


图129 遺構内出土土器 (10)

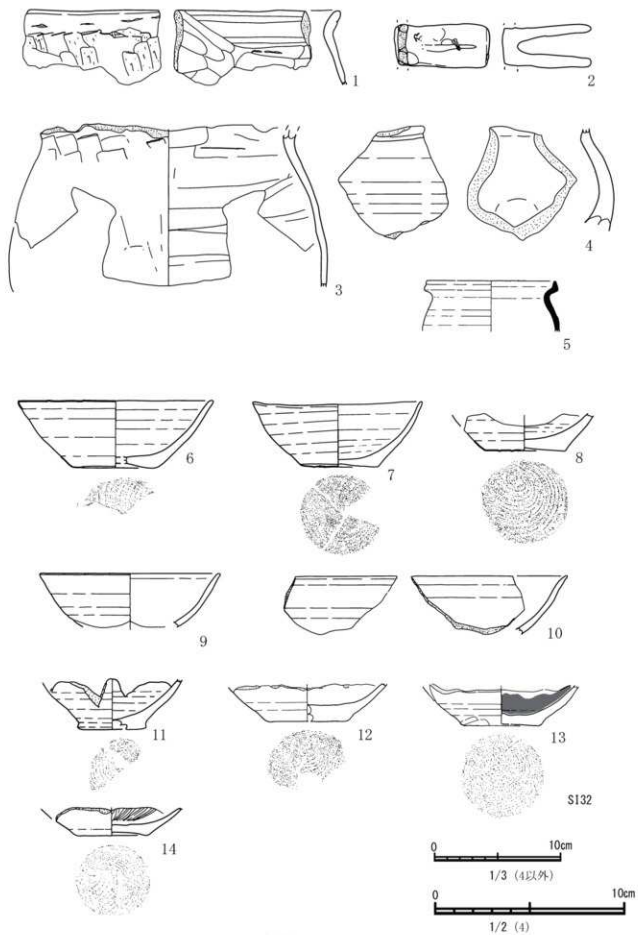


图130 遺構内出土土器 (11)

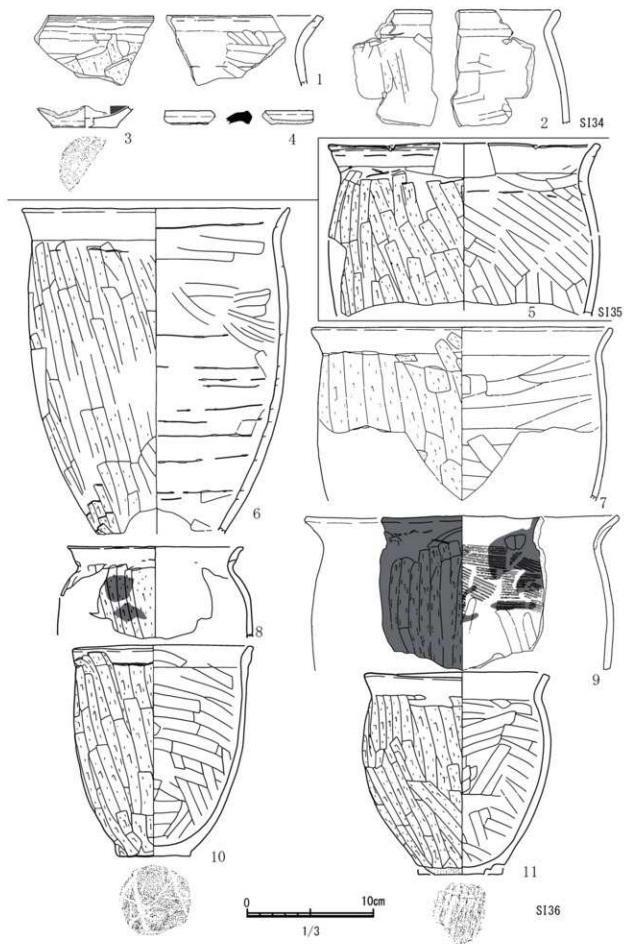


图131 遺構内出土土器 (12)

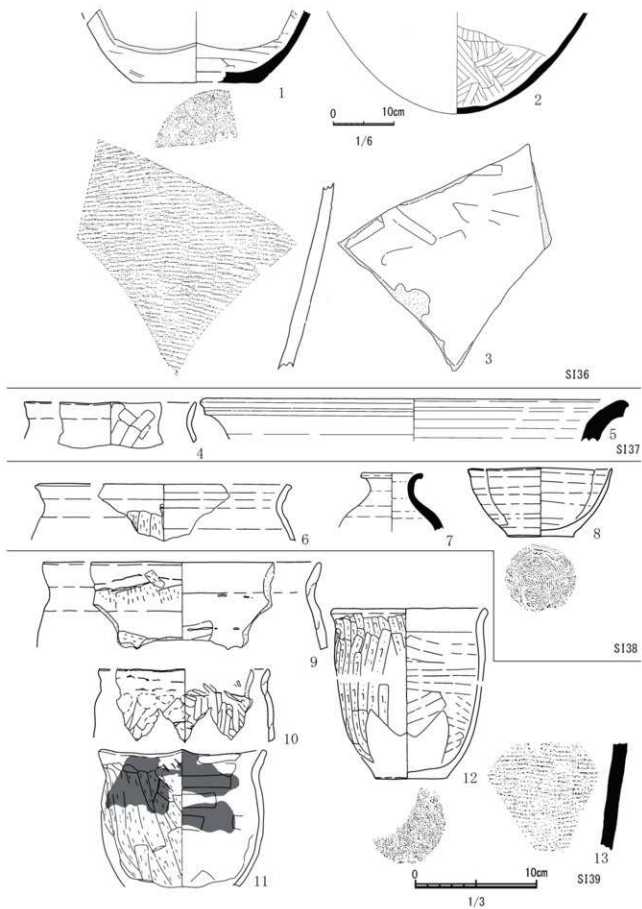
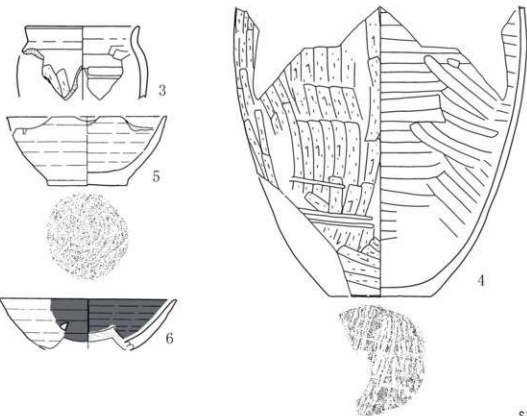
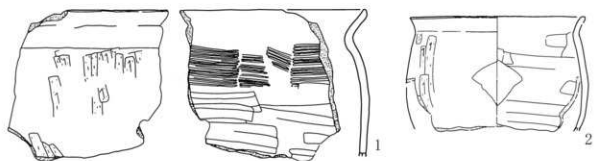
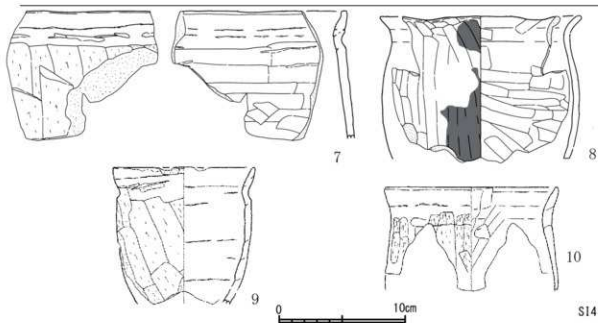


图132 遺構内出土土器 (13)



S140



S141

图133 遺構内出土土器 (14)

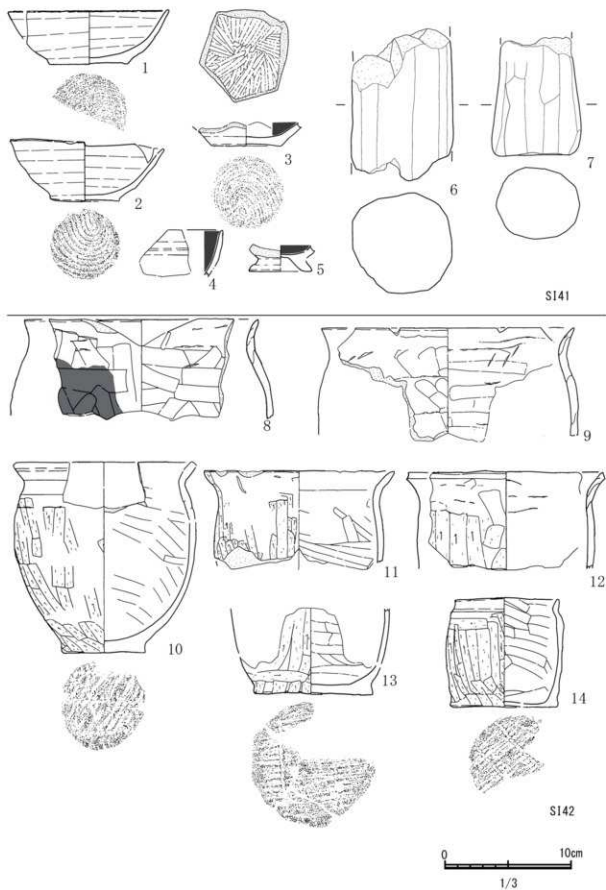


图134 遺構内出土土器 (15)



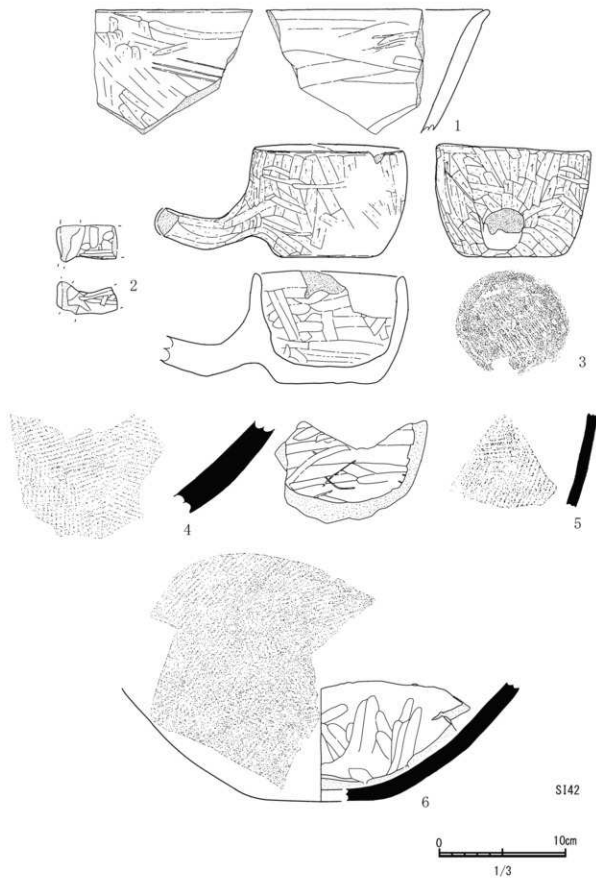


图135 遺構内出土土器 (16)

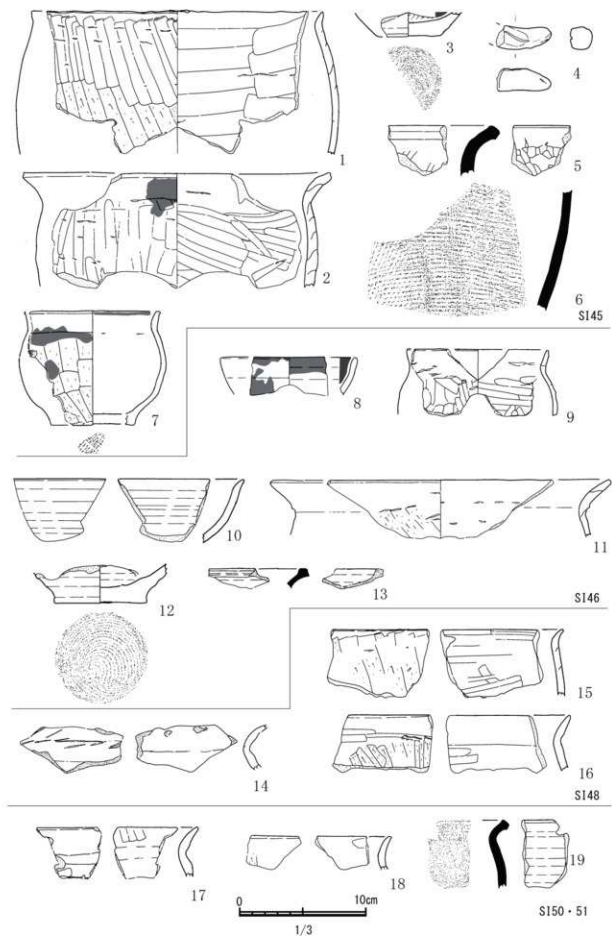


图136 遺構内出土土器 (17)

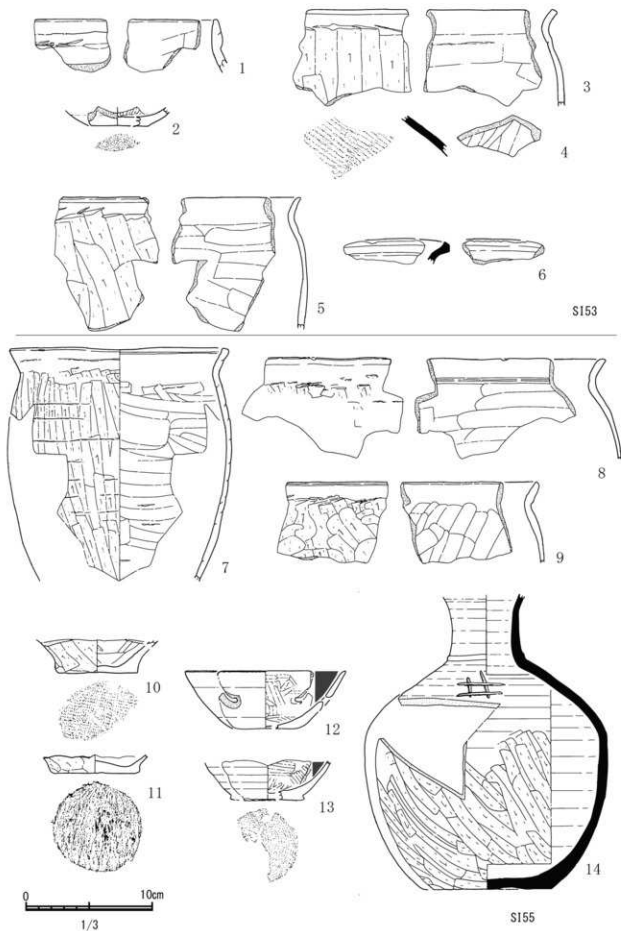


图137 遺構内出土土器 (18)

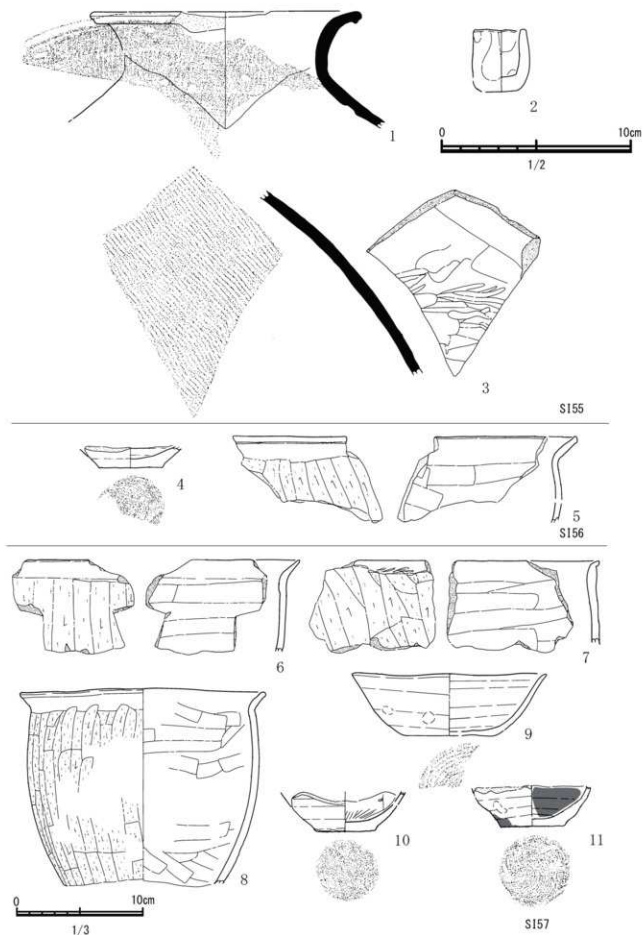


图138 遺構内出土土器 (19)

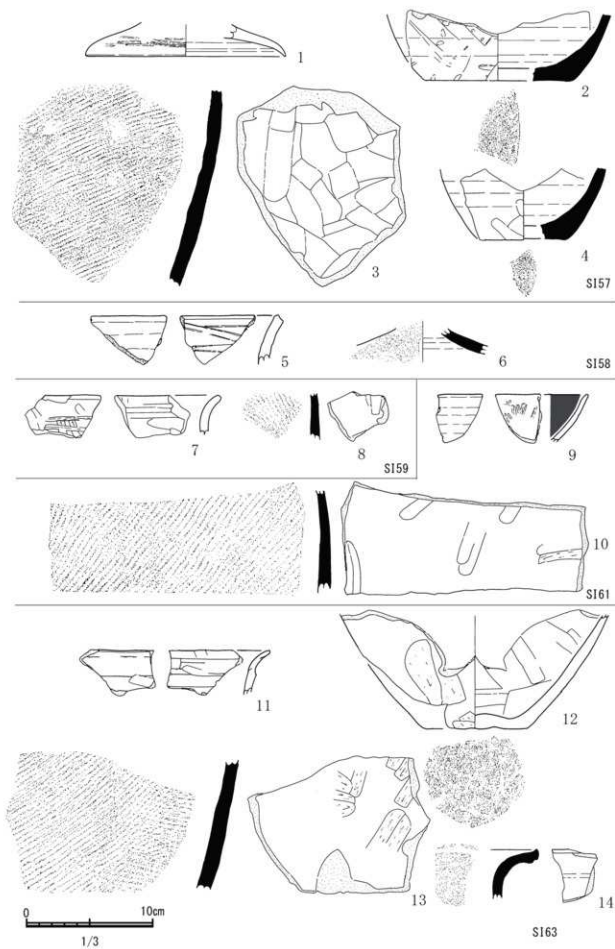


图139 遺構内出土土器 (20)

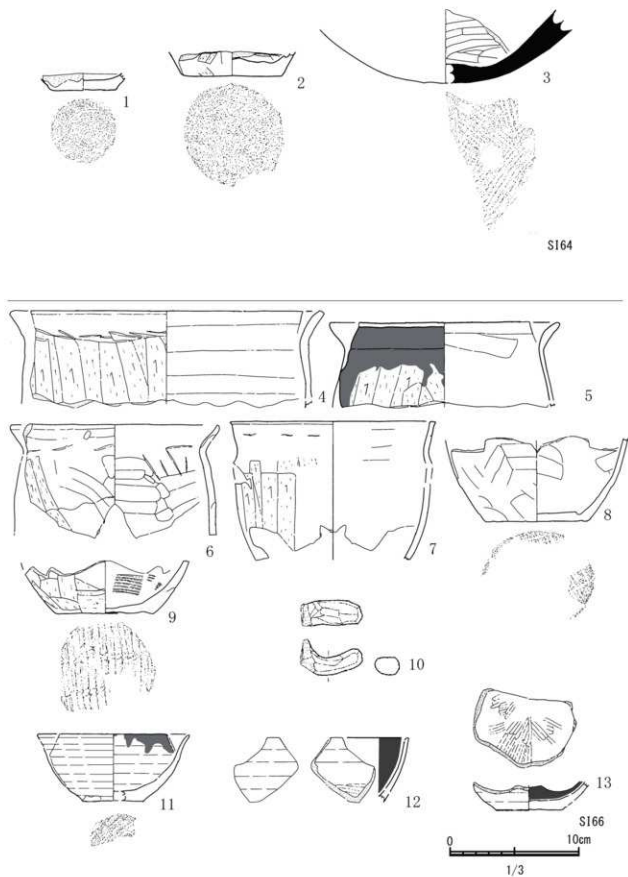


图140 遺構内出土土器 (21)

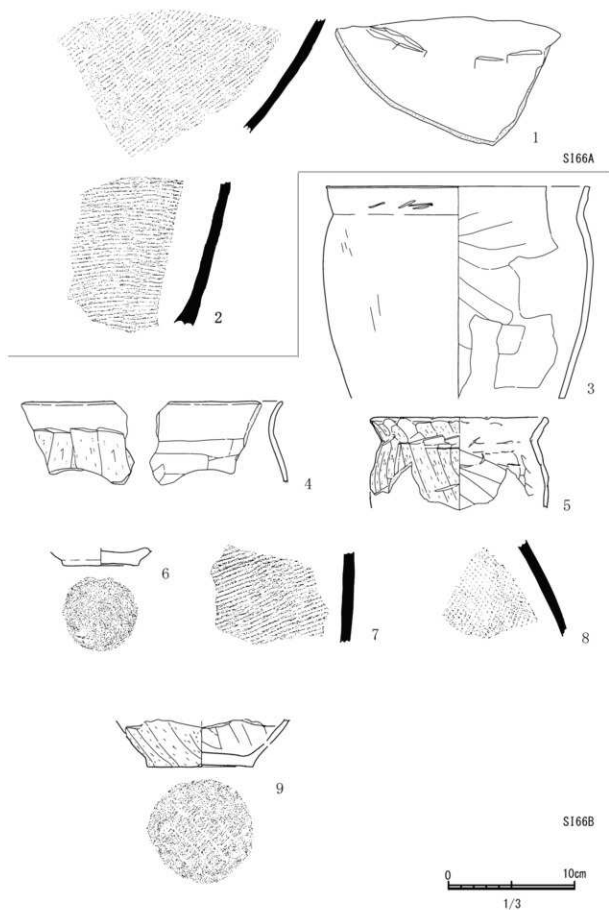
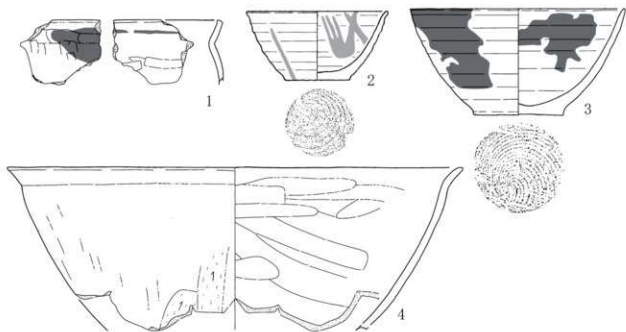
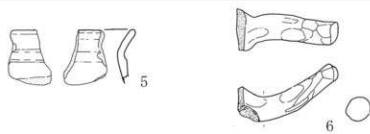


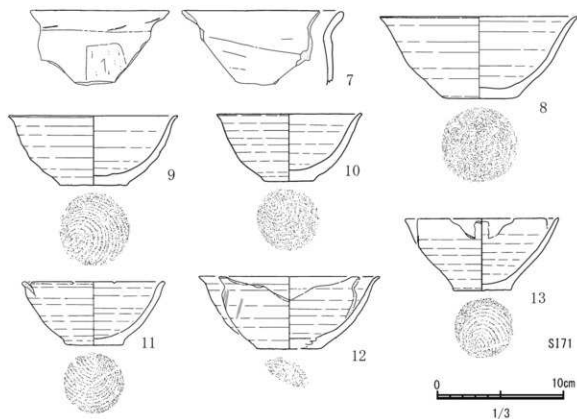
图141 遺構内出土土器 (22)



S167



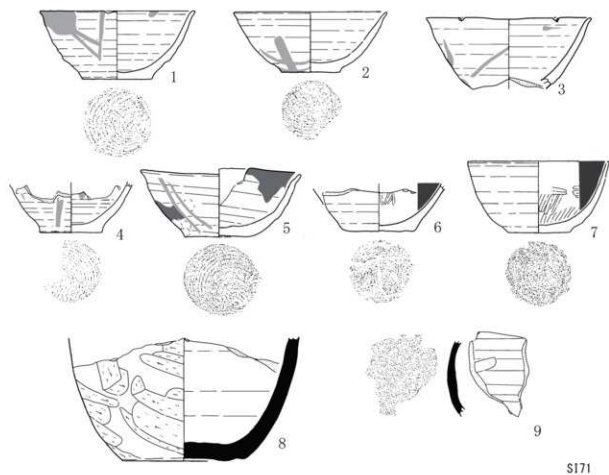
S168



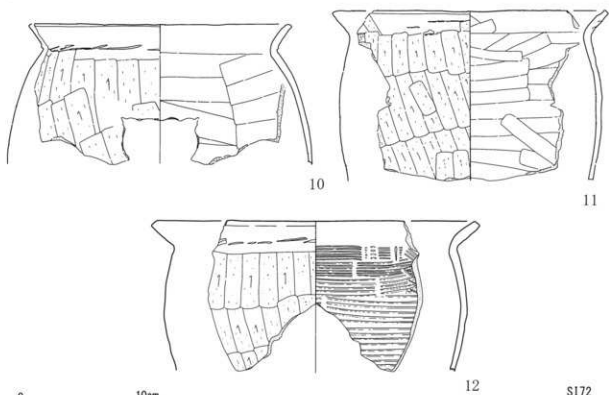
S171

图142 遺構内出土土器 (23)





S171



S172

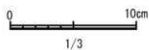


图143 遺構内出土土器 (24)

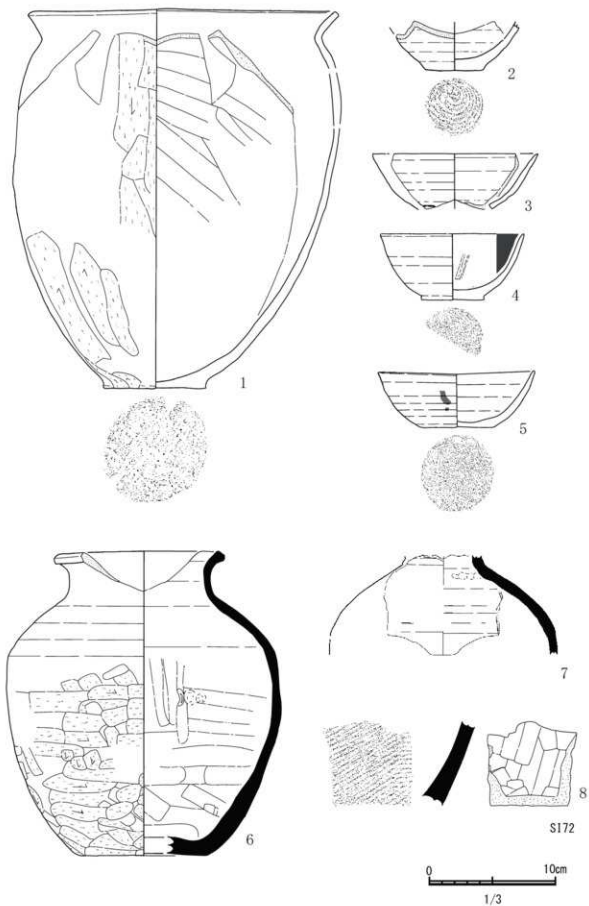


图144 遺構内出土土器 (25)

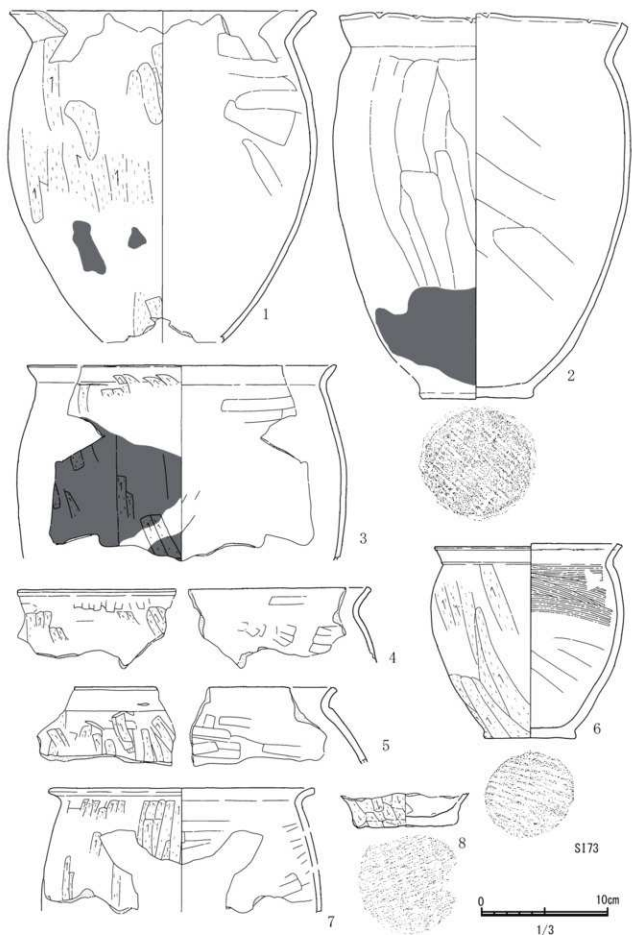


图145 遺構内出土土器 (26)

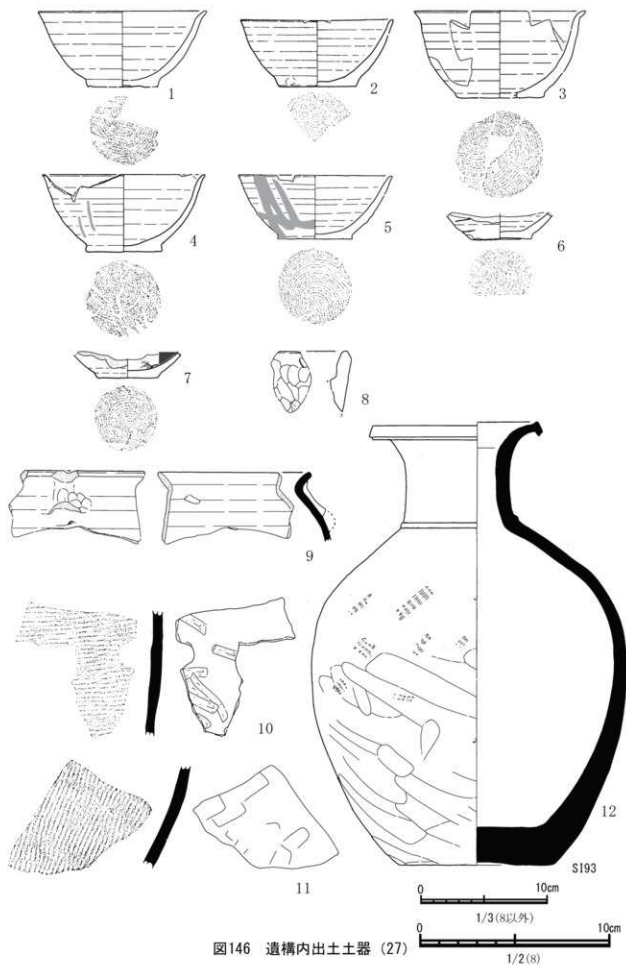


图146 遺構内出土土器 (27)

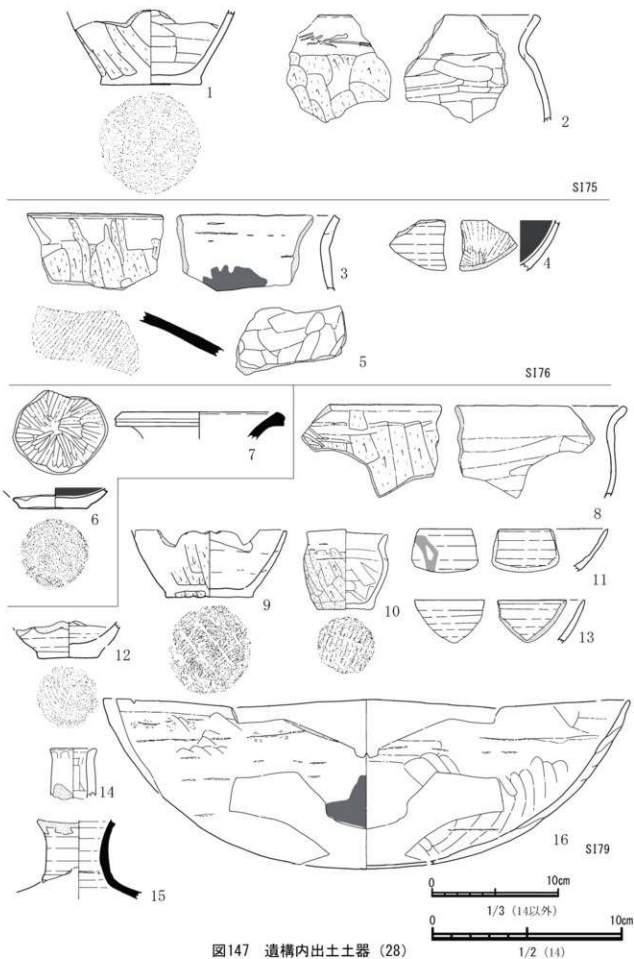


图147 遺構内出土土器 (28)

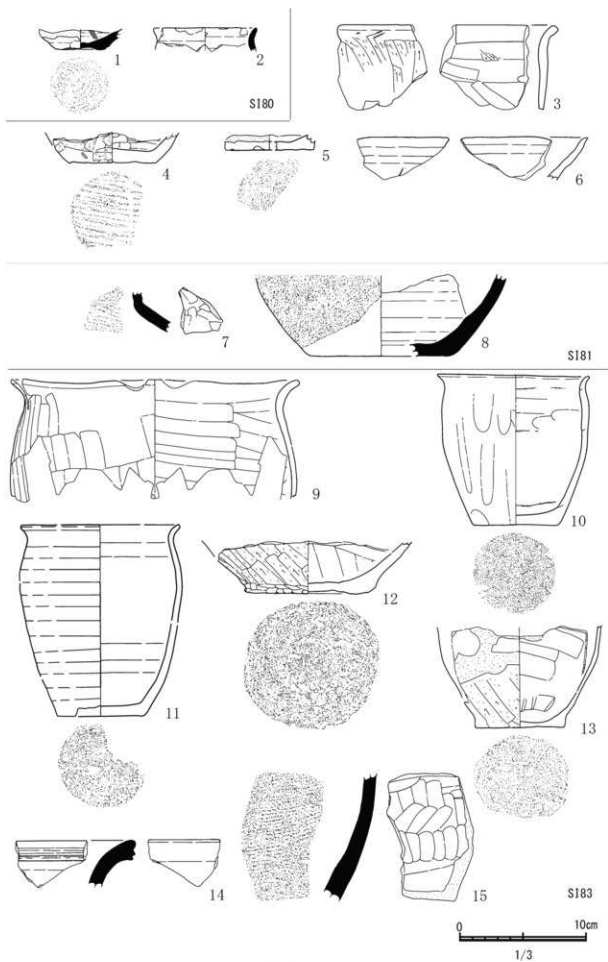


图148 遺構内出土土器 (29)

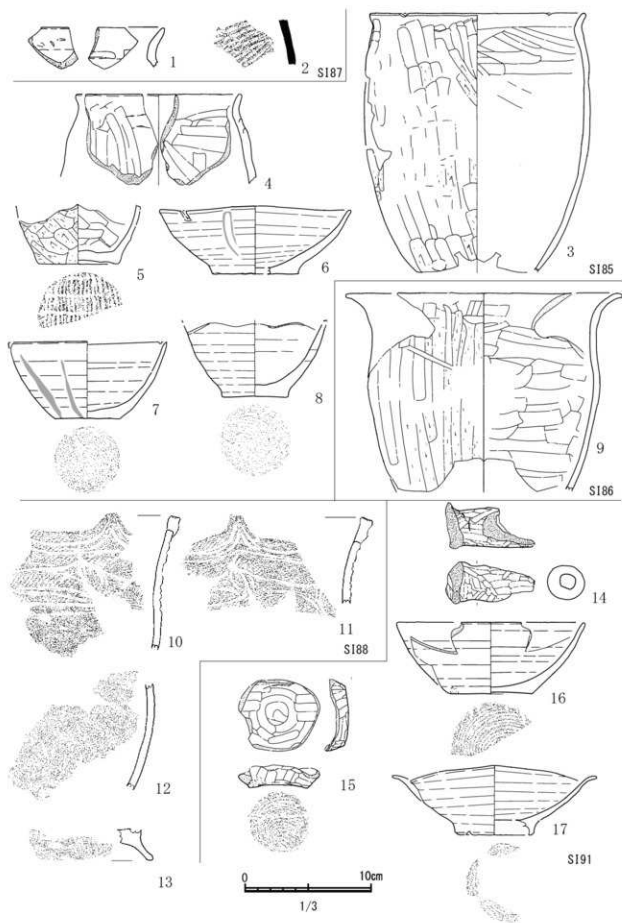


図149 遺構内出土土器 (30)

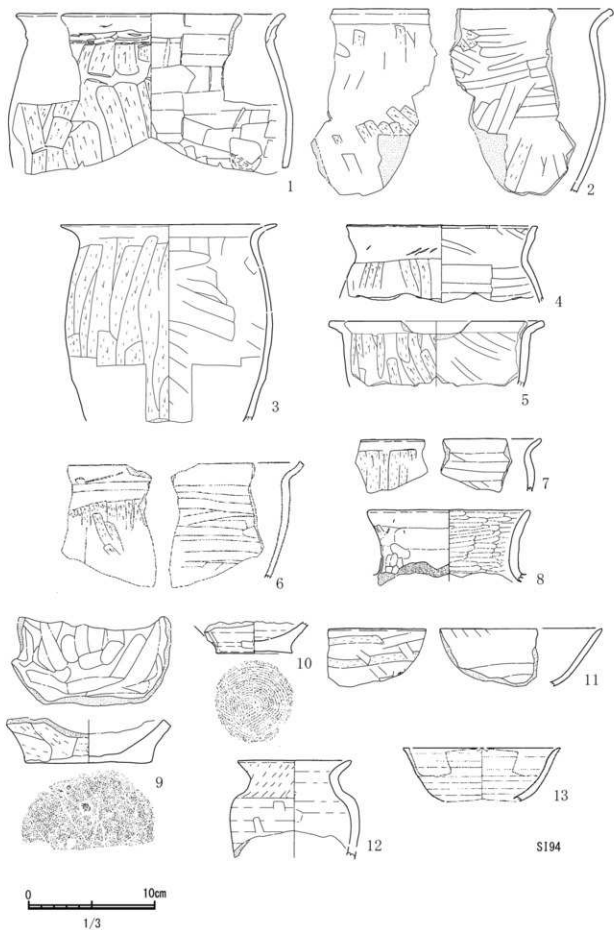


图150 遺構内出土土器 (31)



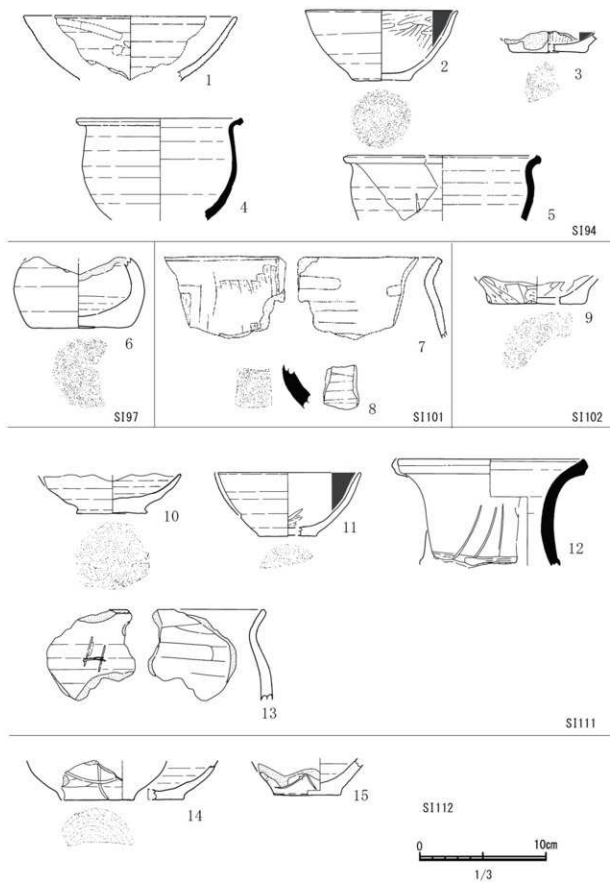


图151 遺構内出土土器 (32)

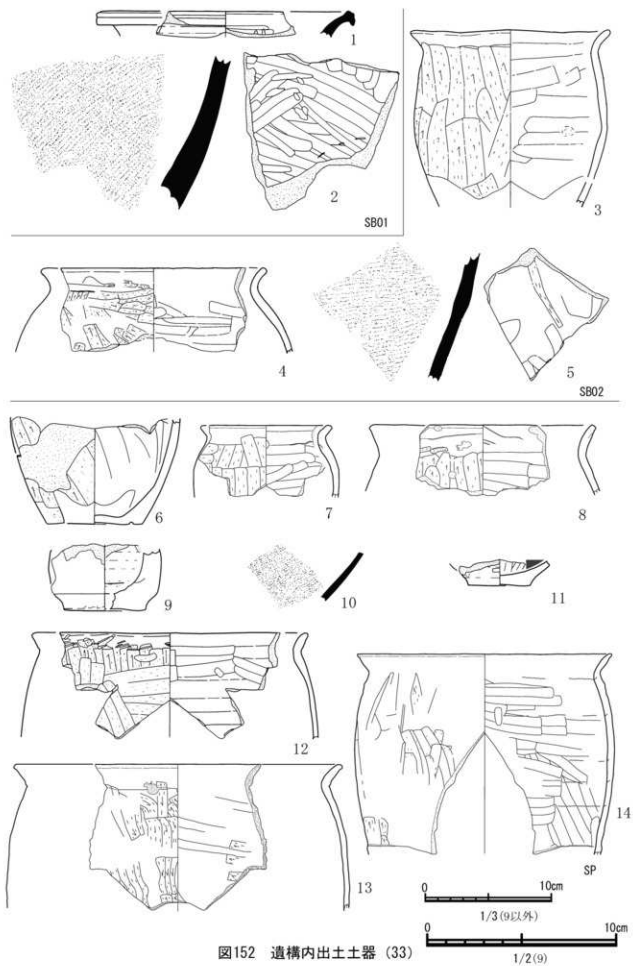


图152 遺構内出土土器 (33)

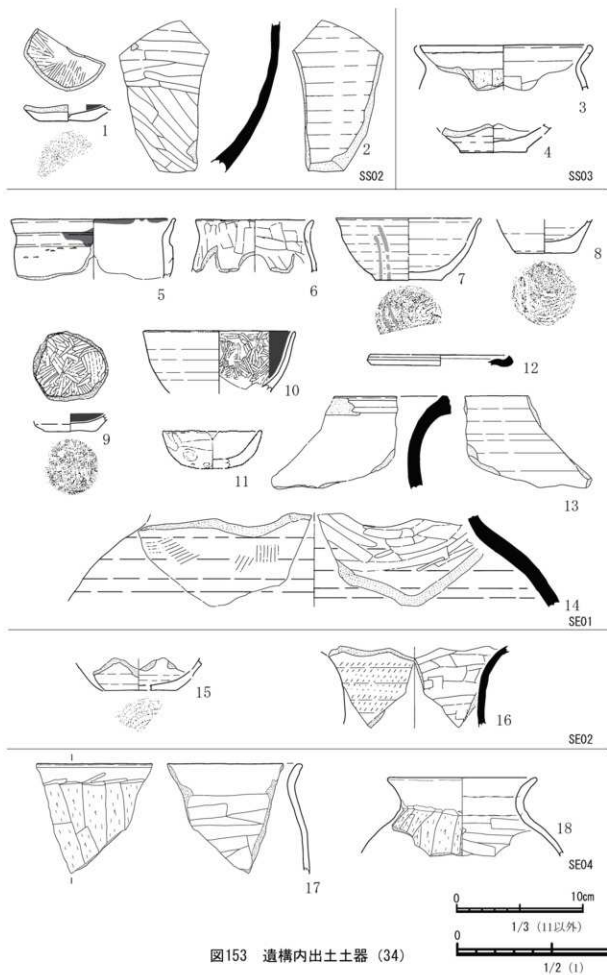
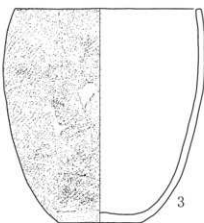
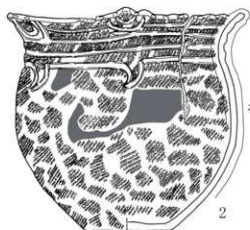


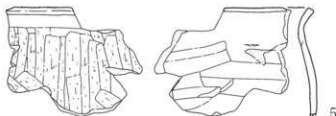
图153 遺構内出土土器 (34)



SK05



SK30



6

SK42



7

8

9



10

SK83



SK78



11

SK85



12

SK87



13

SK91



1/3

図154 遺構内出土土器 (35)

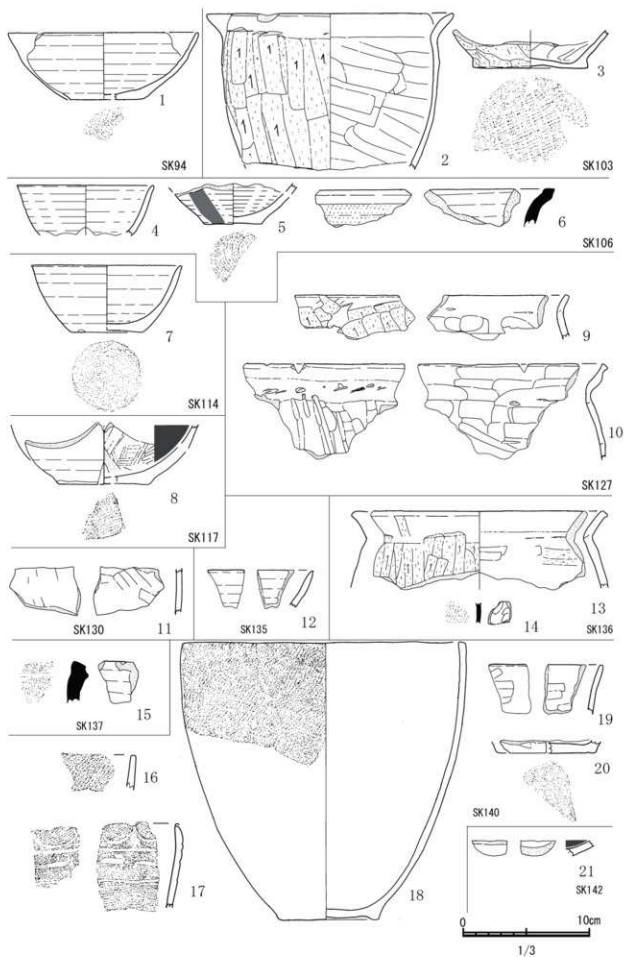


図155 遺構内出土土器 (36)

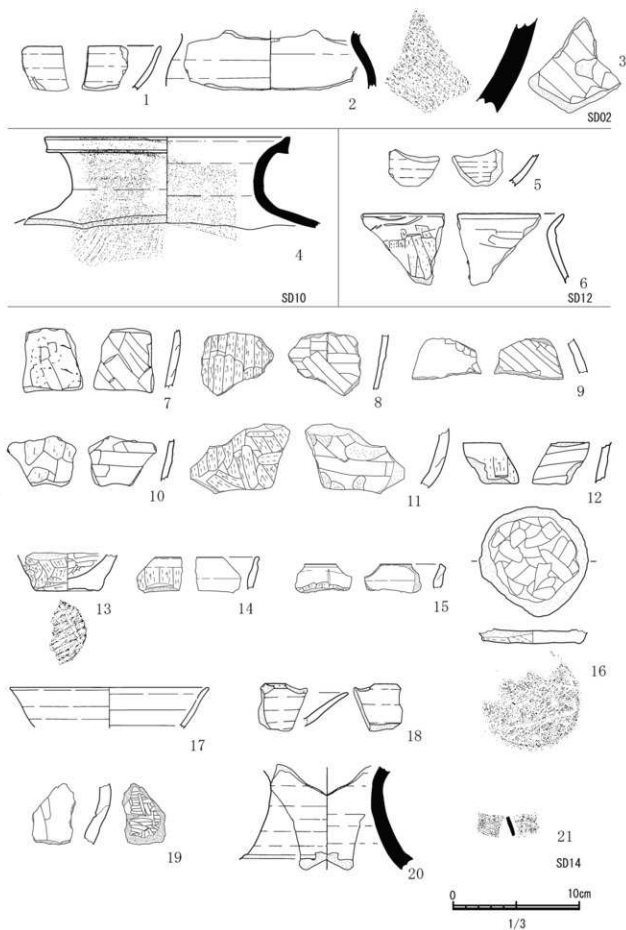


图156 遺構内出土土器 (37)

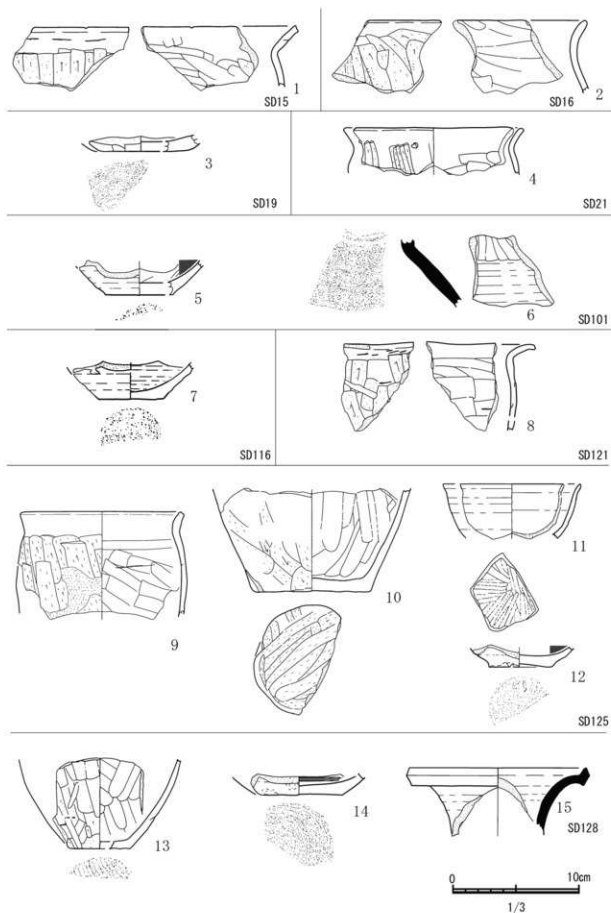


図157 遺構内出土土器 (38)

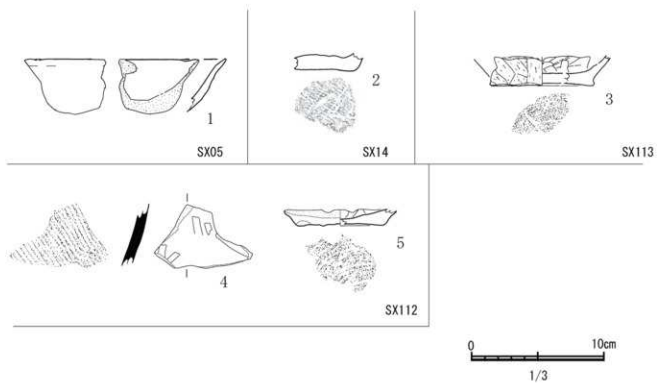


图158 遺構内出土土器 (39)



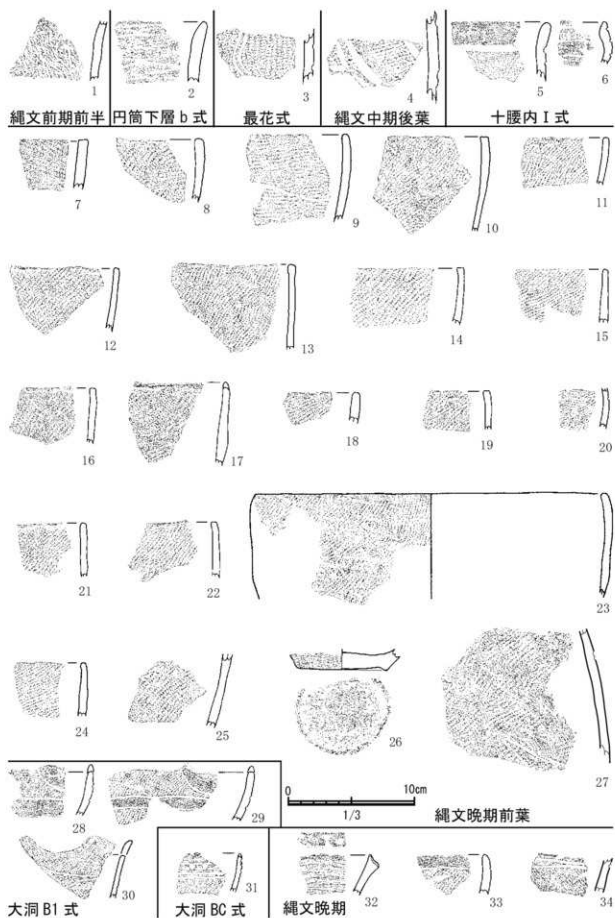


図159 遺構外出土土器(1)

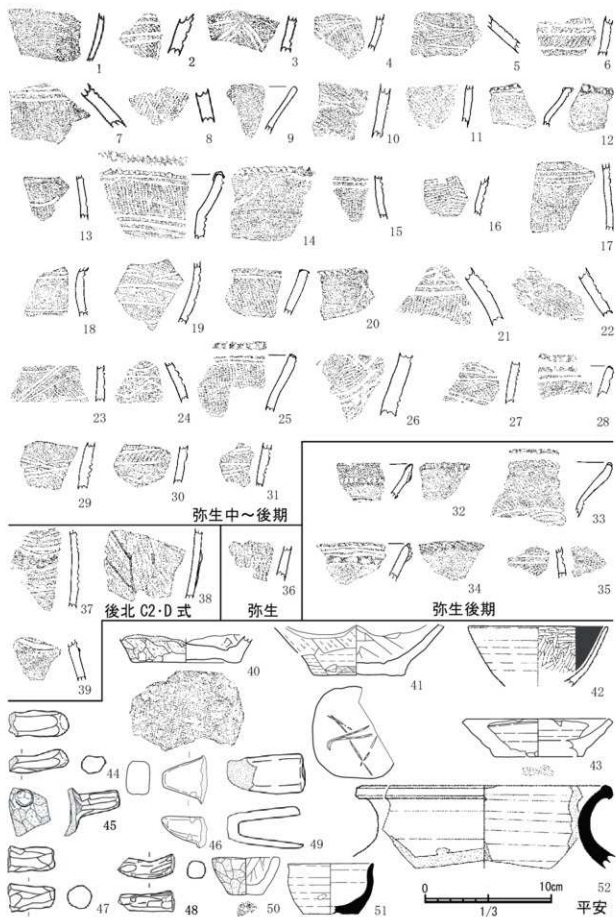


図160 遺構外出土土器(2)

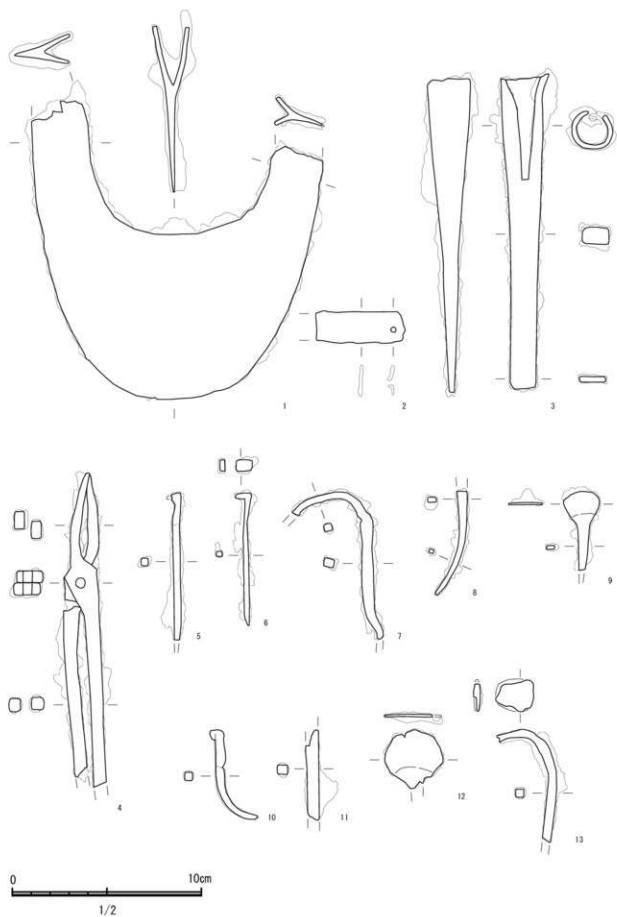


図161 鉄製品(1)

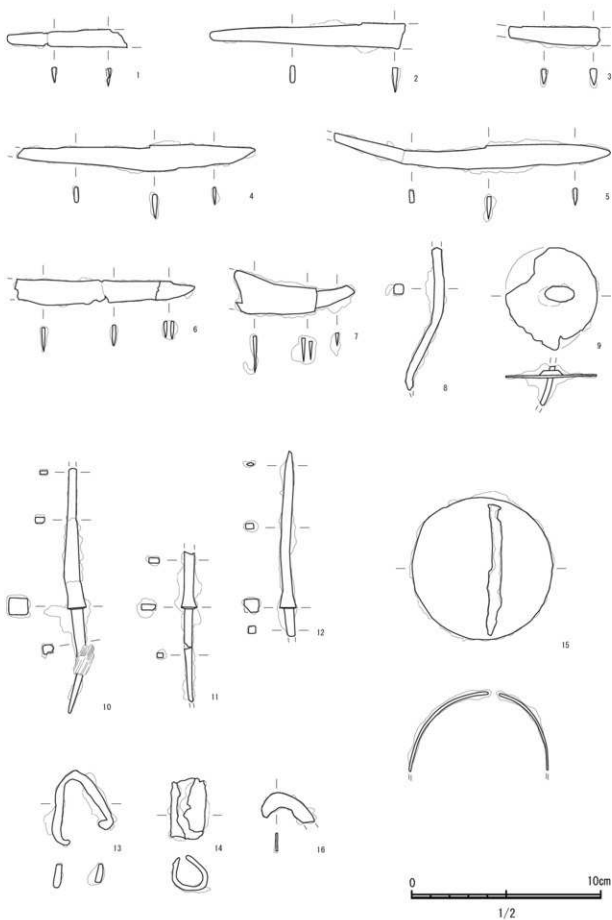


図162 鉄製品(2)

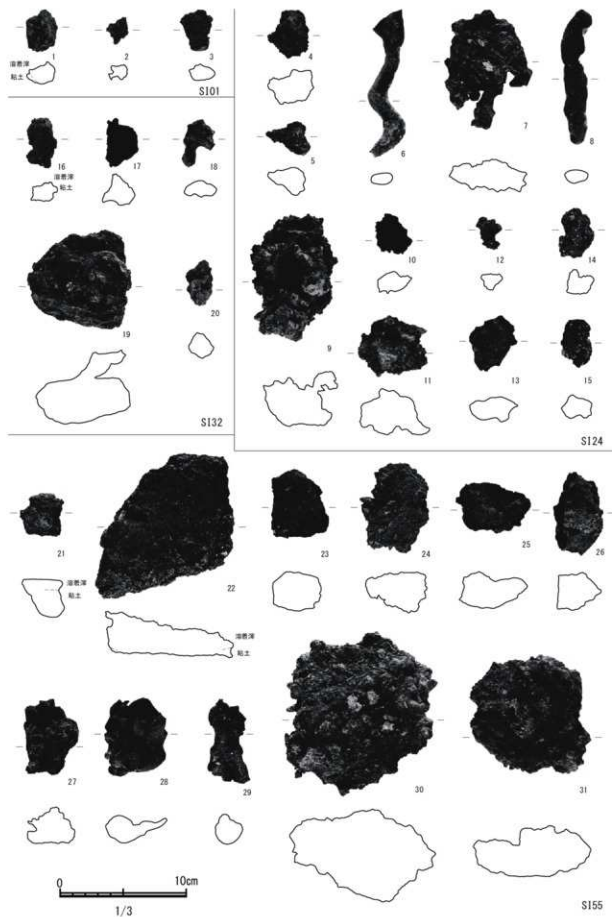


図163 鉄滓（1）

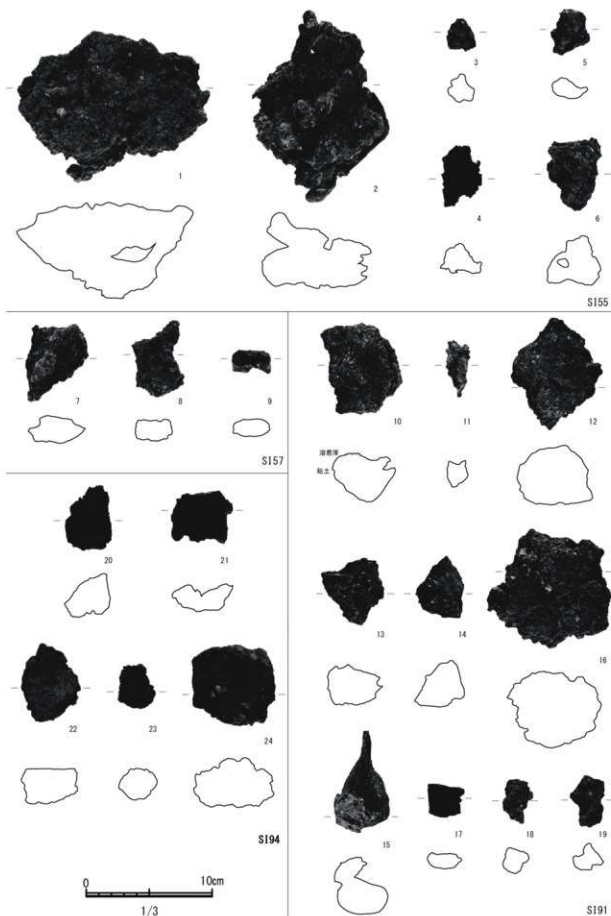


图164 鉄滓(2)

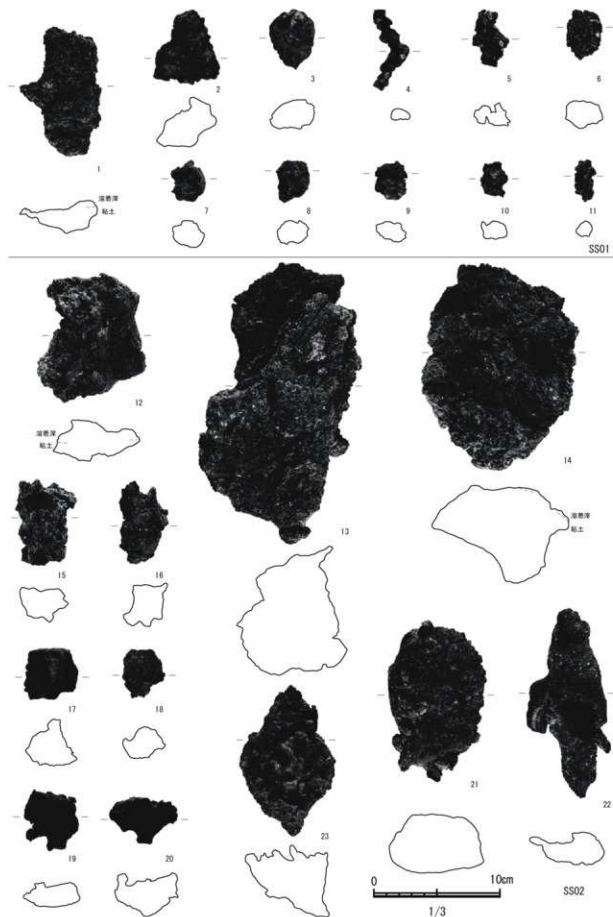


図165 鉄滓 (3)

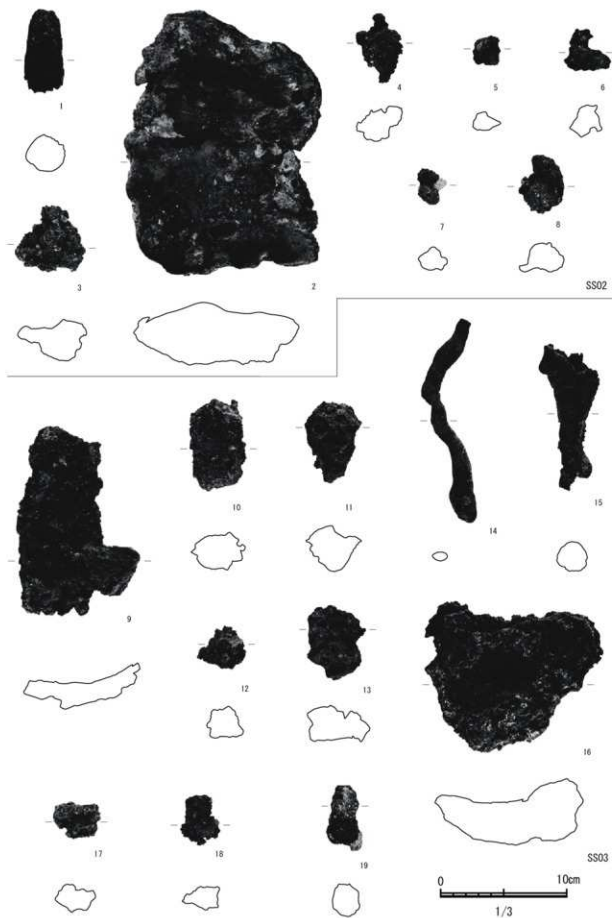


图166 铁滓(4)



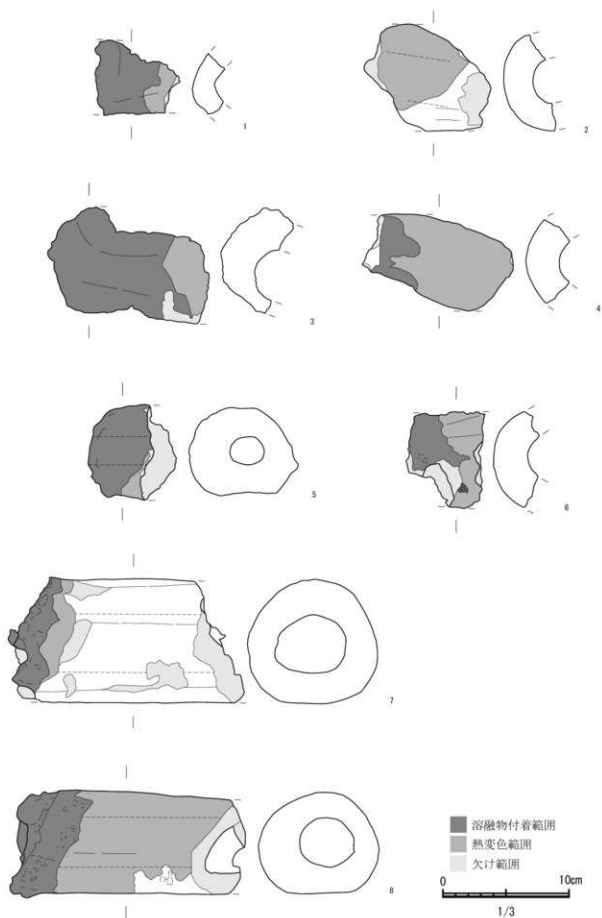


图167 羽口 (1)

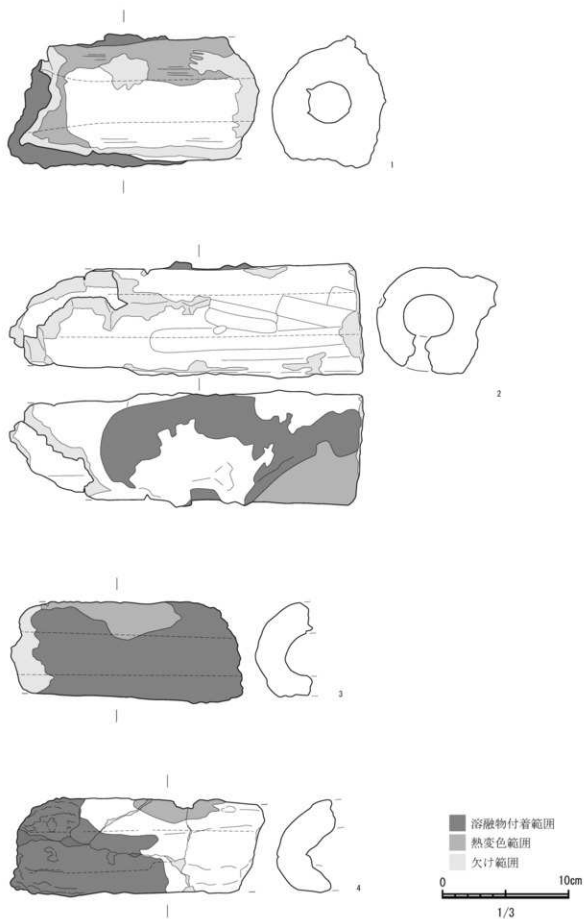


图168 羽口(2)

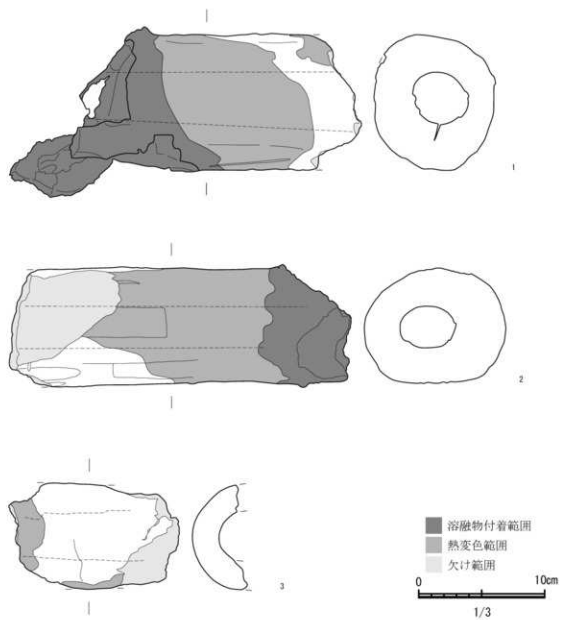


图169 羽口 (3)

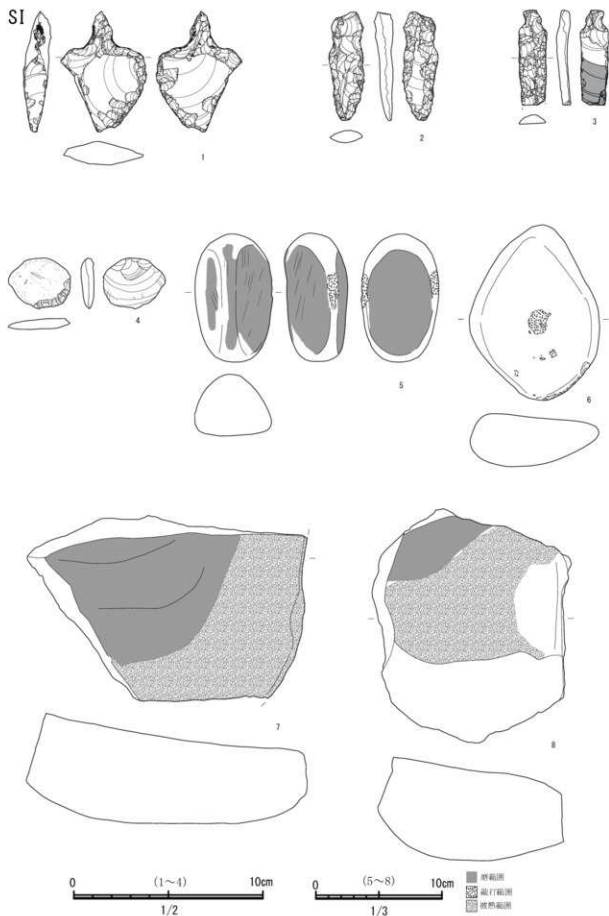


图170 遺構内出土石器(1)

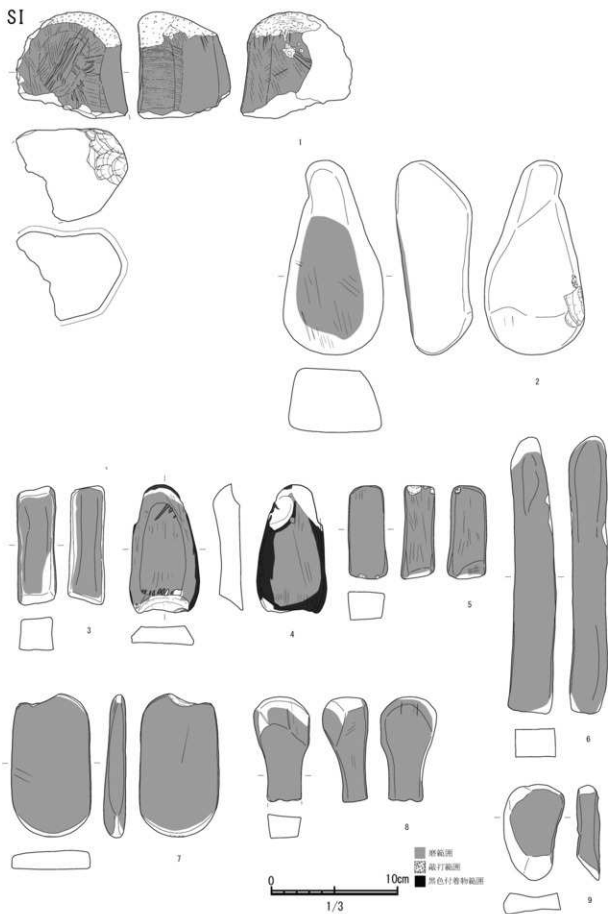
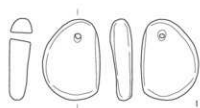
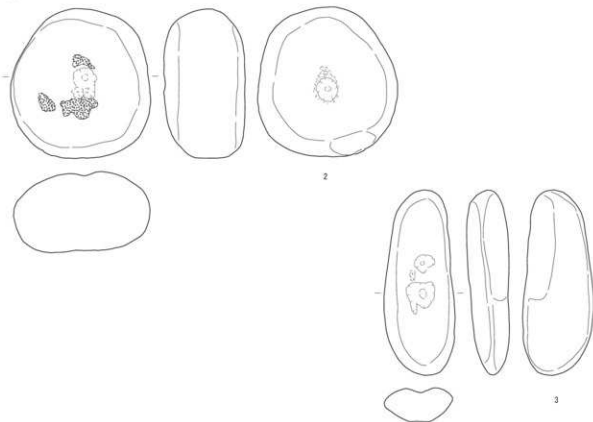


图171 遺構内出土石器(2)

SB



SD



SP

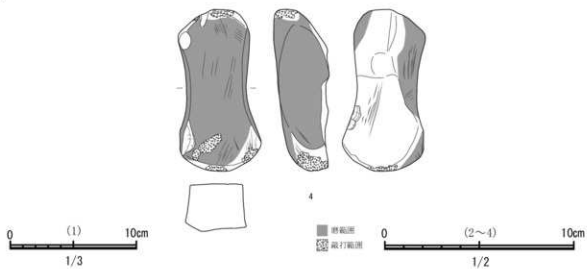


図172 遺構内出土石器(3)・遺構内出土石製品

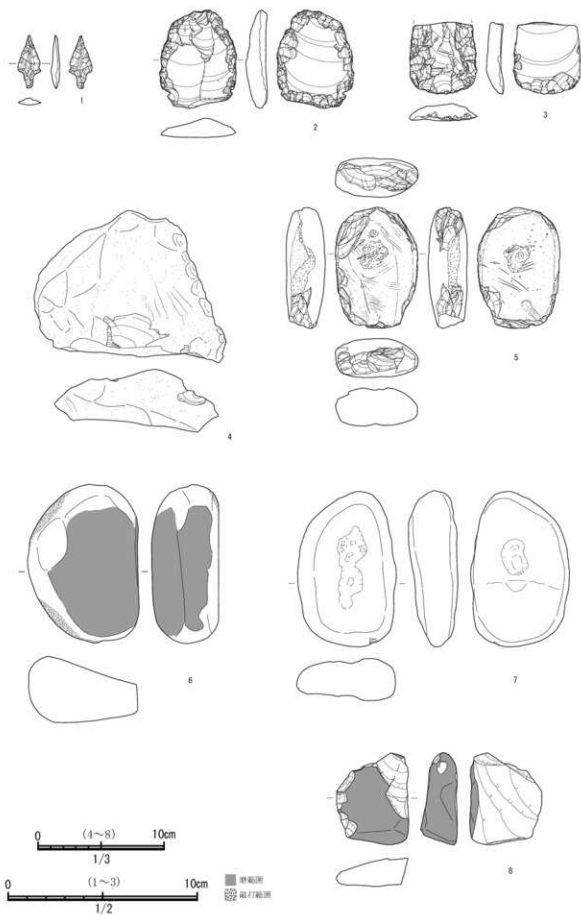


図173 遺構外出土石器

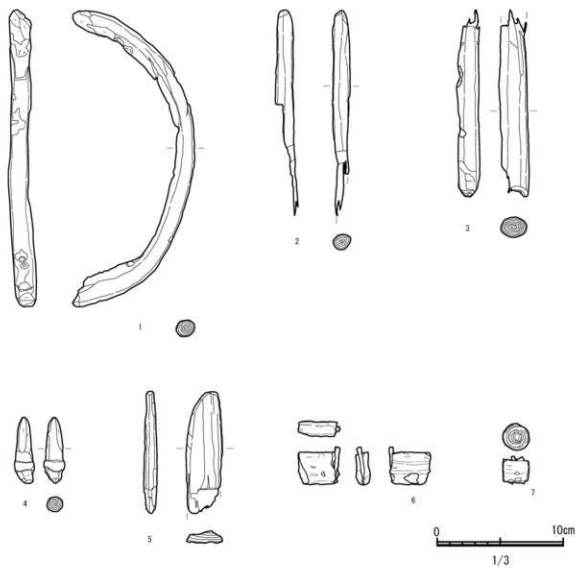


图174 木製品



### 第3節 遺構外出土遺物

#### 1 土器 (図 159・160)

遺構外からは縄文時代前期～平安時代にかけての遺物が出土した。

##### 縄文時代の土器 (図 159)

###### 前期 (1・2)

2点図示した。1は深鉢の体部片で、絡条体が充填される。前期前半に比定されると考えられる。2は深鉢の口縁部で、短軸絡条体6類により施文されている。円筒下層b式に比定される。

###### 中期 (3・4)

2点図示した。3は深鉢の体部片で、2本一対の沈線により懸垂文が施されている。最花式に比定される。4は幅広い沈線による施文がみられ、中期後葉に比定されると考えられる。

###### 後期 (159- 5・6)

2点図示した。いずれも十腰内I式に比定され、沈線による施文がみられる。

###### 晩期 (7～34)

29点図示した。7～27は晩期前葉に比定される。7～19・21～24は深鉢の口縁部で、口唇部が面取されている。28～30は大洞B1式に比定され、縄文充填後に沈線が施文される。沈線間は磨消がみられる。31は大洞BC式に比定される。口唇部に刻目、口縁部に沈線と刺突がみられる。32～34は晩期と思われるが、時期の詳細は不明である。32は鉢の口縁部と考えられる。外面に条痕がみられ、口唇部は肥厚し指頭押厚が施される。

##### 弥生時代の土器 (図 160- 1～36)

36点図示した。1～31は中期～後期、32～35は後期に比定され、36は詳細な時期は不明である。いずれも甕や壺と考えられる。全体的に縄文充填後に沈線が重層しており、3・23・24には山形文がみられる。12・14・20・25・28・32～34は口唇部に刻みがみられる。34は口縁部に指頭押圧がみられ、34と35は内面にも縄文が施されている。

##### 続縄文時代の土器 (図 160-37～39)

3点図示した。いずれも後北C2-D式に比定される。外面に微隆起線文が施され、それに沿うように帯縄文が施されている。

##### 平安時代の土器 (図 160-40～52)

13点図示した。40・41は土師器甕で、底面に40は布目圧痕、41は刻書がみられる。42は土師器坏で、内面黒色処理が施されている。43は皿で、比較的硬質で口唇部にケズリが施されている。44・45・47～49は把手付土器の把手である。49のみ中空で、その他は中実である。46は甎の把手で、ナデとケズリにより成形されている。50は土師器のミニチュア土器で、手づくね成形である。51は須恵器のミニチュア土器で、鉢形を呈する。52は須恵器甕で、口縁部のみの出土である。

(久保)

#### 2 鉄関連遺物

鉄製品は風化が激しいものや破片が多いことから図化しなかったが、器種ごとの出土点数・重量については表1で提示している。鉄滓類・羽口は鉄関連遺構出土資料を中心に図化していること、また、

遺構からの流れ込みの可能性が高いことから遺構外出土資料の図化は行わなかった。グリッドごとの鉄滓類・羽口の重量は表3で提示している。

(久保)

### 3 石器・石製品

石器は、平安時代の遺構の覆土から散発的に出土したことが多い。遺構外出土石器は整理用コンテナで1箱程度と量的に少ない。砥石と台石は平安時代と考えられる。他の石器は縄文時代から弥生時代の複数の土器型式が出土しており詳細時期は不明である。

(齋藤)

## 第4章 自然科学分析

### 第1節 沢部(1)遺跡出土イネの分析

上條信彦・小泉翔太・佐藤綾美(弘前大学人文社会科学部)・  
田中克典(弘前大学農学生命科学部)

#### 1. 形状分析試料と分析方法

沢部(1)遺跡SI06検出の出土イネのうち、任意の100粒について形状分析を実施した。なお、試料は種子の入った土壌をフルイによって選別したものである。

方法は、イネ種子1粒ごと200mmのマクロレンズ(Ai AF Micro-Nikkor 200mm f/4D IF-ED, (株)ニコン)を装着したカメラ(FinePix S1 Pro, フジフィルム(株))で撮影した。種子の長さと幅をImage J 1.47(National Institute of Mental Health, USA)を用いて計測した。粒大と粒型を、それぞれ長幅積と長幅比により算出した後、佐藤敏也氏の方法に従って種子を分類した。なお、粒大と粒型、集団内の平均、標準偏差や変動係数および集団間の有意差検定はEXCEL 統計 ver. 7.0((株)エスミ)により実施した。

出土米の粒型と粒大の分類基準は、松本(1994)に依拠し、各遺跡の割合を検討した(表1)。

#### 2. 形状分析の結果(表2・3、図1・2)

観察の結果、100粒の種子の状態は、粃片・小枝梗・種皮が付着するものが34%、一部損失あるいは断片付着が44%ある。よって、種子の多くはもともと粃の状態であり、塊が火災などにより焼失、種皮が融着したものが埋没後に粒が遊離したと判断される。

完全粒90粒の種子長は $4.72 \pm 0.38$ mm、種子幅は $2.42 \pm 0.20$ mmで、それらの相関係数は0.389でやや相関が認められる。種子長と種子幅との比は1.63から2.53まで認められ、その比に基づくと、粒型は中短粒、長短粒、短長粒、中長粒の4つに分類された(図1左)。なかでも、長短粒と短長粒の割合が高い。

一方、種子長と種子幅の積は6.57から14.25までで、その値に基づくと粒大は極小型、小型、中型で構成され、小型が多い(図1右)。また、粒型と粒大を組み合わせると、長短粒の小型で27粒(30%)が最も多く、短長粒の小型・中型が各16粒(各18%)と続く(表2)。

#### 3. DNA分析の方法

分析の方法は田中・上條(2014)による。

#### 4. DNA分析の結果

葉緑体ゲノムの2つの領域ならびに核ゲノムの2つの領域について、それぞれの特異的プライマーセットでPCR増幅したが、期待サイズのDNA断片は認められなかった。以上のことから、本遺跡の出土米は被熱などにより、標的としたDNA領域が劣化していることを示すとみられる。

## 5. 周辺遺跡と比較

田中・上條 (2014) および田中・上條ほか (2015) の北東北3県のデータと比較すると、長粒かつ小型の傾向がある。同様の傾向は五所川原市十三盛遺跡、田舎館村前川遺跡、弘前市境関館遺跡にみられる。これらの遺跡は同じ津軽平野にあり、所属時期も重なる。したがって、本遺跡の結果は、古代における津軽平野の開発に伴って導入されたイネ品種を探るうえで注目される。

田中克典・上條信彦 2014『日本の出土米Ⅰ』弘前大学人文学部北日本考古学研究中心

田中克典・上條信彦・佐藤洋一郎 2015『日本の出土米Ⅱ 佐藤敏也コレクションの研究』六一書房

松本 豪 1994「日本の稲作遺跡と古代米に関する研究」『大阪府立大学紀要』第46号、135-194頁

Katsunori Tanaka, Nobuhiko Kamiyo, Hiroaki Tabuchi, Kuniko Hanamori, Ryuji Matsuda, Junko Suginomori, Yo-Ichiro Sato, Tetsuro Udatu, Ryuji Ishikawa (2015) "Morphological and molecular genetics of ancient remains and modern rice (*Oryza sativa*) confirm diversity in ancient Japan" *Genetic Resources and Crop Evolution*, 63-3, pp. 447-464

表1 出土米の粒型と粒大の分類基準

粒型	長幅比	粒大タイプ	長幅積
長	2.6-3.6	極大	20以上
長粒	中	大	16-20
短	2.0-2.3	中	12-16
長	1.8-2.0	小	8-12
短粒	中	極小	8以下
短	1.4-1.6		
長	1.2-1.4		
円粒	中		
短	1.0以下		

松本 (1994)の一部を改変

表2 沢部(1)遺跡S106検出のイネ種子の形態

遺構	粒型	粒大					計
		極小	小	中	大	極大	
S106	長						0
	長粒			3			3
	短		25	11			36
	長	1	16	16			33
	短粒	1	11	6			18
	短						0
円粒	長						0
	中						0
	短						0
計		2	55	33	0	0	90

図1 粒型と粒大

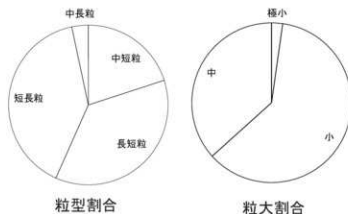


表3 沢部(1)遺跡S106検出のイネ種子の観察表

番号	長さ (mm)	幅 (mm)	粒型		粒大		備考	番号	長さ (mm)	幅 (mm)	粒型		粒大		備考
			長幅比	型	長幅値	型					長幅比	型	長幅値	型	
1	4.39	2.37	1.85	長短粒	10.40	小	一部破損	51	4.84	2.60	1.86	長短粒	12.58	中	一部破損
2							横部破損	52	4.95	2.40	2.06	短長粒	11.88	小	土付
3	4.97	2.40	2.07	短長粒	11.93	小	一部破損	53							破損
4	5.16	2.66	1.94	長短粒	13.73	中		54	4.62	2.44	1.89	長短粒	11.27	小	土付
5	4.98	2.43	2.05	短長粒	12.10	中	一部破損、土付	55	5.22	2.34	2.23	短長粒	12.21	中	一部破損
6	4.36	2.66	1.64	中短粒	11.60	小	一部破損	56	4.74	2.82	1.68	中短粒	13.37	中	土付
7	4.71	2.34	2.01	短長粒	11.02	小	土付	57	4.87	2.56	1.90	長短粒	12.47	中	一部破損
8	5.19	2.66	1.95	長短粒	13.81	中		58	5.32	2.56	2.08	短長粒	13.62	中	断片付着
9	5.26	2.53	2.08	短長粒	13.31	中	種皮付	59							破損
10	5.03	1.99	2.53	中長粒	10.01	小	一部破損	60	4.58	2.28	2.01	短長粒	10.44	小	断片付着
11	4.62	2.56	1.80	長短粒	11.83	小	一部破損	61							横部破損
12	4.74	2.37	2.00	短長粒	11.23	小		62	4.84	2.34	2.07	短長粒	11.33	小	土付
13	4.20	2.31	1.82	長短粒	9.70	小		63	5.22	2.72	1.92	長短粒	14.20	中	一部破損
14	4.58	2.50	1.83	長短粒	11.45	小	一部破損	64	5.00	2.56	1.95	長短粒	12.80	中	一部破損
15	4.65	2.21	2.10	短長粒	10.28	小	種皮付	65	4.33	2.40	1.80	長短粒	10.39	小	一部破損
16	4.68	2.53	1.85	長短粒	11.84	小	断片付着	66	5.16	2.76	1.87	長短粒	14.24	中	一部破損
17	5.06	2.63	1.92	長短粒	13.31	中	一部破損	67							破損
18	4.52	2.56	1.77	中短粒	11.57	小	土付	68	4.46	2.50	1.78	中短粒	11.15	小	一部破損
19	5.06	2.76	1.83	長短粒	13.97	中	一部破損、土付	69	4.81	2.50	1.92	長短粒	12.03	中	土付
20	4.39	2.40	1.83	長短粒	10.54	小	一部破損	70	4.58	2.12	2.16	短長粒	9.71	小	
21	5.26	2.47	2.13	短長粒	12.99	中	断片付着	71							破損
22	5.03	2.34	2.15	短長粒	11.77	小	土付	72	4.94	2.50	1.98	長短粒	12.35	中	一部破損、土付
23	4.33	2.15	2.01	短長粒	9.31	小	土付	73	4.23	2.47	1.71	中短粒	10.45	小	土付
24	4.39	2.34	1.88	長短粒	10.27	小	土付	74	5.29	2.47	2.14	短長粒	13.07	中	断片付着、土付
25	5.06	2.56	1.98	長短粒	12.95	中	土付	75	4.78	2.53	1.89	長短粒	12.09	中	断片付着、土付
26	4.26	2.34	1.82	長短粒	9.97	小	一部破損	76							横部破損
27	5.61	2.47	2.27	短長粒	13.86	中	断片付着	77	3.78	2.18	1.73	中短粒	8.24	小	土付
28	4.71	2.31	2.04	短長粒	10.88	小	一部破損	78	4.65	2.05	2.27	短長粒	9.53	小	土付
29	4.94	2.31	2.14	短長粒	11.41	小	土付	79							頂部破損
30	3.59	1.83	1.96	長短粒	6.57	極小	一部破損	80	4.23	2.44	1.73	中短粒	10.32	小	一部破損、土付
31	4.74	2.34	2.03	短長粒	11.09	小	土付	81	4.90	2.63	1.86	長短粒	12.89	中	一部破損
32	5.26	2.24	2.35	中長粒	11.78	小		82	4.58	2.24	2.04	短長粒	10.26	小	土付
33	4.94	2.34	2.11	短長粒	11.56	小		83	4.20	2.18	1.93	長短粒	9.16	小	一部破損
34	4.74	2.88	1.65	中短粒	13.65	中	土付	84	4.71	2.12	2.22	短長粒	9.99	小	種皮付
35	5.22	2.56	2.04	短長粒	13.36	中	一部破損	85	5.13	2.47	2.08	短長粒	12.67	中	一部破損
36	5.00	2.15	2.33	中長粒	10.75	小		86							横部破損
37	4.33	2.44	1.77	中短粒	10.57	小	土付	87	4.74	2.28	2.08	短長粒	10.81	小	断片付着
38	4.38	2.57	1.70	中短粒	11.26	小	断片付着	88	4.42	2.50	1.77	中短粒	11.05	小	種皮付
39	5.48	2.60	2.11	短長粒	14.25	中	一部破損、土付	89	4.26	1.99	2.14	短長粒	8.48	小	
40	4.55	2.66	1.71	中短粒	12.10	中	一部破損	90	4.23	2.24	1.89	長短粒	9.48	小	断片付着
41	4.78	2.72	1.76	中短粒	13.00	中	一部破損	91	4.81	2.34	2.06	短長粒	11.26	小	一部破損
42	4.62	2.40	1.93	長短粒	11.09	小	断片付着	92	4.97	2.72	1.83	長短粒	13.52	中	断片付着、土付
43	4.49	2.21	2.03	短長粒	9.92	小		93	4.52	2.12	2.13	短長粒	9.58	小	断片付着
44	4.90	2.50	1.96	長短粒	12.25	中	土付	94	4.65	2.50	1.86	長短粒	11.63	小	土付
45	4.97	2.18	2.28	短長粒	10.83	小		95	4.33	2.66	1.63	中短粒	11.52	小	一部破損
46	4.58	2.15	2.13	短長粒	9.85	小	土付	96	4.29	2.37	1.81	長短粒	10.17	小	
47	4.81	2.47	1.95	長短粒	11.88	小	一部破損	97	4.84	2.69	1.80	中短粒	13.02	中	断片付着
48	4.62	2.24	2.06	短長粒	10.35	小	土付	98	3.65	2.15	1.70	中短粒	7.85	極小	土付
49							横部破損	99	4.17	2.50	1.67	中短粒	10.43	小	一部破損
50	5.03	2.47	2.04	短長粒	12.42	中	断片付着	100	4.65	2.82	1.65	中短粒	13.11	中	土付

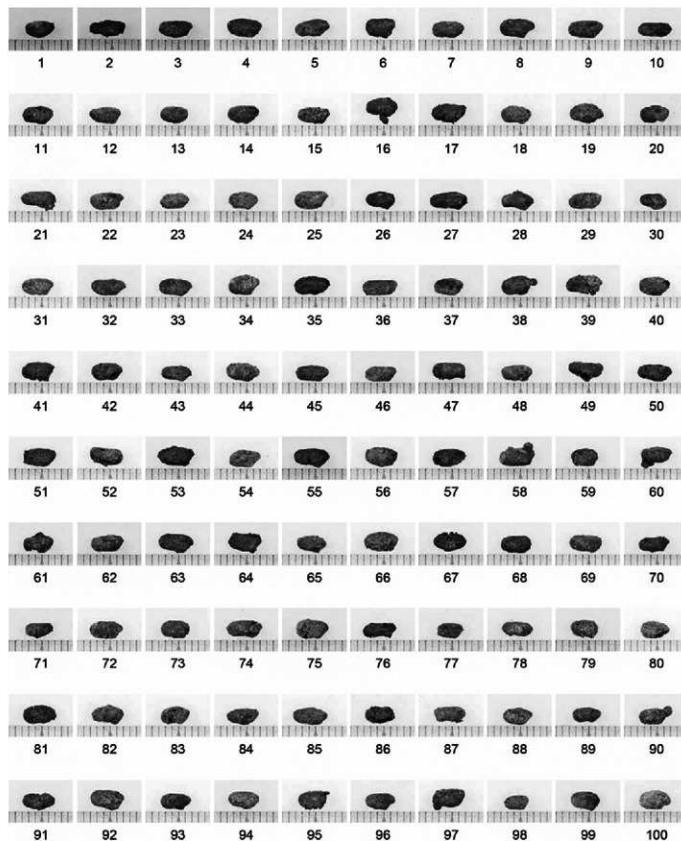


図2 沢部(1)遺跡 S106 より出土したイネ種子

## 第2節 沢部 (1) 遺跡から出土した炭化種実塊の構造分析

(株)パレオ・ラボ

### 1. はじめに

弘前市大字小栗山に所在する沢部 (1) 遺跡は、大和沢川右岸の標高約 100 ~ 120m の段丘上に立地する、縄文時代および古代の複合遺跡である。ここでは、古代 (10 世紀後半) の建物跡から出土した炭化種実塊の構造を観察し、種実塊の内容物や塊の形成過程について検討した。なお、炭化種実塊に付着していた炭化材の樹種同定も行われている。

### 2. 試料と方法

試料は、堅穴建物跡である S106 の床面直上から出土した炭化種実塊 2 点である。S106 は焼失住居跡である。試料 No. 1 は 1 個体、試料 No. 2 は複数の破片に割れていた。試料 No. 2 は、ある程度残りが良い破片と、細片となった破片に分けられて保管されていたため、それぞれ最も残りが良かった破片を試料 No. 2-1、2-2 として抽出した。

試料の採取は、青森県埋蔵文化財調査センターが行った。炭化種実塊および炭化種実の同定および観察は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。炭化種実塊が同一の分類群で構成されている場合は、重量から完形種子換算数を求めた。

試料 No. 1 の炭化種実塊について、X 線 CT 画像解析を行った。X 線 CT 画像解析は、炭化種実塊を十分に乾燥させた後、ラップに包んで試料台に固定し、ヤマト科学株式会社製の三次元計測 X 線 CT 装置 (TDM3000H-FP) を用いて X 線 CT 画像を撮影した。X 線管電圧は 300kV、X 線管電流は 0.140mA、ビュー数 1800、フレーム平均数 1、検出器の積分時間は 0.5sec である。それぞれ任意の直交する三方向 (上面 (xy)、正面 (xz)、右側面 (yz)) について、数 mm 単位で断層写真撮影を行い、2DCT 画像 (スライス画像) を構築した。コントラストは X 線が透過しやすい部分ほど濃いグレーで表示されている。断層像 (CT 像) の再構成は装置付属のソフトウェアを用い、マトリックスサイズ (各 XYZ: 1024pixel)、再構成視野サイズ (各 XYZ: 107mm)、再構成画素サイズ (各 XYZ: 0.104492mm) の条件で再構成した。断面図は、スライス画像で特徴的な部分をイラストレーターでトレースして作成した。

炭化種実塊を構成する種実の計測は、いずれも塊から遊離した完形個体を対象として、デジタルノギスで小数点第二位まで計測し、炭化種子の最小値、最大値、平均値、1 標準偏差を求めた。同定された試料は、青森県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

表1 沢部 (1) 遺跡から出土した炭化種実塊 (単位: mm, g)

試料No.	遺構	内容物	部位	長軸	短軸	厚さ	重量 (g)	備考
No. 1	S106	イネ	炭化種子塊	94.6	51.2	40.6	48.8	
No. 2-1	S106	イネ・アワ	炭化種子塊	46.0	34.0	15.5	-	最大破片、材付着
No. 2-2	S106	イネ・アワ	炭化種子塊	43.1	28.6	12.9	-	最大破片

### 3. 同定および観察結果

炭化種実塊の表面観察を行った結果、試料 No. 1 にはイネ炭化種子 (碩果) のみがみられた。試料 No. 2 は細片に割れていたが、アワ炭化種子 (碩果) とイネ炭化種子 (碩果) が混ざった塊で、表面

の一部に木材が付着していた(表1)。

以下、炭化種実塊について試料番号別に記載する(図版1、2)。なお、試料No.1のX線照射方向を正面として、その上側を上面、側面を右側面と左側面に分けて記載する。試料No.2は任意の方向を上面とした。

試料No.1:塊を構成している種実は、すべてイネ炭化種子であった。塊の外面形態を観察すると、上面はやや平坦で、下面是種子が変形かつ潰れていて、湾曲面を形成していた。正面および左側面は粒の形態が観察され、本来の形状から割れた面と推定された。試料No.1から遊離したイネがなかったため、試料No.2-2のイネ10点の重量(0.0765g)から換算した、試料No.1のイネ炭化種子の完形種子換算数は、約6380点であった。

炭化種実塊を正面、右側面、上面から撮影したX線CT画像を図版1に示す。画像の白色部分は種実を示し、黒色部分は内部の空洞を示す。

X線CT画像による内部構造の観察の結果、中央よりやや右側の上面から下面方向に細長い不定形の空洞が見られた。上面からみると長軸4mm程度の小さい孔であるのに対し、内部の最大幅は8mmで、底面には見られなため、炭化米塊内部に何らかの内容物が存在していた痕跡である可能性が高い。

遺跡から出土した炭化米塊の内部構造をX線CTで観察すると、おにぎりであったり、炊飯された米が容器に入っていた場合は塊の表面付近は米の密度が高くなるが、炭化米塊の内部の種子は粒の形状を保つ(佐々木ほか, 2009)。しかし、沢部(1)遺跡の試料No.1は内部まで密な状態で、内部の米も粒の形状をほとんど保っておらず、中実なイネが多かった。特に、塊に厚みがある左側の下面側は粒の形状がほとんど観察できず、CT画像の輝度も高いため、粒の密度が高い様子が観察された。

試料No.2:元は同一個体と思われる破片が複数あり、最大の破片でも一辺3~4cm程度の大きさであった。どの破片も上下面が平坦で、厚さは1.2~1.5cmであった。種実はイネとアワの炭化種子(穎果)が観察できた。イネは膨張して変形した個体が多く含まれ、粒同士が密着している状況から判断して、炊飯後の塊と判断される。また、上面にはイネが多く、下面にはアワが多い傾向があり、下面には木材が部分的に付着していた。木材はアスナロの板材であり、容器の可能性が推定されている。上面は平坦だが、木材は観察できず、板のような偏平なもので種子の粒が潰れたような様子は見られなかった。

次に、炭化種実の記載を行って同定の根拠とする。

(1) イネ *Oryza sativa* L. 炭化種子(穎果) イネ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は長楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に縦方向の2本の浅い溝がわずかに残る。試料No.2の炭化種子の大きさは、長さ4.7~5.7(平均5.3±0.3)mm、幅2.5~3.0(平均2.7±0.1)mm(表2)。

表2 炭化種実の大きさ

イネ	炭化種子		試料No.
	長さ	幅	
	5.0	2.6	2-2
	5.5	2.7	
	5.5	2.6	
	5.1	3.0	
	5.6	2.7	
	5.3	2.7	
	4.7	2.7	
	5.1	2.6	
	5.0	2.5	
	5.7	2.7	
	最小	4.7 2.5	
	最大	5.7 3.0	
	平均	5.3 2.7	
	標準偏差	0.3 0.1	
アワ	炭化種子		試料No.
	長さ	幅	
	1.0	1.2	
	1.2	1.2	
	1.1	1.2	
	1.2	1.4	
	1.0	1.0	
	1.2	1.4	
	1.3	1.4	
	1.2	1.2	
	1.2	1.1	
	最小	1.0 1.0	
	最大	1.3 1.4	
平均	1.2 1.2		
標準偏差	0.1 0.1		



(2) アワ *Setaria italica* P. Beauv. 炭化種子 (穎果) イネ科

上面観は楕円形、側面観は円形に近い。腹面下端中央の窪んだ位置に細長い楕円形の胚がある。胚の長さは全長の2/3程度。全体の大きさは、長さ1.0～1.3 (平均1.2±0.1) mm、幅1.0～1.4 (平均1.2±0.1) mm (表2)。

## 4. 考察

10世紀後半の竪穴建物跡の床面から出土した炭化種実塊を同定したところ、試料No.1はイネの炭化種子塊、試料No.2はイネとアワが混ざった炭化種子塊と推定された。

試料No.1のイネの炭化種子塊の下面は粒が潰れて変形し、湾曲面が形成されていた。調理後の米が何らかの容器や包みに入れられ、押し付けられたと考えられる。また、全体的に内部の粒同士が糊着して粒の形状がほとんど確認できず、粒の内部が中実な米が多く、下面近くや正面左側ではその傾向が顕著に観察された。調理された現生の米のCT画像解析の結果を踏まえると、このように米の変形率および米の密度が高く、かつ種子塊の内部の種子が中実な個体が多いのは、低温で水分が多い影響を受けたためである可能性が推測される。水分を多く含んだ粥状の状態ですぐに容器に入った米が塊になったのかもしれない。また、炭化種実塊の下面の湾曲した形状から判断すると、木製碗や土器などの硬い容器に入れられた状態で炭化した可能性がある。

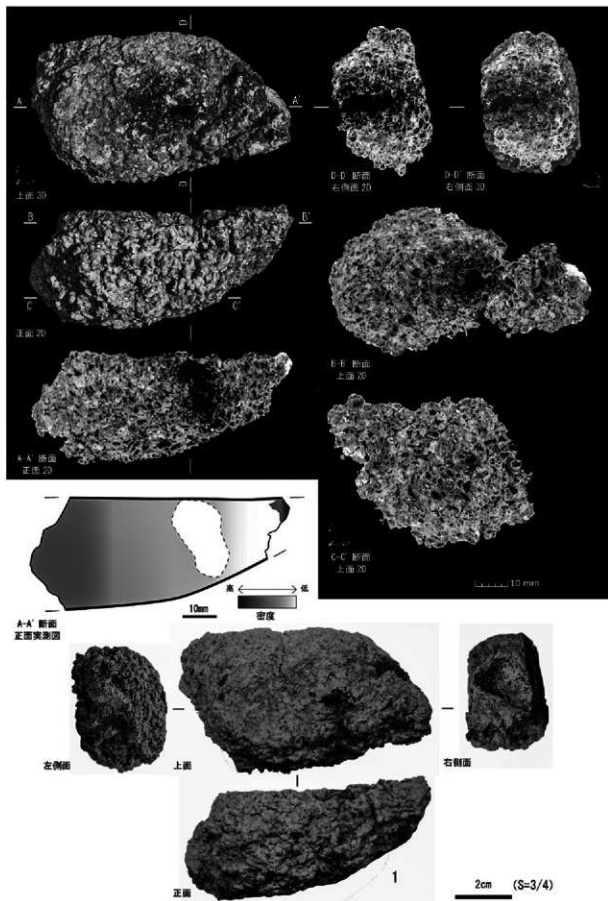
試料No.2では、イネとアワの2種が確認された。下面側は容器の可能性のある板材に押し付けられ、穀類は変形して平坦面を形成していた。また上面も平坦面を形成しているが、下面よりも粒の形状が保たれており、柔らかい道具などで平坦にならされた可能性がある。したがって、炊いた雑穀米が容器に入れられ、さらに柔らかい道具などで表面がならされ、平坦になった可能性がある。また、炭化種実塊に付着していた板材はアスナロであり、曲物などに入れられた可能性が推定されている。曲物は櫃や弁当箱など、調理後の雑穀米を保管する容器として用いられたかもしれない。

隣接する沢部(2)遺跡では、古代(10世紀頃)の製炭土坑の可能性が高いと推定されている。土坑2基からアワがわずかに得られている(第594集 沢部(2)遺跡報告書参照)。当時、アワがどのように食べられたかを示す資料はほとんどなく、今回の沢部(1)遺跡のように米と混ぜて調理された状態での検出例も知られていない。

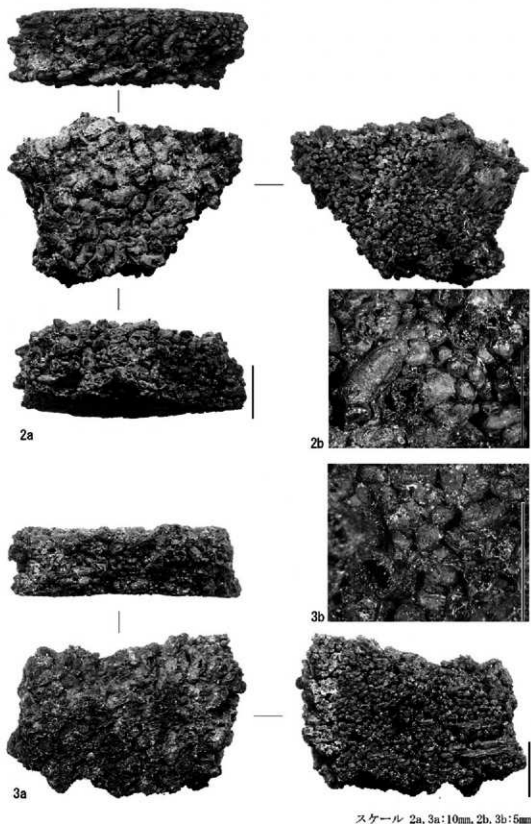
今回検討した炭化種実塊は、2個体ともに調理後の状態を示しており、当時の食生活を知る上で重要な資料といえる。  
(佐々木由香・米田恭子・パンダリ スダグシヤン)

## 引用文献

- 佐々木由香・パンダリ スダグシヤン・米田恭子・村田健太郎・小石川 篤(2009)北川表の上遺跡出土炭化種実同定および炭化種実塊のX線CT画像解析による検討。財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター編「港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告42 北川表の上遺跡」:423-435。横浜市教育委員会。



図版 1 沢部(1)遺跡出土の炭化種実塊の外面形態と内部構造の CT 画像および実測図  
1. 試料 No. 1 (S106)



図版2 沢部(1)遺跡出土の炭化種実塊の外表面形態

2a. イネ・アワ炭化種子塊(試料No. 2-1、S106)、2b. イネ・アワ炭化種子塊の表面拡大(試料No. 2-1、S106)、3a. イネ・アワ炭化種子塊(試料No. 2-2、S106)、3b. イネ・アワ炭化種子塊の表面拡大(試料No. 2-2、S106)

### 第3節 沢部(1)遺跡出土の樹皮素材と布の素材植物の同定

(株)パレオ・ラボ

#### 1. はじめに

弘前市に所在する沢部(1)遺跡から出土した樹皮素材6点と布1点について、樹脂包埋法による素材植物の同定を行った。

#### 2. 試料と方法

樹皮素材は、堅穴建物跡SI32のカマド①およびカマド①付近と、SI32内の土坑SK7から出土した計6点である。布は、建物跡SI42の床面から出土した。遺構の時期は、いずれも平安時代と推定されている。樹皮素材と布は、各試料に複数個体があったため、状態の良い1点を分析対象とした。

同定の方法は、まず肉眼と実体顕微鏡で試料を観察し、樹脂包埋試料として一部を採取した。なお、樹皮素材の観察方法は、(佐々木ほか, 2015)を参考にした。樹脂包埋は、アセトンの上昇系列で脱水処理を行なった後、エポキシ樹脂に包埋した。樹脂包埋試料はマイクロームを用いて切片を作製し、プレパラートに封入した。プレパラートを光学顕微鏡下で観察し、現生標本と比較して同定を行った。プレパラートは、パレオ・ラボに保管されている。

#### 3. 結果

同定の結果、樹皮素材はカバノキ属の樹皮(コルク層)、布は経糸と緯糸どちらもアサの靱皮繊維であった。結果を表1と2に示す。カバノキ属の樹皮素材はいずれも自然の巻き込みがみられる。長さ(長軸)は9.2~59.9mm、樹皮の厚さ0.6~6.2mm、完形の試料の巻き長さは約45~120mmであった。樹皮1~4、6は一部が炭化、樹皮5は完全に炭化していた。状態が悪く、切断痕の有無は不明である。アサの布は平織で、分析試料のサイズは残存長2.3cm×残存幅1.5cm、布の糸は太さ約0.5mmであった。

以下に、素材植物の特徴と同定根拠を示す。また、試料写真と光学顕微鏡写真を図版に示す。

(1) カバノキ属 *Betula* カバノキ科 図版1 1-6 (SI32 樹皮1~6)、図版2・3 1-6 (SI32 樹皮1~6)

横断面では楕円の成長輪がみられる。細胞は1種類のみで、接線方向に長い長方形の細胞が配列している。接線断面では、樹幹に対して水平方向に長い紡錘形の細胞が隙間なく配列する。放射断面では、薄壁の方形の細胞と、厚壁の長方形の細胞によって、針葉樹の横断面のような成長輪がみられる。薄壁の細胞が連なる層で剥離する傾向がある。以上の特徴から、カバノキ属の樹皮(コルク層)と同定した。なお、樹皮5は炭化により組織がやや不明瞭であったため、カバノキ属樹皮?とした。

(2) アサ *Cannabis sativa* L. アサ科 図版1 7 (SI42)、図版3 8-9 (SI42)、7 (現生)

布は平織で、経糸・緯糸ともに約0.5mmの糸で織られている。糸は多数の繊維が緩く撚られている。繊維細胞は消失して空洞化しているが、繊維の太さは10～30 $\mu$ mほどで、断面の形状は円～楕円形、多角形、数本がまとまってみられる(図版3 8d, 9dの★印)。このほかに試料の状態が悪く、細胞群が壊れたと思われる大きな空洞が多くみられるが(図版3 8d, 9dの■印)、繊維の太さと配列から、アサの樹皮繊維であると同一した。

表1 樹皮素材の同定結果

試料No.	遺構	層位	その他	枝番	素材(mm)				素材	状態	観察	
					長さ(長軸)	幅(短軸)	巻き長さ	厚さ				
樹皮1	SI32	覆土	カマド①	1	20.6	16.3	約45	2.7	カバノキ属樹皮	一部炭化	剥離痕・切断痕・皮目	
					2	16.1	12.5	(約23)	1.5	-	-	剥離痕・切断痕・皮目
樹皮2	SI32	覆土	カマド①	-	59.9	14.6	約60	2.0	カバノキ属樹皮	一部炭化	剥離痕・皮目	
					1	11.6	18.3	(約30)	3.0	カバノキ属樹皮	一部炭化	剥離痕・皮目
樹皮3	SI32	覆土	カマド①付近	-	9.2	12.8	(約25)	1.9	-	-	剥離痕・皮目	
					3	15.2	23.1	(約28)	2.7	-	-	剥離痕・皮目
					-	16.0	15.2	約55	6.2	カバノキ属樹皮	一部炭化	剥離痕・皮目
樹皮4	SI32	覆土	カマド①付近	-	13.9	9.9	約75	0.7	-	-	剥離痕・切断痕?	
樹皮5	SK7 (SI32内)	覆土	-	2	10.7	20.4	(約25)	0.6	カバノキ属樹皮?	炭化	剥離痕・切断痕?	
樹皮6	SI32	覆土	カマド①付近	-	20.8	20.6	約120	2.4	カバノキ属樹皮	一部炭化	剥離痕・皮目	

※カッコ内は残存している長さ

表2 布の素材同定結果

遺構	層位	遺物名	No.	サイズ(残存)	採取部位	繊維幅	備考	素材		
SI42	床面	布1/2	A	1.8×1.5cm	-	-	-	一部炭化	-	
			B	3×2cm?	-	-	-	一部炭化	-	
			C	2.3×1.5cm	経糸	約0.5mm	-	-	アサ	
					緯糸	約0.5mm	-	-	アサ	
			D	1.1×0.9cm	-	-	-	-	炭化	-
			E	0.7×0.5cm	-	-	-	-	炭化	-
			F	0.9×0.5cm	-	-	-	-	-	-
			G	0.4×1.2cm	-	-	-	-	炭化	-
			H	0.8×0.6cm	-	-	-	-	炭化	-
I	0.5×0.6cm	-	-	-	-	-	-			

## 4. 考察

布に使用されていたアサ(*Cannabis sativa* L.)は、アサ科アサ属の1年生草本である。中央アジアが原産とされ、日本列島では縄文時代早期にアサの果実が確認されている(工藤・一木, 2014)。青森県では、中津軽郡の川原平(1)遺跡で縄文時代後期後葉～晩期の漆漉し布の糸の素材としてアサが確認されている(鈴木ほか, 2017)。また、近世では東京都新宿区の南元町遺跡や、群馬県長野原町の東宮遺跡などで布の素材としてアサの利用が確認されている(小林ほか, 2015; 鈴木, 2012)、平安時代の出土例や分析例はまだない。ただし、アサの果実は平安時代でも青森県内では弘前市の扇田(3)遺跡、野辺地町の向田(37)遺跡、東北町の赤平(3)遺跡、八戸市の潟野遺跡で確認されている(岡本ほか, 2013)。

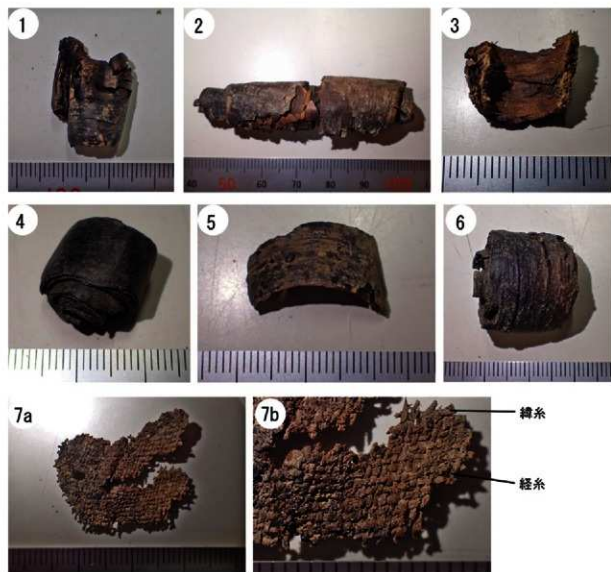
一方、樹皮素材はいずれもカバノキ属であった。樹皮は円周方向にはがされているため、横剥ぎ型剥離法もしくは螺旋型剥離法で剥がれたと推測される。なお、組織は比較的レベルであるため、横剥ぎ型剥離法の可能性が高い。剥ぎとる際に切り込みを入れた切断痕は、樹皮1と樹皮5で確認されたが、剥離痕はすべての試料で確認され、皮目は樹皮1～4と6で確認された。素材の長さ(長軸)は、樹皮1と3～6は幅1～2cm程だが、樹皮2は幅6cmであった。樹皮1～4と6は素材の幅が厚く、皮目が見られるため、採取段階の樹皮素材であると推測される。樹皮5は厚みが薄く、皮目も観察でき

ないので、加工段階の可能性も考えられる。このため、樹皮5の切断痕は整形時の加工痕の可能性もある。カバノキ属の樹皮素材は、青森県では縄文時代中期の三内丸山遺跡と、縄文時代後期～晩期の川原平(1)遺跡、山形県では縄文時代前期の押出遺跡、福島県では縄文時代晩期の荒屋敷遺跡で確認されている(鈴木, 2015; 鈴木ほか, 2017)。平安時代のカバノキ属の樹皮素材の出土例はまだ確認されておらず、サクラ属の樹皮素材が黒石市赤坂遺跡、シナノキ属樹皮の縄が五所川原市十三盛遺跡で確認されている(鈴木, 2015)。分析事例が少ないため、類例の出土が待たれる。

(黒沼保子・鈴木三男)

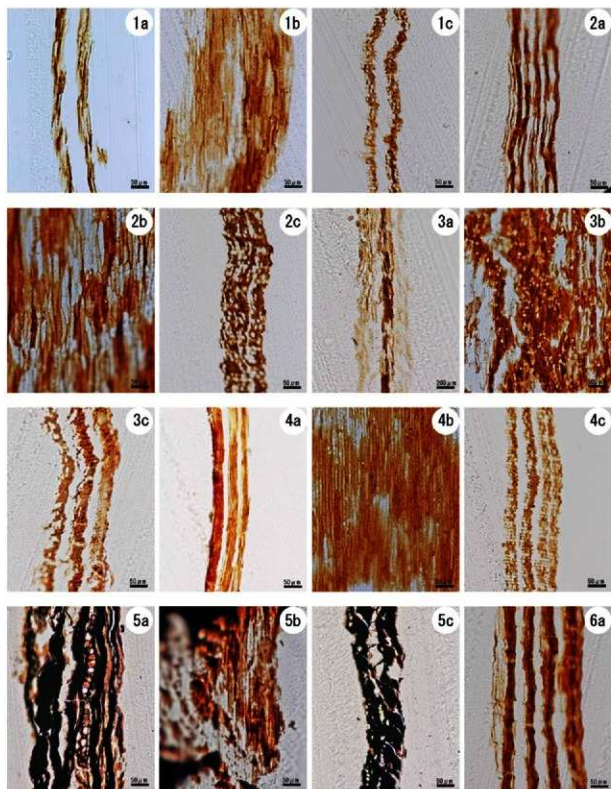
## 引用文献

- 小林和貴・佐々木由香・能城修一・鈴木三男(2015)南元町遺跡第3次調査出土繊維製品等の素材植物。国際文化財株式会社編「南元町遺跡Ⅲ」: 248-254, 住友不動産。
- 工藤雄一郎・一木絵里(2014)縄文時代のアサ出土例集成。工藤雄一郎編「国立歴史民俗博物館研究報告 第187集 縄文時代の人と植物の関係史」: 425-440, 国立歴史民俗博物館。
- 岡本 洋・浅田智晴・加藤隆則・藤根 久(2013)古代北奥の漆利用—青森県の漆付着土師器—。青森県埋蔵文化財調査センター編「研究紀要 第18号」: 25-38, 青森県埋蔵文化財調査センター。
- 篠崎茂雄(2014)アサ利用の民俗学的研究。工藤雄一郎編「国立歴史民俗博物館研究報告 第187集 縄文時代の人と植物の関係史」: 405-420, 国立歴史民俗博物館。
- 佐々木由香・小林和貴・能城修一・鈴木三男(2015)三内丸山遺跡北の谷出土の繊維製品・樹皮素材の技法。青森県教育庁文化財保護課「三内丸山遺跡42」: 152-159, 青森県教育委員会。
- 鈴木三男(2012)東宮遺跡出土織物の繊維素材。群馬県埋蔵文化財調査事業団編「東宮遺跡(2)―遺物編―」: 478-479, 群馬県埋蔵文化財調査事業団。
- 鈴木三男(2015)縄文・弥生時代の樹皮製品の素材とその地域性。あみもの研究会編「シンポジウム縄文・弥生時代の編組製品研究の新展開—植物資源利用・技法・用途—要旨集」: 35-44, あみもの研究会。
- 鈴木三男・能城修一・小林和貴・佐々木由香(2017)木質遺物・繊維製品の素材植物同定。青森県埋蔵文化財調査センター編「川原平(1)遺跡Ⅳ」: 124-148, 青森県教育委員会。



図版1 沢部(1) 遺跡出土樹皮および布の試料写真

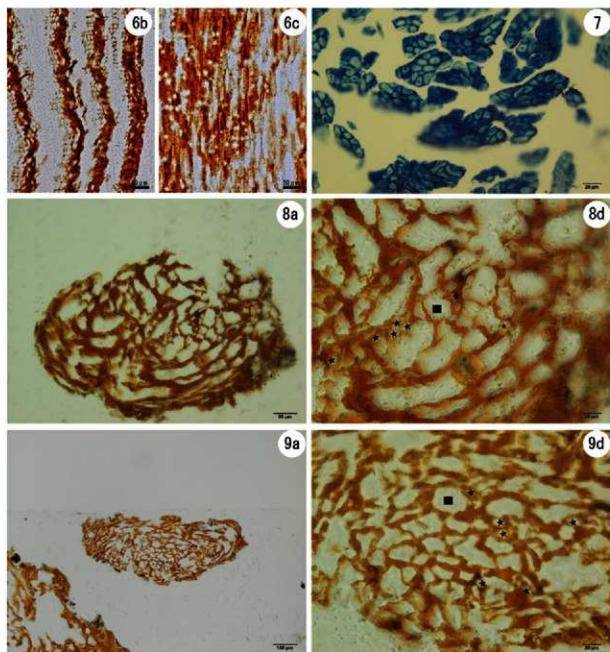
1. 樹皮 1-1、2. 樹皮 2、3. 樹皮 3-1、4. 樹皮 4、5. 樹皮 5-2、6. 樹皮 6、7. 布 (a: 試料全体、b: 採取位置)



図版2 沢部(1)遺跡出土樹皮および布の顕微鏡写真(1)

1a-1c. カバノキ属樹皮(樹皮1-1)、2a-2c. カバノキ属樹皮(樹皮2)、3a-3c. カバノキ属樹皮(樹皮3-1)、  
4a-4c. カバノキ属樹皮(樹皮4)、5a-5c. カバノキ属樹皮?(樹皮5-2)、6a. カバノキ属樹皮(樹皮5-2)  
a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面





図版3 沢部(1) 遺跡出土樹皮および布の顕微鏡写真(2)

6b-6c. カバノキ属樹皮(樹皮5-2)、7. 現生アサ、8a・8d. アサ韌皮繊維(布:経糸)、9a・9d. アサ韌皮繊維(布:緯糸)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面、d: 横断面拡大

## 第4節 沢部(1)遺跡出土木材の樹種同定

(株)パレオ・ラボ

### 1. はじめに

弘前市南部を流れる大和沢川の右岸に立地する沢部(1)遺跡で、平安時代の竪穴建物跡から出土した炭化材27点と井戸枠の生材4点について、樹種同定を行った。

### 2. 試料と方法

炭化材試料は、竪穴建物跡SI06とSI41、SI42、SI79と建物跡内のSI24SK1(製鉄関連)から出土した炭化材、計27点である。生材は、井戸SE04から出土した井戸枠が4点である。遺構の時期は、いずれも平安時代(10世紀半ば以降)と推測されている。なお、SI06は焼失住居で、建築部材の炭化材が床面に広がった状態で出土している。

炭化材試料は、まず肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面(横断面・接線断面・放射断面)を割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡(KEYENCE社製 VHX-D510)を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。残りの試料は、青森県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

生材試料は、剃刀を用いて3断面(横断面・接線断面・放射断面)の切片を採取し、ガムクロラーで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察および同定し、写真撮影を行った。残りの試料とプレパラートは、青森県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

### 3. 結果

樹種同定の結果、針葉樹のアスナロと、広葉樹のモクレン属、カツラ、エノキ属、クリ、ブナ属、コナラ属コナラ節(以下、コナラ節)、アサダ、ヌルデ、トネリコ属シオジ節(以下、シオジ節)、単子葉類のイネ科の、合計11分類群が確認された。

結果の一覧を付表1に示す。全体ではアスナロが13点で最も多く、クリが7点、コナラ節とアサダが各2点、モクレン属とカツラ、エノキ属、ブナ属、ヌルデ、シオジ節、イネ科が各1点であった。形状は、破片や不明が多いが、アスナロとエノキ属、クリ、ブナ属、ヌルデでは直径1~6.5cmほどの丸木?、アスナロでは板目材や角材、クリとモクレン属では割材?、アサダではみかん割り?もみられた。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1)アスナロ *Thujaopsis dolabrata* (L.f.) Siebold et Zucc. ヒノキ科 図版1 1a-1c(樹種5)  
仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材部から晩材部への移行は比較的緩やかである。樹脂細胞は晩材部に散在し、放射組織内にも豊富に樹脂を含む。分野壁孔は小型のスギ型~ヒノキ型で、1分野に不揃いに3~4個存在する。

アスナロは温帯に分布する常緑高木である。材は加工性や割裂性は中庸だが、耐朽性および保存性が高い。

(2) モクレン属 *Magnolia* モクレン科 図版1 2a-2c (樹種18)

小型の道管が、単独もしくは3~4個複合して均等に分布する散孔材である。木繊維の壁は薄い。道管相互壁孔は対列~階段状、道管の穿孔は単一である。放射組織は1~2列幅で、上下端の1~2細胞が直立もしくは方形細胞である異性である。

モクレン属は暖帯上部から温帯に分布する常緑または落葉の低木および高木で、タイサンボクやホオノキ、モクレン、コブシなどがある。材は一般にやや軽軟または中庸程度だが、緻密で狂いが少ない。

(3) カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Siebold et Zucc. ex Hoffm. et Schult. カツラ科 図版1 3a-3c (樹種28)

小型で角張った道管が、ほぼ単独で密に分布する散孔材である。道管の穿孔は階段状で、30段程度となる。放射組織は1~3列幅で、平伏細胞と方形細胞からなる異性である。

カツラは暖帯から温帯に分布する落葉高木である。材は軽軟で靱性があり、加工は容易である。

(4) エノキ属 *Celtis* アサ科 図版1 4a-4c (樹種27)

大型の道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では径を減じた薄壁の小道管が集団をなして接線から斜めに配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状~翼状となる。道管の穿孔は単一である。小道管の内壁にらせん肥厚がみられる。放射組織は3~8列幅の異性で、鞘細胞がある。接線断面において放射組織と軸方向柔組織が層界状に配列する。

エノキ属は熱帯分布から温帯する落葉性の小高木から高木で、エゾエノキやエノキなど4種がある。材は比較的硬いが、強度や耐朽性は低く、狂いが出やすい。

(5) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版1 5a-5c (樹種7)、6a (樹種26)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(6) ブナ属 *Fagus* ブナ科 図版2 7a-7c (樹種16)

小型で単独の道管が密に分布し、晩材部ではやや径を減ずる散孔材である。道管の穿孔は単一のものと同段階の2種類がある。放射組織はほぼ同性で、単列のもの、2~数列のもの、広放射組織の3種類がある。

ブナ属は温帯に分布する落葉高木で、ブナとイヌブナがある。材は、堅硬および緻密で、靱性があるが保存性は低い。

(7) コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科 図版2 8a-8c (樹種2)

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

コナラ節は暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがあ

る。材は全体的に重硬で、加工困難である。

(8) アサダ *Ostrya japonica* Sarg. カバノキ科 図版2 9a-9c (樹種29)

径が中型の道管が、単独あるいは放射方向に数個複合して、ややまばらに分布する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、1~4列幅である。

アサダは温帯の山地に生育する落葉高木である。材は極めて重硬であり、切削加工および割裂は困難である。

(9) ヌルデ *Rhus javanica* L. var. *chinensis* (Mill.) T.Yamaz. ウルシ科 図版2 10a-10c (樹種12)

大型の道管が、年輪のはじめに単独もしくは数個複合して配列する半環孔材である。晩材部では道管の大きさは徐々に減じ、年輪の終わりでは小道管が集団をなして接線状~斜線状に配列する。道管の穿孔は単一である。放射組織は平伏細胞と直立細胞が混在する異性で、1~3列幅である。

ヌルデは熱帯から温帯に分布する落葉高木である。材は、耐朽性および保存性はあまり高くなく、吸水しにくく、切削および加工が容易である。

(10) トネリコ属シオジ節 *Fraxinus* sect. *Fraxinaster* モクセイ科 図版2 11a-11c (樹種30)

年輪のはじめに大型の道管が数列並ぶ環孔材で、晩材部では厚壁の小道管が単独もしくは放射方向に2~3個複合して散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、1~3列幅である。

シオジ節は温帯に分布する落葉高木で、シオジとヤチダモがある。材はやや重硬で粘りがあり、加工および保存性は中庸である。

(11) イネ科 Poaceae 図版2 12a (樹種15)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類である。維管束が柔細胞中に散在する不斉中心柱で、維管束を囲む維管束鞘は薄い。稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。

#### 4. 考察

遺構別の樹種同定結果を表1に示す。堅穴建物跡 SI06 の床面直上から出土した炭化材は、アスナロが10点、コナラ節が2点、クリとヌルデ、イネ科が各1点であった。アスナロとクリ、ヌルデは直径3~5cmの丸木がみられた。アスナロは幅4cmの板目材もみられた。いずれも建築部材と考えられる。SI36から出土した炭化材は、ブナ属が直径6.5cmの丸木？、クリが幅6cmの割材？であった。床面直上から出土しており、建築部材と考えられる。SI41の覆土から出土した炭化材は、モクレン属が幅4cmほどの割材？、アスナロが幅4.5cmの角材？であった。モクレン属は垂木の可能性があるが、アスナロは建築部材ではないと考えられている。SI79の床面直上から出土した炭化材は、アスナロとクリであった。クリは半径1cmほどの丸木？で、アスナロは形状不明である。用途は不明である。建物跡 SI42 の Pit1 覆土から出土した炭化材は、アスナロであった。形状や用途は不明である。

平安時代の建築部材は、弘前市に隣接する黒石市で多くの分析が行われており、高館遺跡ではサクラ属やトネリコ属、モクレン属などの広葉樹、板留(2)遺跡でもカツラやクリ、モクレン属などの多様な広葉樹が確認されている(伊東・山田編, 2012)。また、山元(2)遺跡ではスギやクリ、モクレン属、山元(1)遺跡ではアスナロやクリ、モクレン属などが確認されており(伊東・山田編,

2012)、今回分析を行った沢部(1)遺跡の建築部材の樹種構成とも類似している。

井戸SE04の井戸枠は4点ともクリであった。弘前市の泉田遺跡では平安時代の井桁にスギやアスナロ、クリが使用されており、五所川原市の隠川(4)遺跡では平安時代の井戸材にクリが利用されていた(伊東・山田編, 2012)。クリは重硬な材で、心材の腐朽性が極めて高く、水湿に耐えるため(平井, 1996)、井戸枠としても適していたと考えられる。

製鉄関連の建物跡SI24の4層出土のエノキ属は、直径2.5cmの丸木で、燃料材と考えられている。6層ではアサダとカツラ、シオジ節が確認され、これらは吸湿材と考えられている。形状は、アサダが形状不明と半径3cmのみかん割状、カツラとシオジ節が形状不明であった。青森県では平安時代の燃料材にモクレン属やクリを中心とした多様な広葉樹を利用する傾向がある(伊東・山田編, 2012)。吸湿材としての炭化材は分析例が確認できないが、燃料材と同様に、遺跡周辺に生育していた樹木が利用されたと推測される。(黒沼保子)

## 引用文献

平井信二(1996)木の百科。394p, 朝倉書店。

伊東隆夫・山田昌久編(2012)木の考古学—出土木製品用材データベース—。449p, 海青社。

表1 遺構別の樹種同定結果

樹種/遺構名	炭化材						井戸枠	計
	SI06	SI36	SI41	SI79	SI42	SI24	SE04	
アスナロ	10			1	1	1		13
モクレン属			1					1
カツラ						1		1
エノキ属						1		1
クリ	1	1		1			4	7
ブナ属		1						1
コナラ属コナラ節	2							2
アサダ						2		2
ヌルデ	1							1
トネリコ属シオジ節						1		1
イネ科(稗)	1							1
計	15	2	2	2	1	5	4	31